

第1版

株式会社 富士通ビー・エス・シー

はじめに

F*TRAN+(エフトラン・プラス)は、汎用機/オフコン/Unixなどのホストのファ イル転送データと、パソコンの標準であるWindowsファイルとのデータ交換をする汎用性 の高いファイル変換ユーティリティです。Windowsファイル間のデータ変換もできます。

Windows98/95 または WindowsNT/2000上の32ビットアプリ ケーションとして動作します。

ソースプログラム、バイナリファイル、ランダムファイル、プリント形式ファイルなどを変換 する基本機能に加え、コンマ区切り(CSV)形式対応など、市販ソフトとのデータ交換に適し た強力なデータ加工・編集機能を備えています。また、各種漢字コードに対応し、拡張漢字にも 本格対応しています。さらに、COBOLの数値項目等(ゾーン形式、パック形式、2進形式、 BCD形式)にも対応しています。

F*TRAN+は、さまざまなホストとパソコンの連携利用を強力に支援します。その高い汎 用性、高性能、高機能が有効に活用されることを願ってやみません。

F*TRAN+のマニュアルには、導入編、解説編(本書)、コマンド編、マルチレコード編、 プログラム応用編があります。解説編(本書)の構成はつぎのとおりです。

第1章 概 要

F * T R A N + の概要を説明しています。

第2章 変換の仕様

各種ファイル変換、コード変換、数値変換などの仕様について説明しています。

第3章 操作の基礎

操作方法についての基礎的な知識を説明しています。

第4章 操 作

F * T R A N + の操作について説明しています。

All Rights Reserved, Copyright[©] Fujitsu BSC 1997-2000

次

第1章 概 要

目

1.1	F * T R A N + とは	. 2
1.2	ホストファイルとは	. 4
1.3	Windowsのファイル(DOS形式)とは	. 5
1.4	3つのファイル変換機能(汎用機・オフコン系)	. 6
1.5	3 つのファイル変換機能(Unix系)	. 8
1.6	3 つのファイル変換機能(Windows系)1	0
1.7	補助機能1	2
1.8	セットアップ機能1	4
1.9	特長のまとめ	6

第2章 変換の仕様

2.1	漢字シフトコードКІ/КОについて	2 0
2.2	ファイル変換機能の使い分け	2 2
2.3	ファイル変換機能の使い方のポイント	2 4
2.4	ホスト側の扱えるデータ形式	2 6
2.5	W i n d o w s 側の扱えるデータ形式	2 8
2.6	テキストファイル変換の仕様	3 0
2.7	データファイル変換1 / プリント形式の仕様	3 6
2.8	データファイル変換2/デリミタ形式の仕様	4 4
2.9	ランダムファイル変換の仕様	5 2
2.10	ANK変換	5 8
2.11	漢字変換	6 0
2.12	漢字変換方式のサポートパターン	6 2
2.13	ホスト漢字のレパートリー	6 4
2.14	漢字コード変換の仕組み	6 6
2.15	漢字対応表について	6 7
2.16	変換できないホストの拡張漢字の扱い	6 8
2.17	ホストの一般漢字と拡張漢字の区別	70
2.18	ホストの拡張漢字の領域	72
2.19	変換できないWindowsの拡張漢字の扱い	73
2.20	数值变换	74
2.21	ゾーン形式(EBCDIC系)	76
2.22	パック形式(EBCDIC系)	77

2.23	ゾーン刑	/式(JIS8系)	.78	3
2.24	パック刑	/式(JIS8系)	. 7 9	9
2.25	Wind	lows COBOLのゾーン/パック形式	.8()
2.26	ВСD∄	/式	. 8 2	2
2.27	2 進形式	.	. 8 3	3
2.28	パック /	′BCD/2進形式の桁数とバイト数の換算	.84	1
2.29	ホスト	Winテキストファイル変換のしくみ	.86	5
2.30	ホスト	Winデータファイル変換のしくみ	.88	3
2.31	ホスト	Winランダムファイル変換のしくみ	.9()
2.32	Win	ホストテキストファイル変換のしくみ	.92	2
2.33	Win	ホストデータファイル変換のしくみ	.94	1
2.34	Win	ホストランダムファイル変換のしくみ	.96	ō

第3章 操作の基礎

3.1	ファイルの指定	1	0	0
3.2	式の指定	1	0	2
3.3	ピクチャの指定	1	0	4
3.4	2 進ピクチャの指定	1	0	6
3.5	日付データの指定	1	0	8

第4章 操 作

4.1	F*TRAN+ 起動と終了	1	12
4.2	ホスト Winファイル変換のファイル指定と共通オプション	1	14
4.3	ホスト Winテキストファイル変換	1	24
4.4	ホスト Winデータファイル変換	1	32
4.5	ホスト Winランダムファイル変換	1	60
4.6	Win ホストファイル変換のファイル指定と共通オプション	1	94
4.7	Win ホストテキストファイル変換	2	04
4.8	Win ホストデータファイル変換	2	14
4.9	Win ホストランダムファイル変換	2	48
4.10	スクリプトファイル	2	84
4.11	Winファイラ	2	88
4.12	変換設定	2	98
4.13	漢字対応表エディタ		16
4.14	変換時ログ表示		30
4.15	ヘルプ		32

付録

エラーメッセージ(共通)

本書で用いる表記法

本文と画面のパラメータ類の表記法

{ A B C }	A、 B、またはCのうち、どれか1つを選択します。 省略はできません。
A	
В	同上。
C	
(A/B/C)	同上。
[A]	Aは省略できます。
[A/ <u>B</u> /C]	A、B、またはCのうち、どれか1つを選択します。
	省略が可能で、その場合、下線を引いたBを選択した
Г, Л	ものとみなします。
	同上。
	同上 ただし 「 」でくくった Bを選択したまのと
(A/[b]/C)	向上。たたし、「「」てくくうたちを送訳したものと
х	X類を A B C のように列挙します。
n、nn、 <n></n>	10進数を指定します。
	(<>は表記上の記号で、入力はしません)
ххH	16進で x × です。Hを省くこともあります。
	改行を意味します。リターンキーのシンボルです。
<u>a</u>	下線部を入力します。
<u>abc</u>	下線部を入力し、リターンキーを押します。
CTRL+A	コントロール(CTRL)キーを押しながら、Aキー
	を押します。コントロールAと読みます。
^ A	同上。
d :	ドライブA:やC:など、任意のドライブ指定を表し
	ます。

注意 ---- 実画面と少し差異がある

本書に示す画面と実際の画面には、若干の差異がある場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

第1章



第1章 概 要

1.1 F*TRAN+とは

F*TRAN+は、汎用機やオフコン、Unix機などのホストのファイル転送データとパソ コンのデータ交換を実現するファイルトランスレータです。Windows98/95、Win dowsNT/2000上で動作し、オンライン・データとWindowsファイルの相互変換 ができます。Windowsファイル間のデータ変換もできます。

さまざまなホストに対応

F*TRAN+の対象とするデータは、基本的にホストのコード体系のままでファイル転送 (バイナリ転送)したデータになります。F*TRAN+を使えば、さまざまなホストとのデー 夕交換がパソコン上で簡単にできるようになります。



オンラインファイル転送の現状

汎用機中心の時代には「コンピュータどうしのデータ交換は、磁気テープかオンライン接続で 行う」のが常識とされていました。現在、それがパソコンとのデータ交換にも当てはまるでしょ うか。

磁気テープについては不問とします。パソコンにはつなげませんから(実際には磁気テープを つなげるシステムもありますが、非常に高価です)。

ではオンライン接続なら……。たしかに、遠隔地と即時でデータ交換できる利便は計り知れないものがあります。事実、オンラインネットワークのない社会など、もう考えられません。しかし、ファイル転送に限れば今のところ欠点がめだちます。

オンラインファイル転送の欠点

ホストとのオンライン接続によるファイル転送は、現状では

データ加工能力が不十分

といえます。テキスト転送とバイナリ転送ぐらいしかできない場合が多く、まだ汎用性が低いのです。

F * T R A N + によるファイル変換の利点

そこで、オンラインファイルを扱うF*TRAN+はつぎのような利点を持ちます。まず、最 大の特長は、

メーカーの壁を越え、さまざまなホストに対応でき、

データ加工能力が高く、Windowsのさまざまなソフトに対応できる

ことです。汎用性が高いのです。また、 変換速度が速く、自動化も容易

です。このため、運用コストが安くすむのも大きな利点です。このように、オンラインファイ ル転送の欠点を補う特長を持っています。そして、F*TRAN+は、

ウインドウ上の項目を設定するだけで操作することも コマンド行方式でバッチ処理として実行することも

できます。言い替えれば、

ウインドウ操作による使いやすさ・覚えやすさ コマンド行方式による定形業務の自動化のしやすさ

を両立させているのです。また、 マルチファイル対応

です。ファイル数が多くてもファイル容量が大きくても問題ありません。

パソコンを含め複数メーカーの機種が混在している"マルチベンダ環境"では、F*TRAN +は上手に使いこなしたいソフトウェアです。

1.2 ホストファイルとは

F * T R A N + の「ホストファイル」とは、つぎのファイルを指します。

F*TRAN+では、ホスト端末エミュレータによりファイル転送(バイナリ転送)された、 または、するファイルを「ホストファイル」として定義しています。その他、Windows間 のデータ変換の際には、Windowsファイルをホストフィルとして扱うこともできます。 つぎの3つのタイプに分けることができます。

汎用機・オフコン系(汎用機またはオフコン):

ホストのコード体系により構成された、

固定長レコードのWindowsファイル(DOS形式)

(レコード長情報を持たないため、ユーザーがレコード長を指定する必要あり)

Unix系(Unix機):

Unixのコード体系により構成された、可変長 / 固定長のWindowsファイル(DOS形式)

Windows系(Windowsの動作するパソコン):

Windowsのコード体系により構成された、 可変長 / 固定長のWindowsファイル(DOS形式)

1.3 Windows のファイル (DOS 形式)とは

パソコンの標準 ---- DOS形式

インテル80×86系のCPUを搭載したパソコンの標準OSとなった、マイクロソフト社の DOS。そのDOSのディスク・ファイル管理形式をDOS形式と呼びます。もはや、DOS形 式はパソコンの標準形式といえるでしょう。

DOSの呼び方は、MS-DOS、日本語MS-DOS、英語MS-DOS、日本語DOS、 IBMDOS、PC DOS、DOS/Vと、メーカーによりさまざまですが、基本的には同じ DOSです。出元が同じであるため、DOS形式のディスク・ファイルにはメーカーの壁を越え た互換性があります。現在では、コツさえつかんでいればパソコンどうしのデータ交換であまり 不自由することはありません。

DOS形式の特長

DOS形式には、今述べた互換性の高さ以外に、

バイトストリーム指向で、スペース効率がよい 階層的ディレクトリ管理ができる ファイル名に拡張子をつけることができ、整理が容易である 動的な空き領域管理ができる

などの特長があります。

ロングファイル名

DOS形式では、ファイル名(8文字以内).ファイル拡張子(3文字以内)という制約があ りましたが、Windows98/95、WindowsNT/2000では、最高255文字 までのファイル名(複数のピリオド「.]の使用も可)を使うことができるようになりました。

F * T R A N + では、D O S 形式をベースにロングファイル名をサポートしたファイルをW i n d o w s ファイルと表現しています。

第1章 概 要

1.4 3つのファイル変換機能(汎用機・打コン系)

F * T R A N + には、3つの(実質的には4つの)ファイル変換機能があり、

テキストファイル変換 ------ おもにソースプログラムの変換に データファイル変換 1 / プリント形式 ---- 〃 市販ソフトとのデータ交換に データファイル変換 2 / デリミタ形式 ---- 〃 市販ソフトとのデータ交換に ランダムファイル変換 ---- Windows COBOL の順ファイルや BASIC のランダムファイルなどの交換に

と呼んでいます。これらを目的に応じて使い分けます。どれもホスト Windows双方 向サポートです。

テキストファイル変換

おもに、ソースプログラムの変換に使います。生データの変換やリストファイルの変換にも使 えます。



データファイル変換1/プリント形式

おもに、ホストのCOBOLデータと、市販ソフトの入出力用テキストファイルの変換に使います。

固定長項目、区切り文字なしのテキストファイルを、項目別に分けて変換できます。もちろん レコード全体で1項目とみなす、単純な変換もできます。



データファイル変換2 / デリミタ形式

おもに、ホストのCOBOLデータと、市販ソフトの入出力用テキストファイルの変換に使います。

可変長項目、区切り文字(デリミタ)つきのテキストファイルを項目別に分けて変換でき、コ ンマ区切り形式、タブ区切り形式、スペース区切り形式の3タイプが扱えます。



ー般に、市販ソフトで「テキストファイルの入出力ができます」といえば、以上のうちコンマ 区切り形式か、プリント形式ファイルを指すのがふつうです。

とくに、コンマ区切り形式は、パソコンのデータベースや表計算ソフトの最も標準的な入出力 ファイル形式で、CSV(Comma Separated Value)形式という特別な名前がついています。こ の形式は、市販ソフトへの入力操作がとても簡単なのが特長です。

ランダムファイル変換

おもに、Windows COBOLの順ファイルやBASICのランダムファイルの変換に 使います。

項目別の変換ができる点では、データファイル変換1 / プリント形式とよく似ています。しかし、改行コードも区切り文字もなく、固定長で、レコード長を意識しながら扱う必要があります。



バイナリ変換(レコード全体 / 一部を無変換で通すこと)もできます。機械語ファイル等を扱うときに便利です。



第1章 概 要

1.5 3つのファイル変換機能(Unix系)

F * T R A N + には、3つの(実質的には4つの)ファイル変換機能があり、

テキストファイル変換 ------ テキストファイルの変換に データファイル変換 1 / プリント形式 ---- おもに市販ソフトとのデータ交換に データファイル変換 2 / デリミタ形式 ---- 〃 市販ソフトとのデータ交換に ランダムファイル変換 ---- Windows COBOL の順ファイルや BASIC のランダムファイルなどの交換に

と呼んでいます。これらを目的に応じて使い分けます。どれもUnix Windows双方向サポートです。

テキストファイル変換

テキストファイル(ソースプログラム等)の変換に使います。生データの変換にも使えます。



データファイル変換1/プリント形式

おもに、Unixのデータと、市販ソフトの入出力用テキストファイルの変換に使います。 Unixの可変長(プリント/デリミタ形式)または固定長のテキストファイルを、項目別に 分けて変換できます。



データファイル変換2/デリミタ形式

おもに、Unixのデータと、市販ソフトの入出力用テキストファイルの変換に使います。 Unixの可変長(プリント / デリミタ形式)または固定長のテキストファイルを項目別に分けて変換でき、コンマ区切り形式、タブ区切り形式、スペース区切り形式の3タイプが扱えます。



ー般に、市販ソフトで「テキストファイルの入出力ができます」といえば、以上のうちコンマ 区切り形式か、プリント形式ファイルを指すのがふつうです。

とくに、コンマ区切り形式は、パソコンのデータベースや表計算ソフトの最も標準的な入出力 ファイル形式で、CSV(Comma Separated Value)形式という特別な名前がついています。こ の形式は、市販ソフトへの入力操作がとても簡単なのが特長です。

ランダムファイル変換

おもに、Windows COBOLの順ファイルやBASICのランダムファイルの変換に 使います。

Unixの可変長(プリント/デリミタ形式)または固定長のテキストファイルを項目別に分けて変換できる点では、データファイル変換1/プリント形式とよく似ています。しかし、改行 コードも区切り文字もなく、固定長で、レコード長を意識しながら扱う必要があります。



バイナリ変換(レコード全体/一部を無変換で通すこと)もできます。



第1章 概 要

1.6 3つのファイル変換機能(Windows系)

F * T R A N + には、3つの(実質的には4つの)ファイル変換機能があり、

テキストファイル変換 ------ テキストファイルの変換に データファイル変換 1 / プリント形式 ---- おもに市販ソフトとのデータ交換に データファイル変換 2 / デリミタ形式 ---- 〃 市販ソフトとのデータ交換に ランダムファイル変換 ---- Windows COBOL の順ファイルや BASIC のランダムファイルなどの交換に

と呼んでいます。これらを目的に応じて使い分けます。どれも、Windowsファイル間の 変換です。

テキストファイル変換

テキストファイルの加工に使います。生データの加工にも使えます。



データファイル変換1 / プリント形式

おもに、Windows市販ソフトの入出力用テキストファイルの加工に使います。 Windowsの可変長(プリント / デリミタ形式)または固定長のテキストファイルを、項 目別に分けて変換できます。



データファイル変換2 / デリミタ形式

おもに、Windows市販ソフトの入出力用テキストファイルの加工に使います。

Windowsの可変長(プリント / デリミタ形式)または固定長のテキストファイルを項目 別に分けて変換でき、コンマ区切り形式、タブ区切り形式、スペース区切り形式の3タイプが扱 えます。

3 地球 EARTH アース CR LF	【" 3" , "地球" , "EARTH" , "ア−ス" CR LF
4 火星 MARS マーズ CR LF	【 " 4" , "火星" , "MARS" , "マーズ " CR LF
+	
9 冥王星 PLUTO プルートー CR LF	[" 9" , "冥王星" , "PLUTO" , "プルートー" CR LF
1A [EOF]	1A [EOF]

Windowell(司亦巨西日)

ー般に、市販ソフトで「テキストファイルの入出力ができます」といえば、以上のうちコンマ 区切り形式か、プリント形式ファイルを指すのがふつうです。

とくに、コンマ区切り形式は、パソコンのデータベースや表計算ソフトの最も標準的な入出力 ファイル形式で、CSV(Comma Separated Value)形式という特別な名前がついています。こ の形式は、市販ソフトへの入力操作がとても簡単なのが特長です。

ランダムファイル変換

Windows側(司亦長/田宁長)

おもに、Windows COBOLの順ファイルやBASICのランダムファイルの加工に 使います。

Windowsの可変長(プリント / デリミタ形式)または固定長のテキストファイルを項目 別に分けて変換できる点では、データファイル変換1 / プリント形式とよく似ています。しかし、 改行コードも区切り文字もなく、固定長で、レコード長を意識しながら扱う必要があります。



バイナリ変換(レコード全体/一部を無変換で通すこと)もできます。



第1章 概 要

1.7 補助機能

F*TRAN+は、補助機能を提供しています。ホストファイルやWindowsファイルを 管理します。

Winファイラ

Winファイラはつぎの機能を持っています。

ファイル名一覧

ホストファイルやWindowsファイルの一覧を見ることができます。

ファイルの削除

ホストファイルやWindowsファイルを削除できます。

ファイル編集

ホストファイルやWindowsファイルの中身の表示・修正ができるファイルエディタです。

—— 第1章 概 要

1.8 セットアップ機能

F*TRAN+は、このセットアップ機能でさまざまなホストへの対応を実現しています。コ ード変換の方法を設定する機能がその中心です。F*TRAN+を購入しインストールをすませ たら、必ずセットアップの作業をしてください。セットアップはホスト選択と変換設定により行 います。

ホスト選択

ホスト系を、汎用機・オフコン系(汎用機またはオフコン) Unix系(Unix機) Wi ndows系(Windows機)の3つから選択し、使用するホストに適するコード変換表を 選択します。

ANKコードの設定

ホストが汎用機・オフコンの場合、ホストで採用しているANKコード系がEBCDICコードかJIS8/ASCIIコードかを設定します。この設定はANK変換のときだけでなく、バッファのクリア、ゾーン形式やパック形式の数値の変換、その他でも参照される、とても重要なものです。

EBCDICコードのカタカナ版/英小文字版の切り替えもできます。

漢字変換方式の設定

ホストで採用している漢字体系がどの方式かを設定します。ふつうは、F*TRAN+が標準 提供している漢字変換方式のなかから、どれか1つを選ぶだけですみます。

各漢字変換方式の設定内容はすべて修正可能です。たとえば、漢字対応表に定義されない拡張 漢字の扱い方の変更などができます。

漢字対応表の設定

ホストの拡張漢字や外字(ユーザー定義文字)などを、利用者の意図した漢字に割り当てるた めの漢字対応表を設定します。漢字対応表に登録された内容が変換時の漢字コードに反映されま す。ふつうは、標準提供の漢字対応表を利用します。

ホストCOBOLベンダの設定

ホスト上で使用しているCOBOLがどこのベンダかを設定します。この設定は、Unix、 WindowsのCOBOLデータと、Windows COBOLデータの変換をする場合に 重要になります。

Windows COBOLベンダの設定

Windows上で使用しているCOBOLがどこのベンダかを設定します。この設定は、W
indows COBOLで使用するデータを変換する場合に重要になります。

ホストエンディアンの設定

ホストの2進数値項目の格納順序(正順、逆順)を設定します。この設定は、ホストのCOB OLの2進数値項目データ等を変換する場合に重要になります。

コメントの変更

設定を変更したら、適当なコメントをつけておくことができます。

ANK変換表

多くのホストはEBCDICコードを採用しています。一方、パソコンはJIS8/ASCI Iコードです。両者のコード変換の方法には確固とした標準がありません。

そこで、F*TRAN+ではほぼ標準的と思われるANK変換表を提供し、それを利用者が 個々の事情に合わせて修正できるようにしています。修正操作はとても簡単です。

<コード変換表>

以上の設定は、ファイルに保存できます。それを「コード変換表(ファイル)」と呼んでいま す。拡張子は.CCT(Code Conversion Table)で、F*TRAN+の動作を決める重要なフ ァイルです。複数のホストとのデータ交換が必要なときは、ホストの種類に応じてこれを何とお りかにセットアップしておき、使い分けることができます。

1.9 特長のまとめ

F*TRAN+の特長を、以下にまとめました。

ファイル変換が速く、パワフルである

ファイルの変換速度が高速です。マルチファイル処理機能と、ハードディスク上での変換のため、大量・大容量のファイルが容易に扱えます。

実質4とおりのファイル変換機能をもつ

テキストファイル変換、データファイル変換、ランダムファイル変換と呼ぶ3とおりの変換が できます。データファイル変換は、さらにプリント形式のファイルの変換とCSV形式に代表さ れるデリミタ形式のファイルの変換に分けられます。つまり、実質4とおりのファイル変換機能 が用意されおり、それらを目的に応じ柔軟に使い分けできます。これにより、標準的なエミュレ ータのテキスト転送ではできない変換の要求に対応することができます。

マルチファイル対応で、ワイルドカード文字が使える

Windowsファイルの指定にも、ホストファイルの指定にもワイルドカード文字(*、?) が使え、マルチファイル処理ができます。関連ファイルの一括処理が容易です。ワイルドカード は、ファイル名が固定していないとき、短い指定ですませたいときにも役に立ちます。

問い合わせモードがある

ファイルの変換を実行するかどうか問い合わせるモードがあります。ワイルドカード文字を使ったとき、ファイル名を確認しながら安全に処理を進めることができます。

ウインドウ設定方式とコマンド行方式を両立させている

ウインドウ設定方式では、ウインドウ上の項目を選択・入力するだけの簡単な操作での実行が 可能です。試行錯誤が容易で、初心者にも向いています。また、コマンド行方式で使えば、定形 処理のバッチファイル化が容易に行えます。Visual Basicなどからも呼び出すこと ができ、定形業務化や組み込み用途にも向いています。終了コード(エラーレベル)で正常・異 常の判断ができ、バッチファイルのなかである程度のエラー処理ができます。

OLEオートメーション対応

OLEオートメーションに対応していますので、F*TRAN+をユーザアプリケーションの
「部品」として使用することができ、より細かいコントロールをすることができます。

スクリプトファイル機能をサポート

一度、設定/実行した変換作業をスクリプトファイルとして保存しておくことができます。このスクリプトファイルを使って、試行錯誤(変換設定の修正)や自動実行(エクスプローラ等からスクリプトファイルを起動して変換を実行させること)も容易にできます。

パワフルで使いやすいレコードレイアウト設定機能

マップ設定オプションで細かい変換方法を指示できます。マルチレコードレイアウトもサポートしています。設定はウインドウ上の項目を選択・入力する方式ですので、簡単に行うことができます。設定時にホストファイルやWindowsファイルの内容を確認することができます。 さらに、設定に従って変換をした場合の結果をシミュレートすることもできます。

コード変換表をカスタマイズできる

ANK変換表や漢字変換方式などを設定するコード変換表を、利用者が自由にカスタマイズで きます。自社用にカスタマイズしたコード変換表をいくつか作っておき、それを切り替えながら 使うこともできます。

各種漢字変換方式をサポートしている

さまざまな漢字変換方式をサポートしています。KI(漢字イン)/KO(漢字アウト)があるときでも、KI/KOがないときでも、それぞれに適した変換ができます。

漢字変換方式として、各種の方式をコード変換表に登録しておくことができ、きめ細かな調整 ができます。

漢字変換のレパートリーは、富士通JEF(12ポイント/9ポイント)、富士通F9450
内部コード、日立KEIS、NEC内部コード(E/J)、NEC JIPS(E/J)、東芝漢
字、三菱MELCOM漢字、日本ユニシスLETS-J、カシオ漢字、新JIS(83年版)
旧JIS(78年版)、IBM漢字、EUC、シフトJISなどです。

F*TRAN+のサポートする基本パターンに合うなら、さらに新しい漢字変換方式を追加登録することもできます。

拡張漢字変換をサポートしている

ホストの拡張漢字(ユーザー定義文字を含む)にも対応しており、おもなホストベンダ(富士 通、日立、NEC、東芝、三菱、日本ユニシス、日本IBM、サンマイクロ、日本HP 他)の 漢字対応表を標準提供しています。漢字対応表は漢字対応表エディタ上で編集できるので、利用 者の意図した漢字を対応づけることができます。漢字対応表に定義されない範囲外の漢字は、ゲ タ変換、クエスチョン変換、ゼロイー変換と呼ぶ3とおりの変換方式のなかから1つを選んで変 換できます。

ホストのゾーン形式、パック形式をサポートしている

ホストのCOBOLの内部数値形式であるゾーン形式(符号なし、符号つき)パック形式(符 号なし、符号つき)の変換をサポートしています。それらと文字形式数値の変換ができます。小 数点もサポートしています。

JIS8系(東芝のシステム)のゾーン形式、パック形式にも対応しています。

第1章 概 要 -

POS端末採用のBCD形式数値をサポートしている

POS端末などで採用しているBCD形式数値(符号なし)をサポートしています。それらと 文字形式数値の変換ができます。

Windows COBOLのゾーン形式、パック形式をサポートしている

Windows COBOLのゾーン形式(符号なし、符号つき)パック形式(符号なし、 符号つき)の変換をサポートしています。それらとホストのゾーン形式(符号なし、符号つき) パック形式(符号なし、符号つき) BCD形式数値(符号なし)の変換ができます。

日付データ変換をサポートしている

日付データを指定フォーマット(YYYYMMDD、YY-MM-DDなど)で編集して変換 する機能をサポートしています。西暦年下2桁、和暦年のデータを指定範囲の西暦年4桁に拡張 する機能もあり、西暦2000年対応にも幅広く活用できます。

2進数値変換をサポートしている

COBOL、Visual Basic、C/C++などで定義できる2進数値をサポートしています。それらと文字形式、ゾーン/パック形式数値の変換ができます。

バイナリ変換をサポートしている

バイナリ変換をサポートしています。機械語ファイル等を扱うときなどに重宝します。

また、ファイルの内容が独特の構成でふつうの変換方法が適用できないときに、最後の手段としてバイナリ変換を使うこともできます。

Windowsファイルの編集 / 加工ができる

プリント形式ファイル(可変長/固定長)デリミタ形式ファイル(可変長)ランダムファイル(固定長)間のデータ編集/加工が自由にできます。プリント形式からデリミタ形式への形式 変換や、デリミタ形式の再編集などは他のアプリケーションとの連携を密にします。

ファイル変換中に処理の中断ができる

ファイル変換中に中止ボタンをクリックすれば、処理を中断することができます。

Winファイラ、Winファイルエディタを内蔵している

Winファイラは、ホストファイルやWindowsファイルの一覧を見ることができ、ホス トファイルやWindowsファイルの削除もできます。WinファイラからWinファイルエ ディタを起動できます。

Winファイルエディタを使えば、ホストファイルやWindowsファイルの内容表示・修 正ができます。マップ設定オプションと並列に動作させ、データの確認をしながらレコードレイ アウトを設定することもできます。

第2章



第2章 変換の仕様

2.1 漢字シフトコードКІ/КОについて

以降の説明で、頻繁にKI(漢字イン) KO(漢字アウト)という用語がでてきます。単に KI/KOと表記しますが、F*TRAN+は実際にはホストの3つの漢字シフト方式をサポー トしています。ホストが汎用機・オフコン系(汎用機またはオフコン)の時に多種多用に使用さ れています。

KI/KO方式

狭い意味のKI/KO方式のことで、漢字文字列をKIとKOではさみます。 一番多く使われている方式です。

│ANK文字列│<KI>│漢 字 文 字 列│<KO>│ANK文字列│

KI+長さバイト方式

東芝のシステムで使われている方式です。漢字文字列のおわりを示すKOがない代わりに、K Iのあとにその長さ(通常2~254)を示すバイトをつけます。

この方式は、少し取り扱いが難しいのが欠点です。

			┥		- n -			n:長さバイト
ANK文字列	< K I >	n	漢	字	文	字	列	ANK文字列

NEC暗黙シフト方式

NECの内部コード(E/J)で使われている方式です。KI/KOを使いません。文字コードを調べて、それがANK文字か漢字の第一バイトかを判定します。

パソコンのシフトJISコードと、少し似ていますが、それほど使いやすくはありません。また、英小文字と数個の特殊文字が使えないという大きな欠点も持っています。

A N K • • • 漢字・・・ A N K • • •

EUCシフトコード

Unix系のオペレーティングシステムでは、漢字コードとしてEUC(Extended Unix Code)が使われる場合がほとんどですが、EUCには1バイトの半角コードと、 2バイトの漢字コードの他に、つぎのコードが存在します。

半角カナコード(2バイト) : 8 E H + A 1 H ~ D F H 拡張漢字コード(3バイト) : 8 F H + A 1 A 1 H ~ F E F E H

F*TRAN+では、この 8EH、8FH をEUCシフトコードとして認識し、処理して います。

第2章 変換の仕様

2.2 ファイル変換機能の使い分け

F*TRAN+では、3つの(実質4つ)のファイル変換機能、

テキストファイル変換 データファイル変換1 / プリント形式 データファイル変換2 / デリミタ形式 ランダムファイル変換

を使い分けることができます。"うまく使い分けなければいけない"といったほうが、正しいかもしれません。

典型的なデータ形式(ホストが汎用機・オフコンの場合)



<u>テキストファイル変換</u>





典型的なデータ形式(ホストがUnix、Windowsの場合)

ホストファイル ← Windowsファイル





データファイル変換



<u>ランダムファイル変換</u>



2.3 ファイル変換機能の使い方のポイント

テキストファイル変換

テキストファイル変換は、おもに、ソースプログラムの変換に使います。

ホスト Winテキストファイル変換

ホストが汎用機・オフコンの場合、コードがAnkかAnk・漢字(KI/KO付)混在かを 指定するコード設定オプションが重要です。

Win ホストテキストファイル変換

ホストが汎用機・オフコンの場合、コードがAnkかAnk・漢字(KI/KO付)混在かを 指定するコード設定オプションがとくに重要です。

Winファイル側の各レコード末尾に、必ず改行コード(CR/LF=0D0AH)がついて いなければいけません(ただし、最終レコードに限り改行コードがなくてもよい)。

データファイル変換1 / プリント形式

データファイル変換1 / プリント形式は、おもに、ホストのCOBOLのデータと市販ソフト の入出力データ形式 (プリント形式 固定長テキスト)の変換に使います。

ホスト Winデータファイル変換

項目別に詳細な変換指定をするマップ設定オプションがとくに重要です。

Win ホストデータファイル変換

項目別に詳細な変換指定をするマップ設定オプションがとくに重要です。 Winファイル側の各レコード末尾に、必ず改行コード(CR/LF=0D0AH)がついて いなければいけません(ただし、最終レコードに限り改行コードがなくてもよい)。

データファイル変換2/デリミタ形式

データファイル変換2/デリミタ形式は、おもに、ホストのCOBOLのデータと市販ソフトの入出力データ形式(デリミタ形式)の変換に使います。コンマ区切り(CSV)形式の変換が とくに重要です。

ホスト Winデータファイル変換

項目別に詳細な変換指定をするマップ設定オプションがとくに重要です。

Win ホストデータファイル変換

項目別に詳細な変換指定をするマップ設定オプションがとくに重要です。 Winファイル側の各レコード末尾に、必ず改行コード(CR/LF=0D0AH)がついて いなければいけません(ただし、最終レコードに限り改行コードがなくてもよい)。

ランダムファイル変換

ランダムファイル変換は、おもに、ホストのCOBOLのデータとBASICなどのランダム ファイル(ただの固定長ファイル)の変換に使います。バイナリ変換もできます。

ホスト Winランダムファイル変換

項目別に詳細な変換指定をするマップ設定オプション、Winファイル側のレコード長を指定 する出力レコード長オプションがとくに重要です。

Win ホストランダムファイル変換

項目別に詳細な変換指定をするマップ設定オプション、Winファイル側のレコード長を指定 する入力レコード長オプションがとくに重要です。

第2章 変換の仕様

2.4 ホスト側の扱えるデータ形式

ホスト側のデータ形式をどう扱えるか示します。の意味はつぎのとおりです。

直接扱える 直接扱えるものと扱えないものがある 直接は扱えない。前処理や後処理が必要

ソースプログラム(固定長 *1)

漢字あり

サポートしているタイプ

サポートしていないタイプ

漢字なし

COBOLの順ファイル(固定長 *1)

漢字あり

サポートしているタイプ

サポートしていないタイプ

KI/KOあり

KI/KOなし

漢字なし

数値項目 (ゾーン形式、パック形式)あり

数値項目(ゾーン形式、パック形式)なし

その他の数値項目あり

その他の数値項目なし

日付データ項目(数値形式、文字形式)あり

日付データ項目(数値形式、文字形式)なし

レコードタイプあり

レコードタイプなし

COBOLOISAMファイル

データベースからの抽出データ

その他の言語の入出力ファイル

文字データのみ

バイナリデータあり

NCデータ(ファナック互換など)

POS端末のBCD形式数値項目

各種バイナリファイル

26

*1) ホストがUnix、Windowsの場合は、可変長 / 固定長になる

2.5 Windows側の扱えるデータ形式

Windows側のデータ形式をどう扱えるか示します。 の意味はつぎのとおりです。

直接扱える 直接扱えるものと扱えないものがある 直接は扱えない。前処理や後処理が必要

ソースプログラム(可変長)

テキストファイル形式の文書ファイル 行末に改行コードを入れたもの 行末に改行コードを入れていないもの バイナリ文書ファイル プリント形式ファイル(固定長テキスト形式、SDF形式) デリミタ形式ファイル コンマ区切り(CSV)形式 固定長 / 可変長項目 全項目引用符くくり 文字項目引用符くくり K3フォーマット(見出しつき) K37 + -7 + (F + 9 + 0 + 1)コンマを含む項目のみ引用符くくり 引用符なし タブ区切り形式(可変長項目) 文字項目引用符くくり 引用符なし スペース区切り形式(可変長項目) 全項目引用符くくり 文字項目引用符くくり 空白を含む文字項目のみ引用符くくり 引用符なし SYLK形式ファイル(各種あり) DIF形式ファイル ランダムファイル(ただの固定長ファイル)

BASICのランダムファイル

- バイナリ数値項目あり(MKI\$/MKS\$/MKD\$)
- バイナリ数値項目なし
- レコードタイプあり
- レコードタイプなし
- Windows COBOLの順ファイル/行順ファイル
 - 数値項目 (ゾーン形式、パック形式) あり
 - 数値項目 (ゾーン形式、パック形式)なし
 - その他の数値項目あり
 - その他の数値項目なし
 - 日付データ項目(数値形式、文字形式)あり
 - 日付データ項目(数値形式、文字形式)なし
 - レコードタイプあり
 - レコードタイプなし
- Visual Basicのデータ形式ファイル
- C/C++のデータ形式ファイル
- 各種ISAMファイル
- データベースや表計算ソフトの内部形式ファイル
- その他の市販ソフトの内部形式ファイル
- NCデータ(ファナック互換など)
- 各種バイナリファイル
- ダウンロード / アップロードファイル
- 日付データ(数値形式、文字形式)
 - •
 - •

2.6 テキストファイル変換の仕様

ホストが汎用機・オフコンの場合

ホストが汎用機・オフコンの場合、テキストファイル変換ではホストファイル(固定長レコード)とWindowsテキストファイル(可変長レコード)間の変換を行います。1レコードが 1行に対応する改行コードつきのデータが対象です。ソースプログラムがその典型です。

以下に、テキストファイル変換のコード変換機能、レコード編集機能、EOFコードの扱いを 示します。

コード変換機能

テキストファイル変換のコード変換機能は、下表に示すとおり比較的単純です。

コード変換機能

ホスト側コード	◀▶ Win側コード	変換方法
JIS8/ASCII	◀▶ JIS8/ASCII、漢字なし	ANK変換
EBCDIC(カタカナ)) ◀▶ ″	"
EBCDIC(英小文字)) ◀▶ ″′	"
ANK・漢字混在	◀▶ JIS8、シフトJIS漢字混在	ANK・漢字
K I / K 0 つき	5	混在変換

注意 ---- KI/KOがついていないと漢字変換はできない

ホスト Winテキストファイル変換のときは、KI/KOがついてないと漢字の変換はでき ません(NEC内部コード(E/J)を除く)。KI/KOがないときは、代わりにホスト W inデータファイル変換を使って、項目別に分けて変換する必要があります。

レコード編集機能

テキストファイルの代表であるソースプログラムを例に、レコード編集機能を説明します。 ホストのソースプログラムは、レコード長は80バイト(80欄カードイメージ)が中心で固 定長である、改行コードに相当するものはない、タブは使わない、などの特徴があります。漢字 を使わない限りホスト間での互換性は高いといえます。でも、漢字を使うと、表示イメージと実 際の記録形式が違い桁位置がずれていく(KI/KOが入るため)システム間で互換性がなく なる、などの欠点もあります。

一方、パソコン側のソースプログラムは、改行コード(CR/LF=0D0AH)でレコード の区切りとし、可変長である、レコード長にはあまり制限がない、タブ(TAB=09H)が自 由に使える、スペース効率がよい、漢字が自由に使えて半角・全角の区別をあまり意識する必要 がない、といえます。

ホスト文化とパソコン文化の違い、とでもいったらいいでしょうか。このギャップを埋めるために、かなりのレコード編集機能が必要です。それを右表に示します。
機能	説明
改行コード付加	無条件にレコード末尾に改行コードを付加する(ホスト Win)
改行コード削除	無条件にレコード末尾の改行コードを削除する(Win ホスト)
行末圧縮	無条件に行末のスペース類を切り捨てる(ホスト Win)
行末伸長	無条件に行末にスペースを詰める(Win ホスト)
タブ圧縮	連続スペースをタブに置き換える(ホスト Win)
タブ拡張	タブを連続スペースに置き換える(Win ホスト)

レコード編集機能

EOFコードの扱い

F*TRAN+のテキストファイル変換では、ホスト Win方向の変換時にはEOFコード (1AH)をつけない、Win ホスト方向の変換時にはEOFコード検出でも物理EOF検出 でもEOFにする、というのが省略時の動作です。

EOFコードの扱い

	—
機能	説明
EOFコード付加	ファイル末尾にEOFコードを付加する・しない(ホスト Win)
EOFコード検出	EOFコード検出でEOFにする(Win ホスト)
EOFコード透過	EOFコードを一般の文字扱いする(Win ホスト)

例1)ふつう、固定長 可変長の変換になる



例2) ANKと漢字が混在なら、KI/KOの挿入・削除処理が入る



例3)全角・半角スペースを使い分けていれば、Win ホスト方向の変換にも使える

ホスト(固定長)◀	——— Win(固定長)
1 KI 水星 KO MERCURY マーキュリー	1 水星 * Mercury マーキュリー CR LF
2 KI 金星 KO VENUS ビーナス	2 金星 Venus ビーナス CR LF
3 KI 地球 KO EARTH アース	3 地球 Earth アース CR LF
•	•
•	•
9 KI 冥王星 KO PLUTO プルートー	9 冥王星 Pluto プルートー CR LF
	*) は全角スペース

注意 ---- Win ホストファイル変換時のシフト節約度を弱にすべし

この例3のような変換をするときは、変換設定/漢字変換方式の「Win ホストファイル変換時のシフト節約度」を「弱」に設定してください。そうしないと、KOの位置がレコードごとにずれます。

例4)ANKのみで、Win ホスト方向の変換なら、固定長変換もできる



例5) ANKと漢字のみでKI/KOつきのホストファイルは、項目別変換できる



第2章 変換の仕様 ——

ホストがUnix、Windowsの場合

ホストがUnix、Windowsの場合、テキストファイル変換ではホストファイル(可変 長レコード)とWindowsテキストファイル(可変長レコード)間の変換を行います。1レ コードが1行に対応する改行コードつきのデータが対象です。ソースプログラム等がその典型で す。

以下に、テキストファイル変換のコード変換機能、レコード編集機能、EOFコードの扱いを 示します。

コード変換機能

テキストファイル変換のコード変換機能は、下表に示すとおり比較的単純です。

コード変換機能

ホスト側コード	◀▶ Win側コード	変換方法
JIS8・漢字混在	◀▶ JIS8、シフトJIS漢字混在	ANK・漢字
(EUC、シフト JIS	5)	混在変換固定

レコード編集機能

ソースプログラムを例に、レコード編集機能を説明します。

Unix、Windowsのソースプログラムは、改行コード(UnixはLF=0AH、W indowsはCR/LF=0D0AH)でレコードの区切りとし、可変長である、レコード長 にはあまり制限がない、タブ(TAB=09H)が自由に使える、スペース効率がよい、漢字が 自由に使えて半角・全角の区別をあまり意識する必要がない、といえます。

レコード編集機能

機能	説明
改行コード正規化	レコード末尾の改行コードを正規化する
行末圧縮	無条件に行末のスペース類を切り捨てる
タブ圧縮	連続スペースをタブに置き換える
タブ拡張	タブを連続スペースに置き換える

EOFコードの扱い

F*TRAN+のテキストファイル変換では、ホスト Win方向の変換時にはEOFコード (1AH)をつけない、Win ホスト方向の変換時にはEOFコード検出でも物理EOF検出 でもEOFにする、というのが省略時の動作です。

EOFコードの扱い

機能	説明
EOFコード付加	ファイル末尾にEOFコードを付加する・しない(叔ト Win *)
EOFコード検出	EOFコード検出でEOFにする(Win 叔ト*)
EOFコード透過	EOFコードを一般の文字扱いする(Win 叔ト*)
*)ホストがWin	dowsの場合は、 なト Win

例)可変長 可変長の変換になる

<ホストがUnixの場合>



Win(可変長)◀	—— → W i n (可変長)
HELLO CR LF	HELLO CR LF
はじめまして みなさん CR LF	はじめまして みなさん CR LF
私の名前は F*TRAN+ CR LF	私の名前は F*TRAN+ CR LF
•	•
•	•
GOOD-BYE CR LF	GOOD-BYE CR LF
1A [EOF]	1A [EOF]

2.7 データファイル変換1/プリント形式の仕様

ホストが汎用機・オフコンの場合

ホストが汎用機・オフコンの場合、データファイル変換1/プリント形式は、おもにホストの COBOLデータと、市販ソフトの入出力形式の1つであるプリント形式ファイルの変換に使い ます。

プリント形式ファイルとは、各レコードが改行コードで区切られている固定長のテキストファ イルのことです。各項目の桁位置、幅が一定で、固定長・固定欄でなければいけません。なお、 プリント形式ファイルはSDF形式ファイルとも呼ばれています。

例外として、Win ホスト方向の変換のときは、最終項目に限り可変長でもかまいません。

以下に、データファイル変換1 / プリント形式で可能なデータ変換機能、レコード編集機能、 EOFコードの扱いを示します。

データ変換機能

データファイル変換1 / プリント形式のデータ変換機能を下表に示します。

データ変換機能

ホスト側データ	◆◆ Win側データ	変換方法
JIS8/ASCII	➡ JIS8/ASCII	ANK変換
EBCDIC(カタカナ)	↓ //	"
EBCDIC(英小文字)	↓ //	"
漢字(KI/KOなし)	◀▶ シフトJIS漢字のみ	漢字項目変換
11		"
ANK・漢字混在	◆→ JIS8、シフトJIS漢字混在	ANK・漢字
KI/K0つき		混在変換
文字形式数値	◀▶ 文字形式、Windows COBOL *1	ニューメリック変換 *3
符号なしゾーン形式	← <i>II</i>	ゾーン変換 *4
符号つきゾーン形式	← <i>II</i>	"
符号なしパック形式	← <i>II</i>	パック変換 *5
符号つきパック形式	← <i>II</i>	"
符号なしBCD形式	← <i>II</i>	"
2進形式数値 *2	← <i>II</i>	2 進数値変換*6
日付データ	◀▶ 日付データ	日付項目変換
特殊データ	◀▶ 特殊データ	特殊データ変換

*1) Windows COBOL の符号なしゾーン形式、符号つきゾーン形式

*2) COBOL の COMP-5 などの形式

*3) Numeric、DispZone、ZoneDisp 変換

*4) ZoneDisp、DispZone、ZoneZone 変換

*5) PackDisp、DispPack、PackZone、ZonePack 変換

*6)BinDisp、DispBin、BinZone、ZoneBin 変換

レコード編集機能

プリント形式ファイルは、基本的には固定長ファイルです。その意味では、ホストの標準的な データ形式と似ています。しかし、項目単位の編集・加工ができないと使いものになりません。 下表に、データファイル変換1 / プリント形式のレコード編集機能を示します。

レコート	*編集機能
------	-------

機能	説明
タブ拡張	タプを連続スペースに置き換える(Win ホスト)
改行コード付加	無条件にレコード末尾に改行コードを付加する(ホスト Win)
改行コード削除	無条件にレコード末尾の改行コードを削除する(Win ホスト)
空行無視	Win側の、改行・改頁コードのみの行を無視する・しない
項目別変換	項目別に分けて変換できる
項目削除	不要な項目を削除できる
項目長変更	項目長を変更できる
項目組み替え	項目の順番の組み替えができる
空項目挿入	空項目を作ることができる
KI/KO挿入	漢字項目の前後にKI/KOを挿入できる(Win ホスト)

EOFコードの扱い

プリント形式ファイルはテキストファイルの一種ですから、ホスト Win方向の変換時には EOFコード(1AH)をつけない、Win ホスト方向の変換時にはEOFコード検出でも物 理EOF検出でもEOFにする、というのが省略時の動作です。

EOFコードの扱い

機能	説明	
EOFコード付加	ファイル末尾にEOFコードを付加する・しない(ホスト	Win)
EOFコード検出	EOFコード検出でEOFにする(Win ホスト)	
EOFコード透過	EOFコードを一般の文字扱いする(Win ホスト)	

例1)ふつう、固定長 固定長の変換になる



例2)項目別変換ができる



例3)最終項目のみ可変長でもよい(Win ホスト)



例4) 改行コード、または改頁コード*のみの行は無視できる(Win ホスト)





*) 改頁コード=CR/FF(0D0CH) またはFF(0CH)

例5)項目長の変更(縮小、拡張)ができる



例6)不要な項目をスキップしたり、逆に空項目を作ったりできる



例7)項目の組み替えができる



第2章 変換の仕様

ホストがUnix、Windowsの場合

ホストがUnix、Windowsの場合、データファイル変換1/プリント形式は、ホストのCOBOLデータ等と、市販ソフトの入出力形式の1つであるプリント形式ファイルの変換に 使います。

プリント形式ファイルとは、各レコードが改行コードで区切られているテキストファイルのこ とです。各項目の桁位置、幅が一定していなければいけません。

以下に、データファイル変換1 / プリント形式で可能なデータ変換機能、レコード編集機能、 EOFコードの扱いを示します。

データ変換機能

データファイル変換1 / プリント形式のデータ変換機能を下表に示します。

データ変換機能

ホスト側データ	◀ ▶ Win側データ			変換方法	
JIS8/ASCII	↔ JIS8	ANK変換			
漢字(EUC、シフト JIS)	◆◆ シフト.	IS漢字のみ	漢字項目変換		
11	◀─ シフト」	IS漢字、JIS8混在	"		
JIS8・漢字混在	↔ JIS8	、シフトJIS漢字混在	ΑΝΚ・	漢字	
			混在	変換	
文字形式数值	◀▶ 文字形式	ζ、Windows COBOL *1	ニューメリックる	变換 *3	
符号なしゾーン形式	<►	11	ゾーン変	[換 *4	
符号つきゾーン形式	<►	11	"		
符号なしパック形式	<►	11	パック変	[換 *5	
符号つきパック形式	<►	11	"		
符号なしBCD形式	<►	11	"		
2進形式数値 *2	<►	11	2 進数値	ī変換*6	
日付データ	◀▶ 日付データ		日付項目	変換	
特殊データ	◀▶ 特殊デ-	-タ	特殊データ	⁄変換	

*1) Windows COBOL の符号なしゾーン形式、符号つきゾーン形式

*2) COBOL の COMP-5 などの形式

*3) Numeric、DispZone、ZoneDisp 変換

*4) ZoneDisp、DispZone、ZoneZone 変換

*5) PackDisp、DispPack、PackZone、ZonePack 変換

*6)BinDisp、DispBin、BinZone、ZoneBin 変換

レコード編集機能

プリント形式ファイルは、基本的には固定長ファイルです。しかし、項目単位の編集・加工が できないと使いものになりません。下表に、データファイル変換1/プリント形式のレコード編 集機能を示します。

レコード編集機能

機能	説明
タブ拡張	タブを連続スペースに置き換える
改行コード正規化	レコード末尾の改行コードを正規化する
空行無視	改行・改頁コードのみの行を無視する・しない
項目別変換	項目別に分けて変換できる
項目削除	不要な項目を削除できる
項目長変更	項目長を変更できる
項目組み替え	項目の順番の組み替えができる
空項目挿入	空項目を作ることができる

EOFコードの扱い

プリント形式ファイルはテキストファイルの一種ですから、ホスト Win方向の変換時には EOFコード(1AH)をつけない、Win ホスト方向の変換時にはEOFコード検出でも物 理EOF検出でもEOFにする、というのが省略時の動作です。

EOFコードの扱い

機能	説明
EOFコード付加	ファイル末尾にEOFコードを付加する・しない(叔ト Win *)
EOFコード検出	EOFコード検出でEOFにする(Win ホスト*)
EOFコード透過	EOFコードを一般の文字扱いする(Win 叔ト*)
	dowsの提合け #7k Win

*)ホストがWindowsの場合は、叔ト Win

例1)入力が可変長/固定長、出力が固定長の変換になり、項目別変換ができる



例2) 改行コード、または改頁コードのみの行は無視できる



*) 改頁コード=CR/FF(0D0CH) またはFF(0CH)

例3)項目長の変更(縮小、拡張)ができる



例4)不要な項目をスキップしたり、逆に空項目を作ったりできる



例5)項目の組み替えができる



2.8 データファイル変換2/デリミタ形式の仕様

ホストが汎用機・オフコンの場合

ホストが汎用機・オフコンの場合、データファイル変換2/デリミタ形式は、おもにホストの COBOLデータと、市販ソフトの入出力形式の1つであるデリミタ形式ファイルの変換に使い ます。

デリミタ形式ファイルとは、各レコードが改行コードで区切られ、さらに各項目がデリミタ(区切り文字)で区切られているファイルのことです。コンマ区切り(CSV)形式[K3フォーマットを含む]がその代表で、つぎの3つのタイプに対応しています。

コンマ区切り(CSV)形式、タブ区切り形式、スペース区切り形式

以下に、データファイル変換2 / デリミタ形式で可能なデータ変換機能、レコード編集機能、 EOFコードの扱いを示します。

データ変換機能

データファイル変換2/デリミタ形式のデータ変換機能を、下表に示します。

データ変換機能

ホスト側データ	◆◆ Win側データ	変換方法
JIS8/ASCII	↓ JIS8/ASCII	ANK変換
EBCDIC(カタカナ)	✓ // // // // // // // // // // // // //	"
EBCDIC(英小文字)	↓ //	"
漢字(KI/KOなし)	◀▶ シフトJIS漢字のみ	漢字項目変換
11	← シフトJIS漢字、JIS8混在	"
ANK・漢字混在	◆→ JIS8、シフトJIS漢字混在	ANK・漢字
KI/K0つき		混在変換
文字形式数値	◆◆ 文字形式数値、Windows COBOL *1	ニューメリック変換 *3
符号なしゾーン形式	← ► <i>''</i>	ゾーン変換 *4
符号つきゾーン形式	← ► <i>"</i>	"
符号なしパック形式	← ► <i>''</i>	パック変換 *5
符号つきパック形式	← ► <i>''</i>	"
符号なしBCD形式	← ► <i>"</i>	"
2進形式数値 *2	← ► <i>"</i>	2 進数値変換*6
日付データ	◀▶ 日付データ	日付項目変換
特殊データ	◀▶ 特殊データ	特殊データ変換

*1) Windows COBOL の符号なしゾーン形式、符号つきゾーン形式

*2) COBOL の COMP-5 などの形式

*3) Numeric、DispZone、ZoneDisp 変換

*4) ZoneDisp、DispZone、ZoneZone 変換

*5) PackDisp、DispPack、PackZone、ZonePack 変換

*6) BinDisp、DispBin、BinZone、ZoneBin 変換

レコード編集機能

ホストの標準的なデータ形式は、COBOLのファイル形式です。パソコンの標準的なデータ 形式は、プリント形式またはこのデリミタ形式です。両者にはとても大きな隔たりがあり、十分 なレコード編集機能が要求されます。F*TRAN+の持つレコード編集機能を下表に示します。

<u>レコード編集機能</u>	
機能	説明
タブ拡張	タブを連続スペースに置き換える(Win ホスト)
改行コード付加	無条件にレコード末尾に改行コードを付加する(ホスト Win)
改行コード削除	無条件にレコード末尾の改行コードを削除する(Win ホスト)
空行無視	Win側の、改行・改頁コードのみの行を無視する・しない
項目別変換	項目別に分けて変換できる
可変長項目対応	可変長の項目でも変換できる
デリミタ挿入	項目を区切るデリミタを挿入できる(ホスト Win)
デリミタ検出	項目を区切るデリミタを検出できる(Win ホスト)
引用符くくり	項目を引用符(")でくくることができる(ホスト Win)
引用符はずし	引用符でくくられた項目の引用符をはずす(Win ホスト)
不要空白削除	デリミタの前後や引用符の前の不要な空白を削除できる
	(ホスト Win)。削除しない指定も可能
項目削除	不要な項目を削除できる
項目長変更	項目長を変更できる
項目組み替え	項目の順番の組み替えができる
空項目挿入	空項目を作ることができる
КІ/КО挿入	漢字項目の前後にKI/KOを挿入できる(Win ホスト)
改行コード挿入	レコードの途中にも、改行コードを挿入できる(ホスト Win)

EOFコードの扱い

デリミタ形式ファイルはテキストファイルの一種ですから、ホスト Win方向の変換時には EOFコード(1AH)をつけない、Win ホスト方向の変換時にはEOFコード検出でも物 理EOF検出でもEOFにする、というのが省略時の動作です。

EOFコードの扱い

	_	
機能	説明	
EOFコード付加	ファイル末尾にEOFコードを付加する・しない(ホスト W	in)
EOFコード検出	EOFコード検出でEOFにする(Win ホスト)	
EOFコード透過	EOFコードを一般の文字扱いする(Win ホスト)	

例1)コンマ区切り(CSV)形式の変換ができる

	5	木星	JUPITER	ジュピ <i>Ⴉ</i> -	317832	16	
	6	土星	SATURN	サターン	095160	17	
	7	天王星	URANUS	ウラヌス	014540	15	
ホスト	8	海王星	NEPTUNE	ネプ・チューン	017150	08	
↓							
Win	" 5"	,"木星"	, "JUPITE	R", "אַב צֿ	<u> </u>	17.83	2,
	" 6"	,"土星"	, "SATURN	" , "サタ−ン'	', 95.16	0,1	7
							· -

"7", "天王星", "URANUS", "ウラヌス", 14.540, 15

"8", "海王星", "NEPTUNE", "ネプチューン", 17.150, 8

例2)タブ区切り形式の変換ができる

5	木星	JUPITER	シ [゙] ュピ [°] タ-	317832	16
6	土星	SATURN	サターン	095160	17
7	天王星	URANUS	ウラヌス	014540	15
8	海王星	NEPTUNE	ネプ チューン	017150	08

Win

ホスト

5.....>木星...>JUPITER.>ジュピター.>317.832>16

6.....>土星...>SATURN..>サターン....>95.160.>17

7....>天王星.>URANUS..>ウラヌス...>14.540.>15

8.....>海王星.>NEPTUNE.>ネプチューン.>17.150.>8

(便宜的に...>でタブを表しています)

16

例3)スペース区切り形式の変換ができる

5	木星	JUPITER	ジュピ <i>タ</i> -	317832	16
6	土星	SATURN	サターン	095160	17
7	天王星	URANUS	ウラヌス	014540	15
8	海王星	NEPTUNE	ネプ・チューン	017150	08

ホスト

Win

5 木星 JUPITER ジュピタ- 317.832 16

6 土星 SATURN サターン 95.160 17

7 天王星 URANUS ウラヌス 14.540 15

8 海王星 NEPTUNE ネプチューン 17.150 8

例4)不要項目をスキップできる

	5	木星	JURITER	ジュピ タ -	317832	16
	6	土星	SATURN	助->	095160	17
	7	天王星	URANUS	টরহা	014540	15
ホスト	8	海王星	NEPTUNE	初九义	017150	08
∀ Win	" 5" " 6" " 7" " 8"	, "木星" , "土星" , "天王国 , "海王国	, 317.832 , 95.160 ≝" , 14.54 ≣" , 17.15	2 , 16 , 17 0 , 15 0 , 8		
Win ↓	" 5" " 6" " 7" " 8"	, "木星" , "土星" , "天王昼 , "海王昼	, "JUPITE , "SATURN ≧" , "URAN ≧" , "NEPT	R" , "ジュヒ " , "サターン' US" , "ウララ UNE" , "ネフ	ご タ-" , 3 ' , 95.16 な" , 14. パチューン" ,	17.832 , 16 0 , 17 540 , 15 17.150 , 8

ホスト

5	木星	317832	16
6	土星	095160	17
7	天王星	014540	15
8	海王星	017150	08

例5)項目の組み替えができる

5	木星	JUPITER	ジュピ <i>タ</i> -	317832	16
6	土星	SATURN	サターン	095160	17
7	天王星	URANUS	ウラヌス	014540	15
8	海王星	NEPTUNE	ネプ チューン	017150	08

ホスト Win

" 5" , "JUPITER" , "ジュピタ-" , "木星" , 317.832 , 16 " 6" , "SATURN" , "サターン" , "土星" , 95.160 , 17 " 7" , "URANUS" , "ウラヌス" , "天王星" , 14.540 , 15

"8", "NEPTUNE", "ネプチューン", "海王星", 17.150, 8

第2章 変換の仕様

ホストがUnix、Windowsの場合

ホストがUnix、Windowsの場合、データファイル変換2/デリミタ形式は、ホストのCOBOLデータ等と、市販ソフトの入出力形式の1つであるデリミタ形式ファイルの変換に 使います。

デリミタ形式ファイルとは、各レコードが改行コードで区切られ、さらに各項目がデリミタ(区切り文字)で区切られているファイルのことです。コンマ区切り(CSV)形式[K3フォーマットを含む]がその代表で、つぎの3つのタイプに対応しています。

コンマ区切り(CSV)形式、タブ区切り形式、スペース区切り形式

以下に、データファイル変換2 / デリミタ形式で可能なデータ変換機能、レコード編集機能、 EOFコードの扱いを示します。

データ変換機能

データファイル変換2/デリミタ形式のデータ変換機能を、下表に示します。

データ変換機能

ホスト側データ	◆◆ Win側データ	変換方法
JIS8/ASCII	➡ JIS8/ASCII	ANK変換
漢字(EUC、シフト JIS)	◀▶ シフトJIS漢字のみ	漢字項目変換
11	◀─ シフトJIS漢字、JIS8混	と パープ しんしょう しんしょ しんしょ
JIS8・漢字混在	◆◆ JIS8、シフトJIS漢字	在 ANK・漢字
		混在変換
文字形式数値	◆◆ 文字形式数値、Windows COBOL	*1 ニューメリック変換 *3
符号なしゾーン形式	←→ <i>II</i>	ゾーン変換 *4
符号つきゾーン形式	←→ <i>II</i>	"
符号なしパック形式	←→ <i>II</i>	パック変換 *5
符号つきパック形式	←→ <i>II</i>	"
符号なしBCD形式	←→ <i>II</i>	"
2進形式数値 *2	← → <i>II</i>	2 進数値変換*6
日付データ	◀▶ 日付データ	日付項目変換
特殊データ	◀▶ 特殊データ	特殊データ変換

*1) Windows COBOL の符号なしゾーン形式、符号つきゾーン形式

*2) COBOL の COMP-5 などの形式

*3) Numeric、DispZone、ZoneDisp 変換

*4) ZoneDisp、DispZone、ZoneZone 変換

*5) PackDisp、DispPack、PackZone、ZonePack 変換

*6)BinDisp、DispBin、BinZone、ZoneBin 変換

レコード編集機能

Unix、Windowsの標準的なデータ形式は、プリント形式またはこのデリミタ形式で す。F*TRAN+の持つレコード編集機能を下表に示します。

レコード編集機能

機能	説明
タブ拡張	タブを連続スペースに置き換える
改行コード正規化	レコード末尾の改行コードを正規化する
空行無視	改行・改頁コードのみの行を無視する・しない
項目別変換	項目別に分けて変換できる
可変長項目対応	可変長の項目でも変換できる
デリミタ挿入	項目を区切るデリミタを挿入できる
デリミタ検出	項目を区切るデリミタを検出できる
引用符くくり	項目を引用符(")でくくることができる
引用符はずし	引用符でくくられた項目の引用符をはずす
不要空白削除	デリミタの前後や引用符の前の不要な空白を削除できる
	削除しない指定も可能
項目削除	不要な項目を削除できる
項目長変更	項目長を変更できる
項目組み替え	項目の順番の組み替えができる
空項目挿入	空項目を作ることができる
改行コード挿入	レコードの途中にも、改行コードを挿入できる

EOFコードの扱い

デリミタ形式ファイルはテキストファイルの一種ですから、ホスト Win方向の変換時には EOFコード(1AH)をつけない、Win ホスト方向の変換時にはEOFコード検出でも物 理EOF検出でもEOFにする、というのが省略時の動作です。

EOFコードの扱い

機能	説明
EOFコード付加	ファイル末尾にEOFコードを付加する・しない(叔ト Win *)
EOFコード検出	EOFコード検出でEOFにする(Win 板ト*)
EOFコード透過	EOFコードを一般の文字扱いする(Win 叔ト*)

*)ホストがWindowsの場合は、叔ト Win

例1)コンマ区切り(CSV)形式の変換ができる

	5	木星	JUPITER	ジュピ <i>Ⴉ</i> -	317832	16	LF	
	6	土星	SATURN	サターン	095160	17	LF	
	7	天王星	URANUS	ウラヌス	014540	15	LF	
Unix	8	海王星	NEPTUNE	ネプチューン	017150	08	LF	
↓								
Win	" 5"	,"木星"	, "JUPITE	:R" , "ジュヒ	<u> </u>	17.83	32,	16
	" 6"	,"土星"	, "SATURN	" , "サタ−ン'	', 95.16	0,1	17	
	" 7"	,"天王星	∎", "URAN	IUS" , "ウラゔ	RA", 14.	540,	, 15	

"8", "海王星", "NEPTUNE", "ネプチューン", 17.150, 8

例2)タブ区切り形式の変換ができる

	5	木星	JUPITER	ジュピ <i>タ</i> -	317832	16	LF
	6	土星	SATURN	サターン	095160	17	LF
	7	天王星	URANUS	ウラヌス	014540	15	LF
Unix	8	海王星	NEPTUNE	ネプ チューン	017150	08	LF

≜

∀ Win

5.....>木星...>JUPITER.>ジュピター.>317.832>16 6.....>土星...>SATURN..>サターン....>95.160.>17

7.....>天王星.>URANUS..>ウラヌス....>14.540.>15

8.....>海王星.>NEPTUNE.>ネプチューン.>17.150.>8

(便宜的に...>でタブを表しています)

例3)スペース区切り形式の変換ができる

5	木星	JUPITER	ジュピ <i>Ⴉ</i> -	317832	16	LF
6	土星	SATURN	サターン	095160	17	LF
7	天王星	URANUS	ウラヌス	014540	15	LF
8	海王星	NEPTUNE	ネプ・チューン	017150	08	LF

Unix

Win

5 木星 JUPITER ジュピタ- 317.832 16

6 土星 SATURN サターン 95.160 17

- 7 天王星 URANUS ウラヌス 14.540 15
- 8 海王星 NEPTUNE ネプチューン 17.150 8

例4)不要項目をスキップできる

	5	木星	JUPPITER	シ	1Ľ <i>9-</i>	317832	16	LF
	6	土星	SATURN	#9	->	095160	17	LF
	7	天王星	URANUS	ীদ্য	ম	014540	15	LF
Unix	8	海王星	NEPTUNE	77	·打义	017150	08	LF
V								
Win	" 5"	,"木星"	, 317.83	32,	16			
	" 6"	,"土星"	, 95.160), 1	7			
	" 7"	,"天王星	∎", 14.5	540,	15			
	" 8"	, "海王星	┋", 17.1	50,	8			
Win	" 5" " 6" " 7" " 8"	, "木星" , "土星" , "天王星 "海王星	, "JUPIT , "SATUF ≣" , "URA ⊒" "NFF	FER" RN", ANUS"	, "ジュヒ "サターン" , "ウラヌ " "ネン	ピタ-",3 ,95.16 な",14. パオーン"	17.83 0, ² 540 17	32 , 16 17 , 15 150 8
↓ ↓	Ū	, /4_3	<u> </u>	TONE	, 12	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	.,	100 , 0
Unix	5	木星	317832	16	LF			
	6	土星	095160	17	LF			
	7	天王星	014540	15	LF			
	8	海王星	017150	08	LF			

例5)項目の組み替えができる

"5", "木星", "JUPITER", "ジュピタ-", 317.832, 16
"6", "土星", "SATURN", "サターン", 95.160, 17
"7", "天王星", "URANUS", "ウラヌス", 14.540, 15
Win
"8", "海王星", "NEPTUNE", "ネプチューン", 17.150, 8
Win
"5", "JUPITER", "ジュピタ-", "木星", 317.832, 16
"6", "SATURN", "サターン", "土星", 95.160, 17
"7", "URANUS", "ウラヌス", "天王星", 14.540, 15
"8", "NEPTUNE", "ネプチュ-ン", "海王星", 17.150, 8

2.9 ランダムファイル変換の仕様

ホストが汎用機・オフコンの場合

ランダムファイル変換では、アプリケーションで使用する、おもに固定長・固定欄のデータフ ァイルの変換を行います。BASICのランダムファイルやCOBOLの順ファイルなどがおも な対象です。バイナリ変換ができるのも大きな特長です。

以下に、ランダムファイル変換で可能なデータ変換機能、レコード編集機能、EOFコードの 扱いを示します。

データ変換機能

ランダムファイル変換のデータ変換機能を下表に示します。

データ変換機能

ホスト側データ	◆◆ Win側データ	変換方法
バイナリ	◀▶ バイナリ	バイナリ変換
JIS8/ASCII	↓ JIS8/ASCII	ANK変換
EBCDIC(カタカナ)	↓ //	"
EBCDIC(英小文字)	↓ //	"
漢字(KI/KOなし)	◀▶ シフトJIS漢字のみ	漢字項目変換
11		"
ANK・漢字混在	◆→ JIS8、シフトJIS漢字混在	ANK・漢字
KI/K0つき		混在変換
文字形式数値	◀▶ 文字、WinCOBOL *1、2進 *2	ニューメリック変換 *4
符号なしゾーン形式	← → <i>''</i>	ゾーン変換 *5
符号つきゾーン形式	← → <i>''</i>	"
符号なしパック形式	← → <i>''</i>	パック変換 *6
符号つきパック形式	← → <i>II</i>	"
符号なしBCD形式	← <i>II</i>	"
2進形式数値 *3	← <i>II</i>	2 進数値変換*7
日付データ	◀▶ 日付データ	日付項目変換
特殊データ	◀▶ 特殊データ	特殊データ変換

*1) Windows COBOL の符号なしゾーン / パック形式、符号つきゾーン / パック形式 *2) Windows COBOL の COMP-5、Visual Basic、C/C++などの形式

*3) COBOL の COMP-5 などの形式

*4) Numeric、DispZone、ZoneDisp、DispPack、PackDisp、DispBin、BinDisp 変換
*5) ZoneDisp、DispZone、ZoneZone、ZonePack、PackZone、ZoneBin、BinZone 変換
*6) PackDisp、DispPack、PackZone、ZonePack、PackPack、PackBin、BinPack 変換
*7) BinDisp、DispBin、BinZone、ZoneBin、BinPack、PackBin、BinBin 変換

注意 ---- MKI\$/MKS\$/MKD\$には未対応

BASICの内部形式の数値項目である、MKI\$/MKS\$/MKD\$の項目はサポートしていません。

レコード編集機能

ランダムファイル変換では、Win側のレコード長を明示的に指定します(指定を省略すると ホストレコード長=Winレコード長になります)。固定長という点では、ホストのデータ形式 と似ています。

しかし、データ内容に応じて項目長変更などのレコード編集機能が必要になります。明示的に 指定しない限り改行コードをつけないことなどは、大きな特長です。

下表にランダムファイル変換のレコード編集機能を示します。

レコ	—	ド	编貨	直格	修 能
			小冊フ	TC 1/2	ショレ

機能	説明
Winレコード長指定	Win側のレコード長を指定できる
項目別変換	項目別に分けて変換できる
項目削除	不要な項目を削除できる
項目長変更	項目長を変更できる
項目組み替え	項目の順番の組み替えができる
空項目挿入	空項目を作ることができる
KI/KO挿入	漢字項目の前後にKI/KOを挿入できる(Win ホスト)
改行コード挿入	レコードの途中・末尾に、改行コードを挿入できる
	(ホスト Win)

EOFコードの扱い

ランダムファイル変換は、基本的にデリミタや改行コードを使わず、あってもただの一般文字 扱いにします。EOFコードについても同様に一般文字扱いし、物理EOFでEOFにします。 これは、バイナリ変換ができることを前提にしているためです。

EOFコードの扱い

機能	説明
EOFコード透過	EOFコードを一般の文字扱いする(Win ホスト)

例1)ホスト側とWin側のレコード長を同じにするのがふつう



例2)バイナリ変換もできる。レコード長はあまり意味を持たない



例3)レコード長の変更(縮小、拡大)ができる



例4)項目別の変換ができる



例5)項目長の変更(縮小、拡大)ができる



例6)不要な項目をスキップしたり、逆に空項目を作ったりできる



例7)項目の組み替えができる



例8) 改行コードのつく、固定長のテキストファイルも扱える



ホストがUnix、Windowsの場合

ランダムファイル変換では、アプリケーションで使用する、おもに固定長・固定欄のデータフ ァイルの変換を行います。BASICのランダムファイルやCOBOLの順ファイルなどがおも な対象です。バイナリ変換ができるのも大きな特長です。

以下に、ランダムファイル変換で可能なデータ変換機能、レコード編集機能、EOFコードの 扱いを示します。

データ変換機能

ランダムファイル変換のデータ変換機能を下表に示します。

データ変換機能

ホスト側データ	◆ ▶ Win側データ	変換方法
バイナリ	◆◆ バイナリ	バイナリ変換
JIS8/ASCII	↓ JIS8/ASCII	ANK変換
漢字(EUC、シフト JIS)	◀▶ シフトJIS漢字のみ	漢字項目変換
11	◀─ シフトJIS漢字、JIS8混在	"
ANK・漢字混在	↓ JIS8、シフトJIS漢字混在	ANK・漢字
		混在変換
文字形式数値	◆◆ 文字、WinCOBOL *1、2数 *2	ニューメリック変換 *4
符号なしゾーン形式	↔ <i>"</i>	ゾーン変換 *5
符号つきゾーン形式	↔ <i>"</i>	"
符号なしパック形式	↔ <i>"</i>	パック変換 *6
符号つきパック形式	↔ <i>"</i>	11
符号なしBCD形式	↔ <i>"</i>	"
2 数形式数值 *3	↔ <i>"</i>	2 進数値変換*7
日付データ	◀▶ 日付データ	日付項目変換
特殊データ	◀▶ 特殊データ	特殊データ変換

*1) Windows COBOLの符号なしゾーン / パック形式、符号つきゾーン / パック形式

*2)Windows COBOLのCOMP-5、Visual Basic、C/C++などの形式

*3) COBOL の COMP-5 などの形式

*4)Numeric、DispZone、ZoneDisp、DispPack、PackDisp、DispBin、BinDisp 変換

*5) ZoneDisp、DispZone、ZoneZone、ZonePack、PackZone、ZoneBin、BinZone 変換

*6) PackDisp、DispPack、PackZone、ZonePack、PackPack、PackBin、BinPack 変換

*7) BinDisp、DispBin、BinZone、ZoneBin、BinPack、PackBin、BinBin 変換

注意 ---- MKI\$/MKS\$/MKD\$には未対応

BASICの内部形式の数値項目である、MKI\$/MKS\$/MKD\$の項目はサポートしていません。

レコード編集機能

ランダムファイル変換では、Win側のレコード長を明示的に指定します。

しかし、データ内容に応じて項目長変更などのレコード編集機能が必要になります。明示的に 指定しない限り改行コードをつけないことなどは、大きな特長です。

下表にランダムファイル変換のレコード編集機能を示します。

レコード編集機能

機能	説明
タブ拡張	タブを連続スペースに置き換える(ホスト Win)
Winレコード長指定	Win側のレコード長を指定できる
項目別変換	項目別に分けて変換できる
項目削除	不要な項目を削除できる
項目長変更	項目長を変更できる
項目組み替え	項目の順番の組み替えができる
空項目挿入	空項目を作ることができる
改行コード挿入	レコードの途中・末尾に、改行コードを挿入できる

EOFコードの扱い

ランダムファイル変換は、基本的にデリミタや改行コードを使わず、あってもただの一般文字 扱いにします。EOFコードについても同様に一般文字扱いし、物理EOFでEOFにします。 これは、バイナリ変換ができることを前提にしているためです。

EOFコードの扱い

機能	説明
EOFコード透過	EOFコードを一般の文字扱いする(Win 叔ト*)
*)ホストがWin	dowsの場合は、 なト Win

例)ホスト側が可変長/固定長、Win側が固定長の変換になり、項目別変換ができる

 Unix(固定長)
 Win(固定長)

 A
 B
 C
 D

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 ·
 ·

 ·
 ·
 <

2.10 ANK 変換

ANK 変換(Ank 変換)

ANK変換とは、1バイト系の文字、つまり半角文字の変換機能のことです。ホストが汎用機・ オフコンの場合のANK変換は、つぎに示すように3とおりの変換ができます。



ホストがUnix、Windowsの場合のANK変換は、ホストファイル側がJIS8/A SCII固定になります。

この切り替えは、変換設定 / ANKコードで行います。また、ANK変換という名前にそぐわず、特例としてシフトJIS漢字を素通しにする変換もできます。

ホストファイル側 	Windowsファイル側		
JIS8+シフトJIS漢字	◆ JIS8+シフトJIS漢字		

JIS8/ASCIIJ-F

JIS8/ASCIIコードは、パソコンで標準的に使われているコード系です。一部のホス トでも使われています。

本書ではJIS8コードとASCIIコードを合わせてJIS8/ASCIIコードと呼ん でいますが、本当は違うものです。ASCIIコードは米国標準の7ビットコード系、JIS8 コードはそれにカタカナを加えて8ビットに拡張した日本のコード系、と思っておいて大過あり ません。なお、国内のパソコン関係で「ASCIIナントカ」というときは、本当はJIS8コ ードのことです。つぎに示す、

スペース 20 "0"~"9" 30~39 "A"~"Z" 41~5A "a"~"z" 61~7A

のコードぐらいはソラで覚えておくと、何かと便利です。

 $EBCDIC \neg - F$

EBCDICコードは、汎用機を中心として、ホストで多く用いられているコード系です。事 実上の国際標準になっていますが、規格化はされていません。そのため、メーカー・システムご とに少しずつ違いがあります。

また、通常 E B C D I C コードではカタカナと英小文字が同時に使えないことも重要なポイントです。カタカナと英小文字のコードが重複しているためです。たとえば、81Hというコードが表す文字は、

カタカナ版81 = "ア"英小文字版81 = "a"

という具合です。なお、国内ではEBCDIC(英小文字)コードはあまり使われません。しかし、国外との電文の授受がある部署ではこれがごくふつうに使われています。国際的にはカタカナ版はまったく通用しないことを知っておいたほうがよいでしょう。ファイル名にカタカナを使ったりすると、国外のシステムとはファイル転送すらできないことがあります。F*TRAN + では、

E B C D I C (カタカナ)用のA N K 変換表
 E B C D I C (英小文字)用のA N K 変換表

の2つを提供し、どちらか一方に切り替えて使えるようにしています。つぎに示す、

スペース	•	4 0
" A " ~ "	Ι"	C 1 ~ C 9
"J"~"	R "	D 1 ~ D 9
"S"~"	Ζ"	E 2 ~ E 9
" 0 " ~ "	9"	F 0 ~ F 9

のコードぐらいはソラで覚えておくと、何かと便利です。

JIS8/ASCIIコードとEBCDICコードの対応関係

JIS8/ASCIIコードとEBCDICコードでは、一部の特殊文字の対応がとれていま せん。一方にあってもう一方にはない特殊文字がいくつかあるのです。そのため、両者のコード 変換規則はメーカー・システムによってバラバラなのが現状です。

F*TRAN+では、ほぼ標準的と思われるANK変換表を提供し、必要ならそれを利用者が 簡単に変換できるようにして、この問題に対処しています。

2.11 漢字変換

F*TRAN+の漢字変換機能には、

Ank・漢字(KI/KO付)混在変換 漢字項目変換

と呼ぶ、2つの変換方法があります。

Ank・漢字(KI/KO付)混在変換

テキストファイル変換では、ホストファイル側で、レコードごとに漢字の位置が固定していな いタイプのファイルを変換できます。ソースプログラムがその典型です。

データファイル変換やランダムファイル変換では、ホストファイル側にANK・漢字混在の項目があるタイプのファイルを変換できます。ただし、扱いにくいのであまり使われません。

どちらも、ANKから漢字への切り替えをKIと呼ぶコードで行い、漢字からANKへの切り 替えをKOと呼ぶコードで行います。KI/KOがついているからどの桁に漢字が現れてもよい のです。

そして、EUC(Unix)シフトJIS(Windows)のように、KI/KOの概念 がない漢字データ(EUCの場合は、G3等のシフトコード付きの漢字を含む)も扱えます。

このタイプの漢字サポートをF*TRAN+ではANK・漢字(KI/KO付)混在変換と呼んでいます。

$ABCD \cdot \cdot \cdot (ANK) \cdot \cdot \cdot$	KI いろはに・・・(漢字)・・・	KO XYZ · · ·
	▲ K I = 漢字イン	🛛 🎽 K O = 漢字アウ

漢字項目変換

データファイル変換とランダムファイル変換の場合、ホストファイルからWindowsファ イルへの変換のときは、KI/KOがなくても変換できます。逆のWindowsファイルから ホストファイルへの変換のときも、KI/KOをつけないで変換することができます。

どちらも、ANK何バイト、漢字何バイト・・・と指示できるからです。これを漢字項目変換 と呼んでいます。

ANK項目	漢字項目	ANK項目	漢字項目	他の項目・・・
-------	------	-------	------	---------

テキストファイル変換の場合は、これに相当する機能はありません。

半角 全角変換機能

Windowsファイルでは、半角文字・全角文字の項目が、ごくふつうに使われています(禁止しているソフトもあります)。

一方、ホストファイル側では(ホスト上では)半角文字・全角文字混在の項目は非常に扱い にくいものです。

そのため、F*TRAN+では半角 全角変換機能をサポートしています。Win ホスト方 向の変換*で、半角文字・全角文字混在の項目に対して漢字項目変換を適用すると、自動的に半 角文字を対応する全角文字に変換し、全角文字のみの項目にします。

なお、半角スペース(20H)は特別扱いです。半角スペースは2個1組で1個の漢字スペー スとして扱います。半角スペースが奇数個つづくと、最後に1個の半角スペースが残ることにな ります。それは漢字スペースに変換します。

*)ホストがUnix、Windowsの場合は、ホスト Win方向の変換も対象になる

例をあげます。 は半角スペース、 は漢字スペースを意味しています。



注意 ---- オーバーフローしやすい

この機能を使うときは、項目長やレコード長が増える(最大で2倍になる)ことを計算に入れ ておかなければいけません。オーバーフローに注意してください。

2.12 漢字変換方式のサポートパターン

利用者が自由に以下の項目を設定し、漢字変換項目をアレンジしたり、新たに登録したりできます。

ホストが汎用機・オフコンの場合

名前	漢字変換方式につける名前(8文字以内)
コメント	それにつけるコメント(40文字以内)
ANKコード	JIS8/ASCII
	E B C D I C (カタカナ / 英小文字)
漢字コード	JIS漢字
	J I S 漢字 + 8 0 8 0 H
	JIS漢字+8080H(ユニシス)
	NEC JIPS(E)
	" JIPS(J)
	″ 内部コード(E)
	" 内部コード(J)
	東芝漢字(漢字コード自体はJIS)
	IBM漢字
漢字イン *1	0~3バイト
漢字アウト *1	0~3バイト
シフト節約度	弱 / 中 / 強
(⊮in ホストファイル変換時)	
ホスト漢字スペース	全角/半角2個(ユニシスは全角1/全角2あり)
Win漢字スペース	全角 / 半角 2 個
ホスト拡張漢字 *2	ゲタ変換 / クエスチョン変換 / ゼロイー変換
" 〓 " の代わり	ゲタ変換時の " 〓 " の代わりの全角文字
	半角スペース2個(2020日)にも設定できる
Win拡張漢字 *3	ゲタ変換に固定
" 〓 " の代わり	" 〓 " の代わりの全角文字
	半角スペース2個(2020Hか4040H)にも設定できる
漢字対応表	漢字コード変換テーブルの設定 *4

*1) 漢字項目変換のときは使われない

*2) 漢字対応表に定義されないホスト拡張漢字、外字(ユーザー定義文字)も含む

- *3) 漢字対応表に定義されないWin拡張漢字、94区を越える漢字
- *4)通常は、対応づけができる拡張漢字コードを登録する

ホストがUnixの場合

名前	漢字変換方式につける名前(8文字以内)
コメント	それにつけるコメント(40文字以内)
ホスト漢字スペース	全角(A1A1H)/半角2個(2020H)
	置換する / しない
Win漢字スペース	全角(8140H) / 半角2個(2020H)
	置換する / しない
半角カタカナ	8 E H + カナコード / 全角化 / ゲタ変換
"="の代わり	ゲタ変換時の " = " の代わりの半角文字
(⊮in ホストファイル変換時)	
木定義刀タカナ	"=" 変換固定
未定義カタカナ (叔ト Win ファイル変換時)	"=" 変換固定
未定義刀タカナ(叔ト Win ファイル変換時)ホスト拡張漢字 *2	" = " 変換固定 ゲタ変換 / クエスチョン変換
未定義刀ダカナ (叔ト Win ファイル変換時) ホスト拡張漢字 *2 "〓"の代わり	" = " 変換固定 ゲタ変換 / クエスチョン変換 ゲタ変換時の " 〓 " の代わりの全角文字
^{未定義刀タカナ} (叔ト Win ファイル変換時) ホスト拡張漢字 *2 "〓"の代わり	" = " 変換固定 ゲタ変換 / クエスチョン変換 ゲタ変換時の " 〓 " の代わりの全角文字 半角スペース 2 個(2020日)にも設定できる
★定義刀ダカナ (叔ト Win ファイル変換時) ホスト拡張漢字 *2 "〓"の代わり Win拡張漢字 *3	"="変換固定 ゲタ変換 / クエスチョン変換 ゲタ変換時の"〓"の代わりの全角文字 半角スペース2個(2020H)にも設定できる ゲタ変換に固定
<pre>未定義刀ダ刀ナ (叔ト Win ファイル変換時) ホスト拡張漢字 *2 "〓"の代わり Win拡張漢字 *3 "〓"の代わり</pre>	*="変換固定 ゲタ変換 / クエスチョン変換 ゲタ変換時の * = "の代わりの全角文字 半角スペース2個(2020H)にも設定できる ゲタ変換に固定 * = "の代わりの全角文字
未定義刀ダカナ (叔ト Win ファイル変換時) ホスト拡張漢字 *2 "〓"の代わり Win拡張漢字 *3 "〓"の代わり	*="変換固定 ゲタ変換 / クエスチョン変換 ゲタ変換時の * = "の代わりの全角文字 半角スペース2個(2020H)にも設定できる ゲタ変換に固定 * = "の代わりの全角文字 半角スペース2個(2020H)にも設定できる

ホストがWindowsの場合

名前	漢字変換方式につける名前(8文字以内)
コメント	それにつけるコメント(40文字以内)
ホスト漢字スペース	全角(8140H)/半角2個(2020H)
	置換する / しない
Win漢字スペース	全角(8140H) / 半角2個(2020H)
	置換する / しない
漢字対応表	漢字コード変換テーブルの設定 *4

基本的に、このパターンに合えば漢字変換ができます。

第2章 変換の仕様

2.13 ホスト漢字のレパートリー

先に述べたサポートパターンに合うものとしては、Ank・漢字(KI/KO付)混在変換の 場合、

富士通	J E F (12 ポイント) 一番ふつうのもの J E F (9 ポイント)
	F9450内部コード(FCONVのNC指定で変換したもの)
日立	KEIS
三菱	MELCOM漢字
NEC	JIPS(E) NEC標準の漢字体系
	JIPS(J) (ANKも漢字もJISコードにしたもの)
	内部コード(E) オフコン・ミニコンで多く使われる
	内部コード(J) (めったに使われない)
東芝	東芝標準漢字
日本ユニシス	LETS-J(旧日本ユニバック系)
カシオ	カシオ標準漢字
ΙΒΜ	IBM漢字
新JIS	各社ホストのユーティリティで処理したもの
旧JIS	<i>II</i>
Unix	EUC
Windows	シフトJIS

などがあります。

漢字項目変換の場合は、KI/KOを合わせる必要がないので、さらに多くのメーカー・シス テムに適合します。

漢字変換方式は、1つのコード変換表につき15種類まで登録できます。よく使用されるもの は、はじめから標準提供のコード変換表に登録されています。

注意 ---- IBM漢字(IBM社の内部漢字コード)もサポートしています

F*TRAN+では、IBM漢字コードを内部テーブル変換によって求めています。そのため、 わざわざホスト側のユーティリティを使ってJIS漢字に直す必要はありません。

IBM漢字以外の漢字コードはJIS-C6226/X0208と同一、またはそれに準拠している必要があります(漢字コードを計算で求めるため)。

第2章 変換の仕様

2.14 漢字コード変換の仕組み

F * T R A N + の漢字コード変換の仕組みはつぎのとおりです。

ホストの漢字

ホストの漢字は、大別するとつぎの2つになります。

1. 一般漢字(JIS第1/第2水準、多くのホストで共通の漢字)

2.拡張漢字(ホストによって異なる固有の漢字、ユーザー定義文字を含む)

(注)ホストによっては、一般漢字エリアの中に特殊な漢字が含まれる場合があります。

Windowsの漢字

Windowsの漢字も、大別するとつぎの2つになります。

1. 一般漢字(JIS第1/第2水準、多くのホストと共通の漢字)

2.拡張漢字(一般漢字以外で追加された漢字、ユーザー定義文字を含む)

(注)一般漢字エリアの一部の漢字は、ホストの一般漢字エリアの同位置に定義されていない場 合が多くみられます。

ホストの漢字 Windowsの漢字 処理順序

基本的に、一般漢字と一部の拡張漢字は正当な変換が可能で、多くの拡張漢字は正当な変換が 不可能です。ただし、漢字変換表をうまく利用すれば意図した変換ができます。 F * T R A N + では、つぎの順序で漢字コードの変換を行います。

漢字対応表に定義されている漢字の変換 ふつうは、"(㈱)"のような対応づけができる拡張漢字を対象にしますが、 一般漢字エリアの中に含まれる特殊な漢字の変換を含めることもできます。

一般漢字エリアの漢字変換
 一般漢字エリアの漢字は、計算によって求められます。
 (IBM漢字は内部テーブル変換)

漢字対応表に定義されない拡張漢字 ホストとWindowsで対応づけができない漢字を、 ユーザーが選択した方式で変換します。
2.15 漢字対応表について

漢字対応表は、F*TRAN+の漢字コード変換に反映することができる漢字変換テーブルで す。漢字対応表のメンテナンスは、F*TRAN+に標準提供されている漢字対応表エディタに よって簡単に行うことができます。ふつうは、メーカー単位で標準提供されている漢字対応表を ベースに使用します。

漢字対応表に定義された情報は、データ変換時に読み込まれ、最優先の変換になります。漢字 対応表に定義される基本パターンはつぎのとおりです。

2.Windows漢字(またはコード) → ホストの漢字コード (片方向)

3.Windows漢字(またはコード) ◀ ホストの漢字コード (片方向)

詳細は、4.13 漢字対応表エディタをご覧ください。

2.16 変換できないホストの拡張漢字の扱い

F*TRAN+は、漢字対応表に定義されないホストの拡張漢字の変換をつぎのように扱いま す。ここでいう拡張漢字とは、ふつうの拡張漢字と外字(ユーザー定義文字)の総称です。つぎ の、

ゲタ変換

クエスチョン変換 ゼロイー変換

と呼ぶ、3とおりの変換ができます。

以下、富士通JEFの「㈱」=78D5Hを例にとって、どのように変換できるかを見ていきます。

ゲタ変換

ホストファイルの拡張漢字を、Windowsファイルではゲタ(〓) あるいはその代わり の全角文字に変換させる方式です。例外として、半角スペース2個(2020H)も代わりの文 字として使えます。

ホストファイル	Windowsファイル
XXXX	81AC = " 〓 "(あるいは、代わりの全角文字)
78D5 = " (株) "	81AC = " 〓 "(あるいは、代わりの全角文字)

この方式には、 どこに拡張漢字が使われているか、ひと目でわかる "〓"以外の代わりの全角文字に設定することもできる 2バイト 2バイト変換なので、桁ずれを起こさない

などの特長があります。

その反面、 パソコンからホストへの変換には使えない ホストの元のコードを知る手掛かりがない

という難点もあります。

なお、出荷時設定はすべてこの「ゲタ変換」になっています。拡張漢字をそれほど使わないな ら、この設定が無難です。 クエスチョン変換

ホストの拡張漢字を、パソコンでは全角"?"+半角16進4桁のパターンで表す方式です。

ホストファイル	1	Wind	0 W S	5 ファイル
xxxx 78D5 = " (株) "	$\stackrel{\longleftrightarrow}{\longleftrightarrow}$	"?xx "?78	x x ' D 5 '	,

この方式には、 どこに拡張漢字が使われているか、わかりやすい <u>ホストのコードがひと目でわかる</u> <u>文字表現なので、エディタによる置き換えなどがしやすい</u> パソコンからホストへ変換するときも、元のホストコードに戻る

などの特長があります。いろいろと、扱いやすいのです。

その反面、 2 バイト 6 バイト変換なので、桁ずれを起こす 言い替えれば、オーバーフローしやすい

という難点もあります。ふつうは、先のゲタ変換か、このクエスチョン変換を使います。

ゼロイー変換

ホストが汎用機・オフコンの場合、ホストの拡張漢字をパソコンでは0EH+16進ホストコ ードのパターンで表す方式です。富士通専用の方式で、一般には意味がないと思ってください。

ホストファイノ	r	Windowsファイル
xxxx 78D5 = "(株)"	$ \stackrel{\longleftrightarrow}{\longleftrightarrow} $	0Exxxx 0E78D5

この方式は、富士通のホストとデータ交換するときだけ、意味を持ちます。さらに、JEF拡 張漢字ドライバを組み込んでおかなければいけませんし、ソフトがこの方式・ドライバに対応し ていなければいけません。この条件を満たせば、FMVシリーズでJEF拡張漢字の表示・印刷 ができます。

2.17 ホストの一般漢字と拡張漢字の区別

F*TRAN+がホストファイル側の一般漢字と拡張漢字をどのように区別しているかを述べます。

「一般漢字」とは、JIS句点コードで1区1点~94区94点の範囲内の漢字すべてを意味 します。「拡張漢字」とは、一般漢字以外のすべてのコード、すなわち、1区1点~94区94 点の範囲以外のコードを持つ漢字すべてです。

JISタイプ、NEC漢字、JIS+8080タイプ、EUC、IBM漢字、に分けて説明します。

JISタイプ

JISタイプの1区1点~94区94点内の漢字とは、16進コードでいい替えると第1バイ トが21H~7EHかつ第2バイトも21H~7EHの範囲に収まる漢字を指します。そして、 この範囲内に収まらないコードの漢字を拡張漢字と呼びます。



このタイプでは、一般漢字の領域内にそのメーカー・システム固有の特殊漢字を含めているこ とが多いものです。ですが、図からわかるようにF*TRAN+ではそれは拡張漢字としては扱 いません。

NEC漢字

NEC漢字の場合は単純な判定はできないので、いったんJISタイプに変換してから一般漢 字・拡張漢字の判定をします。

- 第2章 コマンド型の実行

JIS+8080タイプ

JIS+8080タイプの1区1点~94区94点内の漢字とは、16進コードでいい替える と、第1バイトがA1H~FEHかつ第2バイトもA1H~FEHの範囲に収まる漢字を指しま す。そして、この範囲内に収まらないコードの漢字を拡張漢字と呼びます。ただし、ホスト側の 漢字スペースを半角2個に設定しているときは、それはこの範囲には収まりません。



4040:EBCDIC系のシステムで多く使われる

A 1 A 1 : J I S + 8 0 8 0 タイプの全角スペース

このタイプの場合は、一般漢字の領域内にそのメーカー・システム固有の特殊漢字を含めることはあまりありません。

EUC

EUCの一般漢字はJIS+8080と同じですが、拡張漢字は8FH+(JIS+8080) の3バイトコードが標準です。

IBM漢字

IBM漢字の場合は、16進コードで第1バイトが41H~7FHかつ第2バイトが41H~ FEHの範囲を漢字(ただし、漢字スペースは4040H)として扱い、内部テーブルによって コード変換を行います。漢字エリアの中には、拡張漢字/ユーザー選定文字の領域も含まれてい ます。

2.18 ホストの拡張漢字の領域

F*TRAN+では、拡張漢字の領域をつぎのように認識しています。

JIS+8080系







日本ユニシス LETS-J

JIS系



東芝漢字、NEC漢字 JIPS

EUC

一般漢字は、JIS+8080系と同じ。
拡張漢字は、つぎのタイプがあります。
標準:
8FH + A1A1H~FEFEH
DEC漢字:
A121H~FE7EH
Super DEC漢字:
8FH + A1A1H~FEFEH

8 F H + A 1 2 1 H ~ F E 7 E H

IBM漢字

4040H、4141H~7FFEHの 範囲に一般漢字、拡張漢字が含まれます。

2.19 変換できない Windows の拡張漢字の扱い

F*TRAN+は、漢字対応表に定義されないWindowsの拡張漢字をつぎのように扱い ます。文字化けを防ぐためです。ここでいう拡張漢字とは、94区を超える漢字コードのことで す。

シフトJISのコード体系では、JISの1区1点~94区94点に収まらない領域がありま す。JISの区点コードを拡張して表現すれば、95区~120区(シフトJISではF040 ~FCFC)の領域です。ここが拡張漢字の領域です(下図の)の部分)。Windows環 境では、この領域を

外字(1880字分)	9 5 🗵 ~ 1 1 4 🗵 (F 0 4 0 ~ F 9 F C)
IBM社選定拡張漢字	115区~120区(FA40~FCFC)

に分けて利用しています。IBM社選定拡張漢字は、ホストの拡張漢字の中に割り付けられて いる漢字が多いので漢字対応表で定義することができます。しかし、それ以外の漢字はJISコ ードに対応づけることができないので、ホストの漢字コードに変換するときF*TRAN+では ゲタ(=) あるいはその代わりの全角文字に置き換えます(ゲタ変換に固定)。



2.20 数值変換

ゾーン形式とパック形式、BCD形式、2進形式、文字形式の変換をサポート

F*TRAN+は、ホストで多く使われるCOBOL数値項目のゾーン形式とパック形式、B CD形式、2進形式、文字形式の数値変換をサポートしています。



Windowsファイル側

文字形式数値	または	ゾーン形式	(符号なし)	∫小数点なし
		バック形式 ≻ × 2進形式 ∫	:	く 小数点あり

また、Windows側は、文字形式数値、Windows COBOLのゾーン形式とパック形式、2進形式をサポートしています。ゾーン形式、パック形式、2進形式は、上記のどの組み合わせでもかまいません。

ゾーン形式とは

ゾーン形式は、COBOL数値項目のうち最も多く使われる形式です。1バイトで10進1桁 を表します。外部10進数と呼ばれることもあります。文字形式数値に変換するのに都合のよい 形式になっているからです。

パック形式とは

パック形式は、COBOL数値項目のうち、ゾーン形式のつぎに多く使われる形式です。1バ イトで10進2桁を表す格納効率のよい形式です。内部10進数と呼ばれることもあります。直 接、演算の対象にできるからです。

------- 第2章 コマンド型の実行

BCD 形式とは

BCD形式は、POS端末等で使われているパック形式に似ている形式です。パック形式同様 1バイトで10進2桁を表す格納効率のよい形式ですが、符号情報を持っていません。

2進形式とは

2進形式は、COBOL数値項目、Visual Basic、C/C++などで使われる形 式です。1~8バイトで表現可能な最大値を表す最も格納効率のよい形式です。ただし、F*T RAN+は、アプリケーションが採用しているすべての2進形式をサポートしているわけではあ りません。

F*TRAN+がサポートしている変換

F*TRAN+は、つぎの組み合わせで数値変換を行うことができます。

ホスト側	Windows側
Disp(文字形式)	D i s p (文字形式)
Zone(ゾーン形式)	→ Zone(ゾーン形式)
P a c k (パック形式〔B C D形式を含む〕)	Pack(パック形式)
Bin (2進形式)	Bin (2進形式)
*) Disp Dispは、Numeric	変換

2.21 ゾーン形式(EBCDIC系)

ゾーン形式(EBCDIC系)の記録形式

たとえば、ゾーン形式7桁の数値は、下図のような形式で記録されます。

0	1	2	3	4	5	6
Fn	F n	F n	F n	Fn	Fn	s n

1バイトのうち、上位4ビットをゾーン部と呼びます。図のFとsの部分です(Fは16進の Fそのものです)。そして、下位4ビットで10進1桁を表します(図のnの部分、n=0~9)。

符号つきの場合、正負の区別はふつう最後の1バイトのゾーン部に記録されます。図のsの部 分です。便宜上、sの部分を符号部と呼び、Fの部分をゾーン部と呼び分けることにします。 桁数や小数点を表すものは何もありません。この項目をアクセスするプログラムで、それらを

指定することになっています。F*TRAN+では「ピクチャ」でそれらを指定します。

符号部(s)の値

下表のように、符号の有無、正負の区別によって符号部(s)のとる値が違います。

	符号部(S)
符号なし	常に F
符号あり	C または F なら正
	Dなら負

ゾーン形式は、各バイトを"0"~"9"の文字として扱ってもよい記録形式になっています。 ただし、符号つきゾーン形式の最後の桁は例外です。EBCDICコードでは、"0"~"9" = F 0~F9であることを思い出してください。符号つきゾーン形式の最後の桁だけは文字扱い できない(数字としては読めない)ことがわかります。

例)ゾーン形式(EBCDIC系)

<u>16進表現</u>		<u>文字表現</u>	
F0 F0 F1 F2 F3	=	123	符号なし、小数部なし
F0 F0 F1 F2 C3	=	12.3	符号つき、正、小数部あり
F0 F0 F1 F2 D3	=	-12.3	符号つき、負、小数部あり

2.22 パック形式(EBCDIC系)

パック形式(EBCDIC系)の記録形式

たとえば、パック形式7桁の数値は、つぎのような形式で記録されます。

0		1		2		3	
n	n	n	n	n	n	n	S

1バイトを上位4ビット+下位4ビットに分け、それぞれが10進1桁を表します(図のnの 部分、n=0~9)。ただし、最後の4ビット(図のsの部分)だけは例外で、数値の記録はし ません。ここには、符号なしの場合は詰めものがされ、符号つきの場合は正負の区別が記録され ます。ここを、符号部と呼ぶことにします。

パック形式でもやはり、桁数や小数点を表すものは何もありません。この項目をアクセスする プログラムで、それらを指定することになっています。F*TRAN+では「ピクチャ」でそれ らを指定します。

符号部(s)の値

下表のように、符号の有無、正負の区別によって符号部(s)のとる値が違います。

• • - • • • • - • -					
パック形式の符号部(Ś)の値(F R	CD	T(系)
	<u> </u>				エCホノ

	符号部(S)
符号なし	常に F
符号あり	CまたはFなら正
	Dなら負

例)パック形式(EBCDIC系)

<u>16進表現</u>		<u> </u>	
00 12 3F	=	123	符号なし、小数部なし
00 12 3C	=	12.3	符号つき、正、小数部あり
00 12 3D	=	-12.3	符号つき、負、小数部あり

2.23 ゾーン形式 (JIS8系)

ゾーン形式 (J I S 8 系) の記録形式

たとえば、ゾーン形式7桁の数値は、下図のような形式で記録されます。

0	1	2	3	4	5	6
3 n	3 n	3 n	3 n	3 n	3 n	s n

1バイトのうち、上位4ビットをゾーン部と呼びます。図の3とsの部分です(3は16進の 3そのものです)。そして、下位4ビットで10進1桁を表します(図のnの部分、n=0~9)。

符号つきの場合、正負の区別はふつう最後の1バイトのゾーン部に記録されます。 図の s の部 分です。便宜上、 s の部分を符号部と呼び、3の部分をゾーン部と呼び分けることにします。 桁数や小数点を表すものは何もありません。 この項目をアクセスするプログラムで、それらを

指定することになっています。F*TRAN+では「ピクチャ」でそれらを指定します。

符号部(s)の値

下表のように、符号の有無、正負の区別によって符号部(s)のとる値が違います。

ゾーン形式の符号部(s)の値(JIS8系)

	符号部(s)
符号なし	常に3
符号あり	0または3なら正、Bなら負
	(正確には0~7なら正、8~Fなら負)

ゾーン形式は、各バイトを"0"~"9"の文字として扱ってもよい記録形式になっています。 ただし、符号つきゾーン形式の最後の桁は例外です。JIS8コードでは、"0"~"9"=3 0~39であることを思い出してください。符号つきゾーン形式の最後の桁だけは文字扱いでき ない(負なら数字としては読めない)ことがわかります。

例)ゾーン形式(JIS8系)

<u>16進表現</u>		<u>文字表現</u>			
30 30 31 32 33	=	123	符号なし、	小数	な部なし
30 30 31 32 33	=	12.3	符号つき、	正、	小数部あり
30 30 31 32 B3	=	-12.3	符号つき、	負、	小数部あり

2.24 パック形式 (JIS8系)

パック形式 (JIS8系)の記録形式

たとえば、パック形式7桁の数値は、つぎのような形式で記録されます。

0		1		2		3	
n	n	n	n	n	n	n	S

1バイトを上位4ビット+下位4ビットに分け、それぞれが10進1桁を表します(図のnの 部分、n=0~9)。ただし、最後の4ビット(図のsの部分)だけは例外で、数値の記録はし ません。ここには、符号なしの場合は詰めものがされ、符号つきの場合は正負の区別が記録され ます。ここを、符号部と呼ぶことにします。

パック形式でもやはり、桁数や小数点を表すものは何もありません。この項目をアクセスする プログラムで、それらを指定することになっています。F*TRAN+では「ピクチャ」でそれ らを指定します。

符号部(s)の値

下表のように、符号の有無、正負の区別によって符号部(s)のとる値が違います。

パック形式の符号部(s)の値(JIS8系)

	符号部(s)
符号なし	0から3(正確には0~Fのどれでもよい)
符号あり	0または3なら正、Bなら負
	(正確には0~7なら正、8~Fなら負)

例)パック形式(JIS8系)

<u>16進表現</u>		<u> </u>	
00 12 30	=	123	符号なし、小数部なし
00 12 33	=	12.3	符号つき、正、小数部あり
00 12 3B	=	-12.3	符号つき、負、小数部あり

2.25 Windows COBOL のゾーン/パック形式

ゾーン形式(Windows COBOL)の記録形式 たとえば、ゾーン形式7桁の数値は、下図のような形式で記録されます。



数値は、基本的に"0"~"9"の文字が使われますが、符号つきの場合、正負の区別は最後の1バイトに数値の情報とともに記録されます。図のssの部分です。

桁数や小数点を表すものは何もありません。この項目をアクセスするプログラムで、それらを 指定することになっています。 F * T R A N + では「ピクチャ」でそれらを指定します。

符号つきバイト(ss)の値

以下の2つの表に示すように、正負の区別、数値、ベンダによって符号つき(ss)のとる値 が決まります。

数値	富士通	日立/メラント/Aa	N E C /Ai	Acucorp -Dcm
+ 0	@(40)	0(30)	{ (7B)	0(30)
+ 1	A(41)	1(31)	A(41)	1(31)
+ 2	B(42)	2 (3 2)	B(42)	2 (32)
+ 3	C (43)	3 (33)	C (43)	3 (33)
+ 4	D(44)	4 (34)	D(44)	4 (34)
+ 5	E(45)	5 (35)	E(45)	5 (35)
+ 6	F(46)	6 (36)	F(46)	6(36)
+ 7	G(47)	7 (37)	G(47)	7 (37)
+ 8	H(48)	8 (38)	H(48)	8 (38)
+ 9	I(49)	9 (39)	I(49)	9(39)

ゾーン形式の符号つきバイト(ss)の値(数値が正の場合)

Aa = Acucorp -Dca, Ai = Acucorp -Dci

<u>ゾーン形式の符号つきバイト(ss)の値(数値が負の場合)</u>

数値	富士通	日立/メラント/Aa	N E C /Ai	Acucorp -Dcm
- 0	P(50)	p(70)	}(7D)	}(7D)
- 1	Q(51)	q(71)	J (4 A)	J(4A)
- 2	R (52)	r (72)	K (4B)	K (4B)
- 3	S (53)	s (73)	L (4 C)	L(4C)
- 4	T (54)	t(74)	M(4D)	M(4D)
- 5	U (55)	u (75)	N(4E)	N(4E)
- 6	V(56)	v(76)	O(4F)	O(4F)
- 7	W(57)	w(77)	P(50)	P(50)
- 8	X (58)	x(78)	Q(51)	Q(51)
- 9	Y (59)	y (79)	R (52)	R (52)

Aa = Acucorp –Dca、Ai = Acucorp –Dci

パック形式(Windows COBOL)の記録形式
 Windows COBOLのパック形式は、EBCDIC系と同じです。
 2.22 パック形式(EBCDIC系)を参照してください。

2.26 BCD形式

BCD形式の記録形式

たとえば、BCD形式8桁の数値は、つぎのような形式で記録されます。



1バイトを上位4ビット+下位4ビットに分け、それぞれが10進1桁を表します(図のnの 部分、n=0~9)。

BCD形式はパック形式と似ていますが、符号情報を持たない形式です。

BCD形式でもやはり、桁数や小数点を表すものは何もありません。この項目をアクセスする プログラムで、それらを指定することになっています。F*TRAN+では「ピクチャ」でそれ らを指定します。

例) B C D 形式

<u>16進表現</u>		<u>文字表現</u>	
00 01 23	=	123	小数部なし
00 01 23	=	12.3	小数部あり

2.27 2進形式

2進形式の記録形式

たとえば、2進形式9桁の数値は、下図のような形式で記録されます。



2進形式は、少ないバイト数で大きな数値を表現可能な最も格納効率のよい形式です。そのため、格納された数値を確認するには専門的な知識が必要となり、判断が難しいという側面があります。一般には、アプリケーションの内部で処理されることが多い形式です。

F*TRAN+でサポートする2進形式は、

1~8バイトの範囲で表現できる整数 / 小数(マイナス値を含む)

になり、COBOLのCOMP-5やVisual Baisc、C/C++などの内部変数 の形式がこの対象になります。

2進形式は、桁数や小数点を表すものは何もありません。この項目をアクセスするプログラム で、それらを指定することになっています。F*TRAN+では「2進ピクチャ」でそれらを指 定します。

エンディアン(格納順)

2進形式の場合、気をつけなければならないのはエンディアン(格納順)がある事です。エン ディアンの違いを図にすると、つぎのようになります。



一般には、ホスト側がビッグ(正順)で、Win側がリトル(逆順)です。

2.28 パック/BCD/2 進形式の桁数とバイト数の換算

パック形式の桁数とバイト数の換算

パック形式の数値の桁数(整数部桁数+小数部桁数)とバイト数の換算は、下表を参考にして ください。

パック形式の桁数とバイト数の換算表

桁数	バイト数
1	1
2 ~ 3	2
4 ~ 5	3
6 ~ 7	4
8 ~ 9	5
10~11	6
12~13	7
14~15	8
16~17	9
18	10

BCD形式の桁数とバイト数の換算

BCD形式の数値の桁数(整数部桁数+小数部桁数)とバイト数の換算は、下表を参考にして ください。

<u>BCD形式の桁数とバイト数の換算表</u>

桁数	バイト数
1 ~ 2	1
3 ~ 4	2
5 ~ 6	3
7~8	4
9~10	5
1 1 ~ 1 2	6
13~14	7
15~16	8
17~18	9

2進形式で表現可能な数値の範囲

2進形式で表現可能な数値の範囲は、つぎのとおりです。

<u>符号なし2進形式の場合</u>

バイト数	値の範囲	桁数
1	0 ~ 255	3
2	0~65,535	5
3	0~16,777,215	8
4	0~4,294,967,295	1 0
5	0~1,099,511,627,775	13
6	0~281,474,976,710,655	15
7	0~72,057,594,037,927,935	17
8	0~18,446,744,073,709,551,615	18*

<u>符号つき2進形式の場合</u>

バイト数	値の範囲	桁数
1	-128 ~ 127	3
2	-32,768 ~ 32,767	5
3	-8,388,608 ~ 8,388,607	7
4	-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647	10
5	-549,755,813,888 ~ 549,755,813,887	12
6	-140,737,488,355,328 ~ 140,737,488,355,327	15
7	-36,028,797,018,963,968 ~ 36,028,797,018,963,967	17
8	-9,223,372,036,854,775,808 ~ 9,223,372,036,854,775,807	18*

*)18桁ではオーバーフローするが、COBOL規格/F*TRAN+の上限です。

2.29 **ホ**スト Win テキストファイル変換のしくみ

ホスト Winテキストファイル変換は、文字データだけからなるホストファイルをWind owsのテキストファイルに変換します。おもに、ソースプログラムの変換に使用します。ホス トが汎用機・オフコンの場合、ホストファイル側に漢字があるときはKI/KOがついているこ とが前提となり、KI/KOなしのファイルを項目別に変換するときは、ホスト Winデータ ファイル変換を使います。

解説

テキストファイル変換の考え方

まず、ホストファイルの1レコードを保持するiバッファと、Windowsファイルの1レ コードを保持するwバッファを考えます。iバッファ、wバッファは十分な大きさ(約32Kバ イト)があると考えてください。

下図のようなサイクルでファイル変換が行われます。



レコード編集

ホストファイルの1レコードがWindowsファイルの1行に対応し、レコードごとに、

ホストがUnixの場合、行末のLFを取る ホストがWindowsの場合、行末のCR、LFを取る ホストがUnix、Windowsの場合、 TABをタブ位置の前までのスペースに変換する(オプション指定:タブ拡張) コード変換する(ホストが汎用機・オフコンの場合、 オプション指定:ANKのみ/ANK・漢字(KI/KO付)混在) レコード末尾の空白類を削除する(行末圧縮) 空白類:スペース(20H、8140H)、NUL(00H) TAB(09H)CR(0DH)LF(0AH) 途中のNULを除去する(NULサプレス) 2個以上連続するスペースをTABに置き替える(オプション指定:タブ圧縮) 最後に、改行コード(CR/LF=0D0AH)を付加する

の順で加工・編集されます。

実際には、コード変換が最初に行われ、その後残りの作業が行われるので、ANK変換表を修 正して制御コードや未定義コードなどを取り除くことは可能です(それらがNULに変換される ようにします)。



このように、ホスト Winテキストファイル変換では基本的には圧縮がかかるので、レコード長はふぞろい(可変長)になります。固定長のテキストファイルが必要なときは、ホスト Winデータファイル変換を使ってください。

ここではホストが汎用機・オフコンの例をあげていますが、ホストがUnix、Window sの場合は、ホストファイルが可変長となり、Unixの場合はLF、Windowsの場合は CR LFまでを1レコードとしたKI/KOのないデータが対象になります。

2.30 txh Winデータファイル変換のしくみ

ホスト Winデータファイル変換は、ホストのデータファイル(おもにCOBOLデータ) をWindowsのデータファイル(テキスト形式)に変換します。項目別に分けて変換できま す。Windowsファイルは常に改行コード(CR/LF=0D0AH)つきのテキストファ イルになります。プリント形式への変換とデリミタ形式への変換の、2つの変換方法があります。

解説

データファイル変換の考え方

まず、ホストファイルの1レコードを保持するiバッファと、Windowsファイルの1レ コードを保持するwバッファを考えます。iバッファ、wバッファは十分な大きさ(約32Kバ イト)があると考えてください。

下図のようなサイクルでファイル変換が行われます。



レコード編集の考え方

F*TRAN+は、マップ設定オプションの指定を頭から順番に見ていき、それを中間コード に翻訳して「マップバッファ」と呼ぶ領域に収めます。1件ずつのレコード編集は、この中間コ ードを見ながら行われるので、高速なレコード編集ができるようになっています。

右図のように、iバッファの上には注目点iがあり、wバッファの上には注目点wがあると考 えます。レコード編集とは、1項目ずつコード変換などを行い、指定に応じて注目点を更新して いく作業なのです。



ホスト Winデータファイル変換は、レコード編集の最初の作業として、注目点iと注目点 wを、それぞれiバッファ、wバッファの先頭に位置づけます。そして、wバッファをスペース でクリアします。

すべての項目の変換がおわると、wバッファの末尾(最終項目)に改行コード(CR/LF= 0D0AH)を付加します。そして、デリミタ形式への変換で圧縮の指定があれば、さらに不要 スペースの圧縮を行います。

2.31 ホスト Win ランダ ムファイル 変換のしくみ

ホスト Winランダムファイル変換は、ホストのデータファイル(おもにCOBOLのデー タ)をWindowsのランダムファイル(固定長ファイル)に変換します。おもにWindo ws COBOLの順ファイルやBASICのランダムファイルに変換するのに使います。項目 別変換ができます。作成されるWindowsファイルは固定長で、改行コードもデリミタもな いファイルになります。ただし、改行コードの挿入はできます。

そのほかバイナリ変換もできます。アップロードデータを作成するのにも便利で、オンライン ファイル転送と組み合わせて利用できます。

解説

ランダムファイル変換の考え方

まず、ホストファイルの1レコードを保持するiバッファと、Windowsファイルの1レ コードを保持するwバッファを考えます。iバッファ、wバッファは十分な大きさ(約32Kバ イト)があると考えてください。

下図のようなサイクルでファイル変換が行われます。



レコード編集の考え方

F*TRAN+は、マップ設定オプションの指定を頭から順番に見ていき、それを中間コード に翻訳して「マップバッファ」と呼ぶ領域に収めます。

1件ずつのレコード編集は、この中間コードを見ながら行われるので、高速なレコード編集が できるようになっています。

右図のように、iバッファの上には注目点iがあり、wバッファの上には注目点wがあると考 えます。レコード編集とは、1項目ずつコード変換などを行い、指定に応じて注目点を更新して いく作業なのです。



ホスト Winランダムファイル変換は、レコード編集の最初に注目点iと注目点wをそれぞれiバッファ、wバッファの先頭に位置づけます。そして、wバッファをNUL(00H)でクリアします。

すべての項目の変換がおわると、それ以上の加工はせずに、Windowsファイルに出力します。

レコード長の参照関係

ホスト Winランダムファイル変換は、レコード長の参照関係が少し複雑です。それを、下 図に示します。



2.32 Win ホストテキストファイル変換のしくみ

Win ホストテキストファイル変換は、ソースプログラムのようなWindowsファイル をホストファイルに変換します。Windowsファイルはテキストファイル(改行コードつき) でなければなりません。改行コードでレコードのおわりを検出するので、可変長でかまいません。 ホストが汎用機・オフコンの場合は、ホストファイルは固定長になり、ホストがUnix、Wi ndowsの場合は、ホストファイルは可変長になります。

解説

テキストファイル変換の考え方

まず、Windowsファイルの1レコードを保持するwバッファと、ホストファイルの1レ コードを保持するiバッファを考えます。wバッファ、iバッファは十分な大きさ(約32Kバ イト)があると考えてください。

下図のようなサイクルでファイル変換が行われます。



レコード編集

Windowsファイルの1行(CR/LFまで)がホストファイルの1レコードに対応し、 レコードごとに、

第2章 コマンド型の実行

行 末 の C R 、 L F を 取る

TABをタブ位置の前までのスペースに変換する(オプション指定:タブ拡張)

コード変換する(ホストが汎用機・オフコンの場合、

オプション指定: A N K のみ / A N K ・漢字 (KI / KO 付) 混在) ホストがUnix、Windowsの場合、コード末尾の空白類を削除する(行末圧縮) 空白類: スペース(20H、8140H)、NUL(00H)

TAB(09H) CR(0DH) LF(0AH)

NULを除去する(NULサプレス)

ホストがUnix、Windowsの場合、

2個以上連続するスペースをTABに置き替える(オプション指定:タブ圧縮) ホストが汎用機・オフコンの場合、レコード末尾にスペースを詰める(行末パディング) ホストがUnixの場合、レコード末尾にLFを付ける ホストがWindowsの場合、レコード末尾にCR、LFを付ける

の順で加工・編集されます。

実際には、コード変換が最初に行われ、その後残りの作業が行われるので、ANK変換表を修 正して制御文字や未定義文字などを取り除くことは可能です(それらがNULに変換されるよう にします)。



このように、Win ホストテキストファイル変換では基本的には可変長のテキストファイル を扱いますが、単純な固定長テキストファイルの変換に使うこともできます(Win ホストデ ータファイル変換を使うほうが適切ですが)。

ここではホストが汎用機・オフコンの例をあげていますが、ホストがUnix、Window sの場合は、ホストファイルが可変長となり、Unixの場合はLF、Windowsの場合は CR LFを付加したKI/KOのないデータになります。

2.33 Win ホストデータファイル変換のしくみ

Win ホストデータファイル変換は、Windowsのデータファイルをホストファイルに 変換します。Windowsファイルはプリント形式のファイルかデリミタ形式のファイルでな ければいけません。ANKデータだけの単純な変換、項目別の変換などが行えます。なお、ホス トが汎用機・オフコンの場合、ホストファイルは必ず固定長・固定欄になります。

解説

データファイル変換の考え方

まず、Windowsファイルの1レコードを保持するwバッファと、ホストファイルの1レ コードを保持するiバッファを考えます。wバッファ、iバッファは十分な大きさ(約32Kバ イト)があると考えてください。

下図のようなサイクルでファイル変換が行われます。



レコード編集の考え方

F*TRAN+は、マップ設定オプションの指定を頭から順番に見ていき、それを中間コード に翻訳して「マップバッファ」と呼ぶ領域に収めます。1件ずつのレコード編集は、この中間コ ードを見ながら行われるので、高速なレコード編集ができるようになっています。

まず、プリント形式からの変換を考えます。右図のように、wバッファの上には注目点wがあ り、iバッファの上には注目点iがあると考えます。レコード編集とは、1項目ずつコード変換 などを行い、指定に応じて注目点を更新していく作業なのです。



Win ホストデータファイル変換は、レコード編集の最初の作業として、注目点wと注目点 iを、それぞれwバッファ、iバッファの先頭に位置づけます。そして、iバッファをスペース でクリアします。すべての項目の変換がおわると、iバッファの内容をホストファイルに書き込 みます。

デリミタ形式からの変換の場合は、wバッファとiバッファの間に「項目バッファ」があると 考えるとわかりやすくなります。



各項目の変換のたびに項目を項目バッファに取り込み、うしろはスペースでクリアします。そして、それに対して変換をかけます。注目点wは、あまり重要な働きはしません。一方、注目点 iのほうは、1項目ずつ変換するたびに更新していきます。

2.34 Win ホストランダ ムファイル 変換のしくみ

Win ホストランダムファイル変換は、Windowsのランダムファイル(固定長ファイル)をホストファイルに変換します。固定長レコードの単純な変換、固定長・固定欄形式のファ イルの項目別変換などが行えます。バイナリ変換もできます。

固定長・固定欄なら、改行コードのついているテキストファイルも扱えますが、その場合には Win ホストデータファイル変換のプリント形式からの変換機能を使ったほうがずっと簡単 です。

解説

ランダムファイル変換の考え方

まず、Windowsファイルの1レコードを保持するwバッファと、ホストファイルの1レ コードを保持するiバッファを考えます。wバッファ、iバッファは十分な大きさ(約32Kバ イト)があると考えてください。

下図のようなサイクルでファイル変換が行われます。



レコード編集の考え方

F*TRAN+は、マップ設定オプションの指定を頭から順番に見ていき、それを中間コード に翻訳して「マップバッファ」と呼ぶ領域に収めます。

1件ずつのレコード編集は、この中間コードを見ながら行われるので、高速なレコード編集が できるようになっています。

右図のように、wバッファの上には注目点wがあり、iバッファの上には注目点iがあると考 えます。レコード編集とは、1項目ずつコード変換などを行い、指定に応じて注目点を更新して いく作業なのです。



Win ホストランダムファイル変換は、レコード編集の最初の作業として、注目点wと注目 点iを、それぞれwバッファ、iバッファの先頭に位置づけます。そして、iバッファをNUL (00H)でクリアします。

すべての項目を変換すると、それ以上は加工しないでホストファイルに出力します。

レコード長の参照関係

Win ホストランダムファイル変換は、レコード長の参照関係が少し複雑です。それを、以下に示します。



第3章



第3章 操作の基礎

3.1 ファイルの指定

指定形式

ファイルはつぎの形式で指定します。

[d:][パス名指定][基本ファイル名[.拡張子]]

d:はドライブ名

ドライブ名(d:) ドライブ名(d:)には、

A: ~ Z: 実ドライブ名を指定します。

また、F*TRAN+内でのみ通用するドライブ名として、

- @: カレントドライブのカレントディレクトリを表す
- ?: インストールディレクトリを表す

も指定できます。

ドライブ名は省略可能です。省略するとカレントドライブを指定したものとみなされます。

パス名指定(¥ディレクトリ名¥サブディレクトリ名¥・・・)

パス名指定(¥やディレクトリ名を使う指定)ができます。指定したディレクトリ配下のファ イルを扱うことができます。 基本ファイル名と拡張子

大部分のコマンドでは、入力側のファイル名を指定する場合、基本ファイル名と拡張子にワイ ルドカード文字(*、?)が使用できます。

出力側のファイル名を指定する場合、基本ファイル名と拡張子にはふつうの基本ファイル名や 拡張子以外に、*も指定できます。*は「入力側の基本ファイル名や拡張子を引き継げ」という 意味です。ふつうは、

d:*.dat のように、拡張子を指定します。

こうすると、指定ドライブに

元の基本ファイル名.拡張子というファイルができます。

なお、できる限り適切な拡張子をつけるように心がけてください。

拡張子の省略値

ファイル名の指定ができるところでも、拡張子の省略値が、

. С С Т コード変換表ファイルの、省略時の拡張子

. P パラメータファイルの、省略時の拡張子

のように決まっているものもあります。

3.2 式の指定

F*TRAN+では、オプションデータなどのパラメータを10進数で指定できるところで、 ほとんどの場合、10進数の代わりに値を「式」で指定することができます。計算を省いたり、 レコード長のようなその都度変わるデータに対しても同じ指定ですむようにしたり、相対的な指 定を可能にしたりするためです。

式とは

式といっても、複雑な数式のようなものを指定できるわけではありません。10進数を、四則 演算子とカッコで組み合わせられるだけの単純なものです。一部のオプションではさらに特殊変 数を使うこともできます。

四則演算子

四則演算子はつぎの5つです。

+			加算
-			減算
x(小文字の x)	または	*	乗算
% または //			除算
¥¥			剰余(割算の余り)

演算子間の優先順位はありません。×を+-より先に計算したりしないということです。カッコを使って計算の順番を明示してください。カッコは何重にも入れ子にできます。

特殊変数

特殊変数にはつぎの6つがあります。

\$	最大値を表す	(ふつうはレコード長を意味する)
. (ピリオド)	現在値を表す	(ふつうはレコードの現在の桁位置を意味する)
*	残りを表す	(ふつうはレコードの残りの長さを意味する)
~SysRecNum	レコード番号	(ふつうはマルチレコードの指定時に使用する)
~SysReturn	リターン値	(ふつうはマルチレコードの指定時に使用する)
~SysBreak	ブレーク値	(ふつうはマルチレコードの指定時に使用する)
式の例を示します。つぎに示すのはいずれも正しい式です。

7		\$
(15)	15	\$ × 4
4 + (6 + 8)	. + 2	\$ + 2
256x26	*	\$ % 3
1 0 2 4 x 4	* - 2	\$ x ((\$ % 8 0) + 1)
* * 3	*//3	* ¥ ¥ 3
~SysRecNum	~SysRecNum¥¥3	

注意 ---- 式に空白を入れてはならない

演算子やカッコなどの前後に空白を入れてはいけません。空白はパラメータ類の区切りを意味 するからです。

3.3 ピクチャの指定

ピクチャとは

ピクチャとは、COBOLのゾーン / パック形式や、BCD形式の数値項目を変換するとき、

符号の有無 数値の桁数 前ゼロの有無 小数部の有無と桁数

を指定するためのものです。これらは、データ自体には記録されていないので、外からこれらの情報を与える必要があります。

ピクチャの指定形式

ピクチャはつぎの形式で指定します。



COBOLをまねた

F*TRAN+のピクチャは、COBOLのピクチャ指定をまねた上で、大幅に簡略化したものです。たとえば、

- 1 2 . 3

という数字があって、5バイトのゾーン形式の項目に記録してあるとします。 COBOLのピクチャなら

のように指定します。

F*TRAN+のピクチャではこれを、 s4.1 と指定します。

104

ピクチャの指定例を示します。以下の図の左側がゾーン形式の項目、右側が文字形式数値、そ して矢印の上がピクチャです。

例1)符号なし整数



例2)符号つきの、負の整数

- s 5 0 0 1 2 3 * ← - 123 *) 数字の上の"-"は、負の符号を表す

例3)符号つきの、正の整数

例4)符号なし整数、前ゼロをつけたままにする

例5)符号つき整数、前ゼロをつけたままにする

例6)小数部(小数点)がある/その1

例7)小数部(小数点)がある/その2

例8)符号も小数部(小数点)もあり、前ゼロもつけたままにする

第3章 操作の基礎

3.4 2進ピクチャの指定

2進ピクチャとは

2 進ピクチャとは、COBOL、Visual Basic、C/C++などの2 進数値項目 を変換するとき、

バイト数 格納順 符号の有無 数値の桁数 前ゼロの有無 小数部の有無と桁数

を指定するためのものです。これらは、データ自体には記録されていないので、外からこれら の情報を与える必要があります。

2進ピクチャの指定形式

2進ピクチャはつぎのどちらかの形式で指定します。



形式2: <u>i < w > [n | x]</u>[<u>{u | s}[0] < m > [. < n >]]</u> ([]] は省略可の意味)
2進キャスト ピクチャ

0 前ゼロ付加
<m> 整数部桁数、1~18
<n> 小数部桁数、1~18、省略すると0
<m> + < n > が1~18になること
<w>に応じて、<m> + < n > の省略値が定まる 106 各言語の型と2進ピクチャの対応

言語	<u>型</u>	2 進ピクチャ
COBOL	BINARY	i1nu~i8nu
(例)	SつきBINARY	i1ns~i8ns
	СОМР - 5	i1xu~i8xu
	S つき C O M P - 5	i 1 x s ~ i 8 x s
Visual	Byte	i1u
Basic	Integer	i 2 s
	Long	i4s
	Currency	i8s14.4
C / C + +	signed char	i1s
	unsigned char	i1u
	signed short	i 2 s
	unsigned short	i 2 u
	signed int	i4s
	unsigned int	i4u
	signed long	i4s
	unsigned long	i4u
	signedint64	i 8 s
	unsignedint64	i 8 u

第3章 操作の基礎

3.5 日付データの指定

日付マスク

F*TRAN+で使用できる日付データの編集指定はつぎのとおりです。

日付マスク	データ例	日付マスク	データ例	
	1998/12/31		1998/12	
уууу - mm - d d	1998-12-31	yyyy-mm	1998-12	
*1	1998.12.31	*1	1998.12	
	98/12/31		98/12	
y	98-12-31	yy-mm	98-12	
	98.12.31		98.12	
	H10/12/31		H10/12	
nyy-mm-dd	H10-12-31	nyy-mm	H10-12	
	H10.12.31		H10.12	
y y y y mm d d	19981231	y	199812	
y y m m d d	981231	y y m m	9812	
	12/31/1998		12/1998	
mm - dd - yyyy	12-31-1998	mm - yyyy	12-1998	
*1	12.31.1998	*1	12.1998	n = 年号
	12/31/98		12/98	M(明治)1868-1911
mm - d d - y y	12-31-98	mm - y y	12-98	T(大正)1912-1925
	12.31.98		12.98	S(昭和)1926-1988
mmd d y y y y	12311998	mm y y y y	121998	H(平成)1989-
mmddyy	123198	mmy y	1298	
	31/12/1998	уууу *1	1998	g = 元号
dd - mm - yyyy	31-12-1998	уу	98	1(明治)1868-1911
*1	31.12.1998	nyy	H10	2(大正)1912-1925
	31/12/98	gyymmdd	4101231	3(昭和)1926-1988
d d - mm - y y	31-12-98	gyymm	41012	4(平成)1989-
	31.12.98	gуу	410	
d d m m y y y y	31121998	注意 と	出力時、和曆	暦の年号 / 元号の最終年
d d mm y y	311298		は、次年号ノ	/元号の元年(01)になる

実際には、日付マスク分の長さが編集対象になります。たとえば"yyyymmdd"と指定 すれば、8バイトのデータの編集を行います。

入力側に"yy-mm-dd"のような日付区切りのある指定をした場合は、8バイトの内容 が"98 12,31"であっても、"98-12-31"と同等のデータとして扱います。つ まり、数字(0~9)以外の文字を日付区切り記号とみなします。

ウインドウ方式とシフト方式

日付データの年の2桁(yy)と4桁(yyyy)の交換を行う場合、F*TRAN+ではウ インドウ方式とシフト方式の概念を採用しています。

ウインドウ方式とは、19××年(基準年)から100年として扱う方式です。ウインドウ方 式で "30"と指定すれば、実際のデータはつぎのようになります。

	1930年		2000年		2030年
データ	30	9 9	0 0	29	

シフト方式とは、西暦からnn引いた値の下2桁のデータを扱う方式です。一般には、nn= 25(昭和通年方式) nn=88(平成通年方式) nn=28(暦一巡方式)などがあります。 シフト方式で"30"と指定すれば、実際のデータはつぎのようになります。

	1930年		2000年		2030年
データ	0 0	6 9	70	99	

入力側に *1 の日付マスク指定(日付区切りがある4桁の年指定)をし、実際の日付データの 年が2桁以下であった場合は、無条件にウインドウ方式による拡張を行います。

日付区切り記号

日付データを出力する際に指定できる日付区切り記号はつぎのとおりです。

日付区切り記号		デ		-	-		タ		侈	利
/(スラッシュ)	1	9	9	8	/	1	2	/	3	1
- (ハイフン)	1	9	9	8	-	1	2	-	3	1
.(ピリオド)	1	9	9	8		1	2		3	1

マップ設定オプション指定

日付データを変換する手順はつぎのとおりです。

年設定(日付データ2桁の年の扱い、ウインドウ方式またはシフト方式の指定) 日付区切り設定(日付データ出力時の日付区切り記号の指定) 日付項目変換(日付データ変換時の日付マスク指定)

、 を省略すると、年設定はウインドウ方式で1930年より(入力、出力とも)"/"で 日付区切りとなります。

第4章



第4章 操 作 =

4.1 F*TRAN+ 起動と終了

F*TRAN+の起動

F*TRAN+をウインドウ設定方式で使う場合の起動方法について説明します。

通常、スタートメニューより、プログラム(<u>P</u>) F - T R A N + をクリックします。 起動を行うと、つぎのメインウインドウが開きます。 < ホストが汎用機・オフコンの例 >

\checkmark	7
// F*TRAN+ ファイル(F) ツール(T)▼変換設定(S) 変換時口が表示(K) ヘルフ°(H)	×
	-
「ホスト → Winファイル変換」 Win → ホストファイル変換	1
ホストファイル名の: C¥FTRANP¥*.* 参照 10	
▼ Winファイル名(W): C:¥FTRANP¥*.get 参照(Z)	
【Win変換方法】	
● テキストファイル ② ● データファイル ② ● ランダムファイル 图 マップ設定 ②…	
レコード長(山): 256 号	
「 問合わせ・確認(Q)	
Winオプション	
出力形式(@): プリント	
コード 変換表 ファイル:F-TRAN.CCT (標準設定(汎用機・オフコン))	3
ANK コート [*] : EBCDIC (协効ナ) 漢字変換方式: JEF WinCOBOL: 富士通]
ヘルフ を表示するには [F1]を押してください。 NUM	
/ / / <切り替えボタン	' >

タイトルバー ------ ファイルメニューで開いたファイル名が表示されます。

- メニューバー ------ 目的のメニューを選択して、機能を実行します。
- ツールバー -----・の中で、よく使われる機能がボタン化されています。
- タブコントロール ---- 2通りのメイン処理部の切り替えを行います。
- メイン処理部 ------ の切り替えによって、メイン処理部の内容が変わります。
- ステータスバー ----- 操作のガイダンスやメッセージが表示されます。
- 設定表示バー ------ おもにコード変換に関する現在の設定が表示されています。

"設定表示バー"は、メインウインドウおよび実行ウインドウ(変換実行時のウインドウ)の 下方にあり、コード変換に関する現在の設定等をいつでも確認できるようになっています。表に でていない情報は、切り替えボタンをクリックして見ることができます。内容はつぎのとおりで す。

コード変換表ファイル : F-TRAN.CCT (標準設定) (「ホスト選択」により選択されたコード変換表ファイル名とコメント) インストールディレクトリ : C:¥FTRANP (F*TRAN+のインストールディレクトリ) ANKコード : EBCDIC (カタカナ) <ホストが汎用機・オフコンの場合> (「変換設定」により設定されたホストのANKコード) 漢字変換方式 : JEF (「変換設定」により設定された漢字変換方式) WinCOBOL : 富士通 (「変換設定」により設定されたWindows COBOLのベンダ名) ホストCOBOL : 富士通 <ホストがUnix、Windowsの場合> (「変換設定」により設定されたホストCOBOLのベンダ名)

F*TRAN+の終了

F*TRAN+をウインドウ設定方式で使う場合の終了の方法について説明します。

ふつう、 メニューバーのファイル(<u>F</u>) 終了(<u>X</u>)を実行します。 または の x をクリックしても終了します。

コード変換表の保存

コード変換表に何らかの修正がかかった状態で、F*TRAN+を終了しようとすると、修正 のかかったコード変換表を保存するか否かをたずねるメッセージウインドウが開きます。



はい(<u>Y</u>)をクリックすると、修正のかかったコード変換表を保存します。 いいえ(<u>N</u>)をクリックすると、修正のかかったコード変換表を保存しません。 キャンセルをクリックすると、F*TRAN+の終了をキャンセルします。 第4章 操 作 =

4.2 **ホ**k Win ファイル変換のファイル指定と共通オプション

ここでは、ホスト Winファイル変換の共通事項を説明します。

ホストが汎用機・オフコンの場合

k F*TRAN+	_ 🗆 ×
ファイル(E) ツール(T) 変換設定(S) 変換時ロゲ表示(K) ヘルプ(H)	1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 - 1997 -
「ホスト → Winファイル変換」 Win → ホストファイル変換	
ホストファイル名の: ○¥FTRANP¥** 参照① ホスト	Win
Winファイル名(W): U:#FTRANP#*.get 参照(Z) 【Win変換方法】	
 C テキストファイル⊗ C データファイル(D) C ランダムファイル(R) マップ診 	定(P)
_ ホストオプション 家換結果	果表示(\/)
レコード長(1): 1256 号 同合わせ	±・確認(@)
Winオプション	
出力形式(@): プリント	ŧ(<u>G</u>)
コード 変換表 ファイル: F-TRAN.CCT (標準設定(汎用機・オフコン))	
ANK コード: EBCDIC (加加力) 漢字変換方式: JEF WinCOBOL: 富士通	
ヘルフ°を表示するには [F1] を押してください。	NUM

ホスト Winのタブをクリックし、メイン処理部をホスト Winファイル変換にします。 変換元のホストファイル名を指定します。

変換元のホストファイル名を指定する参照ウインドウを開くボタンです。

変換先のWindowsファイル名を指定します。

変換先のWindowsファイル名を指定する参照ウインドウを開くボタンです。

変換方法を選択するラジオボタンです。

ホストファイルのオプション設定です。の選択によって、オプションの内容が変わります。 Winファイルのオプション設定です。の選択によって、オプションの内容が変わります。 マップ設定(レコードレイアウト設定)をするオプションボタンです。

変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換実行時の問い合わせ・確認ウインドウ表示の選択をするチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。

ホストがUnix、Windowsの場合



ホスト Winのタブをクリックし、メイン処理部をホスト Winファイル変換にします。 変換元のホストファイル名を指定します。

変換元のホストファイル名を指定する参照ウインドウを開くボタンです。

変換先のWindowsファイル名を指定します。

変換先のWindowsファイル名を指定する参照ウインドウを開くボタンです。

ホストファイル(入力ファイル)の形式を選択するラジオボタンです。

ホストファイルのオプション設定です。

Winファイルの変換方法を選択するラジオボタンです。変換の基準となる項目です。

Winファイルのオプション設定です。

マップ設定(レコードレイアウト設定)をするオプションボタンです。

変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換実行時の問い合わせ・確認ウインドウ表示の選択をするチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。 ホストファイル指定

[d:][パス名指定]基本ファイル名[.拡張子]

d:はドライブ名

入力側のホストファイルを指定します。

ドライブ名は、A:~Z:、@:、?:のどれかで指定します。ドライブ名を指定すると、そのドライブを検索します。

ドライブ名は省略可能です。ドライブ名を省略すると、カレントドライブを検索します。

パス名指定(¥ディレクトリ名¥サブディレクトリ名¥・・・)ができます。指定したディレクトリ配下のファイルを検索します。パス名指定を省略すると、カレントディレクトリを検索します。

基本ファイル名と拡張子には、ワイルドカード文字(*と?)を使うことができます。ワイル ドカード文字を使うと、一致するファイルをすべて検索し変換の対象にします。

まとめると、あるディレクトリのファイルをすべて変換したいなら、

C:*.* のように指定し、

拡張子が.DATのファイルをすべて変換したいなら、

C:*.DAT のような指定になります。

ホストファイル参照ウインドウ

ホストファイルの参照ボタンをクリックすると、つぎのウインドウが開きます。

参照				? ×
ファイルの場所①:	🔁 Ftranp		- 🗈 🗹 🖻	5-5- 5-5- 5-5-
Ole Vbsample Vcsample Zengin DeIsL1.isu	F.kkt F.cnt F.cnt F.err F.exe F.gid	 Normalized Fp.sys Peglog.txt Fpmc.pdf Fpmd.pdf Fpmk.pdf 	E Fpmp.pdf E Fpplog.txt ■ Ftknj ■ F-tran.cct ■ H.cct	I B I B I B I B I
Ima F.cct ▼ Trad IL-52 (N)·	✓ Fp.hlp	Fpmm.pdf		
ファイルの種類(工):	」 すべてのファイル(*.*)		▼	が <u>違い(」</u> シセル が選択(<u>C</u>)

変換元のファイルを直接指定する場合は、ファイル名を選択して、ファイル選択(<u>F</u>)ボタン をクリックします。

変換元の場所(どこのフォルダのファイルを変換の対象にするか)を指定する場合は、フォル ダ選択(<u>C</u>)ボタンをクリックします。ファイル名にフォルダまでのフルパスが入力され、確定 します。 第4章 操 作 ———

Windowsファイル指定

[d:][パス名指定]基本ファイル名[.拡張子]

d:はドライブ名

出力側のWindowsファイルを指定します。

ドライブ名はA:~Z:、@:、?:のどれかで指定します。ドライブ名を指定すると、その ドライブにファイルを作ります。

ドライブ名は省略可能です。ドライブ名を省略すると、カレントドライブにファイルを作りま す。

パス名指定(¥ディレクトリ名¥サブディレクトリ名¥・・・)ができます。指定したディレクトリ配下にファイルを作ります。パス名指定を省略すると、カレントディレクトリにファイル を作ります。

基本ファイル名の部分には、ふつうの基本ファイル名、または*を指定します。*を指定するとホストファイルの基本ファイル名がWindowsファイルの基本ファイル名になります。

拡張子を省略すると、拡張子なしのファイルになります。しかし、拡張子をつけたほうがファ イルの管理が容易になるので、なるべく適当な拡張子を指定してください。拡張子に*を指定す るとホストファイルの拡張子がWindowsファイルの拡張子になります。

以上がディスクファイルの指定方法です。まとめると、基本ファイル名を引き継ぐときは

C:*.DAT のような指定になり、

ファイル名をつけ替えるときは

C:NEWNAME.DAT のような指定になります。

Windowsファイル参照ウインドウ

Windowsファイルの参照ボタンをクリックすると、つぎのウインドウが開きます。

知識				?
ファイルの場所仰	🔄 Ftranp		- 🗈 🗹 🖻	
🚞 Ole	🔛 F.kkt	🔊 Fp.sys	🔂 Fpmp.pdf)
🚞 Vbsample	폐 Fp.cnt	🖺 Fpglog.txt	🗒 Fpplog.txt	9
🚞 Vosample	🔄 Fp.err	🔂 Fpmc.pdf	🗃 Ft.knj	2
🚞 Zengin	🙀 Fp.exe	🔂 Fpmd.pdf	📓 F-tran.cct	2
🖬 DeIsL1.isu	🔊 Fp.gid	🔂 Fpmk.pdf	📾 H.cct	2
🖬 F.cct	Fp.hlp	🔂 Fpmm.pdf	🗐 H.kkt	2
•				Þ
ファイル名(N):				璧択(<u>F</u>)
ファイルの種類(工):	すべてのファイル(*.*)		▼ キャン	セル
			フォルタジ	選択(C)

変換先のファイルを直接指定する場合は、ファイル名を選択して、ファイル選択(<u>F</u>)ボタン をクリックします。

変換先の場所(どこのフォルダに変換後のファイルを作成するか)を指定する場合は、フォル ダ選択(<u>C</u>)ボタンをクリックします。ファイル名にフォルダまでのフルパスが入力され、確定 します。 第4章 操 作 ———

その他の指定

変換結果表示指定

変換後に、変換先のWindowsファイルの中身を表示ウインドウに出力するかどうかを指定します。出力する場合は、変換結果表示のチェックボックスをONにします。

出力の形式は、変換方法によって異なりますので、それぞれの変換方法の節を参照してください。

問合わせ・確認指定

1ファイルごとに処理を問い合わせるか否かを指定します。 問合わせ・確認のチェックボックスを、

ONにすると、変換するか否かを問い合わせる指定 OFFにすると、ファイル名の確認なしで自動変換する指定 となります。

問合わせ・確認指定がONであれば、ファイル名を確認しながら変換できます。

F * T R A N + は、1ファイルごとに変換を実行するか問い合わせてきます。

つぎのどれかで応答してください。この機能は、比較的小さいファイルが多数あって、そのう ちいくつかを選んで変換したいときなどに、便利です。

<u>1ファイルの変換</u>

F*TRAN+		K
?	C:¥FTRANP¥Planet → C:¥FTRANP¥Planet.get 変換しますか?	
	(ボバダ) いいえ(N)	

はい(<u>Y</u>) いいえ(<u>N</u>)

表示中のファイルを変換する 表示中のファイルは変換しない

2ファイル以上の変換

F*TRAN+			×
C:¥F	TRANP¥PLANET \rightarrow	C:¥FTRANP¥PLAN	ET.get
	変換しま	ますか ?	
(Tat NY	すべて変換(<u>A</u>)	<u>しいえ(N)</u>	キャンセル

はい(<u>Y</u>) オベズ恋歩(A)

表示中のファイルを変換する

すべて変換(<u>A</u>)
 全ファイル変換に切り替え、以降のファイルをすべて変換する
 いいえ(<u>N</u>)
 表示中のファイルは変換しない
 キャンセル
 これ以降の変換処理を中断する

問合わせ・確認指定がOFFであれば、ファイル名の確認なしで、自動的に指定のファイルを すべて変換します。こちらがデフォルトです。

変換時の実行ウインドウ

変換ボタンをクリックすると、ホスト Winファイル変換が始まり、つぎの実行ウインドウが開きます。



変換中のメッセージを表示するメッセージフィールドです。 変換が始まると、"変換開始."というメッセージ表示につづいて、 "ホストファイル名 Windowsファイル名 ~ファイル変換."が表示され、 変換が正常終了すると、"変換終了."と表示されます。 変換中の進行状況(進行度%出力)を表示するフィールドです。 変換中のエラーメッセージを表示するフィールドです。 変換中は「中止(Q)」と表示されています。 変換中にこのボタンをクリックすると、変換を途中で中止します。 変換が終了したら、その変換結果を確認して、"閉じる"ボタンをクリックします。 おもにコード変換に関する現在の設定が表示されています。

注意事項

<u>同名ファイルは置換する</u>

すでに同じ名前のWindowsファイルがある場合、自動的に元のファイルを削除し、新た に変換したファイルで置き替えます。このとき警告メッセージは出ないので注意してください。

第4章 操 作 =

4.3 ホスト Winテキストファイル変換

ホスト Winテキストファイル変換の操作方法について説明します。

ホストが汎用機・オフコンの場合

<mark>M</mark> /F*TRAN+ □ 本価認定(c) 本価時間がまテ(V) ∧ □ 20(U)
ホスト → Winファイル変換 Win → ホストファイル変換 1
ホストファイル名(D: C¥FTRANP¥*.* 参照(Y) ホスト、Win
▼ Winファイル名(W): C¥FTRANP¥*.get 参照②… 参照②…
「ホストオブション」
Winオプション
コード 変換表 ファイル : F-TRAN CCT (標準設定)(汎用機・オフコン))

変換方法のテキストファイル(X)をクリックし、

ホスト Winテキストファイル変換を選択します。

ホストファイルのレコード長を指定します。

ANK変換かAnk・漢字(KI/KO付)混在変換かを指定するオプションです。

タブ圧縮の有無を指定するオプションのチェックボックスです。

でタブ圧縮のチェックをONにしたとき、タブ間隔を指定できます。 Winファイルの詳細オプションボタンです。EOF付加の選択ができます。 変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。

ホストがUnix、Windowsの場合

/ // F*TRAN+ つってル(F) ツール(T) 変換設定(S) 変換時回が表示(K) ヘルつ℃(H)	
	40700 L
Winファイル名(W): C¥FTRANP¥*.get	
「ホストファイル形式/オプション	
F+ストファイル(J) ○ データファイル(A) ○ ランダムコ	7ァイル ^(加) マップ設定(P)
Win変換方法】/オプション	
♀ デキストファイル図 ○ データファイル (1) ○ ランダムフ	アイル(R)
	(E) 変換(G) ↓ ↓
	Windows))
漢字変換方式:SJIS 本本NOOBOL:富士通	WinCOBOL:富士通
ヘルフ を表示するには [F1] を押してください。	NUM

Win変換方法のテキストファイル(<u>X</u>)をクリックし、ホスト Winテキストファイル 変換を選択します。ホストファイル形式は、テキストファイル(<u>J</u>)固定になります。 タブ拡張の有無を指定するオプションのチェックボックスです。

でタブ拡張のチェックをONにしたとき、タブ間隔を指定できます。 ホストファイルの詳細オプションボタンです。 EOF検査の選択ができます。 ホストがWindowsの場合のみ有効です。ホストがUnixの場合はありません。 タブ圧縮の有無を指定するオプションのチェックボックスです。

でタブ圧縮のチェックをONにしたとき、タブ間隔を指定できます。 Winファイルの詳細オプションボタンです。EOF付加の選択ができます。 変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。

ホスト Winファイル変換の共通指定項目は、「ホスト Winファイル変換」の節ですで に詳しく説明しました。そちらを参照してください。 第4章 操 作 ——

オプションの指定

ホストファイル・レコード長指定 <ホストが汎用機・オフコンの場合のみ>

ホストファイルのレコード長を1~32767の範囲の10進数で指定します。デフォルトは、 80バイト です。レコード長の指定が間違っていると正しいデータ変換が行われませんので、 この指定は極めて重要です。

コード設定オプション <ホストが汎用機・オフコンの場合のみ>

コード変換の方法(ANK変換かAnk・漢字(KI/KO付)混在変換か)を指定します。

Ank指定

Ank指定すると、すべてANKデータとして変換します。これがデフォルトです。以下に示 す、

<u>ホ ス ト 側</u>	<u>Windows側</u>
JIS8/ASCII	
E B C D I C (カタカナ)	JIS8/ASCII
EBCDIC(英小文字)	

の3とおりの変換が可能です。あらかじめ、変換設定のANKコード設定でホストファイル側のコード系を設定しておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に1回だけ行います)。 漢字がまじっているときは、つぎのAnk・漢字(KI/KO付)混在指定を使ってください。

<u>Ank・漢字(KI/KO付)混在指定</u>

ANK・漢字混在で、KI/KOもついているとき、この指定をします。あらかじめ、変換設定の漢字変換方式設定で適切な漢字変換方式の割り当てをする必要があります(ふつう、セットアップ時に1回だけ行います)。

タブ拡張のオプション <ホストがUnix、Windowsの場合のみ>

タブ拡張の有無と、タブ拡張するときのタブ間隔を指定します。タブ拡張とは、TAB(09 H)をつぎのタブ位置の直前までの連続スペースに展開することです。

タブ拡張のチェックボックスを、

ONにすると、タブ拡張する指定

OFFにすると、タブ拡張しない指定 となります。

タブ拡張指定がONであれば、タブ拡張します。タブ間隔は、2~255の範囲で指定し、それがレコードのおわりまで繰り返し適用されます。タブ間隔のデフォルトは標準のタブ間隔(8 桁きざみ)になります。これがデフォルトです。

タブ拡張指定がOFFであれば、タブ拡張はしません。

EOF検査指定 <ホストがWindowsの場合のみ>

EOFコード(1AH)を検査するか否かを指定します。

EOF検査のチェックボックスを、

ONにすると、EOFコードを検査する指定

OFFにすると、EOFコードを検査しない指定となります。

EOF検査指定がONであれば、EOFコードを検査し、EOFコードが現れたら変換を終了 します。こちらがデフォルトです。

EOF検査指定がOFFであれば、EOFコードを検査しません。単なるデータとして扱います。

第4章 操 作 —

タブ圧縮のオプション

タブ圧縮の有無と、タブ圧縮するときのタブ間隔を指定します。タブ圧縮とは、タブ位置の直 前までつづく2個以上の連続スペースを、TAB(09H)に置き替えることです。

タブ圧縮のチェックボックスを、

ONにすると、タブ圧縮する指定

OFFにすると、タブ圧縮しない指定 となります。

タブ圧縮指定がONであれば、タブ圧縮します。タブ間隔は、2~255の範囲で指定し、それがレコードのおわりまで繰り返し適用されます。タブ間隔のデフォルトは標準のタブ間隔(8 桁きざみ)になります。

タブ圧縮は、ソースプログラムなど空白部分が多いファイルの、変換後のファイル容量を減ら すのに効果的です。

なお、文字列定数中のスペースまでTABに変換してしまうことを避けるため、アポストロフ ィ(')か引用符(")が見つかると、その行についてはそこでタブ圧縮を打ち切ります。

タブ圧縮指定がOFFであれば、タブ圧縮はしません。これがデフォルトです。

EOF付加指定

EOFコード(1AH)の扱いを指定します。

EOF付加のチェックボックスを、

ONにすると、EOFコードをつける指定 OFFにすると、EOFコードをつけない指定 となります。

EOF付加指定がONであれば、WindowsファイルのおわりにEOFコードをつけます。 現在では少なくなりましたが、テキストファイルのおわりにEOFコードがついていないとエラ ーにするソフトがあります。その場合にも対処するための機能です。

EOF付加指定がOFFであれば、EOFコードはつけません。これがふつうだと思ってくだ さい。こちらがデフォルトです。

ホスト Winテキストファイル変換の実行

変換ボタンをクリックすると、ホスト Winテキストファイル変換が始まります。 行末の空白類の削除(行末圧縮)と改行コード(CR/LF=0D0AH)の付加は無条件に 行われます。

ファイル内容表示ウインドウ

変換結果表示(<u>V</u>)のチェックボックスをONにし、ホスト Winテキストファイル変換を 実行すると、実行ウインドウを閉じた後につぎのファイル内容表示ウインドウが開き、変換先の ファイルの中身を確認することができます。



変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルの中身が、 で選択されている表示タイプで出力されます。 デフォルトは、改行コード単位のHEX+文字表示(Winテキスト&データ)です。

の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えることができます。 フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、の出力文字フォントを切り替えることができます。 ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、の内容をファイルに保存できます。 桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)、 1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。 OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

第4章 操 作 ———

注意事項

<u>漢字があるときはコード設定オプションをAnk・漢字(КI/КО付)混在にすることを忘</u> <u>れずに</u>

漢字が入っているときは、あらかじめ

変換設定の漢字変換方式設定で、適当な漢字変換方式を割り当てておく

のを忘れないでください。また、ホストが汎用機・オフコンの場合、変換のとき、

コード設定オプションをAnk・漢字(KI/KO付)混在にするのを忘れがち

なので注意してください。

その他の注意事項

「ホスト Winファイル変換」の節を参照してください。

4.4 ホスト Winデータファイル変換

ホスト Winデータファイル変換の操作方法について説明します。

ホストが汎用機・オフコンの場合

<mark>が</mark> F*TRAN+ □=√L(F) ツーL(T) 恋逸設定(S) 恋逸時回が実子(K) ∧L□*(L)	
	<u>`</u>
ホスト → Winファイル変換 Win → ホストファイル変換 	1
ホストファイル名仰: C¥FTRANP¥*.*	<u>参照(Y)</u> ホスト Win
↓ Winファイル名(W): C¥FTRANP¥*.get	参照②
【Win変換方法】	
C テキストファイル⊗ C データファイル(D) C ランダムコ	ファイル(<u>R</u>) マップ設定(P)
ホストイフンヨノー	▲ 変換結果表示 🖄
	┌──問合わせ・確認(型)
Winオプション	
出力形式(2): プリント	≝
コード 変換表 ファイル:F-TRAN.CCT (標準設定) ANK ロード: FBCDIC (均知力) 漢字変換方式: JEF	汎用機・オフコン)) WinCOBOL:宮士通
	NOM

変換方法のデータファイル(<u>D</u>)をクリックし、

ホスト Winデータファイル変換を選択します。

ホストファイルのレコード長を指定します。

出力ファイル形式を指定するオプションです。

Winファイルの詳細オプションボタンです。EOF付加の選択ができます。

マップ設定(レコードレイアウト設定)をするオプションボタンです。

変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。

ホストがUnix、Windowsの場合

₩ F*TRAN+	
ファイル(E) ツール(D) 変換設定(S) 変換時ログ表示(K) ヘルフ°(H)	
「ホスト → Winファイル変換」Win → ホストファイル変換】	
	49700 1 1
Winファイル名(W): C¥FTRANP¥*.get	参照(2)
「ホストファイル形式/オプション	
○ テキストファイル(J) →○ データファイル(A) ○ ランダム:	ファイル(M) マップ設定(P)
入力形式(L): 7°リント 🔽 詳細	
L T T T T T T T T T T T T T T T T T T T	変換結果表示[₩
○ テキストファイル図 (☆データファイル(型)) ○ ランダムコ	7ァイル(B) 「問合わせ・確認(Q)
出力形式(2): プリント 🔽 詳細	© 変換(<u>G</u>)
	↓ ↓
	定(Inix))
漢字変換方式: EUC 标本COBOL:富士通	WinCOBOL:富士通
- MAY SERVICE THIS SHART CASE 10	

Win 変換方法のデータファイル(\underline{D})をクリックし、ホスト Win データファイル変換 を選択します。ホストファイル形式は、データファイル(\underline{A})、ランダムファイル(\underline{M})の 選択ができますが、上の例はホストファイル形式がデータファイル(\underline{A})です。

入力ファイル形式を指定するオプションです。

ホストファイルの詳細オプションボタンです。タブ拡張、空行無視等の指定ができます。 出力ファイル形式を指定するオプションです。

Winファイルの詳細オプションボタンです。EOF付加の選択ができます。

マップ設定(レコードレイアウト設定)をするオプションボタンです。

変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。 第4章 操 作 ——

🥂 F*TRAN+		
ファイル(E) ツール(T) 変換設定(S) 変換時口が表示(K) ヘルフ°(H)		
「ホフト → Winファイル変換」Win → エフトコーイルが通う		
		1
ホストファイル名仰: C¥FTRANP¥*.*	参照(⊻)	ホスト Win
▼ Winファイル名(W): C¥FTRANP¥*.get	参照(Z)	
- ホストファイル形式 /オプション		
○ テキストファイル(①) ○ データファイル(△) ♀ ランダムご	7ァイル(<u>M</u>)	
		イツノ設定(ビ)
レコード長(1): 256 🚔 🥢		
		「 変換結果表示(⊻)
● テキストファイル⊗ ●データファイル(型) ● ランダムコ	ファイル(<u>R</u>)	□ 問合わせ・確認@)
出力形式(2): プリント / 💌 詳細	(E)	変換(<u>G</u>)
コード 変換表 ファイル: UNIXCCT (標準設)	宦(Unix))	
漢字変換方式 EUC ホストCOBOL:富士通	WinCOBOL :	<u></u> 富士通
」 ヘルプを表示するには「F1]を押してください。		NUM

Win変換方法のデータファイル(<u>D</u>)をクリックし、ホスト Winデータファイル変換 を選択します。ホストファイル形式は、データファイル(<u>A</u>)、ランダムファイル(<u>M</u>)の 選択ができますが、上の例はホストファイル形式がランダムファイル(<u>M</u>)です。 ホストファイルのレコード長を指定します。

ホスト Winファイル変換の共通指定項目は、「ホスト Winファイル変換」の節ですで に詳しく説明しました。そちらを参照してください。

オプションの指定

ホストファイル・レコード長指定 <ホストファイルが固定長の場合のみ>

ホストファイルのレコード長を1~32767の範囲の10進数で指定します。デフォルトは、 256バイト です。レコード長の指定が間違っていると正しいデータ変換が行われませんの で、この指定は極めて重要です。

入力形式オプション <ホストファイルが可変長の場合のみ>

変換するWindowsファイルがプリント形式かデリミタ形式か、デリミタ形式ならコンマ 区切り・タブ区切り・スペース区切りのどれなのかを指定します。

プリント ------ プリント形式を変換する デリミタ(コンマ) ----- デリミタ形式(コンマ)を変換 デリミタ(タブ) ----- デリミタ形式(タブ)を変換 デリミタ(スペース) ---- デリミタ形式(スペース)を変換

プリントを指定すると、デリミタ(区切り文字)なしのプリント形式のファイル(固定長テキ ストファイル(SDF形式)。ただし、最終項目だけ可変長でもよい)を変換できます。

デリミタを指定すると、デリミタ形式(区切り文字つき)のテキストファイルを変換できます。 区切り文字の種類によって、さらに細かい形式が決まります。デリミタは、

コンマ区切り形式(CSV形式、K3形式) タブ区切り形式(TAB=09H) スペース区切り形式(SP=20H) の3つのなかから指定できます。

後述のマップ設定オプションで、デリミタ検出=コンマ(,)を指定したところに、上記の区 切り文字があるとみなされます。 第4章 操 作 ——

EOF検査指定 <ホストがWindowsで、可変長ファイルの場合のみ>

EOFコード(1AH)を検査するか否かを指定します。 EOF検査のチェックボックスを、

ONにすると、EOFコードを検査する指定
 OFFにすると、EOFコードを検査しない指定
 となります。

EOF検査指定がONであれば、EOFコードを検査し、EOFコードが現れたら変換を終了 します。こちらがデフォルトです。

EOF検査指定がOFFであれば、EOFコードを検査しません。単なるデータとして扱います。

タブ拡張のオプション <ホストファイルが可変長の場合のみ>

タブ拡張の有無と、タブ拡張するときのタブ間隔を指定します。タブ拡張とは、TAB(09 H)をつぎのタブ位置の直前までの連続スペースに展開することです。 タブ拡張のチェックボックスを、

ONにすると、タブ拡張する指定

OFFにすると、タブ拡張しない指定 となります。

タブ拡張指定がONであれば、タブ拡張します。タブ間隔は、2~255の範囲で指定し、それがレコードのおわりまで繰り返し適用されます。タブ間隔のデフォルトは標準のタブ間隔(8 桁きざみ)になります。これがデフォルトです。

タブ拡張指定がOFFであれば、タブ拡張はしません。

空行無視のオプション <ホストファイルが可変長の場合のみ>

空行を無視するかどうかを指定します。

ONにすると、空行を無視する指定 OFFにすると、空行を無視しない指定 となります。 出力形式オプション

データとしてのテキストファイルにはいくつもの形式があるので、どの形式にするかを指定します。つぎの、7種類の中から選択します。

プリント ------ プリント形式に変換する デリミタ(コンマ ・ 圧縮) ---- デリミタ形式(コンマ)に変換、圧縮あり デリミタ(タブ ・ 圧縮) ---- デリミタ形式(タブ)に変換、圧縮あり デリミタ(スペース・ 圧縮) ---- デリミタ形式(スペース)に変換、圧縮あり デリミタ(コンマ ・非圧縮) ---- デリミタ形式(コンマ)に変換、圧縮なし デリミタ(タブ ・非圧縮) ---- デリミタ形式(タブ)に変換、圧縮なし デリミタ(スペース・非圧縮) ---- デリミタ形式(スペース)に変換、圧縮なし

プリントを指定すると、デリミタ(区切り文字)なしで変換され、プリント形式(固定長のテ キストファイル [SDF形式])になります。これがデフォルトです。

デリミタを指定すると、デリミタ形式(区切り文字つきのテキストファイル)に変換されます。 デリミタの種類によってさらに細かい形式が決まります。デリミタは、

コンマ区切り形式(CSV形式、K3形式) タブ区切り形式(TAB=09H) スペース区切り形式(SP=20H) の3つのなかから指定できます。

通常は、コンマ区切り(CSV)形式への変換が一般的です。さらに、

変換後に圧縮をかける(可変長になる。デフォルト) 変換後に圧縮しない(固定長のまま) を指定できます。

圧縮をかけると本来不要なスペース、つまり、

レコードの先頭・末尾のスペース
 デリミタの前後のスペース
 引用符の前のスペース
 が削除されます。

圧縮をかける機能があるのは、つぎのような理由があるためです。

変換後のWindowsファイルの容量を、大幅に減らすことができる 一部の市販ソフトでは、不要なスペースがあるとうまくデータを読み込めない 第4章 操 作 ——

EOF付加指定

EOFコード(1AH)の扱いを指定します。 EOF付加のチェックボックスを、

ONにすると、EOFコードをつける指定 OFFにすると、EOFコードをつけない指定 となります。

EOF付加指定がONであれば、WindowsファイルのおわりにEOFコードをつけます。 現在では少なくなりましたが、テキストファイルのおわりにEOFコードがついていないとエラ ーにするソフトがあります。その場合にも対処するための機能です。

EOF付加指定がOFFであれば、EOFコードはつけません。これがふつうだと思ってくだ さい。こちらがデフォルトです。
マップ設定オプション

このマップ設定オプションで、項目別の細かい変換方法を指示します。本来なら、自動的に項 目を認識して変換ができると便利です。しかし、ホストの、とくにCOBOLのデータには、デ ータ自身に桁数や小数点位置の判断に必要な情報が含まれていない、という特性があります。そ のため自動変換は原理的に不可能なのです。

マップ設定のボタンをクリックすると、つぎのウインドウが開きます。

マップ設定		×
● 簡易設定(S)	● 詳細設定(型)	
СССК П	キャンセル	

マップ設定には、

簡易設定 ---- 設定ウインドウに従って、必要な値を入力するだけで設定ができます。 通常は、こちらの機能だけで間に合う場合がほとんどです。

詳細設定 ---- フリーフォーマットで、マップ設定を記述するエディタモードです。 簡易設定だけでは設定できない特殊な設定をする場合、あるいは、 既存のパラメータファイル等を流用したい場合等に使用します。 マップ設定の文の書き方を覚えなくては設定できません。

の2とおりの方法があります。

注意 ---- 簡易設定と詳細設定の組み合わせ

簡易設定で設定した値は、詳細設定で読み込むことができるテキスト形式に直されます。よって、簡易設定をした後の項目に、詳細設定で特殊設定をつけ足すこともできます。

注意 ---- 詳細設定 簡易設定の順で設定した場合の制約

詳細設定 簡易設定の順で設定した場合は、原形が変わってしまう場合があります。これは、 詳細設定で設定した項目が簡易設定で読み込まれることにより、スリム化されてしまうからです。 ただし、原形が変わってしまっても、設定内容が変わるわけではありません。 <マップ設定(簡易)ウインドウ>

	$\setminus \setminus \setminus$	$\langle \rangle$				\backslash		\rightarrow
マップ	設定(簡易)	<u></u> × \	∦in データファ1	(ル変換				_ 🗆 ×
編集(E)	¥୬₩Œ¥	✓ ♥ ♥	★ ★				★	★ >
K7	Х 🖻 🕻	I I X	🔍 🐰				ОК	キャンセル
ーデー								
		Ank(1)	漢字(2)	Ank·漢字(3)	数值(4)		·表示(5) パック・表示(6) ハイナリ(7) ユーザーA(8) ユ	-#°-B(9)
- 17°>	/•'/°−'/(A) //	്ക് സ്ക് (B)	ሦ - ምምምም (C))パック・ソ ^ッ ーン(D)			(年齢定(F)) 区切記号(F)) 日付(G)	BY(H)
	ティング 月	長子。心気の	まデ・9進(化)	<u>2)</u> (2)後・表示(1) [2)	パーショックが住て	1401 - 11.See	- 25#(Ath 25#-16-10) 25#+ 16-41(2) 25#+25#(Ch) 1650	町辰鹿(の)
- ac.		Q107197007	- 9010-27E-007		-)~2/崖、	anor 171 y		77120#4410
ů+	laa(A) [#much(C)	- 1 × 5-	ジェンロックで入っ	もぶくつけ	コグズ明ィ		
		71770		000000000	000174	40721#J	//)/u=r ₩ŵ. 200	
No.	赤°ジ゙ジョン	デーが形式	入力幅	出力幅	~~"	改行	40%	
1							For GetData	
2	_				_		Copyright(C)Fujit	tsu BSC 1
3					_		太陽糸の惑星ナータ オフト形式→2001 によっいっつけい	
4				_				1.11217
6		Ank	2		-		N o. (惑星番号)	
7		漢字	8				和名	
8		Ank	10				英名	
9		Ank	9				読み	
10		がっか表示	u4.3		_		(質量比) (次回2時 /(次合)(文)	
12		リーン表示	o2 1		_		関生奴 (唯足)別/ 「稿大笑級 (貝加)+ Fの最大の明るま)	
13		漢字	20				英名の意味・由来	
14		年設定	w30				<年設定:1930-2029>	
15		区切記号	年.月.日				<日付区切り設定:9999.99.99>	
16	_	日付	yymmdd	yyyy-mm-dd			しゅ。小提出年月日	
17			↓			+ ▲		
18						+		
20				+ +	+ +-			
21								
22								
4								
87								

No.は、1~2000です。ここは非入力項目で、行選択の時にクリックします。

項目の桁位置等を入力します。通常、項目を組み替えるとき以外は入力しません。

ダブルクリックすると、入力サブウインドウが開きます。

項目のデータ形式を15種類の中から指定します。

ダブルクリックすると、入力サブウインドウが開きます。

項目の入力幅を入力します。省略すると、残りのバイト数を指定したことになります。

データ形式がゾーン / パック / 2進指定の場合、ピクチャまたは 2 進ピクチャで指定します。 項目の出力幅を入力します。通常、出力幅 = 入力幅の場合は省略します。

デリミタ形式に変換するときに、項目を引用符でくくる指定ができます。ホストがUnix、 Windowsの場合、デリミタ形式の項目の引用符をはずす指定にもなります。

改行コードを挿入する指定です。2種類(通常、強制)の指定があります。

改行コード挿入を指定すると、変換後の文字列の後に改行コードを挿入します。

コメントの入力ができます。

セルポインタの入力ガイダンスメッセージが出力されるフィールドです。 誤入力をした場合のエラーメッセージも出力されます。

~ は編集(E) ツール(T)のメニューの機能がボタン化されています。

直前の編集作業が無効になり、元に戻ります。

1行または複数行を選択(の操作)をした後に、このボタンをクリックすると、

選択した項目の内容が切り取られ、カットバッファに入ります。

1行または複数行を選択(の操作)をした後に、このボタンをクリックすると、

選択した項目の内容がカットバッファに入ります。

カットバッファに入った内容(、 の操作)を、セルポインタがある行へ貼りつけます。 すでに、セルポインタ以降の行に設定項目がある場合は、挿入になります。

セルポインタがある行以降が1行づつ下がります。通常は、行挿入をする場合に使用します。 選択した項目の内容が削除されます。

変換プレビュー(変換前/変換後のデータ確認)ができます。

Winファイルエディタが起動します。

ホストファイルの中身を見る(編集も可能)ことができます。

セルポインタが選択項目にある場合に、選択肢のボタンが表示されるエリアです。

ホストファイルが固定長の場合はレコード長、可変長の場合はデータ形式を指定できます。 変換プレビューの時の重要項目です。

設定が完了したら、OKボタンをクリックします。

キャンセルボタンをクリックすると、すべての入力 / 編集作業が無効になります。

マルチレコードの設定ができるAtlasモードに切り替えるボタンです。 詳細は、マルチレコード編のマニュアルを参照してください。

注意 ---- マップ未設定時のデータ変換動作

マップ未設定の場合は、すべてをANKデータとみなしてデータ変換を行います。

注意 ---- デリミタ挿入について

マップ設定(簡易)で項目を設定し、デリミタ形式に変換する場合、自動的に変換後の項目の 後にデリミタ(区切り文字)が挿入されます(ただし、最終項目は除く)。挿入される区切り文 字は指定された出力形式により、コンマ、タブ、スペースの3つのうちのいずれかになります。 なお、プリント形式への変換のときは、デリミタ挿入は行われません。

また、デリミタに設定したが、ある項目にはデリミタを付加したくない場合などは、簡易設定 後に詳細設定を行い、修正することができます。 第4章 操 作 ———

<マップ設定(簡易)サブウインドウ>

ポジションの欄をダブルクリックすると、つぎのサブウインドウが開きます。入出力桁位置や 入出力スキップの設定を簡便に行うことができます。

#୬୬≱୬ ወ入力	×
 入力桁位置(A) 出力桁位置(B) 桁位置(C) デリ約位置(D) 	入力桁位置 (G): 🧮 📑
○ 入力スキップ (E) ○ 出力スキップ (E)	<u>ОК</u> ++>セル

データ形式の欄をダブルクリックすると、つぎのサブウインドウが開きます。 データ形式から 引用符くくりまでの設定を簡便に行うことができます。

デー妍記等の入力	×
 C Ank (1) C 漢字 (2) C Ank・漢字 (3) C 表示 (4) C 表示 (6) 	入力幅 (16): 2 🚍
 アーン (5) C アーン (1) パック (6) × C パック (0) 2道 (7) C 2道 (1) パイナリ (8) パイナリ (5) 	出力幅 ①:
 C ユーザーA (<u>A</u>) C ユーザーB (<u>B</u>) C 年設定 (<u>C</u>) C 区切記号 (<u>D</u>) C 日付 (<u>E</u>) 	「 ~~
О ВҮ (Е)	OKキャンセル

<マップ設定(簡易)・変換プレビュー機能>

変換プレビューボタンをクリックすると、マップ設定(簡易)のウインドウはつぎのような状態になり、変換前/変換後のデータを確認することができます。

——— 第4章 操 作

マップ	設定(簡易)	לא א <i>א</i> גר א	Win データファイ	ル変換										ļ	
編集(E)	編集(E) ツール(T)														
KΛ	Х 🖻 🕻		Q Win									OK		キャンセル	1
-変換	 プレビュー -														
蛮	換元データ	: C:¥FTRAN	IP¥Planet												
			in the latter.				Г						1		
							L	変換	後(0)		前口	-ŀ.(I)] [次l	(2) → N(2)	1 1 A
			1												
At	:las(<u>A</u>)	f±99(<u>0</u>)	※ 変換	テータのラレビュ	「一日」は構	課できま	にせん こうしょう				カルコー	▶`長①	: 256		
No.	#°ジション	デーク形式	入力幅	出力幅	入力桁	出力桁	変換前データ	E (1,	/10 bi	1-1°)				_ _
6		Ank 満安	2		0	0	40 F1	1 40 4	40.40	40					
/ 0		(実子) 入った	8		2	2	BF E5 C0 B	3 FA F	0 40 19 F8	40 40	1 40				
9	-	Ank	9		20	20	A4 58 87 5	4 AE 5	8 40	40 40) +0				
10		N°op・表示	u4.3		29	29	00 00 05 5	F							-
11		ゾーン・表示	u2		33	37	F0 F0								
12	-	ゾーン・表示	s2.1		35	39	F0 F2 D4	0 44 0	0.05	<u> 00 4</u>		00.00	DO D4 4	0 40 40	
13		() 漢子 () 年齢定	20 		38 58	64	AD ED BF C	UALL	B BF	CU A4	I CE I	5B (8	BC D4 4	0 40 40	40
15	-	区切記号	年.月.日		58	64									
16		日付	yymmdd	yyyy-mm-dd	58	64	F9 F8 F0 F	4 F3 F	0						-
17							40 40 40 4	0 40 4	0 40	40 40) 40 4	40 40	40 40 4	0 40 40	40 👻
•															•
185									-						
र्गात-	協哉デー			必データョ	≡ᆕ		<u> </u>		, ,					/	
変	換前デー	- タ表示	変換	後データ君	₹示			/	/		/	/			1-1-1
安 マップ (信集(E)	換前デ- _{設定(簡易)}	- 夕表示 ^{ホスト → \}	変換 Win データファイ	後データ ^{ル変換}	表示			/			/	/			
安 マップ 編集(E)	換前デ- 設定(簡易) ッール(T)	- 夕表示 ^{ホスト→ \}	変換 Win データファイ	後データ 君 _{ル変換}	₹示			/	/		/	/			
安? マップ 編集(E)	換前デ- 設定(簡易) ッール(T) & <u></u> 国	- 夕表示 ^{★スト→ \}	変換 Win データファイ	後データ え _{ル変換}	₹示			/				ОК		- ++>te/	
安 マップ 編集(E) 「」 「変換	換前デー 設定(簡易) ッール① ※ <u></u> 配 プレビュー -	- 夕表示 ^{★スト→ \}	変換 Win データファイ	後データ え _{ル変換}	€ 示			/				ОК		- ++>\tel	
安 マップ 編集(E) 「空」」 変換 変換	換前デー 設定(簡易) ッール(D) ぶ プレビューー 決元データ	- 夕表示 ホスト→ \ 」 」 」 、 C¥FTRAN	変換 Win データファイ へ 聖	後データ君 _{ル変換}	ह े⊼			/				ОК		++v)t/	
安 マップ 編集(E) 「変換 変換	換前デー 設定(簡易) ッール① メ 回 こ フレビューー 決元データ	- 夕表示 ホスト→ \ 回回区 : C¥FTRAN	変換 Win データファイ へ 聖	後データ え _{ル変換}	₹示							OK		++>\tel	
安 マップ 編集(E) 「変換 変	換前デ- 設定(簡易) ッール(D) メ 国 。 ブレビュー - 換元データ	- 夕表示 ホスト→ \ 」 」 : C¥FTRAN	変換 Win データファイ	後データ オ _{ル変換}	€ 示			変換	前(0)		前1/3~	ОК - ト*(1)	」] [次l	++v/t/	
<u>マップ</u> 編集(E) 変換 変	換前デー 設定(簡易) ッール① ※ 配 『 で ジール② ※ で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	- 夕表示 ホスト→ \ 」 」 : C¥FTRAN	変換 Win データファイ へ 聖 IP¥Planet	後データ え ^ル 変換	€示			変換	前 (0)		前口~	ОК - ト*(1)		++>±	
変: マップ 編集(E) 「変換 変	換前デー 設定(簡易) ッール(D) メ 国	- 夕表示 ホスト→ \ ヨヨン : C¥FTRAN チェック(<u>)</u>)	変換 Win データファイ	後データ君 ル変換 データのプレビ=	€ 示	幕集できま		変換	前(0)] [] 入		OK -ト*(1)]] [λι ; [256	++>+t) ++>+(2)	
安: マップ 編集(E) 「変換 変 At No.	換前デー 設定(簡易) ッール(① メ ジール(① メ ごしビュー - 決元データ las(<u>A</u>)	- 夕表示 ホスト→ \ 国 × : C¥FTRAN チェック(の) データ形式	変換 Win データファイ へ 聖 P¥Planet 入力幅	後 デ ー タ オ ル変換 データの プレビュ (出力幅)	€ 示 □-中は編 入力桁	課できま 出力桁	: 世ん 変換後テ ^{ゃ_} ク	変換1	前(0) /10 レ:] [] 入] 入	「 前い- カい-)	OK -ト*(1) -ト*長の) [XL ; [256	++>+t	
安: マップ 編集(E) 変換 変 Att No. 6	換前デー 設定(簡易) ッール① メ 「配」 こ プレビューー 決元データ (ass(公) 本 ⁹) ⁽³ 32)	- 夕表示 ホスト→ \ 	変換 Win データファイ 「へ」 <u>い</u> IP¥Planet 入力幅 2 0	後データオ ル変換 (データのブレビ= 出力幅	€ 示 1 一 中 1 編 入 力 桁 0 2	集できま 出力桁 0	で 世 ん 変 換後デック 1 1 1	変換	前(0) /10 レ:] [] 入 } +ト*	/ 前口· 力口·	OK -ト*(1) -ト*長①) [Xu ; [256	++>\tr ++>\tr 	
安: マップ 編集(E) 変 変 (No. 6 7 8	換前デー 設定(簡易) ッール(D) メ	- 夕表示 ホスト→ \ 	変換 Win データファイ 「● 「聖」 IP¥Planet) ※ 変換 入力幅 2 8 10	後データオ ル変換 データのプレビュ 出力幅	€示 中は編 入力桁 0 2 10	業できま 出力桁 0 2 10	に で で で し に せ ん で 少 う う 1 水星 WERCURY	変換	前(0) /10 し:] [人 [*4-r	/ 前レコ・ 力レコ・	OK -ト*(1) -ト*長の) [Xu ; [256	++>t	
安: マップ 編集(E) 変 (Mo. 6 7 8 9	換前デー 設定(簡易) ッール(D) メ 国 ブレビュー - 換元データ 185(公) 本*ツ*ション	- 夕表示 ホスト→ ハ 「」」」 : C¥FTRAN チェック(の) デ [*] ー分形式 Ank 漢字 Ank Ank	変換 Win データファイ	後データオ ル変換 ミデータのプレビュ 出力幅	●示	集できま 出力桁 0 2 10 20	させん。 変換後がらい。	変換	/ 前(0) /10 レ:] 〔 〕入]	/ 前口· 力归·	ОК -ト*(1) -ト*長の] [次L ; [256	↓ ++>>tz)	
安: マップ 編集(E) 「変換 変 の」 「 の 、 6 7 8 9 10	換前デー 設定(簡易) ッール① 光 [1] [1] プレビュー - 決元データ 185(公)	- 夕表示 ホスト→ハ 「」」、 : C:¥FTRAN デー研究 Ank 漢字 Ank Ank パック・表示	変換 Win データファイ 「へ」 <u>い</u> P¥Planet ア¥Planet 2 8 10 9 u4.3	後データオ ル変換 データのブレビュ 出力幅	₹示 入力桁 0 2 10 20 29	集できま 出力桁 0 2 10 20 23	 させん。 変換後データ 1 水星 MERCURY マーキュリー 0.055 	文換1	前(0) /10 [;1] [] 入] 小*	/ 前la- 力la-	OK -ト*(1) -ト*長の	】_] [次L ; [256	++>+t	
安: マップ 編集(E) 変換 変 (No. 6 7 8 9 10 11	換前デー 設定(簡易) ッール① メ ジレビュー - 決元データ	- 夕表示 ホスト→ ハ ホスト→ ハ 「三」× : C¥FTRAN チェック(の) データ形式 Ank 漢字 Ank ハ ⁿ ゥク・表示 ソ ⁿ ・フ・表示	安換 Win データファイ P¥Planet ア¥Planet 2 8 10 9 u4.3 u2	後 デ ー タ オ ル変換 データのブレビ= 出力幅	▼一中は編 入力桁 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	集できま 出力桁 0 2 10 20 29 37	 こせん 変換後データ 1 水星 MERCURY マーキュリー 0.055 0 	交換	/ 前(0) /10 [,:] [/ 前レコ・ 力レコ・	OK -ト*(1) -ト*長①) [)XL ; [256	- ++>+t	
安: マップ 編集(E) 変換 変 Att No. 6 7 8 9 10 11 12	換前デー 設定(簡易) ッール① メ 「 で 、 、 「 で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	- 夕表示 ホスト→ \ ホスト→ \ 「三」、 : C:¥FTRAN f==)の f*-の形式 Ank 漢字 Ank ハ*-ヮウ・表示示 ツ*-フ・表示 マン・ブ・表示 マン・ブ・表示	安換 Win データファイ	後 デ ー タ オ ル変換 データのプレビ= 出力幅	●示	業できま 出力桁 0 2 10 20 29 37 39	させん。 変換後デーク 1 パ星 MERCURY マーキュリー 0.055 0 -2.4 かかた **********************************	変換	前(0) /10 [,:] [/ 前レコ・ 力レコ・)	OK -ト*(1) -ト*長の) [Xu ; [256	++>t	
安: マップ 編集(E) 変 変 の 一 変 変 の 一 の 一 の 一 の の 一 の の の の の	換前デー 設定(簡易) ッール① メ ブレビュー - 換元データ (as(<u>A</u>) 本 [*] ジション	- 夕表示 ホスト→ \ ホスト→ \ 」 三 : C:¥FTRAN チェック(の) デ [*] つ研形式 Ank 漢 Ank Ank スト→ \ チェック(の) デ [*] つ研形式 Ank ア [*] つフ・表示 リ [*] つフ・表示 リ [*] つフ・表示	変換 Win データファイ	後データオ ル変換 ミデータのプレビニ 出力幅	●示	集できま 出力桁 0 2 10 20 29 37 39 44 84	せん 変換後データ 1 7火星 MERCURY ?ーキュソー 0.055 0 -2.4 口神)神の	変換	前(0) /10 L:] [/ 前レコ・ 力レコ・	OK -ト*① -ト*長の) [Xu ; 256	↓ ++>>t/	
安: マップ 編集(E) 一変換 変 (Mo. 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	換前デー 設定(簡易) ッール(1) メ 国 ブレビュー - 換元データ (as(公)) 本*)シジョン - - - - - - - - - - - - -	- 夕表示 ホスト→ ハ ホスト→ ハ ・ ・ に、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	変換 Win データファイ	後データオ ル変換 ミデータのプレビュ 出力幅	●示	集できま 出力桁 0 2 10 20 29 37 39 44 64 64	 世ん。 変換後デペーク 1 水星 MERCURY マーキュリー 0.055 0 -2.4 口神) 神の 	(月本)	/ 前(0)	〕 入 】 、 、	/ 前口· 力/口·	ОК -ト*(1) -ト*長①] [次L ; [256	↓ ++>>tz/	
安: マップ 編集(E) 変換 変 不 No. 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	換前デー 設定(簡易) ッール(T) メ 「 」 ジール(T) メ 「 」 「 」 「 」 」 「 」 」 」 」 」 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	- 夕表示 ホスト→ハ ホスト→ハ 「三」× : C¥FTRAN チェック(の) データ形式 Ank スト→ハ デニック(の) デーの形式 Ank パー・の・表示 ツー・ン・表示 ツー・ン・表示 学設定 区切記号 日付	変換 Win データファイ P¥Planet P¥Planet ア¥Planet	後データオ ル変換 データのブレビ= 出力幅	►一中は編 入力桁 0 2 10 20 29 33 35 38 58 58 58 58	集できま 出力桁 0 2 10 20 29 37 39 44 64 64 64	 させん。 変換後デージー 1 水星 MERCURY マーキュリー 0.055 0 -2.4 □神) 神の 1998.04.30 	(1,	前(0) /10 [;1] [] 入] 小*	/ 前니 力/口)	OK -ト*(1) -ト*長の	】_] [次山 ; [256	++>+2	
安: マップ 編集(E) 変 変 の 一 変 変 の 一 変 変 の 一 の ク 、 ク 、 ク 、 ク 、 ク 、 ク 、 ク 、 ク 、 ク 、 の ク 、 の 、 の	換前デー 設定(簡易) ッール① メ 「 プレビュー - 決元データ (las(A)) ↓ ^(*) リ ^(*) リ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	- 夕表示 ホスト→ ハ ホスト→ ハ 「三」× : C:¥FTRAN デーク形式 Ank デーク形式 Ank ア・ク・表示 リ・ン・表示 「ジーン・表示 「字 年設定 区切記号 日付	安換 Win データファイ P¥Planet P¥Planet () ※ 変換 入力幅 2 8 10 9 u4.3 u2 s2.1 20 w30 年.月.日 yymmdd	後 デ ー タ ル変換 データの プレビ= 出力幅 リート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	▼中は編 入力桁 0 20 29 33 35 38 58 58 58 58 58 58	集できま 出力桁 0 2 10 20 29 37 39 44 64 64 64	 せん 変換後データ 1 水星 MERCURY マ-キュリー 0.055 0 -2.4 口神) 注申の 1998.04.30 40 40 40 4 	· (1) 使者 0 40 4	/ 前(0) /10 L:] 〔] 入] 入] 入 40 4(/ 前レコ· カレコ·)	OK -ト*(1) -ト*長の) [)/xl ; [256		

変換前/変換後のデータ表示の切り替えを行うボタンです。 の表示が変わります。 前レコード/次レコード表示のためのボタンです。 ここには、入力レコード/出力レコードのポジション(桁)が表示されます。 データ表示は、変換前が16進、変換後が文字、未定義個所が16進になります。

(1)ポジション(桁位置)の指定

変換対象にするホスト側(入力)の桁位置や、変換結果を書き込むWindows側(出力) の桁位置を、別の任意の位置に移動できます。現在、処理対象にしている桁位置を、この指定で 強制的に変更できます。この機能を利用すると、項目の組み替えなどが簡単に実現できます。

入力桁位置は、ふつう10進数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(入力)のレコード長
- ホスト側(入力)の現在の桁位置
 という特殊変数が使えます。

たとえば、

\$ - 8
 と指定すれば、ホスト側(入力)レコード末尾の8バイト前に位置する
 . - 40
 と指定すれば、現在の入力桁位置から40バイト戻る

という意味になります。

プリント形式への変換の場合、出力桁位置を移動することもできます。ふつう、

:10進数 で桁位置を指定します。

10進数の代わりに式による指定もでき、そのなかでは、

Windows側(出力)の現在の桁位置
 という特殊変数が使えます。

注意 ---- デリミタ形式の場合、出力桁位置指定はない

デリミタ形式への変換の場合、入力桁位置の移動だけが有効です。出力桁位置の指定は行わな いでください。

注意 ---- 先頭を0桁目とする

F*TRAN+では、レコードの先頭を0桁目として数えます。

(2)ポジション(デリミタ位置)の指定

変換対象にするホスト側(入力)データのデリミタ形式の項目位置を、別の任意の項目位置に 移動できます。現在、処理対象にしている項目位置を、この機能で強制的に変更できます。この 機能を利用すると、デリミタ形式の項目の組み替えなどが簡単に実現できます。

デリミタ位置は、 @@入力項目番号 で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- ホスト側(入力)の現在の項目位置
- \$ ホスト側(入力)の入力全体の項目数
- * ホスト側(入力)の残りの項目数 という特殊変数が使えます。

たとえば、

@@ 2	と指定すれば、	今の入力項目から2項目戻る
@@\$-2	と指定すれば、	ホスト側(入力)レコード末尾から2項目に位置する

という意味になります。

注意 ---- 先頭を0項目目とする

F*TRAN+では、レコードの先頭項目を0項目目として数えます。

(3)ポジション(入力スキップ)の指定

ホスト側(入力)レコードに不要な項目があるとき、それをスキップして変換できます。

スキップする幅は、 ^バイト数 で指定します。

たとえば、3バイト分スキップしたいなら、 ^ 3 と指定します。

バイト数は省略でき、省略すると1バイトとみされるので、

^ 3 は ^ ^ ^ と指定したのと同じです。

スキップする幅は式による指定もでき、そのなかでは、

* ホスト側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

(4)ポジション(出力スキップ)の指定

入力スキップとは逆に、Windows側(出力)に何桁か空きを作ることもできます。プリント形式への変換のとき、空項目を作るのがおもな用途です。

スキップする幅は、 __バイト数 で指定します。

たとえば、3バイト分スキップしたいなら、 __3 と指定します。

バイト数は省略でき、省略すると1バイトとみされるので、

__3 は ____ と指定したのと同じです。

(5)15種類のデータ形式

[<u>Ank(1)</u>]

ANK項目を変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、どのコード変換が行われるかは、 変換設定のANKコードの設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。 入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

\$ ホスト側(入力)のレコード長

* ホスト側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、ANK項目のおわりのほうが切り捨てられます。逆に、項目長を伸ばすと、 Windows側のANK項目のおわりにスペース(20H)が詰められます。

[漢字(2)]

漢字項目を変換します。どのコード変換が行われるかは、変換設定の漢字変換方式の設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

入力幅は、10進のバイト数で指定します(漢字の文字数ではありません)。式による指定も でき、そのなかでは、

\$ ホスト側(入力)のレコード長

* ホスト側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を大きくしなければならない場合があります。拡張漢字のクエスチョン変換を使っていて、オーバーフローの危険があるときなどです(最大で入力幅の3倍)。そのときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、漢字項目のおわりのほうが切り捨てられます(漢字の中央で切れることは ありません)。逆に、項目長を伸ばすと、Windows側の漢字項目のおわりに漢字変換方式 で設定されている漢字スペース(2020H/8140H)が詰められます。 第4章 操 作 —

[<u>Ank・漢字(3)</u>]

ANK・漢字まじり項目を変換します。どのコード変換が行われるかは、変換設定の漢字変換 方式の設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。ホストが汎用機・オ フコンの場合、漢字の前後にKI/KOがついていないと、この変換方法は適用できません。変 換後、KI/KOが取れて、その分、左詰めされます。

入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(入力)のレコード長
- * ホスト側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を変更したい場合があります。KI/KOが取れて短くなることや、逆に、拡張漢字の クエスチョン変換を使っていてオーバーフローの危険があるときなどです(最大で入力幅の3倍 -KI・KOのバイト数の合計)。そのときは、出力幅を指定します。

項目長を縮めると、ANK・漢字まじり項目のおわりのほうが切り捨てられます(漢字の中央 で切れることはありません)。逆に、項目長を伸ばすと、Windows側のANK・漢字まじ り項目のおわりにスペース(20H)が詰められます。

[数値(4)]

文字形式の数値項目どうしの変換をします。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、 変換設定のANKコード設定でEBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておか なければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。数値変換は、Ank項目 変換と後述のゾーン・表示変換の中間的なものです。Ank項目変換と比較すると、

文字形式数値しか通さない 入力幅を省略すると15桁(バイト)とみなす 右詰めになる

などの点が異なります。

「文字形式数値しか通さない」というのは、具体的には、

+、-、0~9、ピリオド(.), E、e、D、d

しか変換しないで、これら以外の文字は捨ててしまうということです。たとえば、通貨記号 (¥/\$)や位取りのコンマ(,)などは削除されるので、リストファイルから入力データファ イルを作るときなどに役立ちます。 [<u>ゾーン・表示(5</u>)]

ホストのCOBOLのゾーン形式数値項目を、文字形式数値項目に変換します。ホストが汎用 機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコード設定で、EBCDIC系かJIS8 / ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行 います)。変換結果は右詰めになります。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 ピクチャは s 4 . 1 と指定します。なお、ピクチャは省略できません。

出力幅は省略できます。出力幅を省略すると、

符号つきなら1、符号なしなら0とする

+ 整数部桁数

+ 1 + 小数部桁数(小数部があれば)

の要領でピクチャから自動的に計算された値が使われます。たとえば、ピクチャ=s4.1、 出力幅=省略という指定は、出力幅に7を指定したのと同じ意味になります。

出力幅を明示的に指定するときは、オーバーフローに注意しながら10進のバイト数で指定し ます。オーバーフローすると、符号や上位桁が切り捨てられるので、注意してください。

[パック・表示(6)]

ホストのCOBOLのパック形式数値項目、BCD形式数値項目を、文字形式数値項目に変換 します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコード設定で、EB CDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セット アップ時に一回だけ行います)。変換結果は右詰めになります。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

-123.4 という数字が3バイトの符号つきパック形式の項目に記録されているとすれば、 ピクチャは s4.1 と指定します。123.4 という数字が3バイトのBCD形式の項目 に記録されているとすれば、ピクチャは b5.1 と指定します。なお、ピクチャは省略でき ません。

パック形式では、整数部桁数 + 小数部桁数を奇数にしておくのが通例です。

BCD形式では、整数部桁数 + 小数部桁数を偶数にしておくのが通例です。

整数部の最上位桁に意味があるのかないのかは、半々の割合です。

出力幅は省略できます。出力幅を省略すると、

符号つきパック形式なら1、符号なしパック形式・BCD形式なら0とする

+ 整数部桁数

+ 1 + 小数部桁数(小数部があれば)

第4章 操 作 ——

の要領でピクチャから自動的に計算された値が使われます。たとえば、パック形式でピクチャ = s 4 . 1、出力幅=省略という指定は、出力幅に7を指定したのと同じ意味になります。BC D形式でピクチャ=b5.1、出力幅=省略という指定は、出力幅に7を指定したのと同じ意味 になります。

出力幅を明示的に指定するときは、オーバーフローに注意しながら10進のバイト数で指定します。オーバーフローすると、符号や上位桁が切り捨てられるので、注意してください。

[<u>バイナリ(7)</u>]

バイナリ変換(無変換)は、「コード変換を一切しない」という変換方法です。通常、ホスト Winデータファイル変換では使用しません。

入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(入力)のレコード長
- * ホスト側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなされます。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、バイナリ項目のおわりのほうが切り捨てられます。逆に、項目長を伸ばす と、Windows側のバイナリ項目のおわりにスペース(20H)が詰められます。

 $[- - \overline{y} - A (8)], [- - \overline{y} - B (9)]$

ユーザーA/B変換は、利用者独自のバイト単位の変換処理が必要なときに、ANK変換表ユ ーザー用A、ユーザー用Bを書き替えて利用します。ユーザーA/B変換には、Ank項目変換 の説明がほとんどそのまま当てはまります。

入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(入力)のレコード長
- * ホスト側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、ユーザーA / B項目のおわりのほうが切り捨てられます。逆に、項目長を 伸ばすと、Windows側のユーザーA / B項目のおわりにスペース(20H)が詰められま す。

[<u>ゾーン・ゾーン(A</u>)]

ホストのCOBOLのゾーン形式数値項目を、Windows COBOLのゾーン形式数値 項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの 設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふ つう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 入力ピクチャは s 4 . 1 と指定します。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「出力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、出力ピクチャ=s4.1という指定は、入力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「入力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

なお、入力ピクチャと出力ピクチャを同時に省略することはできません。

[<u>パック・ゾーン(D)</u>]

ホストのCOBOLのパック形式数値項目、BCD形式数値項目を、Windows СОВ OLのゾーン形式数値項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換 設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかな ければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が3バイトの符号つきパック形式の項目に記録されているとすれば、 入力ピクチャは s 4 .1 と指定します。1 2 3 .4 という数字が3バイトのBCD形式の 項目に記録されているとすれば、入力ピクチャは b 5 .1 と指定します。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「出力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、出力ピクチャ=s4.1という指定は、入力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「入力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

なお、入力ピクチャと出力ピクチャを同時に省略することはできません。

第4章 操 作 —

[<u>年設定(E)]</u>

日付データ項目を変換する際の、年の2桁(yy)と4桁(yyyy)の交換方式を設定しま す。Wnn、または、Snnの形式で設定します。Wnnの"W"はウインドウ方式を、Snn の"S"はシフト方式を意味し、"nn"は00~99の数字で指定します。

入力幅に W30 と指定すれば、入力データの年を1930~2029年とみなし、 出力幅に S25 と指定すれば、出力データの年下2桁を、-25します。

また、シフト方式("Snn"指定)では、つぎの特殊指定ができます。

SShowa は、"S25"の指定と同じ(昭和通年方式)

SHeisei は、"S88"の指定と同じ(平成通年方式)

年設定は日付項目変換が実行された時に適用になり、複数の年設定がなされている場合は、日 付項目変換の直前の年設定が有効になります。

年設定がない場合の日付項目変換のデフォルトは、入力幅/出力幅ともに、 W30 となり、 入出力データの年を1930~2029年とみなします。

[<u>区切記号(F)</u>]

日付データ項目を出力する際の日付区切り記号をつぎの3つの中から設定します。入力幅に、 SLASH、または、HYPHEN、または、PERIODと入力します。

<u>指 定 文 字</u>	<u>日付区切り記号</u>	<u>データ例</u>
SLASH	/(スラッシュ)	1 9 9 8 / 1 2 / 3 1
ΗΥΡΗΕΝ	- (ハイフン)	1998 - 12 - 31
PERIOD	.(ピリオド)	1998.12.31

日付区切り設定は日付項目変換が実行された時に適用され、複数の日付区切り設定がなされている場合は、日付項目変換の直前の日付区切り設定が有効になります。

日付区切り設定がない場合の日付項目変換のデフォルトは、 SLASH となり、日付区切り記号を"/"にします。

[<u>日付(G</u>)]

日付データ項目を変換します。コード変換は、変換設定のANKコードの設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

入力幅と出力幅は、必ず日付マスクの形式で指定し、省略はできません。日付マスクの指定方 法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 入力幅に、 yymmdd

出力幅に、 yyyy-mm-dd のように指定すると、

コード変換後に、入力側6バイトの日付データ項目を、出力側10バイトの日付データ項目に 編集します。その際に、年設定、日付区切り設定が適用になります。

[表示・ゾーン(I)]

ホストの文字形式数値項目を、Windows COBOLのゾーン形式数値項目に変換しま す。通常は、ホストがUnixまたはWindowsの場合に使います。ホストが汎用機・オフ コンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/AS CII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

入力幅は、バイト数で指定します。省略すると15バイトとみなされるので、プリント形式からの変換の場合は、ふつうは明示的に桁数を指定します。デリミタ形式からの変換の場合は、数値項目が15バイトを超えることは少ないので、省略するほうがふつうです。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 . 4 という数字を5 バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録するとすれば、ピクチャは s 4 . 1 と指定します。なお、ピクチャは省略できません。

まとめると、プリント形式からの変換の場合は、

入力幅=8、ピクチャ=s4.1のような指定になり、

デリミタ形式からの変換の場合は、

入力幅=省略、ピクチャ=s4.1 のような指定になるのがふつうです。 ただし、入力幅が15バイトを超えるときは、

入力幅 = <u>20</u>、ピクチャ = u 15.2のように、ダミーの入力幅を指定します。

第4章 操 作 ——

[<u>2進・表示(L)</u>]

ホストの2進形式整数・小数項目を、Windowsの文字形式数値項目に変換します。変換 結果は右詰めになります。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 -123.4 という数字が4 バイトの符号つき2 進形式の項目に記録されているとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i4s4.1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

出力幅は省略できます。出力幅を省略すると、

入力幅	出力幅	
1	3	
2	5	
3	8	
4	10	
5	13	左記の値を基本として、
6	15	符号つきなら+1、ピクチャ指定の小数部があれば+1とし、
7	17	さらに、ピクチャ指定のほうが大きければ、
8	18	整数部桁数に、符号つきなら + 1、小数部があれば + 1 + 小数点桁数

の要領で2進キャスト/ピクチャから自動的に計算された値が使われます。例を示すと、入力 幅=i4s4.1、出力幅=省略という指定は、出力幅=10という指定と同じです。

出力幅を明示的に指定するときは、オーバーフローに注意しながら10進のバイト数で指定し ます。オーバーフローすると、符号や上位桁が切り捨てられるので、注意してください。

[<u>2進・ゾーン(0)</u>]

ホストの2進形式整数・小数項目を、Windows COBOLのゾーン形式数値項目に変換します。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 -123.4 という数字が4 バイトの符号つき2 進形式の項目に記録されているとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i4s4.1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 . 4 という数字を5 バイトの項目に記録するとすれば、ピクチャは s 4 . 1 と指定します。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると「2進キャスト/ピクチャと同じ」 とみなされます。たとえば、2進キャスト/ピクチャ=i4s4.1、ピクチャ=省略という指 定は、ピクチャ=s4.1という指定と同じです。

(6)引用符はずし/くくりの指定

ホストがUnix、Windowsの場合、デリミタ形式からの変換の場合には、項目が引用 符(")でくくられていることがあります。その引用符は無視します。また、引用符でくくった なかにデリミタがあっても、ただの文字データとして扱います。

デリミタ形式に変換するときは、変換後の文字列を引用符でくくることができます。ただし、 プリント形式への変換のときは、この引用符くくりの機能は無効になります。

市販ソフトの入力用には、文字項目だけを引用符でくくることが多いのですが、引用符を使わ ないソフトもあれば、すべての項目を引用符でくくるソフトもあります。

参考...

たとえば、デリミタ形式のうちK3フォーマットと呼ばれるものは、

各項目はコンマで区切る 数値はそのまま(位取りのコンマ不可) 文字列は引用符でくくる

というルールになっています。

(7)改行コード挿入の指定

任意のところに改行コードを挿入する(改行コードで項目を区切る)こともできます。改行コ ード挿入には、つぎの2種類があります。

通常 プリント形式変換時は、指定が無効になる 強制 プリント形式変換時も、指定が有効になる

1 レコード変換がおわったときに、自動的にレコード末尾に改行コードが付加される機能とは 別のものですから、混同しないでください。 <マップ設定(詳細)ウインドウ>



マップ設定の記述をするエディットボックスです。

~ はファイル(<u>F</u>) 編集(<u>E</u>)のメニューの機能がボタン化されています。 既存のパラメータファイル等を読みます。

の内容をパラメータファイルへ保存します。 直前の編集作業が無効になり、元に戻ります。 選択した文字列が切り取られ、カットバッファに入ります。 選択した文字列がカットバッファに入ります。

/ の操作でカットバッファに入った内容を、カーソルがある位置へ貼りつけます。 カーソルがある位置以降に文字列があれば、挿入になります。 選択した文字列が削除されます。

の文字列をすべて選択状態にします。

設定が完了したら、OKボタンをクリックします。 キャンセルボタンをクリックすると、すべての入力 / 編集作業が無効になります。

注意 ---- マップ設定(詳細)の記述内容について

マップ設定(詳細)のエディットボックスの中に記述する内容は、レコードレイアウト(/m apを含まない/map以降)のみの記述となります。既存のパラメータファイルを読み込むと、 それ以外の記述(/delimited~、/map等)は自動的にコメントになります。記述 に誤りがある状態でOKボタンをクリックすると、エラーとなる場合があります。修正してから 再度OKボタンをクリックしてください。/map以降の文法については、「コマンド編」の「コ マンド型の実行」の章を参照してください。

例)マップ設定(詳細)にパラメータファイル"PNGETPRN.P"を読み込む

/hostsiz	ze 256	ホストレコード長=256バイト	
/nondel	imited	プリント形式への変換	≻ コメントになる行
/map			
ank	2	No.(惑星番号)	
kanji	8	和名	
ank	10	英名	
ank	9	読み	
packd	u4.3	質量比	
zoned	u2	衛星数(確定済)	〉変換時に、
zoned	s2.1	極大等級(見かけ上の最大の明るさ)	使われる行
kanji	20	英名の意味・由来	
year	w30	< 年設定:1930-2029>	
dated	period	< 日付区切り設定:9999.99.99 >	
date	yymmdd:yyyy	y-mm-ddレポート提出年月日 ノ)

ホスト Winデータファイル変換の実行

変換ボタンをクリックすると、ホスト Winデータファイル変換が始まります。

ファイル内容表示ウインドウ

変換結果表示(<u>V</u>)のチェックボックスをONにし、ホスト Winデータファイル変換を実行すると、実行ウインドウを閉じた後につぎのファイル内容表示ウインドウが開き、変換先のファイルの中身を確認することができます。



変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルの中身が、 で選択されている表示タイプで出力されます。
デフォルトは、改行コード単位のHEX+文字表示(Winテキスト&データ)です。の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えます。
フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、 の出力文字フォントを切り替えます。
ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、 の内容をファイルに保存します。
桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)、
1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えます。
OKボタンをクリックして、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

注意事項

<u>漢字があるときの注意</u>

漢字項目変換やAnk・漢字まじり項目変換を行うときは、あらかじめ

変換設定の漢字変換方式設定で、適当な漢字変換方式を割り当てておく

のを忘れないでください。また、入力幅、出力幅は漢字データについても

バイト単位で指定

します。漢字の文字数ではないことに注意してください。

その他の注意事項

「ホスト Winファイル変換」の節を参照してください。

4.5 ホスト Winランダムファイル変換

ホスト Winランダムファイル変換の操作方法について説明します。

ホストが汎用機・オフコンの場合

K F*TRAN+	
ファイル(L) ツール(L) 変換設定(S) 変換時のの表示(K) ヘルア(H)	
ホスト → Winファイル変換 Win → ホストファイル変換	
	40700
Winファイル名(W): C:¥FTRANP¥*.get	参照②
【Win変換方法】	
○ テキストファイル図 ○ データファイル(D) ○ ランダム	ファイル(R) マップ設定(P)
┃	
「ホストオプション	
レコード長(1): 256 三	
Winオジョン	
コード 変換表 ファイル:F-TRAN.CCT (標準設定	(汎用機・オフコン))
ANK コート: EBCDIC (カタカナ) 漢字変換方式: JE	F WinCOBOL: 富士通
	NUM

変換方法のランダムファイル(<u>R</u>)をクリックし、

ホスト Winランダムファイル変換を選択します。

ホストファイルのレコード長を指定します。

出力レコード長を指定するオプションです。

マップ設定(レコードレイアウト設定)をするオプションボタンです。

変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。

ホストがUnix、Windowsの場合



Win 変換方法のランダムファイル(<u>R</u>)をクリックし、ホスト Win ランダムファイル 変換を選択します。ホストファイル形式は、データファイル(<u>A</u>) ランダムファイル(<u>M</u>) の選択ができますが、上の例はホストファイル形式がデータファイル(<u>A</u>)です。

入力ファイル形式を指定するオプションです。

ホストファイルの詳細オプションボタンです。タブ拡張、空行無視等の指定ができます。 出力レコード長を指定するオプションです。

マップ設定(レコードレイアウト設定)をするオプションボタンです。

変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。 第4章 操 作 ——

🧖 F*TRAN+	
ファイル(E) ツール(I) 変換設定(S) 変換時口が表示(K) ヘルフ°(H)	<u> </u>
ホストファイル名ゆ: C:¥FTRANP¥*.*	<u>参照()</u> ホスト Win
Winファイル名(W): C:¥FTRANP¥*.get	参照②
「ホストファイル形式/オプション	
○ テキストファイル(①) ○ データファイル(A) ► ○ ランダム:	ファイル(M) マップ設定(P)
レコード長(1): 256 🚍	
【Win変換方法】/オブション	
● テキストファイル図 ● データファイル(型) 🗣 ランダムラ	ファイル(B)
	変換(<u>G</u>)
コート [*] 変換表 ファイル:UNDXCCT (標準設)	定(Unix))
漢字変換方式: EUC ホストCOBOL: 富士通	WinCOBOL:富士通
ヘルフ を表示するには [F1] を押してください。	NUM

Win変換方法のランダムファイル(<u>D</u>)をクリックし、ホスト Winランダムファイル 変換を選択します。ホストファイル形式は、データファイル(<u>A</u>)、ランダムファイル(<u>M</u>) の選択ができますが、上の例はホストファイル形式がランダムファイル(<u>M</u>)です。 ホストファイルのレコード長を指定します。

ホスト Winファイル変換の共通指定項目は、「ホスト Winファイル変換」の節ですで に詳しく説明しました。そちらを参照してください。

オプションの指定

ホストファイル・レコード長指定 <ホストファイルが固定長の場合のみ>

ホストファイルのレコード長を1~32767の範囲の10進数で指定します。デフォルトは、 256バイト です。レコード長の指定が間違っていると正しいデータ変換が行われませんの で、この指定は極めて重要です。

入力形式オプション <ホストファイルが可変長の場合のみ>

変換するWindowsファイルがプリント形式かデリミタ形式か、デリミタ形式ならコンマ 区切り・タブ区切り・スペース区切りのどれなのかを指定します。

プリント ------ プリント形式を変換する デリミタ(コンマ) ----- デリミタ形式(コンマ)を変換 デリミタ(タブ) ----- デリミタ形式(タブ)を変換 デリミタ(スペース) ---- デリミタ形式(スペース)を変換

プリントを指定すると、デリミタ(区切り文字)なしのプリント形式のファイル(固定長テキ ストファイル(SDF形式)。ただし、最終項目だけ可変長でもよい)を変換できます。

デリミタを指定すると、デリミタ形式(区切り文字つき)のテキストファイルを変換できます。 区切り文字の種類によって、さらに細かい形式が決まります。デリミタは、

コンマ区切り形式(CSV形式、K3形式) タブ区切り形式(TAB=09H) スペース区切り形式(SP=20H) の3つのなかから指定できます。

後述のマップ設定オプションで、デリミタ検出=コンマ(,)を指定したところに、上記の区 切り文字があるとみなされます。 第4章 操 作 ——

EOF検査指定 <ホストがWindowsで、可変長ファイルの場合のみ>

EOFコード(1AH)を検査するか否かを指定します。 EOF検査のチェックボックスを、

ONにすると、EOFコードを検査する指定
 OFFにすると、EOFコードを検査しない指定
 となります。

EOF検査指定がONであれば、EOFコードを検査し、EOFコードが現れたら変換を終了 します。こちらがデフォルトです。

EOF検査指定がOFFであれば、EOFコードを検査しません。単なるデータとして扱います。

タブ拡張のオプション <ホストファイルが可変長の場合のみ>

タブ拡張の有無と、タブ拡張するときのタブ間隔を指定します。タブ拡張とは、TAB(09 H)をつぎのタブ位置の直前までの連続スペースに展開することです。 タブ拡張のチェックボックスを、

ONにすると、タブ拡張する指定

OFFにすると、タブ拡張しない指定 となります。

タブ拡張指定がONであれば、タブ拡張します。タブ間隔は、2~255の範囲で指定し、それがレコードのおわりまで繰り返し適用されます。タブ間隔のデフォルトは標準のタブ間隔(8 桁きざみ)になります。これがデフォルトです。

タブ拡張指定がOFFであれば、タブ拡張はしません。

空行無視のオプション <ホストファイルが可変長の場合のみ>

空行を無視するかどうかを指定します。

ONにすると、空行を無視する指定 OFFにすると、空行を無視しない指定 となります。

出力レコード長オプション

Windows側(出力)のレコード長を指定します。Windowsレコード長は、通常、 10進数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

\$ ホスト側(入力)のレコード長 という特殊変数が使用できます。

ホストファイルのレコード長を基準にして、Windowsファイルのレコード長を決めるこ とができます。たとえば、

\$+2 と指定すれば、

「元のホストファイルのレコード長に + 2 したものをWindows側のレコード長にせよ」 という意味になります。

出力レコード長オプションでWindowsレコード長を指定できることは、ホスト Win ランダムファイル変換の性格をよく反映しています。

ホスト Winランダムファイル変換は、おもにWindows COBOLの順ファイルや BASICのランダムファイルに変換することをねらったものである、ということは冒頭で述べ たとおりです。そして、BASIC側の事情を考慮すると、レコード長を任意に指定できないと 困ることが多いのです。

とくに困るのは、N88BASICコンパイラ / インタプリタを使うときです。

N88BASICコンパイラ / インタプリタでは、1つのプログラム内で複数のレコード長の ランダムファイルを扱うことができません。

もう1つの理由は、ゾーン形式とパック形式の変換、日付データの変換をサポートしているため、レコード長を増減する機能がないと困るからです。また、不要な項目がいくつもあるときや、 予備領域が多すぎるときはレコード長を縮めたいものです。

注意 ---- Windows自身には「レコード長の概念がない」

Windows自体にはファイルごとに登録されたレコード長というものはありません。その ため、かなり自由が利きます。アプリケーションがファイルを扱う論理的な単位をここではWi ndows側のレコード長、あるいはWindowsレコード長と呼んでいます。

マップ設定オプション

このマップ設定オプションで、項目別の細かい変換方法を指示します。本来なら、自動的に項 目を認識して変換ができると便利です。しかし、ホストの、とくにCOBOLのデータには、デ ータ自身に桁数や小数点位置の判断に必要な情報が含まれていない、という特性があります。そ のため自動変換は原理的に不可能なのです。

マップ設定のボタンをクリックすると、つぎのウインドウが開きます。

マップ設定		×
● 簡易設定(S)	● 詳細設定(型)	
COK	キャンセル	- ANTER

マップ設定には、

簡易設定 ---- 設定ウインドウに従って、必要な値を入力するだけで設定ができます。 通常は、こちらの機能だけで間に合う場合がほとんどです。

詳細設定 ---- フリーフォーマットで、マップ設定を記述するエディタモードです。 簡易設定だけでは設定できない特殊な設定をする場合、あるいは、 既存のパラメータファイル等を流用したい場合等に使用します。 マップ設定の文の書き方を覚えなくては設定できません。

の2とおりの方法があります。

注意 ---- 簡易設定と詳細設定の組み合わせ

簡易設定で設定した値は、詳細設定で読み込むことができるテキスト形式に直されます。よって、簡易設定をした後の項目に、詳細設定で特殊設定をつけ足すこともできます。

注意 ---- 詳細設定 簡易設定の順で設定した場合の制約

詳細設定 簡易設定の順で設定した場合は、原形が変わってしまう場合があります。これは、 詳細設定で設定した項目が簡易設定で読み込まれることにより、スリム化されてしまうからです。 ただし、原形が変わってしまっても、設定内容が変わるわけではありません。 <マップ設定(簡易)ウインドウ>

	$\setminus \setminus \setminus$	$\langle \rangle$				\mathbf{Y}		
マップ	設定(簡易)	י + א [ַ] ג	Win データファ・	(ル変換			<u> </u>	l ×
編集(E)	¥୬₩Ɗ♦	, ♥, ♥,	. ♥, ♥,				★ ★	
KO	X 🖻 🕻	1 = X	💊 🖉				OK ++>>セル	1
ーデータ						_ _		
	かりア(0)	Ank(1)	漢字(2)	Ank·漢字(3) 表	表示·表示	(4) [7]-)	ン·表示(5) パック·表示(6) バイナリ(7) ユーザーA(8) ユーザーB(9)	ן ה
17-	/・ソ゚ーン/(A) //	ීනේ• රංගත්(B).	ゾーソ・ハ ⁰ ッカ(C)	/እየማ ት• //°–ነ/(D)			年設定(F) 区切記号(F) 日付(G) BY(H)	1 🗋
		長三・13-44(1)		2谁•表云(1)	パー・カック注催((60 D.S.)	カッジ進(小) 2)進・ソーン(ハ) 2)進・パッカ(ア) 2)進・2)進(ハ) パジ(ナ)に支持(の)	
30.		201C 71 77 COV	3010 EVE 007		/ / 2/////////////////////////////////	ano 71.7		1
At	las(A)	手 ー ッカ(C)	ر دره ۱	፲፱./፱./፲৯%	(アロケ)を開	R	入力レコード長の・ 256	-
		1-77 27					70304 T369. jeou	
No.	#°୬゙ション	デーが形式	入力幅	出力幅	~~"	改行	40%	_
1					_		For GetRand	
2					_		Copyright(C)Fujitsu BSC 1	
3	_				_			
4							ホスト形式→Windowsフノタムノア1)	
0 6		Ank	2					
7		漢字	8		+	+	和名	
8		Ank	10			+	英名	
9		Ank	9				読み	
10		Noor表示	u4.3				質量比	
11		ゾーン・表示	u2				衛星数(確定済)	
12		ゾーン・表示	s2.1				極大等級(見かけ上の最大の明るさ)	
13	_	漢字	20				英名の意味・由来	
14		「牛該定」					<午該定:1930-2029> <日付豆 切し記会: 2000-00-00>	
10	-	区切記方 日付	中・月・日 Luummdd	UUUU-mm-dd			トロ11区初り設定: 3333.33.33> は%は担由年日日	
10	-			yyyy-mm ² uu				
18	 ▲	<u> </u>		+	- ♠-	+ 🔶	├ ▲	
19					++			
20								
21								
22								
4							}	

No.は、1~2000です。ここは非入力項目で、行選択の時にクリックします。 項目の桁位置等を入力します。通常、項目を組み替えるとき以外は入力しません。

ダブルクリックすると、入力サブウインドウが開きます。

項目のデータ形式を24種類の中から指定します。

ダブルクリックすると、入力サブウインドウが開きます。

項目の入力幅を入力します。省略すると、残りのバイト数を指定したことになります。

データ形式がゾーン / パック / 2進指定の場合、ピクチャまたは2進ピクチャで指定します。 項目の出力幅を入力します。出力幅=入力幅の場合は、省略するのがふつうです。

ホストがUnix、Windowsの場合、デリミタ形式から変換するときに引用符はずしの指定ができます。

改行コードを挿入する指定です。

改行コード挿入を指定すると、変換後の文字列の後に改行コードを挿入します。通常、 項目長の増減がない単純な変換の最終項目に指定し、テキストファイル化するのに使います。 コメントの入力ができます。

セルポインタの入力ガイダンスメッセージが出力されるフィールドです。 誤入力をした場合のエラーメッセージも出力されます。

~ は編集(E), ツール(T)のメニューの機能がボタン化されています。

直前の編集作業が無効になり、元に戻ります。

1行または複数行を選択(の操作)をした後に、このボタンをクリックすると、

選択した項目の内容が切り取られ、カットバッファに入ります。

1行または複数行を選択(の操作)をした後に、このボタンをクリックすると、

選択した項目の内容がカットバッファに入ります。

カットバッファに入った内容(、 の操作)を、セルポインタがある行へ貼りつけます。 すでに、セルポインタ以降の行に設定項目がある場合は、挿入になります。

セルポインタがある行以降が1行づつ下がります。通常は、行挿入をする場合に使用します。 選択した項目の内容が削除されます。

変換プレビュー(変換前/変換後のデータ確認)ができます。

Winファイルエディタが起動します。

ホストファイルの中身を見る(編集も可能)ことができます。

セルポインタが選択項目にある場合に、選択肢のボタンが表示されるエリアです。 ホストファイルのレコード長を指定できます。変換プレビューの時の重要項目です。 設定が完了したら、OKボタンをクリックします。

キャンセルボタンをクリックすると、すべての入力 / 編集作業が無効になります。

マルチレコードの設定ができるAtlasモードに切り替えるボタンです。 詳細は、マルチレコード編のマニュアルを参照してください。

注意 ---- マップ未設定時のデータ変換動作

マップ未設定の場合は、すべてをANKデータとみなしてデータ変換を行います。

第4章 操 作 ———

<マップ設定(簡易)サブウインドウ>

ポジションの欄をダブルクリックすると、つぎのサブウインドウが開きます。入出力桁位置や 入出力スキップの設定を簡便に行うことができます。

#୬୬≱୬ ወ入力	×
 入力桁位置(A) 出力桁位置(B) 桁位置(C) デリ約位置(D) 	入力桁位置 (G): 🧮 📑
○ 入力スキップ (E) ○ 出力スキップ (E)	<u>ОК</u> ++>セル

データ形式の欄をダブルクリックすると、つぎのサブウインドウが開きます。 データ形式から 引用符くくりまでの設定を簡便に行うことができます。

デー妍託等の入力	×
 € Ank (<u>A</u>) ○ 漢字 (<u>B</u>) C Ank•漢字 (<u>C</u>) 	入力幅 (B): 2 🚍
○ 表示 (E) ◎ 表示 (E)	
● ゾーン (E) ↓ ○ ゾーン (E) ↓	
 パック (E) ワ パック (E) 	
○ 2)進(E) ○ 2)進(E)	出力幅 (S):
 バイナリ (<u>G</u>) 	- ,
C バイガ反転 (G)	
C ユーザーA (H)	
🔿 ант-в Ф	「 "~"引用符<<り ①
○ 年設定 (N)	
○区切記号 (Q)	
○日付 (2)	
О ВҮ (@)	OK ++>セル

<マップ設定(簡易)・変換プレビュー機能>

変換プレビューボタンをクリックすると、マップ設定(簡易)のウインドウはつぎのような状態になり、変換前/変換後のデータを確認することができます。

______ 第4章 操 作

マップ	設定(簡易)	ホスト → \	Min ランダムファ	(ル変換			
編集(E)							
10	Х 🖻 🕻		🔍 🖉				OK ++>>セル
変換:	ゴレビュー -						
恋:	換テデータ	: C:¥ETRAN	IP¥Planet				
	DATES S		in the idencit				
							変換後回) 前レコート(1) 次レコート(2)
At	las(<u>A</u>)	チェック(<u>O</u>)	※ 変換	データのブレビュ	.一中は綿	課できま	ません 入力ルコード長の: 256 三
No.	‡°୬°୬∎ጋ	デーが形式	入力幅	出力幅	入力桁	出力桁	☆ 変換前データ (1/10 レコード)
6		Ank	2		0	0	40 F1
7	_	漢字	8		2	2	BF E5 C0 B1 40 40 40 40
8		Ank	9		20	20	D4 C5 D3 C3 E4 D3 E8 40 40 40 A4 58 87 54 AF 58 40 40 40
10		「 N°o力·表示	u4.3		29	29	00 00 05 5F
11		ゾーン表示	u2		33	37	F0 F0
12		ゾーン・表示	s2.1		35	39	F0 F2 D4
13		漢字	20		38	44	A5 ED BF C0 A1 CB BF C0 A4 CE BB C8 BC D4 40 40 40 40
14		年設定	w30		58	64	
15	<u> </u>	区切記方	年.月.日	uuuu mm-dd	58	64	
10	<u> </u>	[1]	yynniuu	yyyy-mm-uu	00	04	
Ť		<u>B</u>	1				
9 <u></u>							
変	 換前デ-	- タ表示	変換:	後データ表	₹示		
マップ	設定(簡易)	<u>א</u> גר → ۱	Min ランダムファ	(儿変換			
編集(E)	ツール(T)	60 C					
	X Ba P		Q. Win				OK skytel
<u>ا تتا</u>							
- 変換:	プレビュー -						
変	換元データ	: C:¥FTRAN	IP¥Planet				
				-"		= #= _= = =	
At	Atlas(A) チェック(2) ※変換データのプレビュー中は編集できません 入力ルード長の: 256 二						
No.	‡°୬°୬∍ン	デーが形式	入力幅	出力幅	入力桁	出力桁	☆ 変換後データ (1/10 レコード)
6		Ank teres	2		0	0	
/		(漢子)	8 10		2	2	小生 MEDCHIPY
9		Ank	9		20	20	7-4-19-
		パック・表示	u4.3		29	29	0.055
10		10 77 5000			0.0	97	0
10 11		アン表示	u2		33	07	
10 11 12		11 // & A/A ゾーン・表示 ゾーン・表示	u2 s2.1		33 35	39	-2.4
10 11 12 13		i /// &(示 ゾーン・表示 ゾーン・表示 漢字	u2 s2.1 20		33 35 38	39 44	0 -2.4 口神)神の使者
10 11 12 13 14		1100 & Kr ツーン・表示 ツーン・表示 漢字 年設定	u2 s2.1 20 w30		33 35 38 58	39 44 64	-2.4 ロ神)神の使者
10 11 12 13 14 15		1777 ッシャ表示 ッシャ表示 デン・表示 漢字 年設定 区切記号	u2 s2.1 20 w30 年.月.日	uuuu-mm-dd	33 35 38 58 58 58	39 44 64 64	0 -2.4 口神)神の使者 1998 04 30
10 11 12 13 14 15 16 17		 ア・フ・表示 ア・フ・表示 ア・フ・表示 ア・フ・表示 漢字 年設定 区切記号 日付 	u2 s2.1 20 w30 年.月.日 yymmdd	yyyy-mm-dd	33 35 38 58 58 58 58	39 44 64 64 64	0 -2.4 □神)神の使者 1998.04.30 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 4
10 11 12 13 14 15 16 17		10 9 9 9 10 - - - - - - - - - - - - -	u2 s2.1 20 w30 年.月.日 yymmdd	уууу-mm-dd	33 35 38 58 58 58 58	39 44 64 64 64	-2.4 □神)神の使者 1998.04.30 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 4

変換前/変換後のデータ表示の切り替えを行うボタンです。の表示が変わります。 前レコード/次レコード表示のためのボタンです。 ここには、入力レコード/出力レコードのポジション(桁)が表示されます。 データ表示は、変換前が16進、変換後が文字、未定義個所が16進になります。

(1)ポジション(桁位置)の指定

変換対象にするホスト側(入力)の桁位置や、変換結果を書き込むWindows側(出力) の桁位置を、別の任意の位置に移動できます。現在、処理対象にしている桁位置を、この指定で 強制的に変更できます。この機能を利用すると、項目の組み替えなどが簡単に実現できます。

入力桁位置は、ふつう10進数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(入力)のレコード長
- ホスト側(入力)の現在の桁位置
 という特殊変数が使えます。

たとえば、

\$ - 8
 と指定すれば、ホスト側(入力)レコード未尾の8バイト前に位置する
 . - 40
 と指定すれば、現在の入力桁位置から40バイト戻る

という意味になります。

出力桁位置を移動することもできます。ふつう、

:10進数 で桁位置を指定します。

10進数の代わりに式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ Windows側(出力)のレコード長
- Windows側(出力)の現在の桁位置
 という特殊変数が使えます。

注意 ---- 先頭を0桁目とする

F*TRAN+では、レコードの先頭を0桁目として数えます。

(2)ポジション(デリミタ位置)の指定

変換対象にするホスト側(入力)データのデリミタ形式の項目位置を、別の任意の項目位置に 移動できます。現在、処理対象にしている項目位置を、この機能で強制的に変更できます。この 機能を利用すると、デリミタ形式の項目の組み替えなどが簡単に実現できます。

デリミタ位置は、 @@入力項目番号 で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- ホスト側(入力)の現在の項目位置
- \$ ホスト側(入力)の入力全体の項目数
- * ホスト側(入力)の残りの項目数 という特殊変数が使えます。

たとえば、

@@ 2	と指定すれば、	今の入力項目から2項目戻る
@@\$-2	と指定すれば、	ホスト側(入力)レコード末尾から2項目に位置する

という意味になります。

注意 ---- 先頭を0項目目とする

F*TRAN+では、レコードの先頭項目を0項目目として数えます。

(3)ポジション(入力スキップ)の指定

ホスト側(入力)レコードに不要な項目があるとき、それをスキップして変換できます。

スキップする幅は、 ^バイト数 で指定します。

たとえば、3バイト分スキップしたいなら、 ^ 3 と指定します。

バイト数は省略でき、省略すると1バイトとみされるので、

^ 3 は ^ ^ ^ と指定したのと同じです。

スキップする幅は式による指定もでき、そのなかでは、

* ホスト側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

(4)ポジション(出力スキップ)の指定

入力スキップとは逆に、Windows側(出力)に何桁か空きを作ることもできます。空項 目を作るのがおもな用途です。

スキップする幅は、 __バイト数 で指定します。

たとえば、3バイト分スキップしたいなら、 __3 と指定します。

バイト数は省略でき、省略すると1バイトとみされるので、

__3 は ____ と指定したのと同じです。

スキップする幅は式による指定もでき、そのなかでは、

* Windows側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。
(5)24種類のデータ形式

[<u>Ank(1)</u>]

ANK項目を変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、どのコード変換が行われるかは、 変換設定のANKコードの設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。 入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(入力)のレコード長
- * ホスト側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、ANK項目のおわりのほうが切り捨てられます。逆に、項目長を伸ばすと、 Windows側のANK項目のおわりにスペース(20H)が詰められます。

出力幅は式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ Windows側(出力)のレコード長
- * Windows側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

[<u>漢字(2</u>)]

漢字項目を変換します。どのコード変換が行われるかは、変換設定の漢字変換方式の設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

入力幅は、10進のバイト数で指定します(漢字の文字数ではありません)。式による指定も でき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(入力)のレコード長
- * ホスト側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を大きくしなければならない場合があります。拡張漢字のクエスチョン変換を使っていて、オーバーフローの危険があるときなどです(最大で入力幅の3倍)。そのときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、漢字項目のおわりのほうが切り捨てられます(漢字の中央で切れることは ありません)。逆に、項目長を伸ばすと、Windows側の漢字項目のおわりに漢字変換方式 で設定されている漢字スペース(2020H/8140H)が詰められます。

出力幅は式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ Windows側(出力)のレコード長
- * Windows側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

[<u>Ank・漢字(3</u>)]

ANK・漢字まじり項目を変換します。どのコード変換が行われるかは、変換設定の漢字変換 方式の設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。ホストが汎用機・オ フコンの場合、漢字の前後にKI/KOがついていないと、この変換方法は適用できません。変 換後、KI/KOが取れて、その分左詰めにされます。

入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

\$ ホスト側(入力)のレコード長

* ホスト側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を変更したい場合があります。KI/KOが取れて短くなることや、逆に、拡張漢字の クエスチョン変換を使っていてオーバーフローの危険があるときなどです(最大で入力幅の3倍 -KI・KOのバイト数の合計)。そのときは、出力幅を指定します。 項目長を縮めると、ANK・漢字まじり項目のおわりのほうが切り捨てられます(漢字の中央 で切れることはありません)。逆に、項目長を伸ばすと、Windows側のANK・漢字まじ り項目のおわりにスペース(20H)が詰められます。

出力幅は式による指定もでき、そのなかでは、

\$ Windows側(出力)のレコード長

* Windows側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

[数値(4)]

文字形式の数値項目どうしの変換をします。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、 変換設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしてお かなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。数値変換は、Ank項 目変換と後述のゾーン・表示変換の中間的なものです。Ank項目変換と比較すると、

文字形式数値しか通さない 入力幅を省略すると15桁(バイト)とみなす 右詰めになる

などの点が異なります。

「文字形式数値しか通さない」というのは、具体的には、

+、-、0~9、ピリオド(.), E、e、D、d

しか変換しないで、これら以外の文字は捨ててしまうということです。たとえば、通貨記号 (¥/\$)や位取りのコンマ(,)などは削除されるので、リストファイルから入力データファ イルを作るときなどに利用できます。

[<u>ゾーン・表示(5)</u>]

ホストのCOBOLのゾーン形式数値項目を、文字形式数値項目に変換します。ホストが汎用 機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS 8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ 行います)。変換結果は右詰めになります。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 - 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 ピクチャは s 4 . 1 と指定します。なお、ピクチャは省略できません。 出力幅は省略できます。出力幅を省略すると、

符号つきなら1、符号なしなら0とする + 整数部桁数 + 1 + 小数部桁数(小数部があれば) 第4章 操 作 ——

の要領でピクチャから自動的に計算された値が使われます。たとえば、ピクチャ=s4.1、 出力幅=省略という指定は、出力幅に7を指定したのと同じ意味になります。

出力幅を明示的に指定するときは、オーバーフローに注意しながら10進のバイト数で指定し ます。オーバーフローすると、符号や上位桁が切り捨てられるので、注意してください。

[パック・表示(6)]

ホストのCOBOLのパック形式数値項目、BCD形式数値項目を、文字形式数値項目に変換 します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、E BCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セッ トアップ時に一回だけ行います)。変換結果は右詰めになります。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

-123.4 という数字が3バイトの符号つきパック形式の項目に記録されているとすれば、 ピクチャは s4.1 と指定します。123.4 という数字が3バイトのBCD形式の項目 に記録されているとすれば、ピクチャは b5.1 と指定します。なお、ピクチャは省略でき ません。

パック形式では、整数部桁数 + 小数部桁数を奇数にしておくのが通例です。

BCD形式では、整数部桁数 + 小数部桁数を偶数にしておくのが通例です。

整数部の最上位桁に意味があるのかないのかは、半々の割合です。

出力幅は省略できます。出力幅を省略すると、

符号つきパック形式なら1、符号なしパック形式・BCD形式なら0とする

+ 整数部桁数

+ 1 + 小数部桁数(小数部があれば)

の要領でピクチャから自動的に計算された値が使われます。たとえば、パック形式でピクチャ = s 4 . 1、出力幅=省略という指定は、出力幅に7を指定したのと同じ意味になります。BC D形式でピクチャ=b5.1、出力幅=省略という指定は、出力幅に7を指定したのと同じ意味 になります。

出力幅を明示的に指定するときは、オーバーフローに注意しながら10進のバイト数で指定し ます。オーバーフローすると、符号や上位桁が切り捨てられるので、注意してください。

[<u>バイナリ(7)</u>]

バイナリ変換(無変換)は、「コード変換を一切しない」という変換方法です。バイナリ変換には、Ank項目変換の説明がほぼそのまま当てはまります。

入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(入力)のレコード長
- * ホスト側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

= 第4章 操 作

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなされます。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、バイナリ項目のおわりのほうが切り捨てられます。逆に、項目長を伸ばすと、Windows側のバイナリ項目のおわりにNUL(00H)が詰められます。

出力幅は式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ Windows側(出力)のレコード長
- * Windows側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

Ank項目変換の説明が当てはまると書きましたが、実際の運用はかなり違ったものになります。とくに、レコード全体をバイナリ変換することが多いことです。このとき、レコード長が変わらないように出力レコード長は\$を指定します。また、レコードの一部をバイナリ項目として扱うこともあります。

 $[\neg - \forall - A (8)], [\neg - \forall - B (9)]$

ユーザーA/B変換は、利用者独自のバイト単位の変換処理が必要なときに、ANK変換表ユ ーザー用A、ユーザー用Bを書き替えて利用します。ユーザーA/B変換には、Ank項目変換 の説明がほとんどそのまま当てはまります。

入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(入力)のレコード長
- * ホスト側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、ユーザーA / B項目のおわりのほうが切り捨てられます。逆に、項目長を 伸ばすと、Windows側のユーザーA / B項目のおわりにNUL(00H)が詰められます。 出力幅は式による指定もでき、そのなかでは、

\$ Windows側(出力)のレコード長

* Windows側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

第4章 操 作 —

[<u>ゾーン・ゾーン(A</u>)]

ホストのCOBOLのゾーン形式数値項目を、Windows COBOLのゾーン形式数値 項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの 設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふ つう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 入力ピクチャは s 4 . 1 と指定します。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「出力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、出力ピクチャ=s4.1という指定は、入力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「入力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

なお、入力ピクチャと出力ピクチャを同時に省略することはできません。

[<u>パック・パック(B)</u>]

ホストのCOBOLのパック形式数値項目、BCD形式数値項目を、Windows СОВ OLのパック形式数値項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換 設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかな ければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が3バイトの符号つきパック形式の項目に記録されているとすれば、 入力ピクチャは s 4 .1 と指定します。1 2 3 .4 という数字が3バイトのBCD形式の 項目に記録されているとすれば、入力ピクチャは b 5 .1 と指定します。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「出力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、出力ピクチャ=s4.1という指定は、入力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「入力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

なお、入力ピクチャと出力ピクチャを同時に省略することはできません。

[<u>ゾーン・パック(C</u>)]

ホストのCOBOLのゾーン形式数値項目を、Windows COBOLのパック形式数値 項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの 設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふ つう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 入力ピクチャは s 4 . 1 と指定します。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「出力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、出力ピクチャ=s4.1という指定は、入力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「入力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

なお、入力ピクチャと出力ピクチャを同時に省略することはできません。

[<u>パック・ゾーン(D)</u>]

ホストのCOBOLのパック形式数値項目、BCD形式数値項目を、Windows СОВ OLのパック形式数値項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換 設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかな ければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が3バイトの符号つきパック形式の項目に記録されているとすれば、 入力ピクチャは s 4 .1 と指定します。1 2 3 .4 という数字が3バイトのBCD形式の 項目に記録されているとすれば、入力ピクチャは b 5 .1 と指定します。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「出力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、出力ピクチャ=s4.1という指定は、入力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「入力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

なお、入力ピクチャと出力ピクチャを同時に省略することはできません。

第4章 操 作 —

[<u>年設定(E)</u>]

日付データ項目を変換する際の、年の2桁(yy)と4桁(yyyy)の交換方式を設定しま す。Wnn、または、Snnの形式で設定します。Wnnの"W"はウインドウ方式を、Snn の"S"はシフト方式を意味し、"nn"は00~99の数字で指定します。

入力幅に W30 と指定すれば、入力データの年を1930~2029年とみなし、 出力幅に S25 と指定すれば、出力データの年下2桁を、-25します。

また、シフト方式("Snn"指定)では、つぎの特殊指定ができます。

SShowa は、"S25"の指定と同じ(昭和通年方式)

SHeisei は、"S88"の指定と同じ(平成通年方式)

年設定は日付項目変換が実行された時に適用になり、複数の年設定がなされている場合は、日 付項目変換の直前の年設定が有効になります。

年設定がない場合の日付項目変換のデフォルトは、入力幅/出力幅ともに、 W30 となり、 入出力データの年を1930~2029年とみなします。

[<u>区切記号(F)</u>]

日付データ項目を出力する際の日付区切り記号をつぎの3つの中から設定します。入力幅に、 SLASH、または、HYPHEN、または、PERIODと入力します。

<u>指 定 文 字</u>	<u>日付区切り記号</u>	<u>データ例</u>
SLASH	/(スラッシュ)	1 9 9 8 / 1 2 / 3 1
ΗΥΡΗΕΝ	- (ハイフン)	1998 - 12 - 31
PERIOD	.(ピリオド)	1998.12.31

日付区切り設定は日付項目変換が実行された時に適用され、複数の日付区切り設定がなされている場合は、日付項目変換の直前の日付区切り設定が有効になります。

日付区切り設定がない場合の日付項目変換のデフォルトは、 SLASH となり、日付区切り記号を"/"にします。

[<u>日付(G</u>)]

日付データ項目を変換します。コード変換は、変換設定のANKコードの設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

入力幅と出力幅は、必ず日付マスクの形式で指定し、省略はできません。日付マスクの指定方 法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 入力幅に、 yymmdd

コード変換後に、入力側6バイトの日付データ項目を、出力側10バイトの日付データ項目に 編集します。その際に、年設定、日付区切り設定が適用になります。

[表示・ゾーン(I)]

ホストの文字形式数値項目を、Windows COBOLのゾーン形式数値項目に変換しま す。通常は、ホストがUnixまたはWindowsの場合に使います。ホストが汎用機・オフ コンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/AS CII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

入力幅は、バイト数で指定します。省略すると15バイトとみなされるので、プリント形式からの変換の場合は、ふつうは明示的に桁数を指定します。デリミタ形式からの変換の場合は、数値項目が15バイトを超えることは少ないので、省略するほうがふつうです。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 . 4 という数字を5 バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録するとすれば、ピクチャは s 4 . 1 と指定します。なお、ピクチャは省略できません。

まとめると、プリント形式からの変換の場合は、

入力幅=8、ピクチャ=s4.1のような指定になり、

デリミタ形式からの変換の場合は、

入力幅=省略、ピクチャ=s4.1 のような指定になるのがふつうです。 ただし、入力幅が15バイトを超えるときは、

入力幅 = <u>20</u>、ピクチャ = u 15.2のように、ダミーの入力幅を指定します。

第4章 操 作 —

[<u>表示・パック (J)</u>]

ホストの文字形式数値項目を、Windows COBOLのパック形式数値項目に変換しま す。通常は、ホストがUnixまたはWindowsの場合に使います。ホストが汎用機・オフ コンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/AS CII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

入力幅は、バイト数で指定します。省略すると15バイトとみなされるので、プリント形式からの変換の場合は、ふつうは明示的に桁数を指定します。デリミタ形式からの変換の場合は、数値項目が15バイトを超えることは少ないので、省略するほうがふつうです。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 . 4 という数字を 3 バイトの符号つきパック形式の項目に記録するとすれば、ピクチャは s 4 . 1 と指定します。なお、ピクチャは省略できません。

まとめると、プリント形式からの変換の場合は、

入力幅=8、ピクチャ=s4.1のような指定になり、

デリミタ形式からの変換の場合は、

入力幅=省略、ピクチャ=s4.1のような指定になるのがふつうです。

ただし、入力幅が15バイトを超えるときは、

入力幅 = <u>20</u>、ピクチャ = u 15.2のように、ダミーの入力幅を指定します。

[<u>表示・2進(K)</u>]

ホストの文字形式数値項目を、Windowsの2進形式整数・小数項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に ー回だけ行います)。

入力幅は、バイト数で指定します。省略すると15バイトとみなされるので、プリント形式からの変換の場合は、ふつうは明示的に桁数を指定します。デリミタ形式からの変換の場合は、数値項目が15バイトを超えることは少ないので、省略するほうがふつうです。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえ ば、 -123.4 という数字を4バイトの符号つき2進形式の項目に記録するとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i4s4.1 と指定します。なお、2進キャストは省略できません。 まとめると、プリント形式からの変換の場合は

入力幅 = 10、2進キャスト/ピクチャ = i 4 s 4 . 1 のような指定になり、 デリミタ形式からの変換の場合は

入力幅=省略、2進キャスト/ピクチャ=i4s4.1 のような指定になるのがふつう です。ただし、入力幅が15バイトを超えるときは、

入力幅 = <u>20</u>、2進キャスト / ピクチャ = i 8 u 1 5 . 2 のように、ダミーの入力幅を 指定します。

= 第4章 操 作

[<u>2進・表示(L</u>)]

ホストの2進形式整数・小数項目を、Windowsの文字形式数値項目に変換します。変換 結果は右詰めになります。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 -123.4 という数字が4 バイトの符号つき2 進形式の項目に記録されているとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i4s4.1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

出力幅は省略できます。出力幅を省略すると、

入力幅	出力幅	
1	3	
2	5	
3	8	
4	10	
5	13	左記の値を基本として、
6	15	符号つきなら+1、ピクチャ指定の小数部があれば+1とし、
7	17	さらに、ピクチャ指定のほうが大きければ、
8	18	整数部桁数に、符号つきなら+1、小数部があれば+1+小数点桁数

の要領で2進キャスト/ピクチャから自動的に計算された値が使われます。例を示すと、入力 幅=i4s4.1、出力幅=省略という指定は、出力幅=10という指定と同じです。

出力幅を明示的に指定するときは、オーバーフローに注意しながら10進のバイト数で指定し ます。オーバーフローすると、符号や上位桁が切り捨てられるので、注意してください。

[<u>ゾーン・2進(M)</u>]

ホストのCOBOLのゾーン形式数値項目を、Windowsの2進形式整数・小数項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、 EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 - 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 入力ピクチャは s 4 .1 と指定します。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえ ば、 -123.4 という数字を4バイトの符号つき2進形式の項目に記録するとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i4s4.1 と指定します。なお、2進キャストは省略できません。 入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「2進キャスト / ピクチャ」と同

第4章 操 作 —

[<u>パック・2進(N</u>)]

ホストのCOBOLのパック形式数値項目を、Windowsの2進形式整数・小数項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、 EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が5 バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 入力ピクチャは s 4 . 1 と指定します。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 - 1 2 3 . 4 という数字を 4 バイトの項目に記録するとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i 4 s 4 . 1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「2進キャスト/ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、2進キャスト/ピクチャ=i4s4.1という指定は、入力ピクチャ=s4.1を指定したのと同じ意味になります。

[<u>2進・ゾーン(0)</u>]

ホストの2進形式整数・小数項目を、Windows COBOLのゾーン形式数値項目に変換します。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 -123.4 という数字が4 バイトの符号つき2 進形式の項目に記録されているとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i4s4.1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 . 4 という数字を5 バイトの項目に記録するとすれば、ピクチャは s 4 . 1 と指定します。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「2進キャスト/ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、2進キャスト/ピクチャ=i4s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ=s4.1を指定したのと同じ意味になります。

[2進・パック(P)]

ホストの2進形式整数・小数項目を、Windows COBOLのパック形式数値項目に変換します。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 -123.4 という数字が4 バイトの符号つき2 進形式の項目に記録されているとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i4s4.1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 . 4 という数字を 3 バイトの項目に記録するとすれば、ピクチャは s 4 . 1 と指定します。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「2進キャスト/ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、2進キャスト/ピクチャ=i4s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ=s4.1を指定したのと同じ意味になります。

[2進・2進(Q)]

ホストの2進形式整数・小数項目を、Windowsの2進形式整数・小数項目項目に変換し ます。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 - 1 2 3 . 4 という数字を 4 バイトの符号つき 2 進形式の項目とする場合、2 進キャスト / ピクチャは i 4 s 4 . 1 と指定します。

2 進キャスト / ピクチャは入力または出力のどちらかを省略できます。入力を省略すると「出力と同じ」とみなされ、出力を省略すると「入力と同じ」とみなされます。なお、入力 2 進キャスト / ピクチャを同時に省略することはできません。

[バイナリ反転(R)]

バイナリ反転は、「コード変換を一切せずに、幅分のデータをバイト単位で左右反転する」と いう変換方法です。2進数値データ(整数、小数、実数)は、ホスト側が正順であるのに対して、 Windows側が逆順であることが多いので、2進数値データの内容をそのままバイト単位で 左右反転する場合等に使用します。2進・2進変換のような加工機能はありませんが、その分だ け処理が高速です。

幅は、10進のバイト数で指定します。たとえば4バイトの入力データが、16進表現で、 01 AB CD EF であれば、出力データは EF CD AB 01 になります。

(6)引用符はずしの指定

ホストがUnix、Windowsの場合、デリミタ形式からの変換の場合には、項目が引用 符(")でくくられていることがあります。その引用符は無視します。また、引用符でくくった なかにデリミタがあっても、ただの文字データとして扱います。

(7)改行コード挿入の指定

Windows側(出力)レコードに改行コード(CR/LF=0D0AH)を挿入します。 改行コード挿入には 通常、強制 の2種類がありますが、ホスト Winランダムファイル変 換では違いはありません。

ふつう、項目長の増減がない単純な変換のときマップ項目の最後に指定し、テキストファイル 化するのに使います。そのときは、改行コードの2バイト分Windowsレコード長が増える ので、出力レコード長オプションでその分を\$+2と指定して調整するのを忘れないでください。

変換結果のテキストファイル化には、本来はホスト Winデータファイル変換のプリント形 式への変換機能を使うべきです。これなら、変換後のレコード長をほとんど意識する必要があり ません。 <マップ設定(詳細)ウインドウ>



マップ設定の記述をするエディットボックスです。

~ はファイル(<u>F</u>) 編集(<u>E</u>)のメニューの機能がボタン化されています。 既存のパラメータファイル等を読みます。

の内容をパラメータファイルへ保存します。 直前の編集作業が無効になり、元に戻ります。 選択した文字列が切り取られ、カットバッファに入ります。 選択した文字列がカットバッファに入ります。

/ の操作でカットバッファに入った内容を、カーソルがある位置へ貼りつけます。 カーソルがある位置以降に文字列があれば、挿入になります。 選択した文字列が削除されます。

の文字列をすべて選択状態にします。

設定が完了したら、OKボタンをクリックします。 キャンセルボタンをクリックすると、すべての入力 / 編集作業が無効になります。

注意 ---- マップ設定(詳細)の記述内容について

マップ設定(詳細)のエディットボックスの中に記述する内容は、レコードレイアウト(/m apを含まない/map以降)のみの記述となります。既存のパラメータファイルを読み込むと、 それ以外の記述(/delimited~、/map等)は自動的にコメントになります。記述 に誤りがある状態でOKボタンをクリックすると、エラーとなる場合があります。修正してから 再度OKボタンをクリックしてください。/map以降の文法については、「コマンド編」の「コ マンド型の実行」の章を参照してください。

例)マップ設定(詳細)にパラメータファイル "PNGETRND.P"を読み込む

/hostsiz	ze 256	ホストレコード長=256バイト	
/size 74	ŀ	Windowsレコード長 = 7 4 バイト	> コメントになる行
/map			
ank	2	No.(惑星番号)	
kanji	8	和名	
ank	10	英名	
ank	9	読み	
packd	u4.3	質量比	
zoned	u2	衛星数(確定済)	〉変換時に、
zoned	s2.1	極大等級(見かけ上の最大の明るさ)	使われる行
kanji	20	英名の意味・由来	
year	w30	<年設定:1930-2029>	
dated	period	<日付区切り設定:9999.99.99>	
date	yymmdd:yyyy	y-mm-ddレポート提出年月日	

ホスト Winランダムファイル変換の実行

変換ボタンをクリックすると、ホスト Winランダムファイル変換が始まります。

ファイル内容表示ウインドウ

変換結果表示(<u>V</u>)のチェックボックスをONにし、ホスト Winランダムファイル変換を 実行すると、実行ウインドウを閉じた後につぎのファイル内容表示ウインドウが開き、変換先の ファイルの中身を確認することができます。



変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルのレコード長が表示されます。

変換先のファイルの中身が、 で選択されている表示タイプで出力されます。 デフォルトは、レコード長単位のHEX+文字表示(Winランダム)です。

の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えます。 フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、の出力文字フォントを切り替えます。 ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、の内容をファイルに保存します。 桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト) 1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えます。 OKボタンをクリックして、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

注意事項

<u>漢字があるときの注意</u>

漢字項目変換やAnk・漢字まじり項目変換を行うときは、あらかじめ

変換設定の漢字変換方式設定で、適当な漢字変換方式を割り当てておく

のを忘れないでください。また、入力幅、出力幅は漢字データについても

バイト単位で指定

します。漢字の文字数ではないことに注意してください。

その他の注意事項

「ホスト Winファイル変換」の節を参照してください。

第4章 操 作 =

4.6 Win $\pi h 2 \pi h 2$

ここでは、Win ホストファイル変換の共通事項を説明します。

ホストが汎用機・オフコンの場合

🥂 F*TRAN+	
ファイル(E) ツール(T) 変換設定(型) 変換時加が表示(K) ヘルフペ(H)	
ホスト → Winファイル変換 Win → ホストファイル変換	
Winファイル名(W): C:¥FTRANP¥*.* 参照(Y) Win 、ホスト	
ホストファイル名仰: C:¥FTRANP¥*.put 参照位)	
【Win変換方法】	.
○ テキストファイル(2) ○ データファイル(2) ○ ランダムファイル(B) マップ設定(P)	
Win/フンヨノーー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
▲ 入力形式(L): プリント ■ 詳細(C) ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
レコード長(Q): 256 <u>+</u> 変換(<u>G</u>) 変換(<u>G</u>)	
コード 変換表 ファイル:F-TRAN.CCT (標準設定(汎用機・オフコン))	•
ANK コード: FBCDIC (加加力) 漢字変換方式: JEF WinCOBOL・宮士通	<u> </u>
ヘルフ を表示するには [F1] を押してください。 NUM	

Win ホストのタブをクリックし、メイン処理部をWin ホストファイル変換にします。 変換元のWindowsファイル名を指定します。

変換元のWindowsファイル名を決定する参照ウインドウを開くボタンです。

変換先のホストファイル名を指定します。

変換先のホストファイル名を決定する参照ウインドウを開くボタンです。

変換方法を選択するラジオボタンです。

Winファイルのオプション項目です。 の選択によって、オプションの内容が変わります。 ホストファイルのオプション項目です。 の選択によって、オプションの内容が変わります。 マップ設定(レコードレイアウト設定)をするオプションボタンです。

変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換実行時の問い合わせ・確認ウインドウ表示の選択をするチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。

ホストがUnix、Windowsの場合



Win のホストタブをクリックし、メイン処理部をWin ホストファイル変換にします。 変換元のホストファイル名を指定します。

変換元のホストファイル名を指定する参照ウインドウを開くボタンです。

変換先のWindowsファイル名を指定します。

変換先のWindowsファイル名を指定する参照ウインドウを開くボタンです。

Winファイルの変換方法を選択するラジオボタンです。変換の基準となる項目です。

Winファイルのオプション設定です。

ホストファイル(出力ファイル)の形式を選択するラジオボタンです。

ホストファイルのオプション設定です。

マップ設定(レコードレイアウト設定)をするオプションボタンです。

変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換実行時の問い合わせ・確認ウインドウ表示の選択をするチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。 Windowsファイル指定

[d:][パス名指定]基本ファイル名[.拡張子]

d:はドライブ名

入力側のWindowsファイルを指定します。

ドライブ名は、A:~Z:、@:、?:のどれかで指定します。ドライブ名を指定すると、そのドライブを検索します。

ドライブ名は省略可能です。ドライブ名を省略すると、カレントドライブを検索します。

パス名指定(¥ディレクトリ名¥サブディレクトリ名¥・・・)ができます。指定したディレクトリ配下のファイルを検索します。パス名指定を省略すると、カレントディレクトリを検索します。

基本ファイル名と拡張子には、ワイルドカード文字(*と?)を使うことができます。ワイル ドカード文字を使うと、一致するファイルをすべて検索し変換の対象にします。

まとめると、あるディレクトリのファイルをすべて変換したいなら、

C:*.* のように指定し、

拡張子が.DATのファイルをすべて変換したいなら、

C:*.DAT のような指定になります。

Windowsファイル参照ウインドウ

Windowsファイルの参照ボタンをクリックすると、つぎのウインドウが開きます。

知識				?
ファイルの場所①	🔄 Ftranp) 🗈 💆 😁	
🚞 Ole	🔛 F.kkt	🔊 Fp.sys	🔂 Fpmp.pdf)
🚞 Vbsample	폐 Fp.cnt	🖺 Fpglog.txt	🖺 Fpplog.txt	9
🚞 Vcsample	🔄 Fp.err	🔂 Fpmc.pdf	폐 Ft.knj	2
🚞 Zengin	🙀 Fp.exe	🔂 Fpmd.pdf	📓 F-tran.cct	2
🖬 DeIsL1.isu	🔊 Fp.gid	🔂 Fpmk.pdf	📓 H.cct	2
属 F.cct	🥏 Fp.hlp	🔂 Fpmm.pdf	🗊 H.kkt	2
•				Þ
ファイル名(N):				璧択(<u>F</u>)
ファイルの種類(工):	すべてのファイル(*.*)		▼ キャン	セル
			フォルタう	選択(C)

変換元のファイルを直接指定する場合は、ファイル名を選択して、ファイル選択(<u>F</u>)ボタン をクリックします。

変換元の場所(どこのフォルダのファイルを変換の対象にするか)を指定する場合は、フォル ダ選択(<u>C</u>)ボタンをクリックします。ファイル名にフォルダまでのフルパスが入力され、確定 します。 第4章 操 作 ——

ホストファイル指定

[d:][パス名指定]基本ファイル名[.拡張子]

d:はドライブ名

出力側のホストファイルを指定します。

ドライブ名は、A:~Z:、@:、?:のどれかで指定します。ドライブ名を指定すると、そのドライブにファイルを作ります。

ドライブ名は省略可能です。ドライブ名を省略すると、カレントドライブにファイルを作ります。

パス名指定(¥ディレクトリ名¥サブディレクトリ名¥・・・)ができます。指定したディレ クトリ配下にファイルを作ります。パス名指定を省略すると、カレントディレクトリにファイル を作ります。

基本ファイル名の部分には、ふつうの基本ファイル名、または*を指定します。*を指定する とWindowsファイルの基本ファイル名がホストファイルの基本ファイル名になります。

拡張子を省略すると、拡張子なしのファイルになります。しかし、拡張子をつけたほうがファ イルの管理が容易になるので、なるべく適当な拡張子を指定してください。拡張子に*を指定す るとWindowsファイルの拡張子がホストファイルの拡張子になります。

以上がディスクファイルの指定方法です。まとめると、基本ファイル名を引き継ぐときは

C:*.DAT のような指定になり、

ファイル名をつけ替えるときは

C:NEWNAME.DAT のような指定になります。

ホストファイル参照ウインドウ

ホストファイルの参照ボタンをクリックすると、つぎのウインドウが開きます。

参照				? ×
ファイルの場所仰:	🔁 Ftranp		- 🗈 🗹 🖻	6-6- 6-6- 6-6-
Ole Vbsample Zengin DeIsL1.isu	F.kkt	 Normalized Fp.sys Fpeloe.txt Fpmc.pdf Fpmd.pdf Fpmk.pdf Fpmm.pdf 	The France of F	I I I I I I I I I I
▼ マアイル名(N): ファイルの種類(T):	マン・トー・ト すべてのファイル(***)		7741 • ** 771/	レ 選択(F) ル ジ セル い 選択(C)

変換先のファイルを直接指定する場合は、ファイル名を選択して、ファイル選択(<u>F</u>)ボタン をクリックします。

変換先の場所(どこのフォルダに変換後のファイルを作成するか)を指定する場合は、フォル ダ選択(<u>C</u>)ボタンをクリックします。ファイル名にフォルダまでのフルパスが入力され、確定 します。 第4章 操 作 ———

その他の指定

変換結果表示指定

変換後に、変換先のWindowsファイルの中身を表示ウインドウに出力するかどうかを指定します。出力する場合は、変換結果表示のチェックボックスをONにします。

出力の形式は、変換方法によって異なりますので、それぞれの変換方法の節を参照してください。

問合わせ・確認指定

1ファイルごとに処理を問い合わせるか否かを指定します。 問合わせ・確認のチェックボックスを、

ONにすると、変換するか否かを問い合わせる指定 OFFにすると、ファイル名の確認なしで自動変換する指定 となります。

問合わせ・確認指定がONであれば、ファイル名を確認しながら変換できます。

F * T R A N + は、1ファイルごとに変換を実行するか問い合わせてきます。

つぎのどれかで応答してください。この機能は、比較的小さいファイルが多数あって、そのう ちいくつかを選んで変換したいときなどに、便利です。

<u>1ファイルの変換</u>		
	F*TRAN+	×
	?) C:¥FTRANP¥Planet.prn → C:¥FTRANP¥Planet.put 変換	ミしますか ?
	<u> ほい役</u> いいえ(<u>N</u>)	

はい(<u>Y</u>) いいえ(N) 表示中のファイルを変換する 表示中のファイルは変換しない

<u>2ファイル以上の変換</u>

F*TRAN+			×
C:¥FTR	ANP¥PLANET.PRN	\rightarrow C:¥FTRANP¥PL	ANET.put
	変換しま	ますか?	
	すべて変換(<u>A</u>)	いいえ(<u>N</u>)	キャンセル

はい(Y) 表示中のファイルを変換する

すべて変換(<u>A</u>)全ファイル変換に切り替え、以降のファイルをすべて変換するいいえ(<u>N</u>)表示中のファイルは変換しない

キャンセル これ以降の変換処理を中断する

問合わせ・確認指定がOFFであれば、ファイル名の確認なしで、自動的に指定のファイルを すべて変換します。こちらがデフォルトです。

変換時の実行ウインドウ

変換ボタンをクリックすると、Winホストファイル変換が始まり、つぎの実行ウインドウが開きます。



変換中のメッセージを表示するメッセージフィールドです。 変換が始まると、"変換開始."というメッセージ表示につづいて、 "Windowsファイル名 ホストファイル名 ~ファイル変換."が表示され、 変換が正常終了すると、"変換終了."と表示されます。 変換中の進行状況(進行度%出力)を表示するフィールドです。 変換中のエラーメッセージを表示するフィールドです。 変換中は「中止(Q)」と表示されています。 変換中にこのボタンをクリックすると、変換を途中で中止します。 変換が終了したら、その変換結果を確認して、"閉じる"ボタンをクリックします。 おもにコード変換に関する現在の設定が表示されています。

注意事項

同名ファイルは置換する

すでに同じ名前のホストファイルがある場合、自動的に元のファイルを削除し、新たに変換し たファイルで置き替えます。このとき警告メッセージは出ないので注意してください。

第4章 操 作 =

4.7 Win ホストテキストファイル変換

Win ホストテキストファイル変換の操作方法について説明します。

ホストが汎用機・オフコンの場合

プライル(E) ツール(T) 変換設定(S) 変換時ロが表元(K) ヘルフ*(H)	
ホスト → Winファイル変換 Win → ホストファイル変換	1
Winファイル名(W): C:¥FTRANP¥*.*	<u>参照()</u> Win ホスト
v ホストファイル名(D: C:¥FTRANP¥*.put	参照②
【Win変換方法】	
● 〒キストファイル図) ● データファイル(型) ● ランダムコ	ファイル(B) マップ設定(2)
「Winオプション	
▼ タブ拡張(U) … タブ間隔(U): 8 🕂 詳細	■© ■© ■ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
┌ ホストオプション	
レコード長(Q): 80、 📑 コード設定(U): Ank	
コード 変換表 ファイル:F-TRAN.©CT (標準設定)	\$汎用機・オフコン)))
ANK コード: EBCDIC (加効ナ) 漢字変換方式: JEF	WinCOBOL:富士通

変換方法のテキストファイル(X)をクリックし、

Win ホストテキストファイル変換を選択します。

タブ拡張の有無を指定するオプションのチェックボックスです。

でタブ拡張のチェックをONにしたとき、タブ間隔を指定できます。

Winファイルの詳細オプションボタンです。EOF検査の選択ができます。

ホストファイルのレコード長を指定します。

ANK変換かAnk・漢字(KI/KO付)混在変換かを指定するオプションです。 変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。

Win ホストファイル変換の共通指定項目は、「Win ホストファイル変換」の節ですで に詳しく説明しました。そちらを参照してください。

ホストがUnix、Windowsの場合



Win変換方法のテキストファイル(<u>X</u>)をクリックし、ホスト Winテキストファイル 変換を選択します。ホストファイル形式は、テキストファイル(<u>J</u>)固定になります。 タブ拡張の有無を指定するオプションのチェックボックスです。

でタブ拡張のチェックをONにしたとき、タブ間隔を指定できます。 Winファイルの詳細オプションボタンです。EOF検査の選択ができます。 タブ圧縮の有無を指定するオプションのチェックボックスです。

でタブ圧縮のチェックをONにしたとき、タブ間隔を指定できます。 ホストファイルの詳細オプションボタンです。EOF付加の選択ができます。 ホストがWindowsの場合のみ有効です。ホストがUnixの場合はありません。 変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。

ホスト Winファイル変換の共通指定項目は、「ホスト Winファイル変換」の節ですで に詳しく説明しました。そちらを参照してください。 第4章 操 作 ——

オプションの指定

タブ拡張のオプション

タブ拡張の有無と、タブ拡張するときのタブ間隔を指定します。タブ拡張とは、TAB(09 H)をつぎのタブ位置の直前までの連続スペースに展開することです。

タブ拡張のチェックボックスを、

ONにすると、タブ拡張する指定OFFにすると、タブ拡張しない指定 となります。

タブ拡張指定がONであれば、タブ拡張します。タブ間隔は、2~255の範囲で指定し、それがレコードのおわりまで繰り返し適用されます。タブ間隔のデフォルトは標準のタブ間隔(8 桁きざみ)になります。これがデフォルトです。

タブ拡張指定がOFFであれば、タブ拡張はしません。

EOF検査指定

EOFコード(1АН)を検査するか否かを指定します。

EOF検査のチェックボックスを、

ONにすると、EOFコードを検査する指定

OFFにすると、EOFコードを検査しない指定 となります。

EOF検査指定がONであれば、EOFコードを検査し、EOFコードが現れたら変換を終了 します。こちらがデフォルトです。

EOF検査指定がOFFであれば、EOFコードを検査しません。単なるデータとして扱います。

ホストファイル・レコード長指定 <ホストが汎用機・オフコンの場合のみ>

ホストファイルのレコード長を1~32767の範囲の10進数で指定します。デフォルトは、 80バイト です。レコード長の指定が間違っていると正しいデータ変換が行われませんので、 この指定は極めて重要です。

コード設定オプション <ホストが汎用機・オフコンの場合のみ>

ホストファイル側のコード系(ANK変換かAnk・漢字(KI/KO付)混在変換か)を指 定します。

Ank指定

Ank指定すると、すべてANKデータとして変換します。これがデフォルトです。

<u>Windows側</u>	<u>ホ ス ト 側</u>
	JIS8/ASCII
JIS8/ASCII	
	EBCDIC(英小文字)

の3とおりの変換が可能です。あらかじめ、変換設定のANKコード設定でホストファイル側のコード系を設定しておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に1回だけ行います)。 漢字がまじっているときは、つぎのAnk・漢字(KI/KO付)混在指定を使ってください。

Ank・漢字(KI/KO付)混在指定

ANK・漢字混在で、KI/KOつきに変換するとき、この指定をします。あらかじめ、変換 設定の漢字変換方式設定で適切な漢字変換方式の割り当てをしておかなければいけません(ふつ う、セットアップ時に1回だけ行います)。 タブ圧縮のオプション <ホストがUnix、Windowsの場合のみ>

タブ圧縮の有無と、タブ圧縮するときのタブ間隔を指定します。タブ圧縮とは、タブ位置の直 前までつづく2個以上の連続スペースを、TAB(09H)に置き替えることです。

タブ圧縮のチェックボックスを、

ONにすると、タブ圧縮する指定

OFFにすると、タブ圧縮しない指定 となります。

タブ圧縮指定がONであれば、タブ圧縮します。タブ間隔は、2~255の範囲で指定し、それがレコードのおわりまで繰り返し適用されます。タブ間隔のデフォルトは標準のタブ間隔(8 桁きざみ)になります。

タブ圧縮は、ソースプログラムなど空白部分が多いファイルの、変換後のファイル容量を減ら すのに効果的です。

なお、文字列定数中のスペースまでTABに変換してしまうことを避けるため、アポストロフ ィ(')か引用符(")が見つかると、その行についてはそこでタブ圧縮を打ち切ります。

タブ圧縮指定がOFFであれば、タブ圧縮はしません。これがデフォルトです。

EOF付加指定 <ホストがWindowsの場合のみ>

EOFコード(1AH)の扱いを指定します。

EOF付加のチェックボックスを、

ONにすると、EOFコードをつける指定 OFFにすると、EOFコードをつけない指定 となります。

EOF付加指定がONであれば、WindowsファイルのおわりにEOFコードをつけます。 現在では少なくなりましたが、テキストファイルのおわりにEOFコードがついていないとエラ ーにするソフトがあります。その場合にも対処するための機能です。

EOF付加指定がOFFであれば、EOFコードはつけません。これがふつうだと思ってくだ さい。こちらがデフォルトです。

Win ホストテキストファイル変換の実行

変換ボタンをクリックすると、Win ホストテキストファイル変換が始まります。

ファイル内容表示ウインドウ

変換結果表示(<u>V</u>)のチェックボックスをONにし、Win ホストファイル変換を実行する と、実行ウインドウを閉じた後につぎのファイル内容表示ウインドウが開き、変換先のファイル の中身を確認することができます。

<ホストが汎用機・オフコンの場合>

		$\langle \rangle$	$\langle \rangle$
ファイル内容表示			×
ファイル名: 🏼	ン¥FTRANP¥Jupiter.put レコード長:	80	1~
レコート [*] 0= 0〜 75 16進Higt Low ANK 漢字Ever 0dd	ANK:EBCDIC(物材) 漢字:JIS + 8080) 0+12+345+56+7+) 444444444444444444444444444444444		
レコート* 1 = 0〜 75 16進Higt Low ANK 漢字Ever 0dd	ANK:EBCDIC(物材) 漢字:JIS + 8080 0+12+345+6+7+ 1 44444ECC4DCDC4EDDCD4EEEECD44644DEDCECD4CDC4CE7E4ECECDDCECE44444444444		
レコート*2 = 0~ 75 16進Higt Low ANK 漢字Ever Odd	ANK:EBCDIC(物力) 漢字:JIS + 8080 0+1		
レコート* 3 = 0〜 75 16進Higt Low	ANK:EBCDIC(加加) 漢字:JIS + 8080 0+		V V
表示タイプ(D: HEX+文字表示(収トランダム) フォント(E) ファイル出力(P)		K

変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルのレコード長が表示されます。

変換先のファイルの中身が、

レコード長単位のHEX+文字表示(ホスト)形式で出力されます。

の表示タイプは、HEX+文字表示(ホスト)固定です。

フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、の出力文字フォントを切り替えることができます。 ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、の内容をファイルに保存できます。

桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)

1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。

OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

<ホストがUnixの場合>



変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルの中身が、 で選択されている表示タイプで出力されます。
デフォルトは、改行コード単位のHEX+文字表示(ホストテキスト&データ)です。の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えます。
フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、 の出力文字フォントを切り替えることができます。
ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、 の内容をファイルに保存できます。
桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)、
1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。
OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。
<ホストがWindowsの場合>



変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルの中身が、 で選択されている表示タイプで出力されます。
デフォルトは、改行コード単位のHEX+文字表示(Winテキスト&データ)です。の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えます。
フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、 の出力文字フォントを切り替えることができます。
ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、 の内容をファイルに保存できます。
桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)、
1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。
OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

第4章 操 作 =

注意事項

<u>漢字があるときはコード設定オプションをAnk・漢字(KI/KO付)混在にすることを忘れずに</u>

漢字が入っているときは、あらかじめデータ交換の相手のシステムに合わせて、

変換設定の漢字変換方式設定で、適当な漢字変換方式を割り当てておく

のを忘れないでください。また、ホストが汎用機・オフコンの場合、変換のとき、

コード設定オプションをAnk・漢字(KI/KO付)混在にするのを忘れがち

なので注意してください。

タブ拡張について

ふつう、タブ拡張は必須です。多くの場合、ホストファイルを受けとるシステムのほうでタブ をサポートしていないか、サポートしていてもタブ間隔の設定が異なっています。

あふれた分は捨てられる

Windowsファイルの1行が、変換後ホストファイルの1レコードに入り切れないときは、 あふれた分が切り捨てられます。そのときはもっと大きなレコード長を指定して再変換してくだ さい。とくに、ホストが汎用機・オフコンの場合、Ank・漢字(KI/KO付)混在変換をし たとき、KI/KOが挿入されて、変換後1行の長さが増えることに注意してください。

改行コードがないと、1件だけの変換になる

Windowsファイルの各レコードの末尾に改行コードがついていないと、先頭の1件だけ 変換されます。この場合は、Win ホストランダムファイル変換を使うべきです。

その他の注意事項

「Win ホストファイル変換」の節を参照してください。

第4章 操 作 =

4.8 Win ホストデータファイル変換

Win ホストデータファイル変換の操作方法について説明します。

ホストが汎用機・オフコンの場合

////////////////////////////////////	
ホスト → Winファイル変換 Win → ホストファイル変換	
Winファイル名(W): C¥FTRANP¥*.*	<u>参照♡</u> Win ★ ホスト
✓ ホストファイル名型: C¥FTRANP¥*.put	
【Win変換方法】	
● テキストファイル ◎ データファイル ◎ ● ランダムフ	7ァイル(<u>R</u>) マッブ設定(<u>P</u>)
Winオプション	
入力形式(L): プリント 📃 詳細	© □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
「ホストオプション」	
レコード長(2): 256 三	変換(<u>G</u>)
コート [*] 変換表 ファイル: F-TRAN.CCT (標準設定)	汎用機・オフコン))
ANK コート [*] : EBCDIC (加加ナ) 漢字変換方式: JEF	WinCOBOL:富士通

変換方法のデータファイル(D)をクリックし、

Win ホストデータファイル変換を選択します。

入力ファイル形式を指定するオプションです。

Winファイルの詳細オプションボタンです。EOF検査、タブ拡張、空行無視の選択ができます。

ホストファイルのレコード長を指定します。

マップ設定(レコードレイアウト設定)をするオプションボタンです。

変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。

ホストがUnix、Windowsの場合

🚜 F*TRAN+	
ファイル(E) ツール(T) 変換設定(S) 変換時口が表示(K) ヘルフ℃(H)	
 「ホスト → Winファイル変換」Win → ホストファイル変換	
Winファイル名(W): C [*] ¥FTRANP [*] **	<u>参照①</u> Win ホスト
ホストファイル名型: C:¥FTRANP¥*.put	参照(2)
□【Win変換方法】/オプション	
○ テキストファイル⊗ (データファイル(D)) ○ ランダムコ	7ァイル(B) マップ設定(P)
ホストファイル形式/オプション	
○ テキストファイル(1) ► データファイル(A) ○ ランダム:	7ァイル(M)
	些 发换(G)
ロート 変換表 ファイル: WIN.CCT (標準設定)	Windows))
漢字変換方式:SJIS ホストCOBOL:富士通	WinCOBOL:富士通
ヘルフ を表示するには [F1]を押してください。	

Win変換方法のデータファイル(<u>D</u>)をクリックし、Win ホストデータファイル変換 を選択します。ホストファイル形式は、データファイル(<u>A</u>)、ランダムファイル(<u>M</u>)の 選択ができますが、上の例はホストファイル形式がデータファイル(<u>A</u>)です。

入力ファイル形式を指定するオプションです。

Winファイルの詳細オプションボタンです。EOF検査、タブ拡張、空行無視の指定ができます。

出力ファイル形式を指定するオプションです。

ホストファイルの詳細オプションボタンです。EOF付加の選択ができます。

ホストがWindowsの場合のみ有効です。ホストがUnixの場合はありません。

マップ設定(レコードレイアウト設定)をするオプションボタンです。

変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。 第4章 操 作 ——



Win変換方法のデータファイル(<u>D</u>)をクリックし、Win ホストデータファイル変換 を選択します。ホストファイル形式は、データファイル(<u>A</u>)、ランダムファイル(<u>M</u>)の 選択ができますが、上の例はホストファイル形式がランダムファイル(<u>M</u>)です。 ホストファイルのレコード長を指定します。

Win ホストファイル変換の共通指定項目は、「Win ホストファイル変換」の節ですで に詳しく説明しました。そちらを参照してください。

オプションの指定

入力形式オプション

変換するWindowsファイルがプリント形式かデリミタ形式か、デリミタ形式ならコンマ 区切り・タブ区切り・スペース区切りのどれなのかを指定します。

プリント ------ プリント形式を変換する デリミタ(コンマ) ----- デリミタ形式(コンマ)を変換 デリミタ(タブ) ----- デリミタ形式(タブ)を変換 デリミタ(スペース) ---- デリミタ形式(スペース)を変換

プリントを指定すると、デリミタ(区切り文字)なしのプリント形式のファイル(固定長テキ ストファイル(SDF形式)。ただし、最終項目だけ可変長でもよい)を変換できます。

デリミタを指定すると、デリミタ形式(区切り文字つき)のテキストファイルを変換できます。 区切り文字の種類によって、さらに細かい形式が決まります。デリミタは、

コンマ区切り形式(CSV形式、K3形式) タブ区切り形式(TAB=09H) スペース区切り形式(SP=20H) の3つのなかから指定できます。

後述のマップ設定オプションで、デリミタ検出=コンマ(,)を指定したところに、上記の区 切り文字があるとみなされます。

EOF検査指定

EOFコード(1AH)を検査するか否かを指定します。

EOF検査のチェックボックスを、

ONにすると、EOFコードを検査する指定

OFFにすると、EOFコードを検査しない指定 となります。

EOF検査指定がONであれば、EOFコードを検査し、EOFコードが現れたら変換を終了 します。こちらがデフォルトです。

EOF検査指定がOFFであれば、EOFコードを検査しません。単なるデータとして扱います。

第4章 操 作 ———

タブ拡張のオプション

タブ拡張の有無と、タブ拡張するときのタブ間隔を指定します。タブ拡張とは、TAB(09 H)をつぎのタブ位置の直前までの連続スペースに展開することです。

タブ拡張のチェックボックスを、

ONにすると、タブ拡張する指定

OFFにすると、タブ拡張しない指定 となります。

タブ拡張指定がONであれば、タブ拡張します。タブ間隔は、2~255の範囲で指定し、それがレコードのおわりまで繰り返し適用されます。タブ間隔のデフォルトは標準のタブ間隔(8 桁きざみ)になります。これがデフォルトです。

タブ拡張指定がOFFであれば、タブ拡張はしません。

空行無視のオプション

空行を無視するかどうかを指定します。

ONにすると、空行を無視する指定 OFFにすると、空行を無視しない指定 となります。

ホストファイル・レコード長指定 <ホストファイルが固定長の場合のみ>

ホストファイルのレコード長を1~32767の範囲の10進数で指定します。デフォルトは、 256バイト です。レコード長の指定が間違っていると正しいデータ変換が行われませんの で、この指定は極めて重要です。 出力形式オプション <ホストファイルが可変長の場合のみ>

データとしてのテキストファイルにはいくつもの形式があるので、どの形式にするかを指定します。つぎの、7種類の中から選択します。

プリント ------ プリント形式に変換する デリミタ(コンマ ・ 圧縮) ---- デリミタ形式(コンマ)に変換、圧縮あり デリミタ(タブ ・ 圧縮) ---- デリミタ形式(タブ)に変換、圧縮あり デリミタ(スペース・ 圧縮) ---- デリミタ形式(スペース)に変換、圧縮あり デリミタ(コンマ ・非圧縮) ---- デリミタ形式(コンマ)に変換、圧縮なし デリミタ(タブ ・非圧縮) ---- デリミタ形式(タブ)に変換、圧縮なし デリミタ(スペース・非圧縮) ---- デリミタ形式(スペース)に変換、圧縮なし

プリントを指定すると、デリミタ(区切り文字)なしで変換され、プリント形式(固定長のテ キストファイル [SDF形式])になります。これがデフォルトです。

デリミタを指定すると、デリミタ形式(区切り文字つきのテキストファイル)に変換されます。 デリミタの種類によってさらに細かい形式が決まります。デリミタは、

コンマ区切り形式(CSV形式、K3形式) タブ区切り形式(TAB=09H) スペース区切り形式(SP=20H) の3つのなかから指定できます。

通常は、コンマ区切り(CSV)形式への変換が一般的です。さらに、

変換後に圧縮をかける(可変長になる。デフォルト) 変換後に圧縮しない(固定長のまま) を指定できます。

圧縮をかけると本来不要なスペース、つまり、

レコードの先頭・末尾のスペース
 デリミタの前後のスペース
 引用符の前のスペース
 が削除されます。

圧縮をかける機能があるのは、つぎのような理由があるためです。

変換後のWindowsファイルの容量を、大幅に減らすことができる 一部の市販ソフトでは、不要なスペースがあるとうまくデータを読み込めない 第4章 操 作 ——

EOF付加指定 <ホストがWindowsで、可変長ファイルの場合のみ>

EOFコード(1AH)の扱いを指定します。 EOF付加のチェックボックスを、

ONにすると、EOFコードをつける指定

OFFにすると、EOFコードをつけない指定 となります。

EOF付加指定がONであれば、WindowsファイルのおわりにEOFコードをつけます。 現在では少なくなりましたが、テキストファイルのおわりにEOFコードがついていないとエラ ーにするソフトがあります。その場合にも対処するための機能です。

EOF付加指定がOFFであれば、EOFコードはつけません。これがふつうだと思ってくだ さい。こちらがデフォルトです。

マップ設定オプション

このマップ設定オプションで、項目別の細かい変換方法を指示します。本来なら、自動的に項 目を認識して変換ができると便利です。しかし、ホストの、とくにCOBOLのデータには、デ ータ自身に桁数や小数点位置の判断に必要な情報が含まれていない、という特性があります。そ のため自動変換は原理的に不可能なのです。

マップ設定のボタンをクリックすると、つぎのウインドウが開きます。

マップ設定		×
● 簡易設定(S)	● 詳細設定(型)	
СССК П	キャンセル	-2211

マップ設定には、

簡易設定 ---- 設定ウインドウに従って、必要な値を入力するだけで設定ができます。 通常は、こちらの機能だけで間に合う場合がほとんどです。

詳細設定 ---- フリーフォーマットで、マップ設定を記述するエディタモードです。 簡易設定だけでは設定できない特殊な設定をする場合、あるいは、 既存のパラメータファイル等を流用したい場合等に使用します。 マップ設定の文の書き方を覚えなくては設定できません。

の2とおりの方法があります。

注意 ---- 簡易設定と詳細設定の組み合わせ

簡易設定で設定した値は、詳細設定で読み込むことができるテキスト形式に直されます。よって、簡易設定をした後の項目に、詳細設定で特殊設定をつけ足すこともできます。

注意 ---- 詳細設定 簡易設定の順で設定した場合の制約

詳細設定 簡易設定の順で設定した場合は、原形が変わってしまう場合があります。これは、 詳細設定で設定した項目が簡易設定で読み込まれることにより、スリム化されてしまうからです。 ただし、原形が変わってしまっても、設定内容が変わるわけではありません。 <マップ設定(簡易)ウインドウ>

$\setminus \setminus$	$\langle \rangle \rangle$	$\langle \rangle \rangle$	$\langle \rangle \rangle$			\mathbf{Y}		$\langle \rangle$	
ব্)	プ設定(簡易) \Vin → オ	マストデータファ	(ル変換					_ 🗆 🗵
編集(₽₩Ÿ₩Œ		★ ★					•	★
K)	X 暗 1		💊 👹					OK	キャンセル
ーデー	 - 勿形式					•			
	勿7(0)	Ank(1)	漢字(2)	Ank・漢字(3)	数値(4)	- 表示・ゾーン(5)) 表示・パック(6) パイナリ(7)	ユーザ [*] ーA(8)	ユーザ [*] -B(9)
72	-` <i>\•`*</i> -`/(A)	<u>እ°ოክ∙ እ°ოክ(B)</u>	/*–ን•እየምክ(C)	//፡//፡-፡/(D)			[年設定(F)][区切記号(F)]	 日付(G)	BY(H)
	シャ表示の	パック・表示(1)	, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	2谁•表云(1)	ゾーン・25年(1	vi) へいかっつ(住(内)	2)伴ょゲーン(∩) 2)伴ょハシック(P)	2)推动推((())	でイザ反転(の)
	7 30100	1111 201000	301020200	2/2 301(10)	/ / Z/20	10 71 97 Z/E 00	2)世7 707 2)世717707	2/庄 2/庄(30)	117708#440
4	Atlas(A)	- €b(∩)	※ 考-	ブルクロックで入	カダイアロ	1万亥思く	λd	י. ה⊮≓לתי הי	Pak -
		1 11/1 20			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			nervē: [v	
No.	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	デーが形式	入力幅	出力幅	~~~~	漢字心/アウト	4040		<u> </u>
1							For PutData		
2								Copyri	ght(C)Fujits
3							太陽糸の惑星ナータ		
4		_					Windo	WSIJYM	សាម (CSV
0		Apk		2	 あい				
7				8	 あい		NO. (必全世与/ 和名		
8		Ank		10	 あり		英名		
9		Ank		9	あり		読み		
10		表示・パック		u4.3			質量比		
11		表示・ゾーン		u2			衛星数(確定済)		
12		表示・ゾーン		s2.1			極大等級(見かけ上の最大	の明るさ)	
13		漢字		20	あり		英名の意味・由来		
14		日付	yyyy-mm-dd	yymmdd			14°->推出年月日		
15				♠		│	▶ ▶		
16									
12		+ +							
19									
20									
21									
22									
•									•
100									

No.は、1~2000です。ここは非入力項目で、行選択の時にクリックします。

項目の桁位置等を入力します。通常、項目を組み替えるとき以外は入力しません。

ダブルクリックすると、入力サブウインドウが開きます。

項目のデータ形式を15種類の中から指定します。

ダブルクリックすると、入力サブウインドウが開きます。

項目の入力幅を入力します。通常、デリミタ形式ファイルを変換する場合は省略します。

項目の出力幅を入力します。プリント形式ファイルで、出力幅=入力幅の場合は省略します。 データ形式がゾーン / パック / 2進指定の場合、ピクチャまたは2進ピクチャで指定します。

デリミタ形式から変換するときに、項目の引用符をはずす指定ができます。ホストがUnix、 Windowsの場合、デリミタ形式の項目を引用符でくくる指定にもなります。

ホストが汎用機・オフコンの場合は、項目の前後に漢字イン / アウトを挿入する指定です。 ホストがUnix、Windowsの場合は、改行コードを挿入する指定です。 コメントの入力ができます。

222

= 第4章 操 作

セルポインタの入力ガイダンスメッセージが出力されるフィールドです。 誤入力をした場合のエラーメッセージも出力されます。

~ は編集(<u>E</u>)、ツール(<u>T</u>)のメニューの機能がボタン化されています。 直前の編集作業が無効になり、元に戻ります。

1行または複数行を選択(の操作)をした後に、このボタンをクリックすると、

選択した項目の内容が切り取られ、カットバッファに入ります。

1行または複数行を選択(の操作)をした後に、このボタンをクリックすると、

選択した項目の内容がカットバッファに入ります。

カットバッファに入った内容(、 の操作)を、セルポインタがある行へ貼りつけます。 すでに、セルポインタ以降の行に設定項目がある場合は、挿入になります。

セルポインタがある行以降が1行づつ下がります。通常は、行挿入をする場合に使用します。 選択した項目の内容が削除されます。

変換プレビュー(変換前/変換後のデータ確認)ができます。

Winファイルエディタが起動します。

Windowsファイルの中身を見る(編集も可能)ことができます。

セルポインタが選択項目にある場合に、選択肢のボタンが表示されるエリアです。 入力形式オプションの指定(プリント、デリミタ3種類)を変更できます。 設定が完了したら、OKボタンをクリックします。 キャンセルボタンをクリックすると、すべての入力/編集作業が無効になります。

マルチレコードの設定ができるAtlasモードに切り替えるボタンです。 詳細は、マルチレコード編のマニュアルを参照してください。

注意 ---- マップ未設定時のデータ変換動作

マップ未設定の場合は、すべてをANKデータとみなしてデータ変換を行います。

注意 ---- デリミタ検出について

デリミタ形式のファイルを変換するときは、なんらかの方法で項目分けをしなければいけません。コンマを使うと行頭からデリミタ、デリミタからデリミタ、デリミタから行末までを項目として認識します。なお、引用符でくくられた項目は、そのなかにデリミタがあっても単なる文字 データとして扱われます。

マップ設定(簡易)で項目を設定し、デリミタ形式のファイルを変換する場合、変換元ファイ ルの項目の後にデリミタ(区切り文字)があることを前提に変換します(最終項目は除く)。検 出される区切り文字は指定された入力形式により、コンマ、タブ、スペースの3つのいずれかに なります。なお、プリント形式への変換のときは、デリミタ検出の指定は無効になります。また、 デリミタ検出に設定したが、ある項目についてはデリミタ検出をしたくない場合は、簡易設定後 に、詳細設定を行い修正することができます。 第4章 操 作 ———

<マップ設定(簡易)サブウインドウ>

ポジションの欄をダブルクリックすると、つぎのサブウインドウが開きます。入出力桁位置や 入出力スキップの設定を簡便に行うことができます。

ポシションの入力	2	<
 入力桁位置(A) 出力桁位置(B) 桁位置(C) デリ約位置(D) 	入力桁位置 (G): 📃 🚔	
○ 入力スキップ (E) ○ 出力スキップ (E)	OK ++>セル	

データ形式の欄をダブルクリックすると、つぎのサブウインドウが開きます。データ形式から 引用符はずし(ホストが汎用機・オフコンの場合、漢字項目は漢字イン / アウト)までの設定を 簡便に行うことができます。

デー妍記式等の入力	×
C Ank (1) € 漢字 (2) C Ank•漢字 (3)	入力幅 (12): 📃 🚊
 ○表示(4) ○表示(5) ○ゾーン(5) ○ゾーン(1) 	
 C パック (0) × C パック (0) C 2道 (2) C 2道 (2) C パイナリ (2) C パイナリ (2) C パイナリ (2) 	出力幅(山:)8 三
C ユーザ [、] −A (<u>A</u>) C ユーザ [、] −B (<u>B</u>)	☑ ″~″ 引用符はずし (M)
 ○ 年設定 (©) ○ 区切記号 (D) ○ 日は (E) 	□ 漢字化 (N) □ 漢字アウト (Q) 漢字長さ (P): □
O BY (E)	OKキャンセル

<マップ設定(簡易)・変換プレビュー機能>

変換プレビューボタンをクリックすると、マップ設定(簡易)のウインドウはつぎのような状態になり、変換前/変換後のデータを確認することができます。

——— 第4章 操 作

⊽∾⊅≣	╬定(簡易)	Win → ホ	スト データファイ	山変換										
編集(E)	ツール(T)	with a sh		(V38C17K										
			Q. Win								OK		キャッカル	
لا ا													147 Civ	<u> </u>
- 30H.	///////////////////////////////////////													
変打	奥元データ	: C:¥FTRAN	P¥Planet.csv											
							Г	変換約	差 (11)	前しつ	-K(0)		1-1-10	139) 20 ³
							L	SCIFCIS		HUDH		77.0-		
	723 1	* b/o)	N/ 1001			5 4 -7-1	-11.4			71-		- Stat		
.Atl	as (<u>H</u>)	7±99.92)	※ 変換	テータのフレビュ	ւ—ելոփ	幕果 じさま	:せん			入力	HSECQ:	テリミタ	(דעב	V
No.	ホ °Ͽ゙Ͽョン	デーが形式	入力幅	出力幅	入力桁	出力桁	変換前のデー	-१ (1 ների՝)				
6		Ank		2	0	0	1							
§ 7		漢字		8	5	2	水星							_
8	<u> </u>	Ank		10	12	10	MERCURY							_
9		Ank ===_uo b		8	22	20	7-419-							_
10		衣示 71 oy 主三 NFCN		U4.3	01	28	0.000							-
12		表示・アーク		s2 1	39	35	-2.4							-
13		<u>速</u> 字		20	44	38	口神)神の修	使者						-
14		日付	yyyy-mm-dd	yymmdd	61	58	1998.04.30	~ -						-
•							` ▲							·
	 奥前デ-	- タ表示		 後データ表	長示					-		-		
変換	奥前デ- ⁶ 定(簡易)	- 夕表示 Win → ホ	変換	後データ表 ^{山変換}	辰示									
変換 マップ語 編集(E)	奥前デ- ^{役定(簡易)} ッール(T)	- 夕表示 Win → ホ	変換 :スト <i>デー</i> タファイ,	後データ表 ^{ル変換}	₹示									
安排 マップ: 編集(E)	奥前デ- ^(簡易) ッール(T)	- 夕表示 Win → #	変換 ストデータファイ,	後データ表 N <u>変換</u>	₹示						OK		-	
安打 マップ: 編集(E)	換前デー 	- タ表示 Win → #	変換 ストデータファイ,	後データ表 N変換	₹示						ОК		キャンセル	
安排 マップ 編集(E) 「 ^{変換」}	奥前デー 数定(簡易) ッール(T) の	- 夕表示 Win → #	変換 はトデータファイル	後データま N変換	ŧ示						ОК		- キャンセル	
変打 マップ 編集(E) 「「」」」 「変換コ 」 変換コ	換前デー ⁽	- 夕表示 Win → ホ 』回 区 : C¥FTRAN	変換 ストデータファイ) へ ピー P¥Planetcsv	後データ表 N <u>変換</u>	₹示						ОК		- キャンセル	
変打 マップ: 編集(E) 「シ」」 変換: 「変換: 「変換	換前デー 物定(簡易) ツール(T) 小(T) しビュー - 換元データ	- 夕表示 Win → 木	変換 ストデータファイ、 へ 聖 P¥Planet.csv	後データ表 Ng換	₹示						OK		- キャンセル	
安打 マップ: 編集(E) 「つ」」 「変換」 変換	換前デー (簡易) ツール(T) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	- 夕表示 Win → 林 回 区 : C¥FTRAN	変換 ストデータファイ、 へ P¥Planet.csv	後データ表 Ng換	€ 示			変換前	, 方①〉	前心	ОК -К*(1)	 (次レ:	- キャンセル -ト*(2)	
<u>マップ:</u> 編集(E) 「空快」」 変換」 変換	換前デー ^{数定(簡易)} ッール(T) (<u> </u>	- 夕表示 Win → 林 回 区 : C¥FTRAN	変換 ストデータファイ へ 聖 P¥Planet.csv	後データ表 N変換	₹			変換	ή (0)	 〔前口:	ок - К'(1)		- キャンセル i-ド(2)	
安打 編集(E) 「つ」」 「変換」 変対	換前デー ⁽⁾ ()ール(I) () <u>()</u> () () <u>()</u> () () () () () () () () () ()	- 夕表示 Win → ホ 』 <u>国</u> × : C¥FTRAN	変換 ストデータファイ へ ピ P¥Planet.csv	後 データ ま N変換 データのプレビュ	₹ .	まできま	ст <u>т</u> и, с	変換前	有 (0)	 入力	OK 		ー キャンセル ート*(2)	
安打 (マップ) 編集(E) (シー) (変換) (変換) (変換) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の	換前デー 数定(簡易) ッール(T) 化	- 夕表示 Win → ホ リョン : C¥FTRAN チェック(2)	安換 ストデータファイ、 「へ」 聖 P¥Planet.csv 」 ※ 変換 入力幅	後 データ 表 小変換 データのプレビュ	€ 示	集できま	に て せん 変換後のテ ^ャ っ	変換前	τ τ(0)	 前山 入力)	ОК -Ի*(1) ₩25,Ф;	 次レ テツネ	- ++>セル 	
安打 編集(E) 「変換」 変換」 の 別 の。 月	換前デー %定(簡易) ッール(T) () 10 パレビュー - 換元データ ass(<u>A</u>) 本*3*ション	- 夕表示 Win → オ 回 区 : C¥FTRAN チェック(○) テ [*] -妍形式	変換 ストデータファイ P¥Planet.csv 入力幅	後データ表 N変換 データのブレビュ 出力幅	▼示	業できま 出力桁 □	に せん 変換後のテ [*] ~ 40 F1	変換前	ήω) 1 μα-ト°	 前니 入力)	ОК -№(1) #8द्र\$@:	 次レ- テリネ	- ++>セル ト*(2) (1)(7)	
安排 (アップ) 編集(E) (ア) (ア) (ア) (ア) (ア) (ア) (ア) (ア	換前デー ⁽⁾ () ⁽⁾ () ⁽⁾ ⁽⁾	- 夕表示 Win → ホ 回 区 : C:¥FTRAN チェック(の) データ形式 Ank 漢字	変換 に入トデータファイ) 「へ」 聖 P¥Planet.csv 入力幅	後 データ ま Ng変換 データのブレビュ 出力幅 2 8	▼示	集できま 出力桁 0 2	に せん 変換後のテ [*] - 40 F1 BF E5 C0 B1	変換前 -2 (ή(0) 1 μ2-ト° 0 40 40	 前レコ・ 入力)	ок -F°(1) #855@:	 、次レ デリスタ	- キャンセル コード ⁽²⁾	
安 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	換前デー ⁽⁾ () ⁽⁾ () ⁽⁾ ⁽⁾	- 夕表示 Win → ホ 回 区 : C:¥FTRAN チェック(の) テ [*] ー分形式 Ank 漢字 Ank	安換 に入トデータファイ) 「へ」 監想 P¥Planet.csv 入力幅	後 データ ま Ng変換 データのブレビュ 出力幅 2 8 10	▼示	集できま 出力桁 0 2 10	させん 変換後のテ [*] ~ 40 F1 BF E5 C0 B1 D4 C5 D9 C3	変換i -2 (40 40 3 E4 D2	ή(D) 1 μ2-μ° 0 40 40 9 E8 40	(前山)) 40 40	ок -Ի°(1) Нарфан	 、 次レ デリ 該加	- キャンセル (コンマ)	
安 編集(E) 「 変換」 変換」 変換」 変換 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の の の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 つ 1 の う の つ の の の の の の の の の の の の の	換前デー ⁽⁾ (簡易) ⁽⁾ (□) (□) ⁽⁾ (□) (□)	- 夕表示 Win → ホ ション・ : C¥FTRAN チェック(の) データ形式 Ank 漢字 Ank Ank	安換 ストデータファイ へ ピー P¥Planet.csv 入力幅	後 データ ま N変換 データのプレビュ 出力幅 2 8 10 9	▼一中は編 入力桁 0 5 12 22	集できま 出力桁 0 2 10 20	Eせん 変換後のテ°- 40 F1 BF E5 C0 B1 D4 C5 D9 C3 A4 58 87 54	変換前 -次(40 41 3 E4 D3 4 AE 55	ή(D) 1 μ3-μ° 0 40 40 9 E8 40 8 40 40	前レコ· 入力) 40 40	ок -Ի°(1) #8±\$.Ф:	 次レ テリ政	- キャンセル (コンマ)	
安 編集(E)	換前デー ⁽⁾ (簡易) ⁽⁾ (□) [□] [□] ⁽⁾ [□] [□] ⁽⁾ () [□] [□] ⁽⁾ () [□] (□] ⁽⁾ () () () () () () () () () () () () ()	- 夕表示 Win → ホ 回 区 : C¥FTRAN チェック(の) デ・一妍式 Ank 漢字 Ank 表示・パック	安換 ストデータファイ/ P¥Planet.csv 入力幅	後 データ ま N変換 データのプレビュ 出力幅 2 8 10 9 u4.3	▼一中は編 入力桁 0 5 12 22 31	集できま 出力桁i 0 2 10 20 29	に せん 変換後のデー 40 F1 BF E5 C0 B1 D4 C5 D9 C3 A4 58 87 54 00 00 05 5F	変換前 -タ (40 44 3 E4 D3 4 AE 53	ή(D) 1 μ ₂ -ト [°] 0 40 40 9 E8 40 8 40 40	前い 入力) 40 40 40	ок -Ի*(1) Піт Ф:	 次レ デリ決	- ト*(2)	
安排 編集(E) 「シ」」 変換 変対 の (の (の (の (の (の (の (の (の (の)) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の)) (の) (の) ()) ()) ()) () (換前デー ⁽⁾ (簡易) ⁽⁾ (○) (○) (○) ⁽⁾ (- 夕表示 Win → ホ Win → ホ () () () () () () () () () () () () () () () () () () () () () () () () () () () () () (安換 ストデータファイ/ P¥Planet.csv 入力幅	後 データの ブレビ 出 力幅 2 8 10 9 u4.3 u2	►-中は編 入力桁 0 5 12 22 31 37 7	集できま 出力桁 0 2 10 20 29 33	 させん 変換後のデ[*]~ 40 F1 BF E5 C0 B1 D4 C5 D9 C3 A4 58 87 54 00 00 05 5F F0 F0 	変換 -タ(40 40 4 AE 55	Ţ(D) 1 ↓⊐-ト [×] 0 40 40 9 E8 40 8 40 40	前レコ・ 入力) 40 40 40	ОК -Ի°(1) Жазафия	 次レ- デリ政	- +*21	
安排 マップ 編集(E) 「つ」」 変換 変換 変換 の の の の の の の の の の の の の	換前デー % [暗] 『 % [喧] 『 パレビュー 換元データ ms(A) [↓*ジション]	- 夕表示 Win → ホ Win → ホ Win → ホ () E C¥FTRAN チェック(0) デ [*] →研形式 Ank 漢字 Ank 表示・パ [*] ・ク 表示・ジ [*] ・フ 表示・ジ [*] ・フ 表示・ジ [*] ・フ	安換 ストデータファイ/ P¥Planet.csv 入力幅	後データ表 N変換 データのプレビュ 出力幅 2 8 10 9 u4.3 u2 s2.1 20	▼一中は編 入力桁 0 5 12 22 31 37 39 4	集できま 出力桁 0 2 10 20 23 33 35 20	 またし、 変換後のデ[*]~ な換後のデ[*]~ 40 F1 BF E5 C0 B1 D4 C5 D9 C3 A4 58 87 54 00 00 05 5F F0 F0 F0 F0 F0 F2 D4 	変換 一次 (40 44 3 E4 D3 4 AE 55	τίω) 1 μα-ト° 0 40 40 9 E8 40 8 40 40	前 入力) 40 40 40	ок -ト*(1) -Fist(Ф):	 、 次レ - デリ ネ - - - - - - - - - - - - -		
安排 編集(E) 変換 変換 変換 の が 10 11 12 13 14	換前デー % (簡易) ッール(T) 小ビューー 換元データ mm(A) 本*ジション	- 夕表示 Win → ホ Win → ホ Win → ホ () C¥FTRAN チェック(0) デ [*] -9形式 Ank 漢字 Ank 表示・ハ [®] ・ク 表示・ [*] ・ [*]) 表示・ [*] ・ [*]) 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	安換 に入トデータファイ 「へ」 当語 P¥Planet.csv	後データ表 N変換 データのプレビュ 出力幅 2 8 10 9 u4.3 u2 s2.1 20 uumdd	▼示 ↓ 一中 よ編 ↓ 入力桁 ↓ 12 ↓ 22 ↓ 31 ↓ 37 ↓ 39 ↓ 44 ↓ 61	業できま 出力桁 0 2 10 20 29 33 35 38 50	 またした。 変換後のテ*~ 40 F1 BF E5 C0 B1 D4 C5 D9 C3 A4 58 87 54 00 00 05 5F F0 F0 F0 F0 F0 F0 F0 F0 F0 F0 F0 F0 	変換前 -2 (40 44 3 E4 D3 4 AE 53	方(の) 1 レコート [×] 0 40 40 9 E8 40 8 40 40 B BF C0	前 前 入力) 40 40 40 40 40	ОК -№(1) ПбафФ; BB C8 B	、 次レ ⁻ テリミカ C D4 40	++ンセル -ト*(2) (コンマ)	
安排 (アップ) 編集(E) (ア) (ア) (ア) (ア) (ア) (ア) (ア) (ア	換前デー % (簡易) ッール(T) % () 「 「 」 「 」 「 」 」 ま (A) 本*シッション 「 」 」 」 、 」 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	- 夕表示 Win → ホ 回 区 : C:¥FTRAN チェック(の) デ [*] ー/研形式 Ank 表示・パ [*] の/ 表示・パ [*] の/ 表示・パ [*] の/ 表示・パ [*] の/ 表示・パ [*] の/	安換 に入トデータファイ 「●」 聖 P¥Planet.csv 入力幅 「 」 、変換 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	後データ表 N変換 データのブレビュ 出力幅 2 8 10 9 u4.3 u2 s2.1 20 yymmdd	 一中は編 入力桁 0 5 12 22 31 37 39 44 61 	集できま 出力桁 0 2 10 20 29 33 35 38 58	 せん。 変換後のデ[*] 40 F1 BF E5 C0 B1 D4 C5 D9 C3 A4 58 87 54 00 00 05 5F F0 F0 F0 F0 F0 F2 D4 A5 ED BF C0 F3 F8 F0 F4 	変換 -2 (40 40 3 E4 D0 4 AE 53 	∱(0) 1 ↓□-ト° 0 40 40 9 E8 40 8 40 40 B BF C0 0	前レコ 入力) 40 40 40 40	ОК -Ի°(1) НбрфФ; ВВ С8 В	 、次レコ 「デリミタ C D4 40	+ャンセル コード ⁽²⁾ (コンマ)	

変換前 / 変換後のデータ表示の切り替えを行うボタンです。 の表示が変わります。 前レコード / 次レコード表示のためのボタンです。 ここには、入力レコード / 出力レコードのポジション(桁)が表示されます。 データ表示は、変換前が文字、変換後が16進、未定義個所が文字になります。 第4章 操 作 ——

プリント形式とデリミタ形式では指定の方法と考え方がかなり違うので、この2つを必要に応じて分けて説明することにします。

デリミタ形式の場合には、Windows側(入力項目)が可変長で、ホスト側(出力項目) が固定長だという点に留意して読み進めてください。

(1)ポジション(桁位置)の指定

プリント形式の場合

変換対象にするWindows側(入力)の桁位置や、変換結果を書き込むホスト側(出力) の桁位置を、別の任意の位置に移動できます。現在、処理対象にしている桁位置を、この指定で 強制的に変更できます。この機能を利用すると、項目の組み替えなどが簡単に実現できます。 入力桁位置は、ふつう10進数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

Windows(入力)側の現在の桁位置
 という特殊変数が使えます。

たとえば、 . - 40 と指定すれば、

今の入力桁位置から40バイト戻るという意味になります。

出力桁位置を移動することもできます。ふつう、 :10進数 で桁位置を指定します。 10進数の代わりに式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(出力)の末尾
- . ホスト側(出力)の現在の桁位置 という特殊変数が使えます。

<u>デリミタ形式の場合</u>

変換結果を書き込むホスト側(出力)の桁位置を、別の任意の位置に移動できます。現在、処 理対象にしている桁位置を、この指定で強制的に変更できます。この指定を利用すると、項目の 組み替えなどが簡単に実現できます。

デリミタ形式からの変換の場合、出力桁位置の移動だけが有効です。入力桁位置の指定はできません。出力桁位置は、 : 10進数 で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(出力)の末尾
- . ホスト側(出力)の現在の桁位置 という特殊変数が使えます。

たとえば、 : \$ - 8 と指定すれば、

ホストレコード末尾の8バイト前に出力先を移動する という意味になります。

注意 ---- 先頭を0桁目とする

F*TRAN+では、レコードの先頭を0桁目として数えます。

(2)ポジション(デリミタ位置)の指定

変換対象にするWindows側(入力)データのデリミタ形式の項目位置を、別の任意の項 目位置に移動できます。現在、処理対象にしている項目位置を、この機能で強制的に変更できま す。この機能を利用すると、デリミタ形式の項目の組み替えなどが簡単に実現できます。

デリミタ位置は、 @@入力項目番号 で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- Windows側(入力)の現在の項目位置
- \$ Windows側(入力)の入力全体の項目数
- * Windows側(入力)の残りの項目数
 という特殊変数が使えます。

たとえば、

@@ 2	と指定すれば、	今の入力項目から2項目戻る
@@\$-2	と指定すれば、	Windows側(入力)レコード末尾から
		2項目に位置する

という意味になります。

注意 ---- 先頭を0項目目とする

F*TRAN+では、レコードの先頭項目を0項目目として数えます。

第4章 操 作 ———

(3)ポジション(入力スキップ)の指定

プリント形式の場合

Windows側(入力)レコードに不要な項目があるとき、それをスキップして変換できます。

スキップする幅は、 ^ バイト数 で指定します。

たとえば、3バイト分スキップしたいなら、 ^ 3 と指定します。

バイト数は省略でき、省略すると1バイトとみされるので、

^ 3 は ^ ^ ^ と指定したのと同じです。

スキップする幅は式による指定もでき、そのなかでは、

* Windows側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

デリミタ形式の場合

デリミタ形式の場合には、出力幅に0を指定すると項目スキップできます。

(3)ポジション(出力スキップ)の指定

入力スキップ(プリント形式)とは逆に、ホスト側(出力)に何桁かスペースを作ることもで きます。空項目を作るのがおもな用途です。

スキップする幅は、 __バイト数 で指定します。

たとえば、3バイト分スキップしたいなら、 __3 と指定します。

バイト数は省略でき、省略すると1バイトとみされるので、

__3 は _____ と指定したのと同じです。

(4)15種類のデータ形式

[<u>Ank(1)</u>]

ANK項目を変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、どのコード変換が行われるかは、 変換設定のANKコードの設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

プリント形式の場合

入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

* Windows側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。 出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。 項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。 出力幅は式による指定もでき、式のなかでは、

\$ ホスト側(出力)のレコード長

* ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

項目長を縮めると、ANK項目のおわりのほうが切り捨てられます。逆に、項目長を伸ばすと、 ホスト側のANK項目のおわりにスペース(20H/40H)が詰められます。

デリミタ形式の場合

ふつう、入力幅は省略し、出力幅だけを10進のバイト数で指定します。出力幅は式による指 定もでき、式のなかでは

* ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

[漢字(2)]

漢字項目を変換します。どのコード変換が行われるかは、変換設定の漢字変換方式の設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

プリント形式の場合

入力幅は、10進のバイト数で指定します(漢字の文字数ではありません)。式による指定も でき、そのなかでは、

* Windows側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更したいときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、漢字項目のおわりのほうが切り捨てられます(漢字の中央で切れることは ありません)。逆に、項目長を伸ばすと、ホスト側の漢字項目のおわりに漢字変換方式に設定さ れている漢字スペースが詰められます。

出力幅は式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(出力)のレコード長
- * ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

<u>デリミタ形式の場合</u>

ふつう入力幅は省略し、出力幅だけを10進のバイト数で指定します。出力幅は式による指定 もでき、そのなかでは、

* ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

[<u>Ank・漢字(3)</u>]

ANK・漢字まじり項目を変換します。どのコード変換が行われるかは、変換設定の漢字変換 方式の設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。ホストが汎用機・オ フコンの場合、変換後、漢字文字列の前後にはKI/KOが挿入されます。この、KI/KO挿 入のタイミングも漢字変換方式の設定で決まります。そのため、オーバーフローの危険性がある ので、出力幅の指定には注意しなければいけません。

プリント形式の場合

入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

* Windows側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

= 第4章 操 作

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

ふつうは、KI/KOが挿入されてデータ長が長くなる分を加算した出力幅を指定します。オ ーバーフローすると、ANK・漢字まじり項目のおわりのほうが切り捨てられます。ただし、漢 字モードのままおわることはありません。また、KOが途中で切れることもありません。 出力幅は式による指定もでき、そのなかでは、

\$ホスト側(出力)のレコード長

* ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

デリミタ形式の場合

ふつう、入力幅は省略し、出力幅だけを10進のバイト数で指定します。出力幅は式による指 定もでき、式のなかでは、

* ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

[数値(4)]

文字形式の数値項目どうしの変換をします。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、 変換設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしてお かなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。数値変換は、Ank項 目変換と後述の表示・ゾーン変換の中間的なものです。Ank項目変換と比較すると、

文字形式数値しか通さない 入力幅を省略すると15桁(バイト)とみなす 右詰めになる

などの点が異なります。

「文字形式数値しか通さない」というのは、具体的には、

+、-、0~9、ピリオド(.), E、e、D、d

しか変換しないで、これら以外の文字は捨ててしまうということです。たとえば、通貨記号 (¥/\$)や位取りのコンマ(,)などは削除されるので、リストファイルから入力データファ イルを作るときなどに役立ちます。 第4章 操 作 —

[表示・ゾーン(5)]

Windowsの文字形式数値項目を、ホストのCOBOLのゾーン形式数値項目に変換しま す。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、EBC DIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットア ップ時に一回だけ行います)。

入力幅は、バイト数で指定します。省略すると15バイトとみなされるので、プリント形式からの変換の場合は、ふつうは明示的に桁数を指定します。デリミタ形式からの変換の場合は、数値項目が15バイトを超えることは少ないので、省略するほうがふつうです。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 . 4 という数字を5 バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録するとすれば、ピクチャは s 4 . 1 と指定します。なお、ピクチャは省略できません。

まとめると、プリント形式からの変換の場合は、

入力幅 = 8、ピクチャ = s 4 . 1 のような指定になり、

デリミタ形式からの変換の場合は、

入力幅=省略、ピクチャ=s4.1のような指定になるのがふつうです。

ただし、入力幅が15バイトを超えるときは、

入力幅=20、ピクチャ=u15.2 のように、ダミーの入力幅を指定してください。

[表示・パック(6)]

Windowsの文字形式数値項目を、ホストのCOBOLのパック形式数値項目、BCD形 式数値項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコ ードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけませ ん(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

入力幅は、バイト数で指定します。省略すると15バイトとみなされるので、プリント形式からの変換の場合は、ふつうは明示的に桁数を指定します。デリミタ形式からの変換の場合は、数 値項目が15バイトを超えることは少ないので、省略するほうがふつうです。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

-123.4 という数字を3バイトの符号つきパック形式の項目に記録するとすれば、ピクチャは s4.1 と指定します。123.4 という数字を3バイトのBCD形式の項目に記録 するとすれば、ピクチャは b5.1 と指定します。なお、ピクチャは省略できません。

まとめると、プリント形式からの変換の場合は、

入力幅 = 8、ピクチャ = s 4 . 1 のような指定になり、

デリミタ形式からの変換の場合は、

入力幅=省略、ピクチャ=s4.1のような指定になるのがふつうです。

ただし、入力幅が15バイトを超えるときは、

入力幅 = <u>20</u>、ピクチャ = u 15.2 のように、ダミーの入力幅を指定してください。

[<u>バイナリ(7)</u>]

バイナリ変換(無変換)は、「コード変換を一切しない」という変換方法です。通常、Win ホストデータファイル変換では使用しません。

プリント形式の場合

入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

* Windows側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。 出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。 項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。 出力幅は式による指定もでき、式のなかでは、

- \$ ホスト側(出力)のレコード長
- * ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

項目長を縮めると、バイナリ項目のおわりのほうが切り捨てられます。逆に、項目長を伸ばす と、ホスト側のバイナリ項目のおわりに、ホストが汎用機・オフコンの場合はNUL(00H) が、ホストがUnix/Windowsの場合はスペース(20H)が詰められます。

デリミタ形式の場合

ふつう、入力幅は省略し、出力幅だけを10進のバイト数で指定します。出力幅は式による指 定もでき、式のなかでは

* ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

第4章 操 作 ——

 $[\underline{-}-\underline{-}\overline{-}A(\underline{8})], [\underline{-}-\underline{-}\overline{-}B(\underline{9})]$

ユーザーA/B変換は、利用者独自のバイト単位の変換処理が必要なときに、ANK変換表ユ ーザー用A、ユーザー用Bを書き替えて利用します。ユーザーA/B変換には、Ank項目変換 の説明がほとんどそのまま当てはまります。

プリント形式の場合

入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

* Windows側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、ユーザーA / B項目のおわりのほうが切り捨てられます。逆に、項目長を 伸ばすと、Windows側のユーザーA / B項目のおわりにスペース(20H/40H)が詰 められます。

出力幅は式による指定もでき、式のなかでは、

- \$ ホスト側(出力)のレコード長
- * ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

デリミタ形式の場合

ふつう、入力幅は省略し、出力幅だけを10進のバイト数で指定します。出力幅は式による指 定もでき、式のなかでは、

* ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

[<u>ゾーン・ゾーン(A</u>)]

Windows COBOLのゾーン形式数値項目を、ホストのCOBOLのゾーン形式数値 項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの 設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふ つう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 - 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 出力ピクチャは s 4 .1 と指定します。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「出力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、出力ピクチャ=s4.1という指定は、入力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「入力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

なお、入力ピクチャと出力ピクチャを同時に省略することはできません。

[<u>ゾーン・パック(C)</u>]

Windows COBOLのゾーン形式数値項目を、ホストのCOBOLのパック形式数値 項目、BCD形式数値項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換 設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかな ければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 出力ピクチャは s 4 . 1 と指定します。BCD形式なら、 b 4 . 1 と指定します。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「出力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、出力ピクチャ=s4.1という指定は、入力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「入力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

なお、入力ピクチャと出力ピクチャを同時に省略することはできません。

[<u>年設定(E)]</u>

日付データ項目を変換する際の、年の2桁(yy)と4桁(yyyy)の交換方式を設定しま す。Wnn、または、Snnの形式で設定します。Wnnの"W"はウインドウ方式を、Snn の"S"はシフト方式を意味し、"nn"は00~99の数字で指定します。

入力幅に W30 と指定すれば、入力データの年を1930~2029年とみなし、 出力幅に S25 と指定すれば、出力データの年下2桁を、-25します。

また、シフト方式("Snn"指定)では、つぎの特殊指定ができます。

SShowa は、"S25"の指定と同じ(昭和通年方式)

SHeisei は、"S88"の指定と同じ(平成通年方式)

年設定は日付項目変換が実行された時に適用になり、複数の年設定がなされている場合は、日 付項目変換の直前の年設定が有効になります。

年設定がない場合の日付項目変換のデフォルトは、入力幅/出力幅ともに、 W30 となり、 入出力データの年を1930~2029年とみなします。

[<u>区切記号(F)</u>]

日付データ項目を出力する際の日付区切り記号をつぎの3つの中から設定します。入力幅に、 SLASH、または、HYPHEN、または、PERIODと入力します。

<u>指 定 文 字</u>	<u>日付区切り記号</u>	<u>データ例</u>
SLASH	/(スラッシュ)	1 9 9 8 / 1 2 / 3 1
ΗΥΡΗΕΝ	- (ハイフン)	1998 - 12 - 31
PERIOD	.(ピリオド)	1998.12.31

日付区切り設定は日付項目変換が実行された時に適用になり、複数の日付区切り設定がなされ ている場合は、日付項目変換の直前の日付区切り設定が有効になります。

日付区切り設定がない場合の日付項目変換のデフォルトは、 SLASH となり、日付区切り記号を"/"にします。

[<u>日付(G</u>)]

日付データ項目を変換します。コード変換は、変換設定のANKコードの設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

入力幅と出力幅は、必ず日付マスクの形式で指定し、省略はできません。日付マスクの指定方 法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

= 第4章 操 作

入力幅に、 yyyy-mm-dd

出力幅に、 yymmdd のように指定すると、

コード変換後に、入力側10バイトの日付データ項目を、出力側6バイトの日付データ項目に 編集します。その際に、年設定、日付区切り設定が適用になります。

[ゾーン・表示(I)]

Windows COBOLのゾーン形式数値項目を、ホストの文字形式数値項目に変換しま す。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、EBC DIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットア ップ時に一回だけ行います)。変換結果は右詰めになります。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 ピクチャは s 4 . 1 と指定します。なお、ピクチャは省略できません。

出力幅は省略できます。出力幅を省略すると、

符号つきなら1、符号なしなら0とする

+ 整数部桁数

+ 1 + 小数部桁数(小数部があれば)

の要領でピクチャから自動的に計算された値が使われます。たとえば、ピクチャ=s4.1、 出力幅=省略という指定は、出力幅に7を指定したのと同じ意味になります。

出力幅を明示的に指定するときは、オーバーフローに注意しながら10進のバイト数で指定し ます。オーバーフローすると、符号や上位桁が切り捨てられるので、注意してください。 第4章 操 作 —

[<u>表示・2進(K)</u>]

Windowsの文字形式数値項目を、ホストの2進形式整数・小数項目に変換します。

入力幅は、バイト数で指定します。省略すると15バイトとみなされるので、プリント形式からの変換の場合は、ふつうは明示的に桁数を指定します。デリミタ形式からの変換の場合は、数値項目が15バイトを超えることは少ないので、省略するほうがふつうです。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえ ば、 -123.4 という数字を4バイトの符号つき2進形式の項目に記録するとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i4s4.1 と指定します。なお、2進キャストは省略できません。 まとめると、プリント形式からの変換の場合は

入力幅=10、2進キャスト/ピクチャ=i4s4.1 のような指定になり、

デリミタ形式からの変換の場合は

入力幅=省略、2進キャスト/ピクチャ=i4s4.1 のような指定になるのがふつう です。ただし、入力幅が15バイトを超えるときは、

入力幅 = <u>20</u>、2進キャスト / ピクチャ = i 8 u 1 5 . 2 のように、ダミーの入力幅を 指定します。

[ゾーン・2進(M)]

WindowsのCOBOLのゾーン形式数値項目を、ホストの2進形式整数・小数項目に変換します。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が5 バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 入力ピクチャは s 4 . 1 と指定します。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 - 1 2 3 . 4 という数字を 4 バイトの符号つき 2 進形式の項目に記録するとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i 4 s 4 . 1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「2進キャスト/ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、2進キャスト/ピクチャ=i4s4.1という指定は、入力ピクチャ=s4.1を指定したのと同じ意味になります。

(6)引用符はずし/くくりの指定

デリミタ形式からの変換の場合には、項目が引用符(")でくくられていることがあります。 その引用符は無視します。また、引用符でくくったなかにデリミタがあっても、ただの文字デー タとして扱います。

ホストがUnix、Widniwsの場合、デリミタ形式に変換するときは、変換後の文字列 を引用符でくくることができます。ただし、プリント形式への変換のときは、この引用符くくり の機能は無効になります。 市販ソフトの入力用には、文字項目だけを引用符でくくることが多いのですが、引用符を使わ ないソフトもあれば、すべての項目を引用符でくくるソフトもあります。

参考 ...

たとえば、デリミタ形式のうちK3フォーマットと呼ばれるものは、

各項目はコンマで区切る 数値はそのまま(位取りのコンマ不可) 文字列は引用符でくくる

というルールになっています。

(7) 漢字イン / アウトの指定

ホストが汎用機・オフコンの場合、項目の前後に、漢字イン(KI)・漢字アウト(KO)を 挿入することができます。

これは、漢字項目に漢字イン(KI)・漢字アウト(KO)を指定するのが、ふつうの使い方です。この指定とAnk・漢字まじり項目変換は、似ているところもありますが別物です。ご注意ください。

1:漢字イン、3:漢字イン+アウトを入力した場合、__10進数数値(0~255の範囲) を入力することもできます。東芝方式のANK・漢字項目化するために「長さバイト」を付加す る場合に指定します。

(8) 改行コード挿入の指定

ホストがUnix、Windowsの場合、任意のところに改行コードを挿入する(改行コー ドで項目を区切る)こともできます。改行コード挿入には、つぎの2種類があります。

通常 出力がプリント形式データファイルの時は、指定が無効になる

強制 出力がプリント形式データファイルの時も、指定が有効になる

出力がデータファイルのときに、自動的にレコード末尾に改行コードが付加される機能とは別のものですから、混同しないでください。

<マップ設定(詳細)ウインドウ>



マップ設定の記述をするエディットボックスです。

~ はファイル(<u>F</u>) 編集(<u>E</u>)のメニューの機能がボタン化されています。 既存のパラメータファイル等を読みます。

の内容をパラメータファイルへ保存します。 直前の編集作業が無効になり、元に戻ります。 選択した文字列が切り取られ、カットバッファに入ります。 選択した文字列がカットバッファに入ります。

/ の操作でカットバッファに入った内容を、カーソルがある位置へ貼りつけます。 カーソルがある位置以降に文字列があれば、挿入になります。 選択した文字列が削除されます。

の文字列をすべて選択状態にします。

設定が完了したら、OKボタンをクリックします。 キャンセルボタンをクリックすると、すべての入力 / 編集作業が無効になります。

注意 ---- マップ設定(詳細)の記述内容について

マップ設定(詳細)のエディットボックスの中に記述する内容は、レコードレイアウト(/m apを含まない/map以降)のみの記述となります。既存のパラメータファイルを読み込むと、 それ以外の記述(/delimited~、/map等)は自動的にコメントになります。記述 に誤りがある状態でOKボタンをクリックすると、エラーとなる場合があります。修正してから 再度OKボタンをクリックしてください。/map以降の文法については、「コマンド編」の「コ マンド型の実行」の章を参照してください。

例)マップ設定(詳細)にパラメータファイル"PNPUTCSV.P"を読み込む



Win ホストデータファイル変換の実行

変換ボタンをクリックすると、Win ホストデータファイル変換が始まります。

ファイル内容表示ウインドウ

変換結果表示(<u>V</u>)のチェックボックスをONにし、Win ホストファイル変換を実行する と、実行ウインドウを閉じた後につぎのファイル内容表示ウインドウが開き、変換先のファイル の中身を確認することができます。

<ホストが汎用機・オフコンの場合>

	$\langle \rangle$	\mathbf{i}
ファイル内容表示		×
ファイル名: C¥FTRANP¥Planet.put レコード長: 「	256	1~
レコート [©] 0 = ANK:EBCDIC(加力) 漢字:JIS + 8080 0~ 255 0+12+3+4+5+6+7+ 16進High 4FBECB4444DCDCEDE444A585A54440005FFFDAEBCACBCACBCACBCBD444444FFFFFF44444444444444444444444	849 144444444444444)0000000000000000000000	444 000
レコート [×] 1 = ANK:EBCDIC(かかけ) 漢字:JIS + 8080 0~ 255 0+12+3+4+5+6+7+ 16進High 4FBECB4444ECDEE44449B59844440085FFFFDAEBCACBAACCFACBFBC44FFFFFF4444444444444444	8+9 144444444444444)0000000000000000000000	
レコート [×] 2 = ANK:EBCDIC(加力) 漢字:JIS + 8080 0~ 255 0+12+3+4+56+67+ 16進High 4FCCBE4444CCDEC4444858444440000FFFFCAEAACECC444444444444444444444444444	8+9 14444444444444)00000000000000000000000	 444 000
レコート [×] 3 = ANK:EBCDIC(加力) 漢字:JIS + 8080 0~ 255 0+12+3+4+5+6+6+7+ 16進High 4FBDCB4444DCDE444444A58B444440017FFFFDAEBCACCEAAACBC444444FFFFFFF444444444444444444444	8+9 1444444444444444 10000000000000000000	444 000 ▼
表示タイプ(D): HEX+文字表示(収トランダム) フォント(E) ファイル出力(P)	COK	

変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルのレコード長が表示されます。

変換先のファイルの中身が、

レコード長単位のHEX+文字表示(ホスト)形式で出力されます。

の表示タイプは、HEX+文字表示(ホスト)固定です。

フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、の出力文字フォントを切り替えることができます。 ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、の内容をファイルに保存できます。

桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)

1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。

OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

<ホストがUnixで、出力ファイル形式がデータファイル(可変長)の場合>



変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルの中身が、 で選択されている表示タイプで出力されます。
デフォルトは、改行コード単位のHEX+文字表示(ホストテキスト&データ)です。の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えます。
フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、 の出力文字フォントを切り替えることができます。
ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、 の内容をファイルに保存できます。
桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)
1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。
OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

第4章 操 作 ———

<ホストがUnixで、出力ファイル形式がランダムファイル(固定長)の場合>

	$\langle \rangle$
ファイル内容表示	
ファイル名: C¥FTRANP¥Planet.put レコード長:	256 1~
レコート [*] 0 = ANK:ASCII 漢字:EUCコート [*] 0~ 255 0++1+	
	+9 2222222222222 000000000000
レコート [*] 2 = ANK:ASCII 漢字:EUCコート [*] 0~ 255 0+1+2+3+45+6++7+8 16進High 23CCBE22224455422222BBB222222000044444AEAACECC222222222222222222222222222	+9 222222222222 000000000000
レコート*3 = ANK:ASCII 漢字:EUCコート* 0~255 0+1	+ <u>9</u> 22222222222222 000000000000000
ま示タイブ(D): HEX+文字表示(れレランダム) オホタイブ(D): HEX+文字表示(れレランダム)	

変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルのレコード長が表示されます。

変換先のファイルの中身が、

レコード長単位のHEX+文字表示(ホストランダム)形式で出力されます。

の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えます。

フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、の出力文字フォントを切り替えることができます。 ファイル出力(P)ボタンをクリックして、の内容をファイルに保存できます。

桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)

1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。

OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

<ホストがWindowsで、出力ファイル形式がデータファイル(可変長)の場合>



変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルの中身が、 で選択されている表示タイプで出力されます。
デフォルトは、改行コード単位のHEX+文字表示(Winテキスト&データ)です。の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えます。
フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、 の出力文字フォントを切り替えることができます。
ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、 の内容をファイルに保存できます。
桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)、
1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。
OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

第4章 操 作

<ホストがwindowsで、出力ファイル形式がランダムファイル(固定長)の場合>



変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルのレコード長が表示されます。

変換先のファイルの中身が、

レコード長単位のHEX+文字表示(Winランダム)形式で出力されます。

の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えます。

フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、の出力文字フォントを切り替えることができます。 ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、の内容をファイルに保存できます。

桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)

1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。

OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。
注意事項

漢字があるときの注意

漢字項目変換やAnk・漢字まじり項目変換を行うときは、あらかじめ

変換設定の漢字変換方式設定で、適当な漢字変換方式を割り当てておく

のを忘れないでください。また、入力幅、出力幅は漢字データについても

バイト単位で指定

します。漢字の文字数ではないことに注意してください。

改行コードがないと、1件だけの変換になる

Windowsファイルの各レコードの末尾に改行コードがついていないと、先頭の1件だけ 変換されます。この場合は、Win ホストランダムファイル変換を使うべきです。

その他の注意事項

「Win ホストファイル変換」の節を参照してください。

4.9 Win ホストランダムファイル変換

Win ホストランダムファイル変換の操作方法について説明します。

ホストが汎用機・オフコンの場合

<mark>が</mark> F*TRAN+ 「コーイル(E) リール(E) 赤焼砂字(S) 赤焼時っかまディケ) Aルっかい)	
ホスト → Winファイル変換 Win → ホストファイル変換	
Winファイル名(W): C:¥FTRANP¥*.*	Win ⊾ ホスト
▽ ホストファイル名①: C:¥FTRANP¥*.put	参照② · · · · · · · · · · · · · · · · ·
○ テキストファイル⊗ ○ データファイル(D) ○ ランダム	ファイル(配) マップ設定(D)
Winオブジョン	▲ 変換結果表示(型)
	□ 問合わせ・確認@
ホストオプション	
レコード長(2): 256 三	変換(<u>G</u>)
ート [*] 変換表 ファイル:F-TRAN.CCT (標準設定 ANK コート [*] ・EBCDIC (加加力) 漢字変換方式・UE	(汎用機・オフコン)) 三 F WinCOBOL (京士通

変換方法のランダムファイル(<u>R</u>)をクリックし、

Win ホストランダムファイル変換を選択します。

入力レコード長を指定するオプションです。

ホストファイルのレコード長を指定します。

マップ設定(レコードレイアウト設定)をするオプションボタンです。

変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。

ホストがUnix、Windowsの場合



Win変換方法のランダムファイル(<u>R</u>)をクリックし、Win ホストランダムファイル 変換を選択します。ホストファイル形式は、データファイル(<u>A</u>) ランダムファイル(<u>M</u>) の選択ができますが、上の例はホストファイル形式がデータファイル(<u>A</u>)です。

入力レコード長を指定するオプションです。

出力ファイル形式を指定するオプションです。

ホストファイルの詳細オプションボタンです。EOF付加の選択ができます。

ホストがWindowsの場合のみ有効です。ホストがUnixの場合はありません。 マップ設定(レコードレイアウト設定)をするオプションボタンです。

変換後に、変換先のファイルの中身を表示ウインドウに出力するチェックボックスです。 変換を実行するボタンです。このボタンをクリックすると、変換が始まります。 第4章 操 作 ——

₩ F*TRAN+			
ファイル(E) ツール(T) 変換設定(S) 変換時口が表示(K) ヘルフ	°(<u>H</u>)		
「 ホフト → Winファイル変換」Win → ホストファイル変換)			
			1
Winファイル名(W): C¥FTRANP¥*.*		参照(⊻)	Win 、ホスト
↓ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、		参照(Z)	
○ テキストファイル ② ○ データファイル ②	▶ ⊙ <u>525</u> 75	ファイル(<u>R</u>)	マップ語定(P)
レコード長心:			
- ホストファイル形式/オブション			□ 変換結果表示(型)
○ テキストファイル(」) ○ データファイル(A)	😭 ランダム:	ファイル(<u>M</u>)	□ 問合わせ・確認(型)
レコード長心: 256 📑			変換(<u>G</u>)
コード 変換表 ファイル:WIN.	CCT (標準設定)	(Windows))	<u>+</u>
漢字変換方式:SJIS ホストCOB	OL:富士通	WinCOBOL :	富士通
ヘルフ を表示するには [F1] を押してください。			NUM

Win変換方法のランダムファイル(<u>R</u>)をクリックし、Win ホストランダムファイル 変換を選択します。ホストファイル形式は、データファイル(<u>A</u>)、ランダムファイル(<u>M</u>) の選択ができますが、上の例はホストファイル形式がランダムファイル(<u>M</u>)です。 ホストファイルのレコード長を指定します。

Win ホストファイル変換の共通指定項目は、「Win ホストファイル変換」の節ですで に詳しく説明しました。そちらを参照してください。

オプションの指定

入力レコード長オプション

Windows側(入力)のレコード長を指定します。Windowsレコード長は、通常、 10進数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

\$ ホスト側(出力)のレコード長 という特殊変数が使用できます。

ホストファイルのレコード長を基準にして、Windowsファイルのレコード長を決めるこ とができます。たとえば、

\$+2 と指定すれば、

「ホストファイルのレコード長に+2したものをWindows側のレコード長にせよ」という意味になります。

入力レコード長オプションでWindowsレコード長を指定できることは、Win ホスト ランダムファイル変換の性格をよく反映しています。

Win ホストランダムファイル変換は、おもにWindows COBOLの順ファイルや BASICのランダムファイルを変換することをねらったものである、ということはすでに述べ たとおりです。そして、BASIC側の事情を考慮すると、レコード長を任意に指定できないと 困ることが多いのです。

とくに困るのは、N88BASICコンパイラ / インタプリタを使うときです。

N88BASICコンパイラ / インタプリタでは、1つのプログラム内で複数のレコード長の ランダムファイルを扱うことができません。

もう1つの理由は、ゾーン形式とパック形式の変換、日付データの変換をサポートしているため、レコード長を増減する機能がないと困るからです。また、不要な項目がいくつもあるときや、 予備領域が多すぎるときはレコード長を縮めたいものです。

注意 ---- Windows自身には「レコード長」の概念がない

Windows自体にはファイルごとに登録されたレコード長というものはありません。その ため、かなり自由が利きます。アプリケーションがファイルを扱う論理的な単位を、ここではW indows側のレコード長、あるいはWindowsレコード長と呼んでいます。 第4章 操 作 ———

ホストファイル・レコード長指定 <ホストファイルが固定長の場合のみ>

ホストファイルのレコード長を1~32767の範囲の10進数で指定します。デフォルトは、 256バイト です。レコード長の指定が間違っていると正しいデータ変換が行われませんの で、この指定は極めて重要です。

出力形式オプション <ホストファイルが可変長の場合のみ>

データとしてのテキストファイルにはいくつもの形式があるので、どの形式にするかを指定します。つぎの、7種類の中から選択します。

プリントを指定すると、デリミタ(区切り文字)なしで変換され、プリント形式(固定長のテ キストファイル [SDF形式])になります。これがデフォルトです。

デリミタを指定すると、デリミタ形式(区切り文字つきのテキストファイル)に変換されます。 デリミタの種類によってさらに細かい形式が決まります。デリミタは、

コンマ区切り形式(CSV形式、K3形式) タブ区切り形式(TAB=09H) スペース区切り形式(SP=20H) の3つのなかから指定できます。

通常は、コンマ区切り(CSV)形式への変換が一般的です。さらに、

変換後に圧縮をかける(可変長になる。デフォルト) 変換後に圧縮しない(固定長のまま) を指定できます。

を指定できます。圧縮をかけると本来不要なスペース、つまり、

レコードの先頭・末尾のスペース デリミタの前後のスペース 引用符の前のスペース が削除されます。 圧縮をかける機能があるのは、つぎのような理由があるためです。

変換後のWindowsファイルの容量を、大幅に減らすことができる 一部の市販ソフトでは、不要なスペースがあるとうまくデータを読み込めない

EOF付加指定 <ホストがWindowsで、可変長ファイルの場合のみ>

EOFコード(1AH)の扱いを指定します。 EOF付加のチェックボックスを、

ONにすると、EOFコードをつける指定 OFFにすると、EOFコードをつけない指定 となります。

EOF付加指定がONであれば、WindowsファイルのおわりにEOFコードをつけます。 現在では少なくなりましたが、テキストファイルのおわりにEOFコードがついていないとエラ ーにするソフトがあります。その場合にも対処するための機能です。

EOF付加指定がOFFであれば、EOFコードはつけません。これがふつうだと思ってくだ さい。こちらがデフォルトです。

マップ設定オプション

このマップ設定オプションで、項目別の細かい変換方法を指示します。本来なら、自動的に項 目を認識して変換ができると便利です。しかし、ホストの、とくにCOBOLのデータには、デ ータ自身に桁数や小数点位置の判断に必要な情報が含まれていない、という特性があります。そ のため自動変換は原理的に不可能なのです。

マップ設定のボタンをクリックすると、つぎのウインドウが開きます。

マップ設定		×
● 簡易設定(S)	● 詳細設定(型)	
<u>СССС ОК</u>	キャンセル	- ANSIN

マップ設定には、

簡易設定 ---- 設定ウインドウに従って、必要な値を入力するだけで設定ができます。 通常は、こちらの機能だけで間に合う場合がほとんどです。

詳細設定 ---- フリーフォーマットで、マップ設定を記述するエディタモードです。 簡易設定だけでは設定できない特殊な設定をする場合、あるいは、 既存のパラメータファイル等を流用したい場合等に使用します。 マップ設定の文の書き方を覚えなくては設定できません。

の2とおりの方法があります。

注意 ---- 簡易設定と詳細設定の組み合わせ

簡易設定で設定した値は、詳細設定で読み込むことができるテキスト形式に直されます。よって、簡易設定をした後の項目に、詳細設定で特殊設定をつけ足すこともできます。

注意 ---- 詳細設定 簡易設定の順で設定した場合の制約

詳細設定 簡易設定の順で設定した場合は、原形が変わってしまう場合があります。これは、 詳細設定で設定した項目が簡易設定で読み込まれることにより、スリム化されてしまうからです。 ただし、原形が変わってしまっても、設定内容が変わるわけではありません。 <マップ設定(簡易)ウインドウ>

$\langle \rangle \rangle$	$\langle \rangle \rangle$	$\langle \rangle$	$\langle \rangle \rangle \rangle$			\mathbf{Y}		$\langle \rangle$	
マップ	設定(簡易)) \Vin → ホ	スト ランダムフ	アイル変換					_ 🗆 🗵
编集(E)·	↓ ツ- ↓ ①	7 ♦ ♦	★ ★					•	•
5	X 🖻 🕻		🔍 👹					OK	キャンセル
- デー						.			
	リア(0)	Ank(1)	漢字(2)	Ank·漢字(3)	数値(4)	 表示・ゾーン(5) 表示・パック(6) パイナリ(7)	ユーザーA(8)	ユーザ [*] -B(9)
	 パーン(A) ノ	\%» ታ• /\%» ታ (B)		パック・ソ [、] ーン(D)			[年設定(F)]区切記号(F)	 日付(G)	BY(H)
	<u>/ / / / / / / / / / / / / / / / / / / </u>	いかまテ(1)		2)谁•夷子(1)	パーン・23年日	M) [0.%-5-25年(N)	1 25年・ビーン(①) 25年・15mh(P)	25年•25年(1)	心がせい反射(の)
	action b	177 \$0100	\$0102/EUO		/ / 2,座1	7177 ZJENN			117722#200
0.41		4h(0)		ゴルクロックです。	カダイマロ	1月末間/	3 +1 -		
		71990		<i>/////////////////////////////////////</i>	712471	1.2.151¥17		1−r £¢ų: j2o0	
No.	赤° ジ ション	デーが形式	入力幅	出力幅	~~"	漢字心/アウト	אנאב		<u> </u>
1							For PutRand		
2								Copyri	ght(C)Fujits
3							太陽系の惑星データ		
4							Windo	wsランダム	ファイル形式
2 <u>5</u>	<u> </u>	A-1.	0						
5		ADK 法令	2				NO. (総生曲方) 和夕		
0			0				和-白 苗々		
9		Ank	9				読み		
10		また。 表示・N°ック	8	u4.3			督量比		
11		表示・ゾーン	2	u2			衛星数(確定済)		
12		表示・ゾーン	5	s2.1			極大等級(見かけ上の最大	の明るさ)	
13		漢字	20				英名の意味・由来		
14		日付	yyyy-mm-dd	yymmdd			14°-ト提出年月日		
15			▶	▲	▲	▲	↓		
16		<u> </u>							
17		+ $-$			-				
10		+ $+$ $-$							
20				+ +					
21									
22									•
•									F
1 and the second									

No.は、1~2000です。ここは非入力項目で、行選択の時にクリックします。

項目の桁位置等を入力します。通常、項目を組み替えるとき以外は入力しません。

ダブルクリックすると、入力サブウインドウが開きます。

項目のデータ形式を24種類の中から指定します。

ダブルクリックすると、入力サブウインドウが開きます。

項目の入力幅を入力します。

項目の出力幅を入力します。出力幅=入力幅の場合は省略します。

データ形式がゾーン / パック / 2進指定の場合、ピクチャまたは2進ピクチャで指定します。 ホストがUnix、Windowsの場合、デリミタ形式に変換するときに項目を引用符で くくる指定ができます。

ホストが汎用機・オフコンの場合は、項目の前後に漢字イン / アウトを挿入する指定です。 ホストがUnix、Windowsの場合は、改行コードを挿入する指定です。 コメントの入力ができます。

—— 第4章 操 作

セルポインタの入力ガイダンスメッセージが出力されるフィールドです。 誤入力をした場合のエラーメッセージも出力されます。

~ は編集(<u>E</u>)、ツール(<u>T</u>)のメニューの機能がボタン化されています。 直前の編集作業が無効になり、元に戻ります。

1行または複数行を選択(の操作)をした後に、このボタンをクリックすると、

選択した項目の内容が切り取られ、カットバッファに入ります。

1行または複数行を選択(の操作)をした後に、このボタンをクリックすると、

選択した項目の内容がカットバッファに入ります。

カットバッファに入った内容(、 の操作)を、セルポインタがある行へ貼りつけます。 すでに、セルポインタ以降の行に設定項目がある場合は、挿入になります。

セルポインタがある行以降が1行づつ下がります。通常は、行挿入をする場合に使用します。 選択した項目の内容が削除されます。

変換プレビュー(変換前/変換後のデータ確認)ができます。

Winファイルエディタが起動します。

Windowsファイルの中身を見る(編集も可能)ことができます。

セルポインタが選択項目にある場合に、選択肢のボタンが表示されるエリアです。 入力レコード長オプションの指定を変更できます。

設定が完了したら、OKボタンをクリックします。

キャンセルボタンをクリックすると、すべての入力 / 編集作業が無効になります。

マルチレコードの設定ができるAtlasモードに切り替えるボタンです。 詳細は、マルチレコード編のマニュアルを参照してください。

注意 ---- マップ未設定時のデータ変換動作

マップ未設定の場合は、すべてをANKデータとみなしてデータ変換を行います。

第4章 操 作 ———

<マップ設定(簡易)サブウインドウ>

ポジションの欄をダブルクリックすると、つぎのサブウインドウが開きます。入出力桁位置や 入出力スキップの設定を簡便に行うことができます。

ポシションの入力	×
 ○ 入力桁位置 (A) ○ 出力桁位置 (B) ○ 桁位置 (C) ○ デリ約位置 (D) 	入力桁位置 (6): 🧮 🚍
○ 入力スキッフ [®] (E) ○ 出力スキッフ [®] (E)	<u>ОК</u> ++уtи

データ形式の欄をダブルクリックすると、つぎのサブウインドウが開きます。データ形式から 引用符はずし(漢字項目は漢字イン/アウト)までの設定を簡便に行うことができます。

デー妍記等の入力	×
● Ank ① ● 漢字 ② ● Ank・漢字 ③	入力幅 (1): 2 🚍
 ○表示(4) ○表示(G) ○ゾーン(5) ○ゾーン(H) 	
C パック (6) × C パック (0) C 25進 (2) C 25進 (2)	出力幅 (1):
 ハイナリ (8) ハイナリ反転 (9) 	
 C ユーザ^k−A (<u>A</u>) C ユーザ^k−B (<u>B</u>) 	┏ ″~″ 引用符はずし (M)
 ○ 年設定 (①) ○ 区切記号 (①) 	
○日付(E) ○BY(E)	OKキャンセル

<マップ設定(簡易)・変換プレビュー機能>

変換プレビューボタンをクリックすると、マップ設定(簡易)のウインドウはつぎのような状態になり、変換前/変換後のデータを確認することができます。

______ 第4章 操 作

3978	設定/施具)	$W_{in} \rightarrow \pi$	フトニンガルコー	在此被封持									
:編集(F)	58.4E (1回)の/ ツール(T)	wiri — A	MF 999477	17138.174									
	X B		Q Win							ОК	1	キャッセル	-0
	‴									0.0			
- <i>2</i> .1 7 .													1
変	換元データ	: C:¥FTRAN	IP¥Planet.ran										
							変換	後(0)	前四	-F(t)	次に	-1~(2)	100
() +	(m)	#h(c)		≓_മന-11 ല്.		■隹 応寺士			2 441.4		74		
100	las <u>in</u>	71770) -90))//L=	1 1 3.18	ant (ca			NYJV4-	ræw;∣	74		
No.	#°୬°୬∎ጋ	デーが形式	入力幅	出力幅	入力桁	出力桁	変換前が少(1	la-N°)					•
6		Ank	2		0	0	1						
7		漢字	8		2	2	水星						
8		Ank	10		10	10	MERCURY						
9	-		9	1.0	20	20	7-417-						
10		表示りがの	8	U4.3	28	28	0.055						
10		表示 ワーク	2	uz 	37	00 95	-2.4						
12		祝小(フ・フ) 満空	20	32.1	44	20	-2.4 □2曲) 2曲/小/使去						
10	-	日付	20 vvvv-mm-dd	www.	64	58	1998 04 30						-1
			5555 mm dd				A					Þ	
												ليت	
一方	極前デ-	- タ表示		後データ君	€示			1		i			
- <u>Yy</u> Za	設定(間易/	$ (0,0) \rightarrow 0$											
⁄ 伊生 (F)	9-1 (T)	with s M	AF JJØDJØ	「ル変換									ĬX
編集(E)	ツール(<u>T</u>)			ル変換									
編集(E)	9-11(T) X 🖻 📭			「ル変換						ОК			
編集(E)	ッール(T) <u>% 国</u> プレビュー -									ОК		キャンセル	
編集(E)	ッール① <u>※ </u>			1 ル変換						ОК		- - ++>tel	
編集(E) 	ッール(T) ※ <u></u> 配 プレビュー - 換元データ	: C¥FTRAN	P¥Planetran	1 ル変換						ОК		 ++>tell	
編集(E) 	ッール(T) <u>※ </u>	: C¥FTRAN	P¥Planetran	# <u>&</u> #				前(0)		ОК -К ² (1)		□ 	
編集(E) 「 変換: 変換:	ッール① ※	: C¥FTRAN	P¥Planetran	()// <u>&</u> .l X				前(0)	前心	ок -К(1)) 次レコ	++>tu ++>tu -1°(2)	
編集(E) 変換: 変	ッール① ※	: C¥FTRAN	P¥Planetran					前(0)	前い	ОК -Ի°(1) [) 次レコ	++>tell	
編集(E) 変換: 変換: 変換:	ッール① ※	: C¥FTRAN	● P¥Planetran ● ※変換	「小変」茶 データのプレビュ	ュー中は編	課できま	、 変換 :せん	前(0)	 前し 」 入力しコー	OK 下句) 「夜の: [、 次レコ 74	++>tell	
編集(E) - 変換: 変 Att	ッール① <u>メ Pa m</u> ブレビュー - 換元データ Iss(<u>A</u>)	 C¥FTRAN チェック(の) データ形式 	● IP¥Planetran ● ※ 変換 入力幅	「小柔辞 データのプレビュ 出力幅	ュー中は編 入力桁	集できま 出力桁	:せん 変換 変換後データ(1	前(0) レコート~)	 前に 入力に	OK -ド(1) [-ド長の; [、 次レコ 74	-F'(2)	
編集(E) - 変換: 変 Att No. 6	ッール(T) メ 「日」 プレビュー - 換元データ Iss(<u>A</u>) 本 [*] シ [*] ション	: C¥FTRAN fェック(の) f [*] -切形式 Ank	● P¥Planetran ● 変換 入力幅 2	データのプレビ: 出力幅	 二一中は編 入力桁 0 	課できま 出力桁 0	:せん 変換後データ(1 40 F1	前(0) レコート*)	 前し 、 入力レコー	OK -ド句) -ド長の: 【) 次レコ 74	++>tell	
編集(E) -変換: 変 Att No. 6 7	ッール(1) メ 「 レビュー - 換元データ las(<u>A</u>) 本 [*] シ [*] ション	: C¥FTRAN f=ック(C) f*-切形式 Ank 漢字	● P¥Planetran P¥Planetran ○ ※ 変換 入力幅 2 8	データのプレビ: 出力幅	1 ー中は編 入力桁 0 2	集できま 出力桁 0 2	せん 変換後テ [*] ∽タ(1 40 F1 BF E5 C0 B1 40	前(0) レコート*) 40 40 40	前し 入力レコー	OK -ド句)[-ド長の: [、 次レコ 74	++>tell	
編集(E) -変換: 変 の At No. 6 7 8	ッール(1) メ 「 アール(1) ブレビュー - 換元データ	: C¥FTRAN チェック(Q) データ形式 Ank 漢字 Ank	● P¥Planetran P¥Planetran ○ 変換 入力幅 2 8 10 -	データのプレビ- 出力幅	 二一中は編 入力桁 0 2 10 	集できま 出力桁 0 2 10	、 変換 変換後テ°〜タ(1 40 F1 BF E5 C0 B1 40 D4 C5 D9 C3 E4	前(0) レコート*) 40 40 40 D9 E8 40	前し 、 入力しつ 40 40	OK -ト*(1) [-ト*長の: [、 次レゴ 74	++>tell	
編集(E) - 変換: 変 Att No. 6 7 8 9	ッール① ※ <u>■</u> <u>■</u> ブレビュー - 換元データ las(<u>A</u>) ■ [†] °) ⁵ シ ₃ ン	: C.¥FTRAN チェック(の) デ [*] ータ形式 Ank 漢字 Ank 本一 N	● P¥Planetran P¥Planetran ○ P¥Planetran P¥Planetran P¥Planetran	データのプレビュ ビント幅	a ー中は編 入力桁i 0 2 10 20	集できま 出力桁 0 2 10 20	を また。 変換後テ [×] -タ(1 数 数 数 数 数 数 数 数 2 5 5 0 8 1 40 5 1 8 5 5 0 8 1 40 5 8 7 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	前(0) レコート*) 40 40 40 D9 E8 40 58 40 40	前レコー 入力レコー 40 40 40	OK ┣*(1) [-ド長⊕:]	、 次レゴ 74	++>tell	
編集(E) 一変換: 変換: 変換: 変換: の。 6 7 8 9 10 11	ッール(1) X 「日」 ブレビュー - 換元データ las(<u>A</u>) 本 [*] ツ [*] ジョン	: C:¥FTRAN チェック(C) データ形式 Ank 漢字 Ank 表示・パ・ック	● 当連 IP¥Planetran IP¥Planetran	データのプレビュ ビン1幅 U4.3	 二一中は編 入力桁 0 2 10 20 29 23 	集できま 出力桁 0 2 10 20 29	変換後テ [×] -次(1 数換後テ [×] -次(1 40 F1 BF E5 C0 B1 40 D4 C5 D9 C3 E4 A4 58 87 54 AE 00 00 05 5F F0 E0	前(0) レコート°) 40 40 40 D9 E8 40 58 40 40	前レコー 入力レコー 40 40 40	OK ┣╹(1) [-ŀ'長ℚ:]	次レゴ 74	++>\tell ++>\tell N°(2)	
編集(E) 一変換: 変換: 変換: 変換: の。 6 7 8 9 10 11 12	ッール(I) X 「日」 プレビュー - 換元データ Iss(<u>A</u>) 本*ツ*ション	 C*FTRAN チェック(の) デ・ク形式 Ank 漢字 Ank 表示・ハ*・ŋ 表示・パ*・ŋ 	への 出版 P¥Planetran P¥Planetran ア¥Planetran ※ 変換 入力幅 2 8 2 5 5	データのプレビュ データのプレビュ 出力幅 u4.3 u2 c2 1	 二一中は編 入力桁 0 2 10 20 29 37 20 	集できま 出力桁 0 2 10 20 29 33 25	ぜん 変換後データ (1 ダク) ダク 変換後データ (1 40 F1 BF E5 C0 B1 40 D4 C5 D9 C3 E4 44 58 87 54 AE 00 00 05 5F F0 F0 F0 F0 E0 E2 D4	前(0) レコート*) 40 40 40 D9 E8 40 58 40 40	前しコー 入力レコー 40 40 40	OK ┣*(1) [-ŀ*長⑪: [次レコ 74	++>\text{blue}	
編集(E) 一変換: 変換: 変換: 変換: の。 6 7 8 9 10 11 12 12	ッール(I) X	C * FTRAN Fxxy)(Q) デ・ク形式 Ank 漢字 Ank 表示・パ・ŋ 表示・ソ゚ー) 表示・ソ゚ー)	へ下りカム// ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● </td <td>データのプレビュ データのプレビュ 出力幅 u4.3 u2 s2.1</td> <td> 二一中は編 入力桁 0 2 10 20 29 37 39 </td> <td>業できま 出力桁 0 2 10 20 29 33 35 29</td> <td>:せん 変換後データ(1 40 F1 BF E5 C0 B1 40 D4 C5 D9 C3 E4 A4 58 87 54 AE 00 00 05 5F F0 F0 F0 F2 D4</td> <td>前(0) レコート、) 40 40 40 D9 E8 40 58 40 40</td> <td>前しコー 入力しコー 40 40 40</td> <td>OK ┣*(1) [■*/長の: [</td> <td>次レコ 74</td> <td>++>>tell</td> <td></td>	データのプレビュ データのプレビュ 出力幅 u4.3 u2 s2.1	 二一中は編 入力桁 0 2 10 20 29 37 39 	業できま 出力桁 0 2 10 20 29 33 35 29	:せん 変換後データ(1 40 F1 BF E5 C0 B1 40 D4 C5 D9 C3 E4 A4 58 87 54 AE 00 00 05 5F F0 F0 F0 F2 D4	前(0) レコート、) 40 40 40 D9 E8 40 58 40 40	前しコー 入力しコー 40 40 40	OK ┣*(1) [■*/長の: [次レコ 74	++>>tell	
編集(E) 一変換: 変換: 変換: 変換: の。 6 7 8 9 10 11 12 13 14	ッール① ※ ■ ■ ブレビュー - 換元データ ===(<u>A</u>) ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	C¥FTRAN チェック(の) デ・-分形式 Ank 表示・パック 表示・パック 表示・パック 表示・パック 表示・パック 表示・パック 表示・パック	● 当 ● ● ● ● ● ● 2 5 20 >	データのプレビュ データのプレビュ 出力幅 u4.3 u2 s2.1	a ー中は編 入力桁 0 20 29 37 39 44 84	集できま 出力桁 0 2 10 20 29 33 35 38 59	変換後データ(1 40 F1 BF E5 C0 B1 40 D4 C5 D9 C3 E4 A4 58 87 54 AE 00 00 05 5F F0 F0 F0 F2 D4 A5 ED BF C0 A1 F9 F8 F0 E7 C4 F2	前(0) レコート [×]) 40 40 40 D9 E8 40 58 40 40 CB BF C0 F0	前しコ 入力レコ- 40 40 40 40	OK -ドモモ(1) [-ドモ長⑪: [3B C8 BC	次レコ 74 D4 40	キャンセル キャンセル -ト [*] (2) - 40 40 40 40	
編集(E) 交換: 変換: 変換: 変換: の。 6 7 8 9 10 11 12 13 14 ▲	ッール(T) メ	 C¥FTRAN チェック(の) デ[*]ータ形式 Ank 漢字 Ank 表示・リ[*]ーク 表示・リ[*]ーク 支示・リ[*]ーク 支示・リ[*]ーク 支示・リ[*]ーク 支示・リ[*]ーク 支示・リ[*]ーク 	● ● P¥Planetran ● P¥Planetran ● 入力幅 2 8 10 9 8 2 5 20 yyyyy=mm=dd	データのプレビ: 出力幅 u4.3 u2 s2.1 yymmdd	 一中は編 入力桁 0 2 10 20 29 37 39 44 64 	集できま 出力桁 0 2 10 20 29 33 35 38 58	変換後データ(1 40 F1 BF E5 C0 B1 40 D4 C5 D9 C3 E4 A4 58 87 54 AE 00 00 05 5F F0 F0 F0 F2 D4 A5 ED BF C0 A1 F9 F8 F0 F4 F3	前(0) レコート*) 40 40 40 D9 E8 40 58 40 40 58 40 40 58 F C0 F0	前しつ 入力しつ 40 40 40 40	OK -ドモ(1) [-ド長の: [3B C8 BC	、 次レコー 74 D4 40	++>>tzル ++>>tzル -ト*(2) 40 40 40	

変換前 / 変換後のデータ表示の切り替えを行うボタンです。 の表示が変わります。 前レコード / 次レコード表示のためのボタンです。 ここには、入力レコード / 出力レコードのポジション(桁)が表示されます。 データ表示は、変換前が文字、変換後が16進、未定義個所が文字になります。

(1)ポジション(桁位置)の指定

変換対象にするWindows側(入力)の桁位置や、変換結果を書き込むホスト側(出力) の桁位置を、別の任意の位置に移動できます。現在、処理対象にしている桁位置を、この指定で 強制的に変更できます。この機能を利用すると、項目の組み替えなどが簡単に実現できます。

入力桁位置は、ふつう10進数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

\$ Windows側(入力)のレコード長

. Windows側(入力)の現在の桁位置 という特殊変数が使えます。

たとえば、

.-40 と指定すれば、 今の入力桁位置から40バイト戻る

という意味になります。

出力桁位置を移動することもできます。ふつう、

:10進数

で桁位置を指定します。10進数の代わりに式による指定もでき、そのなかでは、

\$ ホスト側(出力)のレコード長

ホスト側(出力)の現在の桁位置
 という特殊変数が使えます。

たとえば、

: . - 40 と指定すれば、 現在の出力桁位置から40バイトバックせよ

という意味になります。

注意 ---- 先頭を0桁目とする

F*TRAN+では、レコードの先頭を0桁目として数えます。

(2)ポジション(入力スキップ)の指定

Windows側(入力)レコードに不要な項目があるとき、それをスキップして変換できます。

スキップする幅は、 ^ バイト数 で指定します。

たとえば、3バイト分スキップしたいなら、 ^ 3 と指定します。

バイト数は省略でき、省略すると1バイトとみされるので、

^ 3 は ^ ^ ^ と指定したのと同じです。

スキップする幅は式による指定もでき、そのなかでは、

* Windows側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

(3)ポジション(出力スキップ)の指定

入力スキップとは逆に、ホスト側(出力)に何桁か空きを作ることもできます。

スキップする幅は、 __バイト数 で指定します。

たとえば、3バイト分スキップしたいなら、 __3 と指定します。

バイト数は省略でき、省略すると1バイトとみされるので、

__3 は ____ と指定したのと同じです。

スキップする幅は式による指定もでき、そのなかでは、

* ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

第4章 操 作 —

(4)24種類のデータ形式

[<u>Ank(1)</u>]

ANK項目を変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、どのコード変換が行われるかは、 変換設定のANKコードの設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。 入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

\$ Windows側(入力)のレコード長

* Windows側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、ANK項目のおわりのほうが切り捨てられます。逆に、項目長を伸ばすと、 ホスト側のANK項目のおわりにスペース(20H/40H)が詰められます。

出力幅は式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(出力)のレコード長
- * ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

[<u>漢字(2)</u>]

漢字項目を変換します。どのコード変換が行われるかは、変換設定の漢字変換方式の設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

入力幅は、10進のバイト数で指定します(漢字の文字数ではありません)。式による指定も でき、そのなかでは、

- \$ Windows側(入力)のレコード長
- * Windows側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、漢字項目のおわりのほうが切り捨てられます(漢字の中央で切れることは ありません)。逆に、項目長を伸ばすと、ホスト側の漢字項目のおわりに漢字変換方式に設定さ れている漢字スペースが詰められます。

出力幅は式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(出力)のレコード長
- * ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

[<u>Ank・漢字(3)</u>]

ANK・漢字まじり項目を変換します。どのコード変換が行われるかは、変換設定の漢字変換 方式の設定で決まります(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。ホストが汎用機・オ フコンの場合、変換後、漢字文字列の前後にはKI/KOが挿入されます。この、KI/KO挿 入のタイミングも漢字変換方式の設定できまります。そのため、オーバーフローの危険性がある ので、出力幅の指定には注意しなければいけません。

入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ Windows側(入力)のレコード長
- * Windows側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

ふつうは、KI/KOが挿入されてデータ長が長くなる分を加算した出力幅を指定します。オ ーバーフローすると、ANK・漢字まじり項目のおわりのほうが切り捨てられます。ただし、漢 字モードのままおわることはありません。また、KOが途中で切れることもありません。 出力幅は式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(出力)のレコード長
- * ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

[<u>数値(4</u>)]

文字形式の数値項目どうしの変換をします。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、 変換設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしてお かなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。数値変換は、Ank項 目変換と後述の表示・ゾーン変換の中間的なものです。Ank項目変換と比較すると、

文字形式数値しか通さない

入力幅を省略すると15桁(バイト)とみなす 右詰めになる

などの点が異なります。

「文字形式数値しか通さない」というのは、具体的には、

+、-、0~9、ピリオド(.), E、e、D、d

しか変換しないで、これら以外の文字は捨ててしまうということです。たとえば、通貨記号 (¥/\$)や位取りのコンマ(,)などは削除されるので、リストファイルから入力データファ イルを作るときなどに役立ちます。 第4章 操 作 —

[表示・ゾーン(5)]

Windowsの文字形式数値項目を、ホストのCOBOLのゾーン形式数値項目に変換しま す。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、EBC DIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットア ップ時に一回だけ行います)。

入力幅は、バイト数で指定します。省略すると15バイトとみなすので、ふつうは明示的にバ イト数を指定します。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 . 4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録するとすれば、ピクチャは s 4 . 1 と指定します。なお、ピクチャは省略できません。

[表示・パック(6)]

Windowsの文字形式数値項目を、ホストのCOBOLのパック形式数値項目、BCD形 式数値項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコ ードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけませ ん(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

入力幅は、バイト数で指定します。省略すると15バイトとみなすので、ふつうは明示的にバ イト数を指定します。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 . 4 という数字を3バイトの符号つきパック形式の項目に記録するとすれば、ピクチャは s 4 . 1 と指定します。1 2 3 . 4 という数字を3バイトのBCD形式の項目に記録 するとすれば、ピクチャは b 5 . 1 と指定します。なお、ピクチャは省略できません。

[<u>バイナリ(7)</u>]

バイナリ変換(無変換)は、「コード変換を一切しない」という変換方法です。 入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

\$ Windows側(入力)のレコード長

* Windows側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなされます。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、バイナリ項目のおわりのほうが切り捨てられます。逆に、項目長を伸ばす と、ホスト側のバイナリ項目のおわりに、ホストが汎用機・オフコンの場合はNUL(00H) が、ホストがUnix/Windowsの場合はスペース(20H)が詰められます。 出力幅は式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(出力)のレコード長
- * ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

 $[\underline{-}-\underline{-}\overline{-}A(8)], [\underline{-}-\underline{-}\overline{-}B(9)]$

ユーザーA/B変換は、利用者独自のバイト単位の変換処理が必要なときに、ANK変換表ユ ーザー用A、ユーザー用Bを書き替えて利用します。ユーザーA/B変換には、Ank項目変換 の説明がほとんどそのまま当てはまります。

入力幅は、10進のバイト数で指定します。式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ Windows側(入力)のレコード長
- * Windows側(入力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

入力幅を省略すると*を指定したとみなします。

出力幅も省略できます。出力幅を省略すると「入力幅と同じ」とみなします。

項目長を変更するときは、出力幅を10進のバイト数で指定します。

項目長を縮めると、ユーザーA / B項目のおわりのほうが切り捨てられます。逆に、項目長を 伸ばすと、ホスト側のユーザーA / B項目のおわりにNUL(00H)が詰められます。 出力幅は式による指定もでき、そのなかでは、

- \$ ホスト側(出力)のレコード長
- * ホスト側(出力)の残りバイト数 という特殊変数が使えます。

第4章 操 作 ——

$[\underline{V}-\underline{V}\cdot\underline{V}-\underline{V}(\underline{A})]$

Windows COBOLのゾーン形式数値項目を、ホストのCOBOLのゾーン形式数値 項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの 設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふ つう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 - 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 出力ピクチャは s 4 .1 と指定します。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「出力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、出力ピクチャ=s4.1という指定は、入力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「入力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

なお、入力ピクチャと出力ピクチャを同時に省略することはできません。

[<u>パック・パック(B)</u>]

Windows COBOLのパック形式数値項目を、ホストのCOBOLのパック形式数値 項目、BCD形式数値項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換 設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかな ければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が3バイトの符号つきパック形式の項目に記録されているとすれば、 出力ピクチャは s 4 . 1 と指定します。BCD形式なら b 5 . 1 と指定します。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「出力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、出力ピクチャ=s4.1という指定は、入力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「入力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

なお、入力ピクチャと出力ピクチャを同時に省略することはできません。

[<u>ゾーン・パック(C</u>)]

Windows COBOLのゾーン形式数値項目を、ホストのCOBOLのパック形式数値 項目、BCD形式数値項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換 設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかな ければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 - 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 出力ピクチャは s 4 . 1 と指定します。BCD形式なら b 5 . 1 と指定します。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「出力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、出力ピクチャ=s4.1という指定は、入力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「入力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

なお、入力ピクチャと出力ピクチャを同時に省略することはできません。

[<u>パック・ゾーン(D)</u>]

Windows COBOLのパック形式数値項目を、ホストのCOBOLのパック形式数値 項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの 設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふ つう、セットアップ時に一回だけ行います)。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が3バイトの符号つきパック形式の項目に記録されているとすれば、 出力ピクチャは s 4 . 1 と指定します。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「出力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、出力ピクチャ=s4.1という指定は、入力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「入力ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ = s4.1を指定したのと同じ意味になります。

なお、入力ピクチャと出力ピクチャを同時に省略することはできません。

第4章 操 作 —

[<u>年設定(E)]</u>

日付データ項目を変換する際の、年の2桁(yy)と4桁(yyyy)の交換方式を設定しま す。Wnn、または、Snnの形式で設定します。Wnnの"W"はウインドウ方式を、Snn の"S"はシフト方式を意味し、"nn"は00~99の数字で指定します。

入力幅に W30 と指定すれば、入力データの年を1930~2029年とみなし、 出力幅に S25 と指定すれば、出力データの年下2桁を、-25します。

また、シフト方式("Snn"指定)では、つぎの特殊指定ができます。

SShowa は、"S25"の指定と同じ(昭和通年方式)

SHeisei は、"S88"の指定と同じ(平成通年方式)

年設定は日付項目変換が実行された時に適用になり、複数の年設定がなされている場合は、日 付項目変換の直前の年設定が有効になります。

年設定がない場合の日付項目変換のデフォルトは、入力幅/出力幅ともに、 W30 となり、 入出力データの年を1930~2029年とみなします。

[<u>区切記号(F)</u>]

日付データ項目を出力する際の日付区切り記号をつぎの3つの中から設定します。入力幅に、 SLASH、または、HYPHEN、または、PERIODと入力します。

<u>指 定 文 字</u>	<u>日付区切り記号</u>	<u>データ例</u>
SLASH	/(スラッシュ)	1 9 9 8 / 1 2 / 3 1
ΗΥΡΗΕΝ	- (ハイフン)	1998 - 12 - 31
PERIOD	.(ピリオド)	1998.12.31

日付区切り設定は日付項目変換が実行された時に適用になり、複数の日付区切り設定がなされ ている場合は、日付項目変換の直前の日付区切り設定が有効になります。

日付区切り設定がない場合の日付項目変換のデフォルトは、 SLASH となり、日付区切り記号を"/"にします。

[<u>日付(G</u>)]

日付データ項目を変換します。コード変換は、変換設定のANKコード設定で決まります(ふ つう、セットアップ時に一回だけ行います)。

入力幅と出力幅は、必ず日付マスクの形式で指定し、省略はできません。日付マスクの指定方 法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

= 第4章 操 作

入力幅に、 yyyy-mm-dd

出力幅に、 yymmdd のように指定すると、

コード変換後に、入力側10バイトの日付データ項目を、出力側6バイトの日付データ項目に 編集します。その際に、年設定、日付区切り設定が適用になります。

[ゾーン・表示(I)]

Windows COBOLのゾーン形式数値項目を、ホストの文字形式数値項目に変換しま す。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、EBC DIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットア ップ時に一回だけ行います)。変換結果は右詰めになります。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 ピクチャは s 4 . 1 と指定します。なお、ピクチャは省略できません。

出力幅は省略できます。出力幅を省略すると、

符号つきなら1、符号なしなら0とする

+ 整数部桁数

+ 1 + 小数部桁数(小数部があれば)

の要領でピクチャから自動的に計算された値が使われます。たとえば、ピクチャ=s4.1、 出力幅=省略という指定は、出力幅に7を指定したのと同じ意味になります。

出力幅を明示的に指定するときは、オーバーフローに注意しながら10進のバイト数で指定します。オーバーフローすると、符号や上位桁が切り捨てられるので、注意してください。

第4章 操 作 —

[<u>パック・表示(」)</u>]

ホストのCOBOLのパック形式数値項目を、文字形式数値項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS 8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ 行います)。変換結果は右詰めになります。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が3バイトの符号つきパック形式の項目に記録されているとすれば、 ピクチャは s 4 . 1 と指定します。なお、ピクチャは省略できません。

パック形式では、整数部桁数 + 小数部桁数を奇数にしておくのが通例です。整数部の最上位桁 に意味があるのかないのかは、半々の割合です。出力幅は省略できます。出力幅を省略すると、

符号つきなら1、符号なしなら0とする

+ 整数部桁数

+ 1 + 小数部桁数(小数部があれば)

の要領でピクチャから自動的に計算された値が使われます。例を示すと、ピクチャ=s4.1、 出力幅=省略という指定は、出力幅に7を指定したのと同じ意味になります。

出力幅を明示的に指定するときは、オーバーフローに注意しながら10進のバイト数で指定します。オーバーフローすると、符号や上位桁が切り捨てられるので、注意してください。

[<u>表示・2進(K)</u>]

Windowsの文字形式数値項目を、ホストの2進形式整数・小数項目に変換します。

入力幅は、バイト数で指定します。省略すると15バイトとみなされるので、プリント形式からの変換の場合は、ふつうは明示的に桁数を指定します。デリミタ形式からの変換の場合は、数値項目が15バイトを超えることは少ないので、省略するほうがふつうです。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 - 1 2 3 . 4 という数字を 4 バイトの符号つき 2 進形式の項目に記録するとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i 4 s 4 . 1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

[<u>2進・表示(L</u>)]

Windowsの2進形式整数・小数項目を、ホストの文字形式数値項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。変換結果は右詰めになります。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 -123.4 という数字が4バイトの符号つき2進形式の項目に記録されているとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i4s4.1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

出力幅は省略できます。出力幅を省略すると、

入力幅	出力幅	
1	3	
2	5	
3	8	
4	10	
5	13	左記の値を基本として、
6	15	符号つきなら+1、ピクチャ指定の小数部があれば+1とし、
7	17	さらに、ピクチャ指定のほうが大きければ、
8	18	整数部桁数に、符号つきなら+1、小数部があれば+1+小数点桁数

の要領で2進キャスト/ピクチャから自動的に計算された値が使われます。例を示すと、入力 幅=i4s4.1、出力幅=省略という指定は、出力幅=10という指定と同じです。

出力幅を明示的に指定するときは、オーバーフローに注意しながら10進のバイト数で指定し ます。オーバーフローすると、符号や上位桁が切り捨てられるので、注意してください。 第4章 操 作 ——

[<u>ゾーン・2進(M)</u>]

WindowsのCOBOLのゾーン形式数値項目を、ホストの2進形式整数・小数項目に変換します。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が5バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録されているとすれば、 入力ピクチャは s 4 . 1 と指定します。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 - 1 2 3 . 4 という数字を 4 バイトの符号つき 2 進形式の項目に記録するとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i 4 s 4 . 1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「2進キャスト/ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、2進キャスト/ピクチャ=i4s4.1という指定は、入力ピクチャ=s4.1を指定したのと同じ意味になります。

[パック・2進(N)]

Windows COBOLのパック形式数値項目を、ホストの2進形式整数・小数項目に変換します。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 .4 という数字が3バイトの符号つきパック形式の項目に記録されているとすれば、 入力ピクチャは s 4 . 1 と指定します。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 - 1 2 3 . 4 という数字を 4 バイトの符号つき 2 進形式の項目に記録するとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i 4 s 4 . 1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

入力ピクチャは省略できます。入力ピクチャを省略すると、「2進キャスト/ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、入力ピクチャ=省略、2進キャスト/ピクチャ=i4s4.1という指定は、入力ピクチャ=s4.1を指定したのと同じ意味になります。

[<u>2進・ゾーン(0</u>)]

Windowsの2進形式整数・小数項目を、ホストのCOBOLのゾーン形式数値項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、 EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 -123.4 という数字が4 バイトの符号つき2 進形式の項目に記録されているとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i4s4.1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 1 2 3 . 4 という数字を5 バイトの符号つきゾーン形式の項目に記録するとすれば、ピクチャは s 4 . 1 と指定します。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「2進キャスト/ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、2進キャスト/ピクチャ=i4s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ=s4.1を指定したのと同じ意味になります。

[2進・パック(P)]

Windowsの2進形式整数・小数項目を、ホストのCOBOLのパック形式数値項目に変換します。ホストが汎用機・オフコンの場合、あらかじめ、変換設定のANKコードの設定で、 EBCDIC系かJIS8/ASCII系かの設定をしておかなければいけません(ふつう、セットアップ時に一回だけ行います)。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 -123.4 という数字が4バイトの符号つき2進形式の項目に記録されているとすれば、2 進キャスト / ピクチャは i4s4.1 と指定します。なお、2 進キャストは省略できません。

ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、

- 123.4 という数字を3バイトの符号つきパック形式の項目に記録するとすれば、ピク チャは s4.1 と指定します。

出力ピクチャは省略できます。出力ピクチャを省略すると、「2進キャスト/ピクチャ」と同じとみなされます。たとえば、2進キャスト/ピクチャ=i4s4.1、出力ピクチャ=省略という指定は、出力ピクチャ=s4.1を指定したのと同じ意味になります。

第4章 操 作 ——

[<u>2進・2進(Q)</u>]

Windowsの2進形式整数・小数項目を、ホストの2進形式整数・小数項目項目に変換します。

2 進キャスト / ピクチャの指定方法については、「操作の基礎」の章で説明しました。たとえば、 - 1 2 3 . 4 という数字を 4 バイトの符号つき 2 進形式の項目とする場合、2 進キャスト / ピクチャは i 4 s 4 . 1 と指定します。

2 進キャスト / ピクチャは入力または出力のどちらかを省略できます。入力を省略すると「出力と同じ」とみなされ、出力を省略すると「入力と同じ」とみなされます。なお、入力 2 進キャスト / ピクチャを同時に省略することはできません。

[<u>バイナリ反転(R)</u>]

バイナリ反転は、「コード変換を一切せずに、幅分のデータをバイト単位で左右反転する」と いう変換方法です。2進数値データ(整数、小数、実数)は、ホスト側が正順であるのに対して、 Windows側が逆順であることが多いので、2進数値データの内容をそのままバイト単位で 左右反転する場合等に使用します。2進・2進変換のような加工機能はありませんが、その分だ け処理が高速です。

幅は、10進のバイト数で指定します。たとえば4バイトの入力データが、16進表現で、 01 AB CD EF であれば、出力データは EF CD AB 01 になります。

(5)引用符くくりの指定

ホストがUnix、Widniwsの場合、デリミタ形式に変換するときは、変換後の文字列 を引用符でくくることができます。ただし、プリント形式への変換のときは、この引用符くくり の機能は無効になります。

市販ソフトの入力用には、文字項目だけを引用符でくくることが多いのですが、引用符を使わ ないソフトもあれば、すべての項目を引用符でくくるソフトもあります。

参考 ...

たとえば、デリミタ形式のうちK3フォーマットと呼ばれるものは、

各項目はコンマで区切る 数値はそのまま(位取りのコンマ不可) 文字列は引用符でくくる というルール

というルールになっています。

(6) 漢字イン / アウトの指定

ホストが汎用機・オフコンの場合、項目の前後に、漢字イン(KI)・漢字アウト(KO)を 挿入することができます。

これは、漢字項目に漢字イン(KI)・漢字アウト(KO)を指定するのが、ふつうの使い方 です。この指定とAnk・漢字まじり項目変換は、似ているところもありますが別物です。ご注 意ください。

1: 漢字イン、3: 漢字イン+アウトを入力した場合、__10進数数値(0~255の範囲) を入力することもできます。東芝方式のANK・漢字項目化するために「長さバイト」を付加す る場合に指定します。

(7)改行コード挿入の指定

ホストがUnix、Windowsの場合、任意のところに改行コードを挿入する(改行コー ドで項目を区切る)こともできます。改行コード挿入には、つぎの2種類があります。

通常 出力がプリント形式データファイルの時は、指定が無効になる強制 出力がプリント形式データファイルの時も、指定が有効になる

出力がデータファイルのときに、自動的にレコード末尾に改行コードが付加される機能とは別のものですから、混同しないでください。

<マップ設定(詳細)ウインドウ>



マップ設定の記述をするエディットボックスです。

~ はファイル(<u>F</u>) 編集(<u>E</u>)のメニューの機能がボタン化されています。 既存のパラメータファイル等を読みます。

の内容をパラメータファイルへ保存します。 直前の編集作業が無効になり、元に戻ります。 選択した文字列が切り取られ、カットバッファに入ります。 選択した文字列がカットバッファに入ります。

/ の操作でカットバッファに入った内容を、カーソルがある位置へ貼りつけます。 カーソルがある位置以降に文字列があれば、挿入になります。 選択した文字列が削除されます。

の文字列をすべて選択状態にします。

設定が完了したら、OKボタンをクリックします。 キャンセルボタンをクリックすると、すべての入力 / 編集作業が無効になります。

注意 ---- マップ設定(詳細)の記述内容について

マップ設定(詳細)のエディットボックスの中に記述する内容は、レコードレイアウト(/m apを含まない/map以降)のみの記述となります。既存のパラメータファイルを読み込むと、 それ以外の記述(/delimited~、/map等)は自動的にコメントになります。記述 に誤りがある状態でOKボタンをクリックすると、エラーとなる場合があります。修正してから 再度OKボタンをクリックしてください。/map以降の文法については、「コマンド編」の「コ マンド型の実行」の章を参照してください。

例)マップ設定(詳細)にパラメータファイル "PNPUTRND. Р"を読み込む

/size 74	4	Windowsレコード長=74バイト	
/hostsi;	ze 256	ホストレコード長=256バイト	◇コメントになる行
/map)
ank	2	No.(惑星番号)	
kanji	8	和名	
ank	10	英名	
ank	9	読み	
dpack	8:u4.3	質量比	≻変換時に、
dzone	2:u2	衛星数(確定済)	使われる行
dzone	5:s2.1	極大等級(見かけ上の最大の明るさ)	
kanji	20	英名の意味・由来	
date	yyyy-mm-dd	:yymmddレポート提出年月日	

Win ホストランダムファイル変換の実行

変換ボタンをクリックすると、Win ホストランダムファイル変換が始まります。

ファイル内容表示ウインドウ

変換結果表示(<u>V</u>)のチェックボックスをONにし、Win ホストファイル変換を実行する と、実行ウインドウを閉じた後につぎのファイル内容表示ウインドウが開き、変換先のファイル の中身を確認することができます。

<ホストが汎用機・オフコンの場合>

	\rightarrow	\rightarrow
ファイル内容表示		×
ファイル名: C¥FTRANP¥Planet.put レコ	ード長: 25	56 1~
レコート [®] 0 = ANK:EBCDIC(加力) 漢字:JIS + 8080 0~ 255 0+1	/+8+- 144444444444444444444444444444444	9 44444444 00000000
レコート [*] 1 = ANK:EBCDIC(加加) 漢字:JIS + 8080 0~ 255 0+12+3+45+6+7 16進High 4FBECB4444ECDEE44449B59844440085FFFFDAEBCACBAACCFACBFBC44FFFFF444444 Low 02620100005554200000EE86E0000001F000475DF01B06488E4ED7F0009808310000000 ANK 2 S{ VENUS ビュナスアの004Pミ *{ 1レアHT マンア *{ 980831 漢字Even金星 綸寇	2+8+- 144444444444444444444444444444444	
レコート [×] 2 = ANK:EBCDIC(加加) 漢字:JIS + 8080 0~ 255 0+1	/+8+- 144444444444444444444444444444444	9 4444444 00000000
レコート [×] 3 = ANK:EBCDIC(加力) 漢字:JIS + 8080 0~ 255 0+12+3+445+6+7 16進High 4FBDCB4444DCDE444444A58B444440017FFFFDAEBCACCEAAACBC444444FFFFFFF4444444 Low 0420010000419200000048EE00000000F020305DF01B0F444EF00000009904300000000	7+8+- 14444444444444444 10000000000000000000	9 44444444 00000000 •
表示タイプ(D): HEX+文字表示(4ストランダム) フォント(E) ファイル出	坊®…」	OK

変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルのレコード長が表示されます。

変換先のファイルの中身が、

レコード長単位のHEX+文字表示(ホストランダム)形式で出力されます。

の表示タイプは、HEX+文字表示(ホストランダム)固定です。

フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、の出力文字フォントを切り替えることができます。 ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、の内容をファイルに保存できます。

桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)

1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。

OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

<ホストがUnixで、出力ファイル形式がデータファイル(可変長)の場合>



変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルの中身が、 で選択されている表示タイプで出力されます。
デフォルトは、改行コード単位のHEX+文字表示(ホストテキスト&データ)です。の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えます。
フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、 の出力文字フォントを切り替えることができます。
ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、 の内容をファイルに保存できます。
桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)
1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。
OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

第4章 操 作 ——

<ホストがUnixで、出力ファイル形式がランダムファイル(固定長)の場合>

	$\langle \rangle$
ファイル内容表示	
ファイル名: C¥FTRANP¥Planet.put レコード長:	256 1~
レコート [*] 0 = ANK:ASCII 漢字:EUCコート [*] 0~ 255 0++1+	
	+9 2222222222222 000000000000
レコート [*] 2 = ANK:ASCII 漢字:EUCコート [*] 0~ 255 0+1+2+3+45+6++7+8 16進High 23CCBE22224455422222BBB222222000044444AEAACECC222222222222222222222222222	+9 222222222222 000000000000
レコート*3 = ANK:ASCII 漢字:EUCコート* 0~255 0+1	+ <u>9</u> 22222222222222 000000000000000
ま示タイブ(D): HEX+文字表示(れレランダム) オホタイブ(D): HEX+文字表示(れレランダム)	

変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルのレコード長が表示されます。

変換先のファイルの中身が、

レコード長単位のHEX+文字表示(ホストランダム)形式で出力されます。

の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えます。

フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、の出力文字フォントを切り替えることができます。 ファイル出力(P)ボタンをクリックして、の内容をファイルに保存できます。

桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)

1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。

OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

<ホストがWindowsで、出力ファイル形式がデータファイル(可変長)の場合>



変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルの中身が、 で選択されている表示タイプで出力されます。
デフォルトは、改行コード単位のHEX+文字表示(Winテキスト&データ)です。の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えます。
フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、 の出力文字フォントを切り替えることができます。
ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、 の内容をファイルに保存できます。
桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)、
1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。
OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

第4章 操 作

<ホストがwindowsで、出力ファイル形式がランダムファイル(固定長)の場合>



変換先のファイル名が表示されます。

変換先のファイルのレコード長が表示されます。

変換先のファイルの中身が、

レコード長単位のHEX+文字表示(Winランダム)形式で出力されます。

の表示タイプをHEX+文字表示、文字表示のどちらかに切り替えます。

フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、の出力文字フォントを切り替えることができます。 ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、の内容をファイルに保存できます。

桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える:デフォルト)

1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。

OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。
注意事項

<u>漢字があるときの注意</u>

漢字項目変換やAnk・漢字まじり項目変換を行うときは、あらかじめ

変換設定の漢字変換方式設定で、適当な漢字変換方式を割り当てておく

のを忘れないでください。また、入力幅、出力幅は漢字データについても

バイト単位で指定

します。漢字の文字数ではないことに注意してください。

その他の注意事項

「Win ホストファイル変換」の節を参照してください。

第4章 操 作 =

4.10 スクリプトファイル

ホスト Winファイル変換、ホスト ホストファイル変換の2つのメイン処理部で設定した 項目は、F*TRAN+のスクリプトファイルとして保存することができます。

作成されたスクリプトファイルは、エクスプローラからクリックするだけで実行できます。ス クリプトファイルの実行については、解説で説明します。

WF*TRAN+ - Shoril.fp5 Image: Comparison of the state of the
ファイル(E) ツール(D) 変換設定(E) 変換時加が表示(E) ハルフ°(H) Image: Imag
 ■ 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20
▲ Winファイル変換 Win マーイル名ゆ: C*FTRANP*** Win ファイル名(W): C*FTRANP*** Win ファイル名(W): C*FTRANP*** Win ファイル名(W): C*FTRANP*** ● 第四〇二
ホスト ファイル名ゆ: C¥FTRANP¥*.* 参照() ホスト アイル名ゆ: ホスト アイル名ゆ: ホスト アイル名() ホスト アイル名() Winファイル名(): C¥FTRANP¥*.get 参照(2) 参照(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
 ホストファイル名仰: ○¥FTRANP¥*.* ♥Winファイル名(W): ○¥FTRANP¥*.get ●照(2) ●Win変換方法】 ○ テキストファイル(2) ● データファイル(2) ● ランダムファイル(2) マップ設定(2)
ホストファイル名①: C¥FTRANP¥*.* 参照(Y) ホスト Win Winファイル名(W): C¥FTRANP¥*.get 参照(Z) 参照(Z) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
 マップ設定(P) ▼ Winファイル名(W): ○#FTRANP¥*.get 「Win変換方法】 「テキストファイル(W) ○ データファイル(D) ○ ランダムファイル(R) マップ設定(P)
Win アライル名(W): C.#FTRAINF#*.get 参照(2) 【Win変換方法】 (* テキストファイル(2) * ランダムファイル(2) ホストオブション 「 変換結果表示(V)
【Win変換方法】
 ● テキストファイル(2) ● データファイル(2) ● ランダムファイル(3) マップ設定(9) ホストオプション
ホストオプション /
ホストオブション /
1 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /
レコード長(1)/ 1256 日
「 問合わせ·確認Q)
□ード 変換表 ファイル:F-TRAN.CCT (標準設定(汎用機・オフコン))
ANK コード: EBCDIC (加加力) 漢字変換方式: JEF WinCOBOL: 富士通

読み込まれたスクリプトファイル名。 選択されているメイン処理部が、保存の対象となる。 [新規にスクリプトファイルに保存する場合]

のタブコントロールをクリックし、処理(ホスト Winファイル変換、Win ホストフ ァイル変換のいずれか)を選択します。必要な項目を設定し、実行が可能なら、実際に処理を行 い結果を確認します。

この状態の設定を保存するなら、メニューバーのファイル(<u>F</u>) 名前を付けて保存(<u>A</u>)を 実行します。ここで、つぎのウインドウが開きます。

保存設定
▶ 実行ウィンドウ表示(D)
F 実行ウィンドウ自動クローズ(C)
実行終了時に 🔲 📑 Ѡ 秒待機する。
֍イトル①:
<u> </u>

これは、スクリプトファイルを実行する時の設定をするウインドウです。 スクリプトファイルを実行する必要がない場合は、どの設定でもかまいません。

実行ウインドウ表示をON、実行ウインドウ自動クローズをOFFで、 実行ウインドウを表示し、処理後、実行ウインドウ開いたまま待つ

実行ウインドウ表示をON、実行ウインドウ自動クローズをONで、 実行ウインドウを表示し、処理後、自動的に実行ウインドウ閉じて終了する

実行ウインドウ表示をOFFで、

実行ウインドウを表示しないで処理を実行し、終了する

の3とおりの設定ができます。

実行終了時の待ち時間を秒数で設定することもできます。通常は0秒のままで設定しますが、 データ変換の対象となるファイルのサイズが小さすぎてアプリケーションからスクリプトファ イルを実行した後の戻り値が取得できない場合は、数秒の値を設定します。実行ウインドウ等の タイトルを変更する場合は、タイトルのエディットボックスに出力する文字列を入力します。

設定が完了したら、OKボタンをクリックします。

つぎに、"名前を付けて保存"のウインドウが開いたら、ファイル名を入力し、保存(<u>S</u>)ボ タンをクリックして、スクリプトファイルへの保存がなされます。 第4章 操 作 ——

[保存したスクリプトファイルを読み込む場合]

メニューバーのファイル(<u>F</u>) 開く(<u>O</u>)を実行します。"ファイルを開く"のウインドウ が開いたら、ファイル名を選択し、開く(O)ボタンをクリックします。

スクリプトファイルが読み込まれると、のタブコントロールが切り替わり、メイン処理部の 内容が保存した時の状態になります。のタイトルバーにスクリプトファイル名が表示されます。

[変更した設定をスクリプトファイルに書き込む場合]

スクリプトファイルを読み込みます。変更する設定があれば、修正します。

メニューバーのファイル(F) 上書き保存(S)を実行します。

"名前を付けて保存"のところで説明した保存設定のウインドウが開きます。必要があれば変更してOKボタンをクリックすると、スクリプトファイルへの上書き保存がなされます。

[今までの設定を無効にし、新規に設定をはじめる場合]

メニューバーのファイル(<u>F</u>) 新規作成(<u>N</u>)を実行します。実行すると、"新規に作成し ますか?"と確認ウインドウが開きます。はい(<u>Y</u>)ボタンをクリックすれば、メイン処理部の 設定が起動時の状態になります。いいえ(<u>N</u>)ボタンをクリックすれば、新規作成を中止できま す。

以上が、ファイル・メニューの基本的な操作です。

解説 - スクリプトファイルの実行

F*TRAN+のファイルメニューの機能を使って作成(保存)されたファイル(拡張子が". FP5"のファイル)は、つぎの方法で実行することができます。

コマンドプロンプトから下記の書式を入力し、実行する。 (または、バッチファイルの中に記述し、実行する)

[START /W[AIT]] FP FP5 ファイル名.FP5 [-H 杁トファイル名] [-W Win ファイル名]

通常は、

C:¥><u>fp shori1.fp5</u>

のように入力し、実行します。

バッチファイルの中で組み合わせて使用する場合は、START/W を頭に付けます。

エクスプローラ等からFP5ファイルをダブルクリックし、実行する。

F * T R A N + を正常にインストールしてある環境では、エクスプローラ等から F P 5 ファイ ルをダブルクリックするだけで、実行することができます。

注意 ---- FP5ファイルが実行できる範囲

FP5ファイルが実行できる範囲はつぎの通りです。

ホスト Winファイル変換

Win ホストファイル変換

のいずれか1処理です(組み合わせ等はできません)。

また、下記の条件のFP5ファイルを実行しようとすると、正常な実行ができません。F*T RAN+のメインウインドウが起動し、FP5ファイルを開いた状態になります。不足している 項目を確定させてから実行してください。

・ホストファイル名が指定されていない場合

・Winファイル名が指定されていない場合(Win ホストファイル変換のみ)

- Hや - Wを使ってファイル名を指定する場合は、FP5ファイル作成時にファイル名の欄を 省略してください。FP5ファイルにファイル名が指定されている場合は、そちらが優先されま す。

第4章 操 作

4.11 Winファイラ

Winファイラは、Windowsのファイルを管理する機能を持っています。メニューバー のツール(<u>T</u>) Winファイラ(<u>W</u>)を実行すると、つぎのウインドウが開きます。



全ドライブのフォルダ情報が表示されるエリアです。

開いているフォルダ名が表示されます。

開いているフォルダ内のフォルダ名とファイル名が表示されます。

開いているフォルダ内のフォルダとファイルのサイズが表示されます。

開いているフォルダ内のフォルダとファイルの種類が表示されます。

開いているフォルダ内のフォルダとファイルの更新日時が表示されます。

開いているフォルダ内のオブジェクトの個数が表示されます。

開いているフォルダ内のオブジェクトの総容量と空きディスク容量が表示されます。

ネットワークドライブの割り当てをするウインドウを開くボタンです。

ネットワークドライブの切断をするウインドウを開くボタンです。

のフォルダまたはファイルを選択し、削除(<u>Y</u>)ボタンをクリックすると、 選択したフォルダまたはファイルを削除することができます。

のファイルを選択し、編集(E)ボタンをクリックすると、

Winファイルエディタが開きます。

閉じるボタンをクリックすると、Winファイラを終了し、ウインドウを閉じます。

Winファイル編集(Winファイルエディタ)

Windowsファイル(ホストファイルを含む)の中身を16進で表示し、編集できます。

\backslash	\backslash		
Winファイル編集 - PLANET.CSV			
All and a second s			
C¥FTRANP¥PLANET.CSV		723 자イト	1/3 0 1~
+0 +1 +2 +3 +4 4	-5 +6 +7 +8 +9 +4 +B	+C +D +E +E 01'	23456789ABCDEE
	0 10 11 10 10 1A 1D		ECHOOL COMPODEL
00000000 2 2 20 31 22 2C 2	2 90 85 ★ 90 AF 22 2C	22 4D 45 52	1″,″水星″,″MER 📥
	C 22 CF B0 B7 AD D8	B0 22 2C 30 CU	RY", ~ ?~∓_9~~,0
	10 20 20 32 2E 34 20 19 00 05 07 05 09 99	22 83 80 90 .03	55,0,-2.4, 山府
	2 CC OE 67 OE D2 22 19 90 0D 0A 22 20 92	20 01 00 00 /	1440月末日 133
000000000 F0 90 AF 22 2C 2	2 56 45 4F 55 53 22	2C 22 CB DE 原	04.00 2 , <u>…</u> ■″″VFNIIS″″ド
00000060 B0 C5 BD 22 2C 3	0 2E 38 31 35 2C 30	2C 2D 34 2E	7.0.815.04.
00000070 37 2C 22 83 8D 8	0 5F 81 6A 88 A4 82	C6 94 FC 82 7,	"口神) 愛と美の
00000080 CC 8F 97 90 5F 2	2 2C 31 39 39 38 2E	30 38 2E 33 🛛 🕏	て神″,1998.08.3
00000090 31 0D 0A 22 20 3	3 22 2C 22 92 6E 8B	85 22 2C 22 1.	.″ 3″,″地球″,″
000000A0 45 41 52 54 48 2	2 2C 22 B1 B0 BD 22	2C 31 2E 30 EAF	RTH", "アース", 1.0
	U 2E 3U 2C 22 82 8E	81 44 91 E5 UU	,1,U.U, n. 大
	13 33 38 2E 31 32 2E 19 99 CE 99 AE 99 9C	33 31 UD UA 192	,1998.12.31 A [#] #/// 目# #WAD
000000000 22 20 34 22 20 2 000000E0 53 22 20 22 CE E	2 03 65 30 AF 22 26 20 BD DF 22 26 30 2F	22 40 41 52	4 , 八生 , MAD "フーブ*" 0 107
000000F0 32 20 20 33 2F 2	IN 2C 22 83 8D 90 5F	81 6A 90 FD 2.	-3.0."口神) 単
1		or on oo 10 je,	
	-表示モード(<u>D</u>)		
lu-h'長(L): <u>2</u> 56 <u>-</u> 一	 Win(A) C ホスト(B) 	: 標準	•
読み込み(B) 書き込み(W) 7	「ァイル出力(P)… 内容表示(<i></i> 𝔊	閉じる

ファイル名が表示されます。

ファイルサイズが表示されます。

データのレコード番号 / 全体のレコード件数が表示されます。

レコード内の桁位置(先頭は0または1)が表示されます。

桁位置を数える起点を、0起点、1起点のどちらかに切り替えることができます。

ファイルの中身を16進表現で表示するエリアです。0~Fを入力できます。

ファイルの中身を文字表現で表示するエリアです。文字を入力できます。

レコード長を1~32767で指定できます。デフォルトは256です。

文字表示エリアの表示モードを、Win(標準、ASCII(漢字表現なし)) ホストが 汎用機・オフコンの場合は、ホスト(JIS8/ASCII、EBCDIC(かか)、EBCDIC(英小文字)) ホストがUnixの場合は、ホスト(標準、ASCII(漢字表現なし))の中から選択します。 読み込み(<u>R</u>)ボタンをクリックすると、データをディスクから読み直します。

書き込み(W)ボタンをクリックすると、データをディスクに書き戻します。

ファイル出力(P)ボタンをクリックすると、表示されている画面からのデータ内容を、

ファイルに出力するウインドウが開きます。出力するレコード数とファイル名を指定して、 保存(S)ボタンをクリックすると、ファイルに出力されます。

内容表示(<u>V</u>)ボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウが開きます。 閉じるボタンをクリックすると、Winファイルエディタを終了します。 ファイル内容表示ウインドウ

Winファイルエディタの表示モード(<u>D</u>)がWin(<u>A</u>)の状態で、内容表示(<u>V</u>)ボタン をクリックすると、つぎのファイル内容表示ウインドウが開きます。



Windowsファイル名が表示されます。

Windowsファイルの中身が、 で選択されている表示タイプで出力されます。

デフォルトは、改行コード単位のHEX+文字表示(Winテキスト&データ)です。

の表示タイプを4~6種類の中から切り替えることができます。

フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、 の出力文字フォントを切り替えることができます。 ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、 の内容をファイルに保存できます。

桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える)

1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。

OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

	第4章	操	作
ファイル内容表示			х
ファイル名: C:¥FTRANP¥PLANET.CSV レコード長:	256	1~	
レコート [*] 0= 0~2550+1+23+445+6+7+8 16進High 223222989A2224454555222CBBADB22323332322323289586958C868D223333233233002232228E Low 2012C2050F2C2D5235292C2F07D802C0E055C0CD2E4C23D0F1A0F2CE7E22C1998E04E30DA2022C2B0 文字表示 ″1″,″水星″,″MERCURY″,″マーキュリー″,0.055,0,-2.4,″ロ神〉神の使者″,1998.04.30″2″,″金	+9 9A22254455 0F2C265E53 星","VENUS	222C 2C2B 2, *E]
レコート* 1 = 0~ 255 0+12+3+445+6+7+8 16進High 8A8C95223333233233002222228A969A22245545444222BBCDBCD223233323232323288849A868C862 Low 222C0F2C1999E04E30DA2DD2C2FC860F2C213452F942C21D3B24E2C0E000C0C0E0C221140FC02C102 文字表示 いの神*,1999.04.30**,*小惑星*,*ASTEROID*,*アステロイド*,0.000,0,0.0,*a. 星形の~*	9 2333323323 C1999E08E3 ,1999.08.3	3002 1DA2 1″	
レコート*2 = 0~210 0+1+2+3+445++6+7++8 16進High A222554455222BDCB2233233233232322849586958F8C952233323323323300223222848A9A2224455 Low F2C2521E532C2377D2C14E540C15C5E3C23DDF1A36B32C0F2C2000E08E31DA2082C2A3940F2C2E505 文字表示 ッ"、"URANUS"、"ウラヌス"、14.540、15,5.3、"ギ神)天空の神"、2000.08.31"8"、"海王星"、"NEPU	9 5544222CCD 45E52C28CF TUNE″,″ネフ°	CABD 1D0D チューン	
		▼	
表示タイブ(D): HEX+文字表示(Winう)がん) マフォント(D ファイル出力(D	0	K]
< H E X + 文字表示(Winランダム)> < 文字表示(V)	Nin)	>	
ファイル内容表示 ファイル名: C¥FTRANP¥PLANET.CSV			×
 "1","水星","MERCURY","?-キュリー",0.055,0,-2.4,"口神)神の使者",1998.04.30 "2","金星","VENUS","ビーナス",0.815,0,-4.7,"口神)愛と美の女神",1998.08.31 "3","地球","EARTH","アース",1.000,1,0.0,"n. 大地",1998.12.31 "4","火星","MARS","?-ス",0.107,2,-3.0,"口神)単丸いの神",1999.04.30 "","小惑星","ASTEROID","アステロパト",0.000,0,0.0,"a. 星形の一",1999.08.31 "方","木星","JUPITER","ジュビッグ,317.832,18,-2.8,"口神)神(中,0)主神",1999.12.31 "6","土星","SATURN","ガュージッグ,35.160,17,-0.5,"口神) 農耕の行中",2000.04.30 "7","天土星","URANUS","ウラスズ、14.540,15,5.3,"半神)天空の神",2000.08.31 "7","東土星","NEPUTUNE","オフ°チューン",17.150,8,7.8,"口神)海の神",2001.04.30 "第、"算王星","PLUTO","7%世ートー",0.002,1,13.6,"半神) 冥界の神",2001.04.30 	2001 2001 2001 2001 2001 2001 2001 2001]
■ 表示タイブ(D): 文字表示 (Win) マ フォント(E) ファイル出力(P)	0	₩ K	

Winファイルエディタの表示モード(<u>D</u>)がホスト(<u>B</u>)の状態で、内容表示(<u>V</u>)ボタン をクリックすると、つぎのファイル内容表示ウインドウが開きます。

<ホストが汎用機・オフコンの場合>



ホストファイル名が表示されます。

ホストファイルのレコード長が表示されます。

ホストファイルの中身が、レコード長単位のHEX+文字表示(ホスト)形式で出力されます。 の表示タイプを4種類の中から切り替えることができます。

フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、の出力文字フォントを切り替えることができます。 ファイル出力(P)ボタンをクリックして、の内容をファイルに保存できます。

桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える)

1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。

OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

<ホストがUnixの場合>

	×
ファイル名: C¥FTRANP¥Planet.put	1~
レコート [©] 0 = ANK:ASCII 漢字:EUCコート [©] 0~ 86 0+1+2+345+6+7+8+- 16進High 23BECB22224454555222ADABAAAEAEAB222222323332232222232322AEBCACBCACBCACBCBD2222223333233230 Low 01F5010000D5235290005E1C5D555A1C0000000E0550000000D2E4005DF01BF04EB8C40000001998E04E30A ANK 19.97 MERCURY ・ [®] 。シュ・・。シ 0.055 0 -2.4 ・9%。ビッタ、村才シャ 1998.04.30. 漢字Even水星	
レコート* 1 = A N K:ASCII 漢字:EUCコート* 0~ 86 16递High Low AN K A N K 2h.57 VENUS ・モッシール・ケ 0.815 0 -4.7 ・ソタッピーフ、ネネ、ホス.ソタ 1998.08.31. 漢字Even Odd時	
レコート [©] 2 = ANK:ASCII 漢字:EUCコート [©] 0~ 86 16递High Low ANK ANK 漢字Even Odd狼 アース	
レコート [*] 3 = ANK:ASCII 漢字:EUCコート [*] 0~ 86 16進High Low ACCCEAAACBC222224455222222ADABAB22222222222232333223222AEBCACCEAAACBC22222233332332330 0420010000D1230000005E1C5A00000000000000000000D3E00005DF01B0F444EF00000001999E04E30A	
し 表示タイプ(D): HEX+文字表示(机トテキスト&データ) ■ フォント(E) ファイル出力(P) ● ● ● ● ● ● ● ● ●	K

ホストファイル名が表示されます。

ホストファイルの中身が、HEX+文字表示(ホストテキスト&データ)形式で出力されます。 の表示タイプを6種類の中から切り替えることができます。

フォント(<u>F</u>)ボタンをクリックして、 の出力文字フォントを切り替えることができます。 ファイル出力(<u>P</u>)ボタンをクリックして、 の内容をファイルに保存できます。

桁位置のガイド表示を、0起点(先頭を0として数える)

1起点(先頭を1として数える)のどちらかに切り替えることができます。

OKボタンをクリックすると、ファイル内容表示ウインドウを閉じます。

第4章 操 作



第4章 操 作 ———

ネットワークドライブの割り当て

Winファイラの中でネットワーク上のファイルを扱うには、対象とするファイルが存在する 場所をネットワークドライブとして割り当てる必要があります。

Winファイラの"ネットワークドライブの割り当て(<u>I</u>)..."ボタンをクリックして、つぎの操作を行います。

(1) Windows 2000のウインドウ

 共有ネットワークフォルダに接続して、そのフォルダにドライブ文字を書り 当てることができます。ドライブ文字を書りつ当てるとマイコンピュータを使ってそのフォルダにアクセスできます。 接続に必要なドライブ文字と接続するフォルダを指定してください: ドライブ(Q): H: マ フォルダ(Q): ¥¥Granpower5000¥Back Up マ 参照(B) 例: ¥¥server¥share ロダオン時に再接続する(P) 異なるフーザー名で接続する。 Web フォルダまたは FTP サイトへのショートカットを作成する 	ネットワークドライブの割り当て					×
ドライブ(D): H: フォルダ(O): ¥¥Granpower5000¥Back Up ▼ 参照(B) 例: ¥¥server¥share マログオン時(ご再接続する(B) 異なるフーザー名で接続する。 Web フォルダまたは FTP サイトへのショートカットを作成する		共有ネットワー 当てることがで ってそのフォル? 接続に必要な	-ク フォルダに接続 きます。ドライブ: ダにアクセスできま ミドライブ文字とお	売して、そのフォル 文字を割り当てる ⊧す。 毎続するフォルダを	ダにドライブ文字? とマイ コンピューダ :指定してください:	を割り 変使
		ドライブ(<u>D</u>): フォルダ(<u>O</u>): 例 <u>男</u> <u>い</u>	H: ¥¥Granpbwer50 !: ¥¥server¥sha にログオン時に再 なるユーザー名 eb フォルダまたは)00¥Back Up re i接続する(<u>R</u>) で接続する。 <u>t FTP サイト</u> への [.]	 参照(E ショートカットを作り 	<u>3)</u> 成する。
< 戻る (B)			く戻る(日)	完了	*++>+	11

(2) WindowsNTのウインドウ

ネットワーク トライブの書	明当て				×
ドライブ(<u>D</u>):	G G:		-	ОК	
л*д(<u>р</u>):	¥¥GRANPOWE	R50	00¥Back Up	キャンセル	
ユーザー名(<u>C</u>):				<u>^/レプ(H</u>)	
P	ログオン時に再接	続	†る(<u>₽</u>)		
共有ディレクトリ(<u>S</u>):	`		☑ 展開して表:	示する(<u>E</u>)	
GRA	NPOWER5000				
2	Back Up				
A	HP開発				
	HP管理			-	
2	HP管理2				
2	Manage				4
2	NETLOGON		Logon server share		-
•					
/ /	/	/	/	' /	,

296

(3)Windows98/95のウインドウ

ネットワーク ドライブの害	り当て	11 - 11 - 11 - 11 - 11 - 11 - 11 - 11		1	×
ドライブ(<u>D</u>):	🖃 F:		<u> </u>	ОК	
パス(<u>P</u>):	¥¥Granpower5000	D¥Back Up		キャンセル	\Box^{\wedge}
l.	▲ ログオン時に再き	接続(T)			1
	$\rightarrow \rightarrow$		/	//	

割り当てをするドライブを選択します。

割り当てをするパス名を入力します。Windows2000またはNTの場合は、

をクリックしてパスの選択をすることができます。

電源再投入時にネットワークドライブの割り当てを有効にする場合は、

このチェックボックスをONにします。

設定が完了したら、OKボタンをクリックします。

割り当てを中止する場合は、キャンセルボタンをクリックします。

注意・・・

割り当てをしたドライブはWinファイラの中だけではなく、Windows上において、通常のドライブと同様に扱われます。

ネットワークドライブの切断

Winファイラの中で不要になったネットワークドライブを切断するには、Winファイラの "ネットワークドライブの切断(<u>O</u>)..."ボタンをクリックして、つぎの操作を行います。

	and the second
ドライブ(<u>D</u>):	
F: ¥¥GRANPOWER5000¥BACK UP	
+	
	<u> </u>

切断するネットワークドライブをクリックして、選択します。 選択が完了したら、OKボタンをクリックします。 切断を中止する場合は、キャンセルボタンをクリックします。

第4章 操 作

4.12 変換設定

変換設定には、コード変換等に関するさまざまな設定項目があります。この設定項目は、メモリ上のコード変換表の中身です。変更した設定は即座に変換処理の動作に反映されます。

通常、ホスト選択で指定したコード変換表に対して、その中身を設定し、自分の運用に適した 設定に変更していきます。その作業は、ふつうインストールの直後に1回だけ行います。しかし、 運用に入ってからでも随時、設定の変更ができます。

データ交換の相手システムが複数あるときは、コード変換表の名前と設定を変えて、相手シス テムごとに切り替えて使うと便利です。

ホスト選択

メニューバーの変換設定(<u>S</u>) ホスト選択(<u>H</u>)を実行すると、つぎのウインドウが開きます。ここでは、基準となるホストを選択します。

ホスト選択			×
汎用機・オフコン用(<u>A</u>)	♥ Unix用(<u>B</u>)	Windows相至	至変換用(<u>C</u>)
コメント / ホストのタイプ 講雑設定の併開級 オワフル 富士通方式用 日立方式用 IBM方式用(標準) IBM方式用(ロートペページ290/ IBM方式用(オリジナル) 三菱方式用 NEC方式漢字変換用 NEC方式漢字変換用 東芝方式用 日本ユニシス方式用	F-TI F.CC H.CC ICC 1027) 12.CC IORC M.CC N.CC N.CC N.CC	Y変換表ファイル名 RAN.CCT T T ACCT T ACCT T CT CT ST	
反 次回もこの設定を使用する	5(<u>N</u>)	ОК	++>セル

ホスト系を汎用機・オフコン用(<u>A</u>) Unix用(<u>B</u>) Windows用(<u>C</u>)のボタンで 選択します。

選択できるホストのタイプが表示されるエリアです。

使用しているホストのタイプをクリックして選択します。

実際に設定されているコード変換表ファイル名が表示されるエリアです。

選択したホストの情報を保存するためのチェックボックスです。

次回にF*TRAN+を起動した時に、選択したホストを基準にする場合は、ONにします。 一時的にホストを変更する場合は、OFFにします。デフォルトは、ONです。

の選択が完了した状態でOKボタンをクリックすると、基準となるホストが確定します。 キャンセルボタンをクリックすると、ホスト選択を中止します。 第4章 操 作 —

変換設定

メニューバーの変換設定(<u>S</u>) 変換設定(<u>S</u>)を実行すると、つぎのウインドウが開きます。

		\rightarrow	\rightarrow	\mathbf{i}		`	$\langle \rangle$	<u>۱</u>
を換設定 (別	,用機・オフコン月	月) 			un and the second			
	<i>/</i>							
コート変換	表7711/名:	C:#F		F-THAN				
3X21/74	トのタイプ(<u>C</u>):	標準	設定(汎用	目機・オフニ	1))			
- 漢字変	換方式(<u>K</u>) —							
JEF	··· 富士;	通 J E	F (12才	イント), KI/	KO=28/2	9	-
					I	詳細訳	锭①	
一漢字対	応表(①							
Window	vs vs 富士通	1 JEF		•	F.KK	T		
	, 〔 右轨(11)				Γ	対応表調	。 沿定(M)	
	HV0 O					~ 100-946		
ホストロ	iobolへ"ンが(<u>H</u>):						
(なし) … 叔因	用COBOL	を設定し	<i>,t</i> ati				~
Windo	ws COBOL^	Dr≦W)	:	T				
富士通	···· Powe	er COBC)L97(85)					-
	ンテシアン(N):	1						
ビッグロ	E順)		-					
ANK	^°(A):							
EBCDI	 C(力な力ナ)		-		₩ 79	ブ解析(Ď	all a
							-	
A \$ 11/2 10-10-	主(古住(の)	1 / 2 -	生 一天日日…			×12	21	b .) . []

読み込まれているコード変換表のファイル名が表示されています。

コメントの変更ができます。

コード変換表は、漢字20文字(半角40文字)以内のコメントをつけることができます。
 漢字変換方式の選択項目です。どの漢字変換方式を使うかを割り当てます。
 漢字変換方式の設定変更ボタンです。漢字変換方式の設定内容を細かに変更できます。
 漢字変換時に使われる漢字対応表を選択することができます。
 選択されている漢字対応表を有効にするチェックボックスです。
 漢字対応表エディタを起動するボタンです。漢字対応表の修正ができます。

ホストがUnix、Windowsの場合、ホストCOBOLのベンダを選択します。

ホストCOBOLのゾーン形式データを変換する時に重要になります。

Windows COBOLのベンダを選択します。

Windows COBOLのゾーン形式データを変換する時に重要になります。

ホストエンディアン(ホストの2進項目のデータ格納順)を選択します。

ANKコードの選択項目です。ホスト系が、JIS8/ASCII系か、EBCDIC系か を設定します。EBCDIC系の場合、カタカナ版か英小文字版の選択をします。

- ANK変換表の編集ボタンです。
- 6つのANK変換表(1バイト単位のコード変換表)の表示・修正ができます。
- コード変換表の書き込み(保存)を行い、変換設定のウインドウを閉じます。
- 修正したコード変換表を元のファイルに書き戻すだけでなく、
- 別の名前のコード変換表としてディスクに書き込むこともできます。
- OKボタンをクリックすると、修正した変換設定が有効になります。
- ただし、あくまでメモリ上の変更であり、

コード変換表ファイルに書き込まれるわけではありません。

キャンセルボタンをクリックすると、修正した変換設定を無効にし、

変換設定のウインドウを閉じます。

マップ解析の機能をON/OFFするチェックボックスです。デフォルトは、OFFです。 詳細は、マルチレコード編のマニュアルを参照してください。

コメント / ホストのタイプの設定

コード変換表ごとにつけるコメントを設定できます。漢字20文字(半角40文字)以内で、 通常、ホストのタイプを設定します。 第4章 操 作=

漢字変換方式の設定

変換処理時に使う漢字変換方式を選択します。選択後に、詳細設定(<u>S</u>)のボタンをクリック すると、漢字変換方式設定のウインドウが開き、細かな設定内容を変更することができます。新 規に作成する場合は、「新規作成」を選んでから詳細設定のボタンをクリックします。ただし、 登録できるのは合計で15種類までです。

<ホストが汎用機・オフコンの場合>



この漢字変換方式につける名前です。英数字8文字以内で設定できます。 設定内容をわかりやすくするためのコメントです。

漢字20文字(半角40文字)以内で設定できます。

ANKコードがJIS8/ASCII系か、EBCDIC系かを設定します。

この設定は、Ank・漢字(KI/KO付)混在変換のANK部の変換や、

漢字スペースのコードを決めるために使用されます。EBCDIC系の時に、

カタカナ版、英小文字版のどちらになるかは、変換設定のANKコードの設定で決まります。

漢字コードのタイプを設定します。以下の中から選択します。

JIS、JIS+8080、JIS+8080(ユニシス) 東芝(漢字コード自体は

JIS漢字) NEC-JIPS、NEC-内部コード、IBM

JIS漢字の定義域は2121H~7E7EHです。JIS+8080は、

JISに8080Hを加えて定義域をA1A1H~FEFEHにずらしています。

多くのホストシステムがJIS+8080を採用しています。その理由の1つは、

JIS漢字との相互変換が極めて簡単であることです。2つ目の理由は、

ANKコードとしてEBCDICコードを採用していることが多いため、

JIS漢字をそのまま採用すると、EBCDICコードの制御文字のうち、

21日~3FHがJIS漢字の一部とぶつかってしまうからです。

以上の2タイプと比較すると、NEC漢字はかなり特殊です。NEC漢字には、

JIPS(E) JIPS(J) 内部コード(E) 内部コード(J)

の4とおりのコード系があります。JIS8/ASCII系かEBCDIC系かは、

のANKコードの設定で間接的に決められます。

()内のEは、EBCDIC系、」は、JIS8系を意味しています。

IBM漢字は、IBM漢字 シフトJIS漢字用の内部テーブルを持って対応しています。 漢字インのシーケンスを16進で6桁(3バイト)以内で指定します。

漢字アウトのシーケンスを16進で6桁(3バイト)以内で指定します。

Win ホストファイル変換時に、Ank・漢字(KI/KO付)混在変換するときの、

シフト節約度を設定します。弱、中、強の3とおりの設定ができます。

[弱] 半角スペース(20H)はあくまでANK、全角スペース(8140H)はあくまで 漢字、として完全に区別して扱います。この設定にすると、頻繁にKI/KOが入る傾向があり、 レコード長や項目長のオーバーフローを起こすことが多くなります。ただし、Windowsフ ァイル側で半角スペースと全角スペースを完全に使い分けているときは、この設定が一番よいこ ともあります。

[中] 半角スペース2個(2020H)と全角スペース(8140H)を同一視し、なるベ くANKモード、漢字モードが長く続くようにします。いい替えれば、ANK文字に続く半角ス ペースはANKとして、漢字に続く半角スペースは2個1組で漢字スペースとして扱うというこ とです。ただし、漢字モード中で奇数個の半角スペースが続くと、最後の1個だけはANKとし て扱います。この設定が、いろいろな意味で無難です。

[強] 半角スペース2個(2020H)と全角スペース(8140H)を同一視し、なるベ くANKモード、漢字モードが長く続くようにします。また、ホストファイル側の漢字モード中 に奇数個の半角スペースが現れてもよしとします。この設定のデータを受け付けることのできる システムやソフトは少ないので、注意してください。なお、ANKがEBCDIC、漢字がJI S漢字の組み合わせのときは、この設定にしてはいけません。スペースが40××Hというコー ドの漢字に化けてしまいます。 例をあげます。 はANKスペース、 は漢字スペースです。弱 中 強の順にKI/KO の節約になり、オーバーフローしにくくなるのがわかると思います。

データ ---- EARTH 水の惑星 地球
 (Win ホスト方向、Ank・漢字(KI/KO付)混在変換)
 弱 ---- EARTH <KI> 水の惑星<KO> <KI>地球<KO>
 中 ---- EARTH <KI>水の惑星 <KO> <KI>地球 <KO>
 強 ---- EARTH <KI>水の惑星 <KO> <KI>地球 <KO>

Win ホストファイル変換時に、漢字スペースを全角のコードにするか、 半角×2個のコードにするかを設定します。具体的なコードは、 ANKコードと漢字コードの組み合わせによって、つぎの表のように決まります。

	全角	半角 × 2	
ANKコード&漢字コ-			
	JIS	2 1 2 1 H	2020H
JIS8/ASCII	J I S + 8 0 8 0	A 1 A 1 H *1	2020H
	NEC JIPS(J)	2 1 2 1 H	2020H
	NEC内部コード(J)	6 0 2 1 H	2020H
	IBM漢字	4 0 4 0 H	2020H
	JIS	2 1 2 1 H	禁止 *2
EBCDIC	J I S + 8 0 8 0	A 1 A 1 H *1	4 0 4 0 H
	NEC JIPS(E)	4 F 4 F H	4 0 4 0 H
	NEC内部コード(E)	794FH	4 0 4 0 H
	IBM漢字	4 0 4 0 H	4 0 4 0 H

漢字スペースのコード(Win ホスト変換時)

*1) J I S + 8 0 8 0 (ユニシス)の場合は、2 0 2 0 H にも設定可能

*2) もし半角×2の設定にすると、漢字スペースが「誓」の字に化ける

ホスト Winファイル変換時に、Windowsファイル側の漢字スペースを、

全角 = 8 1 4 0 Hのコードにするか、半角 × 2 = 2 0 2 0 Hのコードにするかを設定します。 ふつうは、半角 × 2 の設定のほうがよいのですが、パソコンのソフトによっては、 全角の漢字スペースしか受けつけないものがあります。

ホストファイル側の漢字対応表に定義されないホスト拡張漢字(ユーザー定義文字を含む) の扱い方を設定します。

ゲタ変換、クエスチョン変換、ゼロイー変換と呼ぶ3とおりの設定ができます。

["〓"変換(ゲタ変換)]

ホスト漢字を"〓(ゲタ)"に置き換える。

- "〓"以外の全角文字にも変換可能。
- ホスト Win方向の変換時に有効。元のコードには戻せない。

桁ずれは起こさない。

["?xxxx"変換(クエスチョン変換)]

?は全角。xxxx は半角4桁の16進数でホストコードを表す。

ホスト Win 双方向で有効。

エディタで処理するのに都合がよく、扱いやすい。

ただし、2バイト 6バイトの変換なので、桁ずれを起こすことに注意。

[0Exxxx 変換(ゼロイー変換)]

- OE(SO)で、つぎにホストコード xxxx が続くことを表す。xxxx はバイナリ2バイト。 ホスト Win双方向で有効。
- この変換方法では、ホストが富士通機でパソコンがFMVシリーズ、かつパソコン側の ソフトがJEF拡張漢字ドライバに対応しているときに限って、JEF拡張漢字の画面 表示やプリントができる。2バイト 3バイトの変換なので、桁ずれを起こすことに 注意。

変換の対象になるのは、句点コードでいえば1区1点~94区94点以外の漢字コードです。 JIS漢字なら2121H~7E7EH以外の漢字コード、

- JIS+8080タイプならA1A1H~FEFEH以外の漢字コードです。
- ゲタ変換のとき、"〓"に代わる別の全角文字を設定できます。
- また、半角スペース2個の設定にもできます。
- 代わりの文字の設定を解除して"〓"に戻したいときは、半角の"="を入力します。
- Windowsの拡張漢字(95区以上の漢字)に対しては、"〓"変換固定です。

" ■ " に代わる別の全角文字を設定できます。また、半角スペース 2 個の設定にもできます。 代わりの文字の設定を解除して " ■ " に戻したいときは、半角の " = " を入力します。

入力ガイダンス・メッセージが表示されるフィールドです。

参照(<u>R</u>)ボタンは、既存の漢字変換方式設定の中から1つを選択して、

~ の項目を基準値にする機能です。

おもに、既存値をベースに「新規作成」を行う場合に重宝します。

の参照ボタンをクリックすると、既存の漢字変換方式設定の参照ダイアログが開きます。 削除(<u>D</u>)ボタンをクリックすると、表示されている漢字変換方式設定を削除し、 設定ウインドウを閉じます

OKボタンをクリックすると、ウインドウ上の漢字変換方式設定が有効になります。 キャンセルボタンをクリックすると、ウインドウ上の漢字変換方式設定を無効にし、 設定のウインドウを閉じます。 <ホストがUnixの場合>

漢字変換方式設定(EUC)	
名前(<u>N</u>):	
באגר@:	
ホスト漢字スペース(B): (Win→ホスト)	全角 (A1A1) ▲ 置換する(A)
Win漢字スペース(₩): (ホスト→Win)	全角 (8140) 🔽 🗖 置換する(5)
半角力タカナ(K): (Win→ホスト)	SS2(8E)+カナコート* _ =の代替の: = _
未定義力タカナ: 休スト→Win)	「■"変換固定 =の代替(2): ■
ホスト拡張漢字(E):	「= ″変換 _ =の代替(3): =
Win拡張漢字:	『="変換固定 =の代替(出): =
参照(R) 削除	

この漢字変換方式につける名前です。英数字8文字以内で設定できます。

設定内容をわかりやすくするためのコメントです。

漢字20文字(半角40文字)以内で設定できます。

Win ホストファイル変換時に、Unixファイル側の漢字スペースを、

全角 = A 1 A 1 Hのコードにするか、半角 × 2 = 2 0 2 0 Hのコードにするかを設定します。 Win ホストファイル変換時に、漢字スペースの置換をする / しないを選択します。

ホスト Winファイル変換時に、Windowsファイル側の漢字スペースを、

全角 = 8 1 4 0 Hのコードにするか、半角 × 2 = 2 0 2 0 Hのコードにするかを設定します。 ふつうは、半角 × 2 の設定のほうがよいのですが、パソコンのソフトによっては、

全角の漢字スペースしか受けつけないものがあります。

ホスト Winファイル変換時に、漢字スペースの置換をする / しないを選択します。

Win ホストファイル変換時の半角カナ文字を、8EH+カナコード、全角化、"="変換の3つの変換方法から選択できます。

で "=" 変換を選択すると、"=" に代わる別の半角文字を設定できます。 ホスト Winファイル変換時の未定義半角カナ文字に対しては、"=" 変換固定です。 "=" に代わる別の半角文字を設定できます。

Unixファイル側の漢字対応表に定義されないホスト拡張漢字(ユーザー定義文字を含む)の扱い方を設定します。ゲタ変換、クエスチョン変換と呼ぶ2とおりの設定ができます。

["〓"変換(ゲタ変換)]

ホスト漢字を"〓(ゲタ)"に置き換える。

"〓"以外の全角文字にも変換可能。

ホスト Win方向の変換時に有効。元のコードには戻せない。

桁ずれは起こさない。

["?xxxx"変換(クエスチョン変換)]

?は全角。xxxx は半角4桁の16進数でホストコードを表す。

ホスト Win 双方向で有効。

エディタで処理するのに都合がよく、扱いやすい。

ただし、2バイト 6バイトの変換なので、桁ずれを起こすことに注意。

変換の対象になるのは、句点コードでいえば1区1点~94区94点以外の漢字コードです。 EUCならA1A1H~FEFEH以外の漢字コードです。

ゲタ変換のとき、"〓"に代わる別の全角文字を設定できます。

また、半角スペース2個の設定にもできます。

代わりの文字の設定を解除して"〓"に戻したいときは、半角の"="を入力します。

Windowsの拡張漢字(95区以上の漢字)に対しては、"〓"変換固定です。

"■"に代わる別の全角文字を設定できます。また、半角スペース2個の設定にもできます。 代わりの文字の設定を解除して"■"に戻したいときは、半角の"="を入力します。

入力ガイダンス・メッセージが表示されるフィールドです。

参照(<u>R</u>)ボタンは、既存の漢字変換方式設定の中から1つを選択して、

~ の項目を基準値にする機能です。

おもに、既存値をベースに「新規作成」を行う場合に重宝します。

の参照ボタンをクリックすると、既存の漢字変換方式設定の参照ダイアログが開きます。 削除(<u>D</u>)ボタンをクリックすると、表示されている漢字変換方式設定を削除し、 設定ウインドウを閉じます

OKボタンをクリックすると、ウインドウ上の漢字変換方式設定が有効になります。 キャンセルボタンをクリックすると、ウインドウ上の漢字変換方式設定を無効にし、 設定のウインドウを閉じます。 <ホストがWindowsの場合>



この漢字変換方式につける名前です。英数字8文字以内で設定できます。 設定内容をわかりやすくするためのコメントです。 漢字20文字(半角40文字)以内で設定できます。 Win ホストファイル変換時に、ホスト(出力)側の漢字スペースを、 全角=8140Hのコードにするか、半角×2=2020Hのコードにするかを設定します。 Win ホストファイル変換時に、漢字スペースの置換をする/しないを選択します。 ホスト Winファイル変換時に、Win(出力)側の漢字スペースを、 全角=8140Hのコードにするか、半角×2=2020Hのコードにするかを設定します。 ホスト Winファイル変換時に、漢字スペースの置換をする/しないを選択します。 ホスト Winファイル変換時に、漢字スペースの置換をする/しないを選択します。 (入力ガイダンス・メッセージが表示されるフィールドです。 参照(<u>R</u>)ボタンは、既存の漢字変換方式設定の中から1つを選択して、 ~ の項目を基準値にする機能です。

おもに、既存値をベースに「新規作成」を行う場合に重宝します。

の参照ボタンをクリックすると、既存の漢字変換方式設定の参照ダイアログが開きます。 削除(<u>D</u>)ボタンをクリックすると、表示されている漢字変換方式設定を削除し、 設定ウインドウを閉じます

OKボタンをクリックすると、ウインドウ上の漢字変換方式設定が有効になります。 キャンセルボタンをクリックすると、ウインドウ上の漢字変換方式設定を無効にし、 設定のウインドウを閉じます。 第4章 操 作 ——

漢字対応表の設定

漢字変換時に使われる漢字対応表を設定します。漢字体系に合った漢字対応表を選択し、有効 のチェックボックスをONにします。対応表設定(<u>S</u>)のボタンをクリックすると、漢字対応表 エディタが起動し、設定内容の変更ができます。漢字対応表(<u>T</u>)が"(新規作成)"の場合は、 ファイル名の入力をした後に、漢字対応表エディタが起動します。

詳細は、4.13 漢字対応表エディタをご覧ください。

ホストCOBOLベンダの設定

ホストCOBOLのゾーン形式データを変換する場合は、この設定が重要になります。つぎの 7種類から選択できます。選択しないこともできます。

富士通	Power COBOL97(85)
日立	C O B O L 8 5
NEC	C O B O L 8 5
メラント	MICRO FOCUS COBOL *
Acucorp	AcuCOBOL (コンパイルオプション : -Dca)
Acucorp	AcuCOBOL (コンパイルオプション : - Dci)
Acucorp	AcuCOBOL (コンパイルオプション : - Dcm)

*)ホストがWindowsの場合は、

メラント Net Express (MICRO FOCUS COBOL) です。 Windows COBOLベンダの設定

Windows COBOLのゾーン形式データを変換する場合は、この設定が重要になりま す。つぎの7種類から選択できます。選択しないこともできます。

富士通	Power COBOL97(85)
日立	C O B O L 8 5
NEC	C O B O L 8 5
メラント	Net Express (MICRO FOCUS COBOL)
Acucorp	AcuCOBOL (コンパイルオプション : -Dca)
Acucorp	AcuCOBOL (コンパイルオプション : ‐Dci)
Acucorp	AcuCOBOL (コンパイルオプション : -Dcm)

ホストエンディアンの設定

2進形式データを変換する場合は、この設定が重要になります。ホスト2進形式のエンディアン(格納順)をつぎのどちらかに設定します。

ビッグ(正順)

リトル(逆順)

ANKコードの設定

ホストシステムには、JIS8/ASCII系のシステムと、EBCDIC系のシステムがあ ります。さらに、EBCDICコードには、カタカナ版と英小文字版があります。それらのどれ に合わせるかを設定します。

この設定はとても重要です。というのは、JIS8/ASCII系にするかEBCDIC系に するかで、単純なANK変換にとどまらず、バッファをクリアするコードや、ゾーン形式、パッ ク形式の変換などにも影響を及ぼすからです。 第4章 操 作 ——

ANK変換表

6種類のANK変換表があります。

EBCDIC(カタカナ) JIS8変換表
 JIS8 EBCDIC(カタカナ)変換表
 EBCDIC(英小文字) ASCII変換表
 ASCII EBCDIC(英小文字)変換表
 ユーザー用(A)変換表
 ユーザー用(B)変換表

このうち、ユーザー用(A)変換表、ユーザー用(B)変換表は、ふつうは使わない特別なものです。

< A N K 変換表について >

ANK変換表はつぎの3組に分けられます。

E B C D I C (カタカナ版) J I S 8
 E B C D I C (英小文字版) A S C I I
 ユーザー用(A / B)

前の2組が基本的なEBCDIC系 JIS8/ASCII系ANK変換表です。ふつう、

EBCDICコードではカタカナと英小文字のコードが重複していて、 両方同時には使えない

ため、カタカナ版と英小文字版の2組に分けてあります。

この2組のANK変換表は、あらかじめかなり一般的だと思われる設定にしてあります。しかし、

EBCDIC系とJIS8/ASCII系では、
 いくつかの特殊文字が対応していない
 EBCDICコード自体もシステムによって若干の差異がある

などの理由で、メーカー・システムによって、バラバラなコード変換規則を採用しているのが 現状です。そのため、使用目的によっては不都合な変換が行われることがあります。この問題に 対処するため、ANK変換表を簡単に修正できるようにしています。 ユーザー用(A/B)変換表は、利用者独自の特別な1バイト単位の変換処理が必要なときに 使用します。ただし、この2枚はふつうのANK変換に使うものではありません。

ANK変換表はそれぞれがつぎのようにリンクし合っていて、相互に呼び出せます。



この仕組みによって、ANK変換表どうしの比較や、正しく逆変換表になっているかの確認の ための突き合わせなどが簡単にできます。

なお、ユーザー用Aとユーザー用Bは、本当は互いに逆変換表になっているわけではありません。それぞれ独立した変換表です。

ANK変換表編集(<u>E</u>)のボタンをクリックすると、下のウインドウが開きます。編集するANK変換表を選択して、OKボタンをクリックします。

ANK変換表選択	×
ⓒ EBCDIC 加加 → JIS8 (K)	1
〇 JIS8 → EBCDIC 加加 (J)	with the
○ EBCDIC 英小文字 → ASCI (S)	
C ASCII → EBCDIC 英小文字 (Q)	
〇 ユーザー用 A (<u>A</u>)	
〇 ユーザー用 B (B)	
<u> </u>	

OKボタンがクリックされると、下のウインドウが開き、編集モードに入ります。

				X				\										\backslash		
ANK変	換表網	偏集		EB	CDI)(力	劝力	+) -	∙ JIS	-8	10.000		*******			1111111111				×
			140			E	EBC	DIC	(J)9	カナ)							JIS	-8	
	00	10	20	30	40	50	60	70	80	90	AO	BO	CO	DO	EO	FO	0123	4567	89AB	CDEF
+0 +1 +2 +3	D 0 01 02 03	10 11 12 13	20 20 20 20	20 20 16 20	20 A1 A2 A3	26 AA AB AC	2D 2F 20 20	20 20 20 20 20	20 B1 B2 B3	BF C0 C1 C2	5B 20 CD CE	5D 20 20 20	7B 41 42 43	7D 4A 4B 4C	24 20 53 54	30 31 32 33	U. 	&- .ı/ []]7	ソ[] アタ イチへ ウツホ	{}\$0 AJ 1 BKS2 CLT3
+4 +5 +6 +7	20 09 20 7F	20 0A 08 20	20 0A 17 1B	20 20 20 04	A4 A5 A6 A7	AD AE AF 20	20 20 20 20	20 20 20 20 20	84 85 86 87	C3 C4 C5 C6	CF DO D1 D2	20 20 20 20	44 45 46 47	4D 4E 4F 50	55 56 57 58	34 35 36 37	 	、ユ ・ヨ ヲッ ア	エテマ オトミ カナム キニメ	DMU4 ENV5 FOW6 GPX7
+8 +9 +A +B	20 20 20 0B	18 19 20 20	20 20 20 20	20 20 20 20	A8 A9 20 2E	B0 20 21 5C	20 20 5E 20	20 60 3A 23	88 89 84 20	C7 C8 C9 20	D3 D4 D5 20	20 20 DA DB	48 49 20 20	51 52 20 20	59 5A 20 20	38 39 20 20	· ·	ר← 、 י !^: .¥,#	クヌモ ケネヤ コノユレ ロ	HQY8 IRZ9
+C +D +E +F	OC OD OE OF	1C 1D 1E 1F	20 05 06 07	14 15 20 20	3C 28 2B 7C	2A 29 3B 7E	25 5F 3E 3F	40 27 3D 22	BB BC BD BE	20 CA CB CC	D6 D7 D8 D9	DC DD DE DF	20 20 20 20	20 20 20 20	20 20 20 20	20 20 20 FF	····	<*%@ ()_' +;>= ~?"	サヨワ シハラン スヒリ゛ セフル。	
16道 文字	≝	変排 0 ″	與前 0 .″▼	⇒	- 変排 0 ~	奥後 0 . "			カモー 値((平() グザグ	-ド- ⊻ ⊬ (<u>∠</u>)		A	前表(次表(B) N)		逆変	£换表(<u>F</u>		OK キャン1	zılı

編集するANK変換表名が表示されます。

変換表の内容が16進表示されるエリアです。変更入力することができます。 変換表の内容が文字表示されるエリアです。

変換元の16進コードと文字、変換後の16進コードと文字が表示されます。

カーソル移動にとともに表示内容が変わります。

16進表示側のC0の列、+1の行のコードは、"41"と表示されています。

図形文字表示側のCの列、+1の行の文字は、"A"と表示されています。

これは、EBCDICコードのC1H("A")が、

JIS8コードの41H("A")に変換されることを表しています。

ここにカーソルを合わせると、00.00.と表示されていたところが、

C1 A 41 Aという表示に変わったはずです。

変換表を変更入力する場合の入力モード(カーソルの動き)を指定するラジオボタンです。

入力モードとカーソルの動き 入力モードによるカーソルの動きの違いを示します。

垂直入力モ	ード(V)	水平入力モー	- ド(H)	ジグザク	ゲ入力モード(Z)
	0 0	00 00	0 0	00	0 0
00 00	00	► ● 0 ► ● 0 ►	► ● ● ●	0 0	6 00
00 🗘 0	0 0	00 00	0 0	00	6 900

前表に移るためのボタンです。カーソル位置は変わりません。 次表に移るためのボタンです。カーソル位置は変わりません。 逆変換表に移るためのボタンです。

カーソル位置の内容が逆変換表のカーソルの位置になります。

OKボタンをクリックすると、修正したANK変換表が有効になります。ただし、

あくまでメモリ上の変更であり、コード変換表ファイルに書き込まれるわけではありません。

キャンセルボタンをクリックすると、修正したANK変換表を無効にし、

ANK変換表のウインドウを閉じます。

<ユーザー用(A/B)変換表について>

ユーザー用(A/B)は、特別な変換処理を行う変換表です。バイト単位の変換ができます。 利用者独自の処理が必要になったときに書き替えて使います。

使用目的 通常のEBCDIC JIS8/ASCII変換を使うべきでない、特殊な1 バイト単位の変換が必要になるときがあります。たとえば、 特殊漢字 JIS漢字変換 などが挙げられます。

利用できる所 ユーザー用(A/B)変換表は、マップ設定オプションのユーザーA変換、 ユーザーB変換で利用できます。

|<u>出荷時設定</u>| ユーザー用(A/B)変換表の出荷時の設定は、何もしない変換表、つまりバ イナリ変換と同様になっています。

コード変換表の書き込み(保存)

コード変換表の書き込み(保存)は、現在のメモリ上のコード変換表を元のコード変換表ファ イルに保存、または別のコード変換表ファイルとしてディスクに書き込みます。

保存して閉じる(<u>S</u>)ボタンをクリックすると、"ファイル名を付けて保存"ウインドウが開きます。保存するファイルを選択して、保存(<u>S</u>)ボタンをクリックします。

第4章 操 作 —

4.13 漢字対応表エディタ

漢字対応表エディタは、F*TRAN+の漢字コード変換で使用する漢字変換テーブルのメン テナンスを行う機能を持っています。

通常は、変換設定の対応表設定(<u>S</u>)のボタンをクリックして起動します。

新規作成の場合

漢字対応表を新規に作成する場合は、つぎのウインドウが開き、どのメーカーの日本語体系で 作成するのかを選択します。

日本語体系の選択	X
新規に作成する漢字対応表が "どのメーカーの日本語体系に沿うか" を指定してください。	
※ ここで選択した日本語体系は、以後変更することはできません。 選択を間違えたときは新規に作成し直してください。	
日本語体系(N): 富士通(JEF) OK	

選択肢は、つぎのとおりです。

各社(JIS)
富士通(JEF)
日立(KEIS)
三菱(MELCOM)
日本ユニシス(LETS-J)
NEC(JIPS)
日本IBM(IBM)
東芝(JIS)
シフトJIS
EUC、G3なし
DEC漢字
EUC、G3あり(補助漢字)
EUC、G3あり(JEF拡張)
Super DEC漢字

日本語体系(<u>N</u>)を選択し、OKボタンをクリックすると、編集ウインドウが開きます。

既存の漢字対応表を修正する場合

F*TRAN+には、各メーカーの日本語体系に沿った漢字対応表が標準提供されています。 通常は、提供されている漢字対応表をベースに変更して使用します。

変換設定で漢字対応表を選択して対応表設定(<u>S</u>)のボタンをクリックすると、編集ウインド ウが開き、選択された漢字対応表の内容が読み込まれます。

開<							?	×
ファイルの場所型:	🔄 Ftranp		•	£	<u></u>	<u>e</u> *	0-0- b-b- 0-0-	
Ole Vbsample Vcsample Zengin F.kkt H.kkt	♥ Ikkt ♥ M.kkt ♥ N.kkt ♥ T.kkt ♥ U.kkt ♥ U-fu90.kkt	U-hp.kkt U-ibm.kkt U-sun.kkt Win.kkt						
ファイル名(N): ファイルの種類(T):	 漢字対応表 (*kkt)					開 キャ	K(<u>0</u>) ンセル	

F*TRAN+には、つぎの12種類の漢字対応表が標準添付されています。

F.KKT 富士通・JEF用
H.KKT 日立・KEIS用
I.KKT 日本IBM・IBM漢字用
M.KKT 三菱・MELCOM漢字用
N.KKT NEC・JIPS用
T.KKT 東芝・東芝漢字用
U.KKT 日本ユニシス・LETS - J用
U-FU90.KKT Unix・富士通U90系用
U‐HP.KKT Unix・HP系用
U‐IBM.KKT Unix・IBM系用
U‐SUN.KKT Unix・SUN系用
WIN.KKT Windows・シフトJIS用

編集ウインドウ

◀ \	\mathbf{Y}	١	\sim			\ \	١
🏘 F.KKT -	漢字対応	涛					
ファイル(<u>E</u>)▼	編集(E)	表示⊙	効力(<u>A</u>) ツール(D) ヘルフ°(<u>H</u>)			
	3 🕗 🛛	<u>s</u> % E	BRX≣	M & 3	0 🖯 🐊	12 12	
日本語体	系: 🗌		富士通(JEF)	And Sold	Win⊒–Ւ°(<u>W</u>):	拡張JISコード	-
אלאב 🔰	(K): Win	dows vs 🚡	S士通 JEF		- ホストコート*(<u>O</u>):	JEFコード	•
No.	劾力	漢字	Win ⊐∽Ւ°	方向	ホストコートド	IJ-	Xint-9° 🔺
1		E	223A	⇔	7FD0		
2		∋	223B	⇔	7FD1		
3		⊆	223C	⇔	7FD2		
4		⊇	223D	⇔	7FD3		
5		C	223E	⇔	7FD4		
6			223F	⇔	7FD5		
7		U	2240	⇔	7FD6		
8		U	2D7C	→	7FD6		
9		Π	2241	⇔	7FD7		
10		Π	2D7B	→	7FD7		
11			224A	⇔	7FD8		
12		V	224B	⇔	7FD9		
13		_	224C	⇔	76A7		
14		_	9335	→	76A7		
15		À	22.4D	*	7FDA		
16		↔	224F		7FDB		•
^↓17℃表示	する(は[F1]を押して	てください。				
1 7	/ _	/ _	/		/	/	

編集する漢字対応表のファイル名が表示されています。

目的のメニューを選択して、機能を実行します。

の中で、よく使われる機能がボタン化されています。

編集する漢字対応表の日本語体系が表示されています。

編集する漢字対応表のコメントが表示されています。

新規に作成する場合は、漢字20文字(半角40文字)以内で設定します。変更もできます。 Winコードのコード表記法を3種類の中から選択します。

ホストコードのコード表記法を選択肢の中から選択します。

No.1からNo.4000まであります。ここをクリックして、行選択を行います。

行の内容を消去せずに無効にする場合に、無効"-"の印を付ける欄です。

Win側の漢字を入力します。ダブルクリックで、漢字入力サブウインドウが開きます。 Winコードを入力します。 と は連動し、どちらかを入力すれば表示が変わります。 変換する方向を3種類(、、、)の中から選択し、入力します。
ホストコードを入力します。

ファイルの読み / 書き、" 検査 " を実行した時のエラーメッセージが表示されます。 操作のガイダンスやメッセージが表示されます。

コメント(K)

漢字対応表のコメント欄です。通常は、漢字対応表の内容を意味するタイトルを入力します。 漢字20文字(半角40文字)以内で設定します。

$Win \exists - F(W)$

Winコード(Windowsの漢字コード)の表示・入力をどのコード表記法に従って行うかを指定します。つぎの3種類の中から選択します。

拡張JISコード(基準値) 拡張句点コード シフトJISコード

立ち上げ時 / ファイル読み込み時には、常に拡張 J I S コード(基準値)になります。

第4章 操 作 ———

ホストコード (<u>H</u>)

選択されている日本語体系ごとにホストコードの表記法が異なり、つぎの中から選択します。

日本語体系	ホストコード	基準値	系列
	JISJ-K		基本
	句点コード		基本
富士通(JEF)	JISコード		基本
	句点コード		基本
	JEFコ ー ド		拡張
日立(KEIS)	JISコ ー ド		基本
	句点コード		基本
	KEISコード		拡張
三菱(MELCOM)	JISコ ー ド		基本
	句点コード		基本
	MELCOMコード		拡張
日本ユニシス(LETS-J)	JISコ ー ド		基本
	句点コード		基本
	LETS-Jコード		拡張
NEC(JIPS)	JISコ ー ド		基本
	句点コード		基本
	JIPSコード		拡張
	JIPS(E)⊐ード		拡張
	内部コード(J)		基本
	内部コード(E)		基本
日本IBM(IBM)	IBM漢字コード		基本
東芝(JIS)	JISコ ー ド		拡張
	句点コード		基本
シフトJIS	拡張JISコード		拡張
	拡張句点コード		拡張
	シフトJISコード		拡張
EUC、G3なし	JISコード		基本
DEC漢字	句点コード		基本
EUC、G3あり(補助漢字)	EUCコード		拡張
EUC、G3あり(JEF拡張)			
Super DEC漢字			

立ち上げ時 / ファイル読み込み時には、常に基準値になります。

系列が"拡張"の場合のみ、拡張漢字領域のコード入力ができます。

ホストコードは基本系と拡張系に大別できます。ホストコードの選択を拡張系から基本系に変 更すると、拡張コードが表現できなくなり、拡張コードを持つ入力データの一時無効化が起こり ます。効力欄が"(-)"になり、ホストコード欄が"****"になります。逆に、基本系から拡張 系に変更すると、一時無効になっていた入力データが解除されて通常の表示に戻ります。実際に は、つぎの図のようになります。



JIS⊐−ド	効力	漢字	Winコード	方向	ホストコード
	(-)		223A		* * * *

入力基本パターン

漢字対応表に定義される基本パターンはつぎのとおりです。

| (-) |

 Windows漢字(またはコード)
 ホストの漢字コード (双方向)

2.Windows漢字(またはコード) → ホストの漢字コード (片方向)

3.Windows漢字(またはコード)◀ ホストの漢字コード (片方向)

Windows 漢字またはWindowsの漢字コード、 変換する方向、 ホストの漢字コード の3要素を入力します。Windowsの漢字コードおよびホストの漢字コードは、正しいコー ドの入力のみ受け付けます。句点コードを入力する場合は、12-34のように"-"で区切っ て入力します。EUCのG3コードを入力する場合は、G3:A1A1のように入力します。

第4章 操 作 ———

漢字入力サブウインドウ

漢字欄をダブルクリックすると、つぎのウインドウが開きます。

	\mathbf{h}										\mathbf{Y}							
漢	字選択/)	ヘカ	2112211			*****						******				******		×
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	В	С	D	Ε	F	0	
	2221	٠			Δ		∇	▼	*	ᆕ		←	1	Ļ	=	•	•	
	2231	•	•	•	•	•	•	•	•	•	È	Э	⊆	⊇	C	\supset	υ	
	2241	Π	•	•	•	•	•	•	•	•	\wedge	\vee	-	⇒	⇔	¥	Ξ	
	2251	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Z	Т	-	9	V	
	2261	≡	≒	«	>>	7	S	∞		S	55	•	•	•	•	•	•	
	2271	•	Å	‰	#	Ь	♪	†	ŧ	¶	•	•	•	•	0			-
لي من	: -漢字入: 「e		; JIS)] ⊐–ŀ	*:		223 <i>F</i>	4			形:		e			(中))K ノセル	

選択されているWinコードの表記法(拡張JISコード、拡張句点コード、 シフトJISコード)に従って、コードが表示されます。

漢字の一覧が表示されます。入力する場合は、漢字をダブルクリックします。

で選択されている漢字のコードが表示されます。

で選択されている漢字が表示されます。

このエディットボックスの中で文字列を入力し、目的の漢字を左端に置くことで、 選択することもできます。

漢字選択 / 入力後に、OKボタンをクリックして確定させます。

キャンセルボタンをクリックすると、漢字入力サブウインドウが閉じます。

ファイル (<u>F</u>) メニュー

ファイルメニューの各機能について説明します。

新規作成(<u>N</u>) ------ "新規に作成しますか?"と確認ウインドウが開きます。 はい(Y)ボタンをクリックし、日本語体系を選択して、 OKボタンをクリックすると、 新規に漢字対応表を作成する状態になります。 ファイル名を選択し、開く(0)ボタンをクリックすると、 選択された漢字対応表が読み込まれます。 上書き保存(<u>S</u>) ------ タイトルバーに表示されている漢字対応表ファイルに、 現在の内容を保存します。 保存する前に内容を検査し、エラーがあれば、 "エラーデータがありますが、このまま保存を続行しますか?" と確認ウインドウで聞いてきます。 名前を付けて保存(A) -- 実行すると、内容を検査します。エラーがあれば、 "エラーデータがありますが、このまま保存を続行しますか?" と確認ウインドウで聞いてきます。 "名前を付けて保存"のウインドウが開いたら、 ファイル名を入力し、 保存(S)ボタンをクリックして保存します。 <u>テキストファイル出力(工)</u> ------ "テキストファイル出力"のウインドウが開きます。 ファイル名を入力し、保存(S)ボタンをクリックすると、

設定内容をテキスト形式ファイルへ出力します。

<テキストファイル出力例>

漢字対応表の終了(X) -- 漢字対応表エディタを終了します。

第4章 操 作 ——

編集 (<u>E</u>)メニュー

編集メニューの各機能について説明します。

元に戻す(U) ---- 直前の編集作業を無効にし、元に戻します。 切り取り(T) ---- 選択されている行の内容が切り取られ、カットバッファに入ります。 コピー(C) ----- 選択されている行の内容がカットバッファに入ります。 貼り付け(P) ---- カットバッファの内容を、セルポインタがある行へ貼り付けます。 貼り付けた行以降に既存の設定項目があれば、挿入になります。 |削除(D) ------ 選択されている項目の内容が削除されます。 すべて選択(L) -- すべての設定項目欄が選択された状態になります。 一行下げる(I) -- セルポインタがある行以降が1行づつ下がります。 通常は、行挿入をする場合に使用します。 整列(<u>S</u>) ------ Winコード、ホストコードを基準として、 設定値の並べ替えができます。 行選択をしてから実行すると、その範囲が対象になります。 つぎの4つのパターンがあります。 Winコード順(W) 昇順(U) Winコード順(W) 降順(D) ホストコード順(H) 昇順(U) ホストコード順(H) 降順(D) 検索(<u>F</u>) ------ 漢字やコードで設定項目を検索することができます。 漢字(または、コード)と、検索する方向を指定して実行します。 漢字(Winコード)、ホストコードの両方が指定された場合は、 どちらかが一致する項目を検索します。

漢字(<u>C</u>)の入力欄の横にあるボタンをクリックすると、

漢字入力サブウインドウが開きます。

検索		×
漢字(<u>)</u> : i …	┌検索する方向	
₩in⊐-ト*\ <u>₩</u>):	●上へϢ	次を検索(<u>F</u>)
ホストコート*(<u>H</u>): 7FE4	● 下へ(D)	キャンセル

ッールバーには、上方向検索ボタン / 下方向検索ボタンがあり、 指定値で再検索することができます。 表示(<u>∨</u>)メニュー 表示メニューの各機能について説明します。

ツールバー(<u>T</u>) ------ ツールバー表示のON/OFFができます。
 ステータスバー(<u>S</u>) -- ステータスバー表示のON/OFFができます。
 漢字部のフォント(<u>F</u>) ---- 漢字欄の表示フォントを、つぎのウインドウで設定できます。

フォント			? ×
フォント(E): MS ゴシック MS ゴシック MB H朝	スタイル(<u>)</u>): 標準 標準 斜体	+1, <u>z(S):</u> 111 ▲ 112	OK キャンセル
F News Gothic MT GOCR A Extended GRFPイワタ中太教科書体 FRFPゴシック-EII GRFPゴシック-MI II	太学 太字 斜体	14 16 18 20 22	
	-サンプル		
	Aað	あぁアァ亜宇	
	書体の種類(<u>R)</u> : 日本語		

効力(<u>A</u>)メニュー

効力メニューの各機能について説明します。

- 有効化(<u>E</u>) -- 選択されている行の内容を有効にし、効力欄の印" "を消します。 ただし、一時無効の印"(-)"は消えません。
- 無効化(<u>D</u>) -- 選択されている行の内容を消去せずに無効にし、 効力欄に印"-"を表示します。

 $\Psi = \mu(\underline{T}) \forall \exists \exists \exists \exists$

ツールメニューの各機能について説明します。

検査(<u>R</u>) ------ 設定されている内容に誤りがあるかどうかを検査します。 行選択をしてから実行すると、その範囲が対象になります。 エラーの種類はつぎのとおりです。 不完全 ---- Winコード、方向、ホストコードの3要素が そろわない 迷子 ----- Winコード ホストコード 別のWinコード のように、コード変換が収束しない 1対N ---- Winコード ホストコード、 Winコード 別のホストコードのように、 1つのコードが2つ以上のコードに設定されている 2重定義 -- 同一の内容が重複して設定されている 前のエラー(P) -- 現在のセルポインタから1つ前のエラーがある行へ セルポインタを移動します。 次のエラー(N) -- 現在のセルポインタから次のエラーがある行へ セルポインタを移動します。 CSV形式(C) -- 漢字対応表をCSV形式で活用するために使用します。 CSV形式ファイルの読み込み(L)/書き込み(S)を行います。 CSV形式ファイルのフォーマットはつぎのとおりです。 av,kan,wcf;wcd,dir,hcf;hcd,err, エラ-番号(出力:別表B) ホスト漢字コード ホスト漢字コード表記(別表A) 方向——

 Windows漢字コード表記
 2:

 Windows漢字コード表記
 1:拡張JISコード

 Windows漢字
 2:拡張句点コード

 有効性
 0:有効

 1:一時無効(出力のみ)
 2: 無効

[別表A:ホスト漢字コード表記]

11:各社(JIS)・JISコード
 12:各社(JIS)・句点コード

```
21:富士通(JEF)・JISコード
 22:富士通(JEF)・句点コード
 23:富士通 (JEF)・JEFコード
 31:日立(KEIS)・JISコード
 32:日立(KEIS)・句点コード
 33:日立(KEIS)・KEISコード
 41:三菱(MELCOM)・JISコード
 42:三菱 (MELCOM)・ 句点コード
 43:三菱(MELCOM)・MELCOMコード
 51:日本ユニシス(LETS-J)・JISコード
 52:日本ユニシス(LETS-J)・句点コード
 53:日本ユニシス(LETS-J)・LETS-Jコード
 61: NEC(JIPS) \cdot JIS \neg - F
 62:NEC(JIPS)・句点コード
 63: NEC(JIPS) \cdot JIPS \neg - F
 64: NEC(JIPS) \cdot JISS(E) \neg - F
 65:NEC(JIPS)・内部コード(J)
 66:NEC(JIPS)・内部コード(E)
 71:日本IBM(IBM)・IBM漢字コード
 81: 東芝 (JIS)・JISコード
 82: 東芝 (JIS)・ 句点コード
 91:シフト」IS・拡張」ISコード
 92:シフトJIS・拡張句点コード
 93: シフトJIS・シフトJISコード
101:EUC、G3なし・JISコード
102:EUC、G3なし・句点コード
103:EUC、G3なし・EUCコード
111:DEC漢字・JISコード
112:DEC漢字・句点コード
113:DEC漢字・EUCコード
121:EUC、G3あり(補助漢字)・JISコード
122:EUC、G3あり (補助漢字)・句点コード
123:EUC、G3あり(補助漢字)・EUCコード
131:EUC、G3あり(JEF拡張)・JISコード
132:EUC、G3あり(JEF拡張)・句点コード
133:EUC、G3あり(JEF拡張)・EUCコード
141:Super DEC漢字・JISコード
142:Super DEC漢字・句点コード
143:Super DEC漢字・EUCコード
                     327
```

第4章 操 作 ———

[別表B:エラーコード番号]

- 0 : 正常
- 1:不完全
- 2 : 迷子
- 4:1対N
- 8:2重定義

2つ以上のエラーがある場合は、組み合わせになります。 たとえば、エラー番号=12は、1対N/2重定義エラーになります。

(読み込みデータの例) 拡張 JISコード: 223A 富士通 JEF: 7FD0

0, , 1; 2 2 3 A , 3 , 2 3; 7 F D 0

ヘルプ(H)メニュー ヘルプメニューの各機能について説明します。

- トピックの検索(<u>H</u>) -- トピックの検索ウインドウを開き、 漢字対応表エディタに関する操作の概要を見ることができます。
- バージョン情報(<u>A</u>) -- バージョン情報のウインドウが開きます。 漢字対応表エディタのバージョン情報を知ることができます。

Л	ドージョン情報	×
	漢字対応表 Version 2.00 Copyright (C) Fujitsu BSC 1998 - 2000 この製品は次の方にライセンスされています:	
2 A	富士 太郎 富士通BSC 沙アル番号:50032-99999	OK

漢字対応表エディタの単独起動

漢字対応表エディタをF*TRAN+からではなく、エクスプローラ等から単独で起動するこ ともできます。起動するとつぎのウインドウが開きますので、新規または既存の漢字対応表の選 択から始めます。既存の漢字対応表を選択した場合は、ファイル選択を行います。以下の手順は、 いままで説明したとおりです。

×
ОК

また、エクスプローラ等から漢字対応表ファイル(拡張子が". KKT"のファイル)をダブ ルクリックし、直接、漢字対応表エディタを立ち上げ、メンテナンスすることもできます。

第4章 操 作 =

4.14 変換時ログ表示

F*TRAN+は、ホスト Winファイル変換/Win ホストファイル変換実行時に、変換できない漢字をログファイルに出力しています。その変換時のログをウインドウ上に表示させて見ることができます。

変換時ログ表示(ホスト Winファイル変換)

メニューバーの変換時ログ表示(<u>U</u>)のホスト Win(<u>G</u>)を実行すると、ホスト Win ファイル変換のログ(Fpglog.txt)を見ることができます。通常は、ホスト Win ファイル変換を実行した直後に確認します。

拡張漢字	宇変換漏れ口	グ ホスト→Win				×
Kanjitbl 502 個の	→ Kanjit 未設定の拡	bl.get テキストファ 張漢字が検出されま	マイル変換中に した。			
林林漢字 7FD0 7FD2 7FD3 7FD4 7FD5 7FD6 7FD7 7FD8 7FD7 7FD8 7FD7 7FD8 7FD7 7FD0 7FD0 7FDC 7FD0 7FD0 7FD0 7FD1 7FD0 7FD1 7FD2 7FD5 7FD1 7FD2 7FD2 7FD2 7FD4 7FD3 7FD3 7FD4 7FD3 7FD4 7FD5 7FD7 7FD3 7FD4 7FD7 7FD3 7FD4 7FD7 7FD7 7FD7 7FD7 7FD7 7FD7 7FD7	出現回数 1 2746 1 1 1 1 2 2 2 1 1 2 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 2 2 1 1 2 2 1 1 2 2 2 1 1 1 2 7 4 5 1 1 1 2 7 4 5 1 1 1 1 1 2 7 4 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1	初出ホストレコート [*] 番号 8 9 10 11 12 13 14 16 19 20 21 23 25 26 28 30 32 33 34 35	初出Winレコート [*] 番号 8 9 10 11 12 13 14 16 19 20 21 23 25 26 28 30 30 32 33 34 35	初出林桥位置 1 12 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	初出Win桁位置 0 9 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	

ここに出力されるホスト漢字は、変換設定 / 漢字変換方式の設定 / ホスト拡張漢字の指定 ("〓"変換、"?xxxx"変換、0Exxxx変換)の対象になった漢字コードです。

ログの中に" = "等の変換対象にしたくないホスト漢字があった場合は、ログに出力されたホ スト漢字コードを漢字対応表に登録してから、再度、変換をしてください。

変換時ログ表示(Win ホストファイル変換)

メニューバーの変換時ログ表示(<u>U</u>)のWin ホスト(<u>P</u>)を実行すると、Win ホスト ファイル変換のログ(Fpplog.txt)を見ることができます。通常は、Win ホスト ファイル変換を実行した直後に確認します。

拡張漢字	変換漏れ口	ブ Win→ホスト		X
Kanjitbl. 388 個のき	txt → Kan 未設定の拡張	ijitbl.put テキストファ 長漢字が検出されました	▽イル変換中に ・	_
Win漢字 ¬(FA58) i(FA40) ii(FA41) ii(FA42) iv(FA43) v(FA43) v(FA43) vi(FA45) vii(FA46) vii(FA48) ix(FA48) I(FA47) ix(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA48) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(FA58) I(F	出現回数 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	初出Winレコード番号 22 47 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168	初出Win桁位置 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	•
				(IIICS)

ここに出力されるWin漢字は、変換設定 / 漢字変換方式の設定 / Win拡張漢字の指定 ("〓"変換固定)の対象になった漢字コードです。

ログの中に" = "等の変換対象にしたくないWin漢字があった場合は、ログに出力されたW in漢字コードを漢字対応表に登録してから、再度、変換をしてください。

4.15 ヘルプ

ヘルプ・メニューには、トピックの検索、バージョン情報の2つの機能があります。

トピックの検索

メニューバーのヘルプ(<u>H</u>) トピックの検索(<u>I</u>)を実行すると、トピックの検索のウイン ドウが開きます。

このウインドウ上で、F * T R A N + に関する用語の説明や、操作の概要を見ることができま す。実際にウインドウを開いて、見ることをおすすめします。

バージョン情報

メニューバーのヘルプ(<u>H</u>) バージョン情報(<u>A</u>)を実行すると、バージョン情報のウイン ドウが開きます。

現在、立ち上がっているF*TRAN+のバージョン情報を知ることができます。

Ň	ー>ョン情報 ×
	F*TRAN+ Version 3.00 for Windows95/98 & WindowsNT/2000 Copyright (C) Fujitsu BSC 1997 - 2000
	この製品は次の方にライセンスされています:
	富士 太郎 富士通BSC 沙アル番号:50032-99999

ここには、サポートサービスを受ける場合に必要となる情報が入っています。

付 録

エラーメッセージ

(共通)

起動・終了時のエラーメッセージ

オープンできません.

F * T R A N + の起動時に、コード変換表ファイルがオープンできませんでした。大抵はコー ド変換表のファイル名のつづりミスです。

/ Codeオプションを省略したときは?:デフォルト.CCTを探します。?:はインスト ールディレクトリを表します。

必要なら / Codeオプションを指定してください。/ Codeオプションを指定したのにこのメッセージが出るときは、/ Codeオプションの指定の誤りです。修正して再起動してください。

読み込みでエラーになりました。

何らかの入出力エラーが発生し、コード変換表ファイルを読み込めませんでした。このエラー は、めったに発生しません。

コード変換表ではありません.

F*TRAN+の起動時に、/Codeオプションで指定したコード変換表ファイルは実際に はコード変換表ではありませんでした。正しいコード変換表ファイルを指定してください。

書き込みが失敗しました.

何らかの入出力エラーが発生し、コード変換表ファイルの書き込み(保存)ができませんでした。

共通のエラーメッセージ

メモリが足りません.

作業に必要なメモリの空き容量が足りません。他のアプリケーションを終了させるなどメモリ 不足を解消してください。

コマンドがありません.

指定されたコマンドは、ありません。正しいコマンドを指定してください。

オプションはありません.

該当するオプションがありません。たぶん他のオプションのつづり誤りでしょう。間違って別のコマンドを呼び出していたということもあります。

オプションに誤りがあります.

オプションの指定に何らかの誤りがあります。修正して再実行してください。

<u>パラメータが余分です.</u>

パラメータの指定に誤りがあるため、うしろの部分が余分だとみなされました。修正して再実 行してください。

エラーが発生しました.内部エラーの可能性があります.

F*TRAN+自身のエラーが発生しました。購入元または発売元に通報してください。

パラメータファイルに関するエラーメッセージ

++の後にパラメータファイルを指定してください.

パラメータファイル参照の開始マーク + + があるのに、そのあとにファイルが指定されてい ませんでした。 + + のあとに空白を置いた場合も同様です。空白を置いてはいけません。

オープンできません.

指定されたパラメータファイルがオープンできませんでした。大抵はファイル名のつづり誤りです。

<u>読み込みでエラーになりました</u>.

指定されたパラメータファイルの読み込み時に入出力エラーが発生しました。このエラーは、 めったに発生しません。

パラメータバッファがいっぱいです.

パラメータファイルを展開した結果、約64Kバイトあるパラメータバッファがいっぱいになってしまいました。パラメータファイル内の記述を単純化する必要があります。

ホストファイルに関するエラーメッセージ

ホストファイルの指定に誤りがあります.

ホストファイルの指定に構文的な誤りがあります。指定し直してください。

ホストファイル名が必要です.

ホスト側のファイル名が必要なところです。指定してください。

ホストファイルがありません.

指定されたホストファイルはありません。

<u>ホストファイルを作成できません</u>.

ホストファイルを作成できません。つぎのような原因が考えられます。

ファイル名や拡張子に使えない文字を含んでいた ホストファイルが書き込み禁止になっていた 目的のディレクトリがなかった

ホストファイルをオープンできません.

指定されたホストファイルをオープンできません。そのホストファイルがない場合が大部分で す。

ホストファイルをクローズできません.

ホストファイルをクローズできません。ディスクの容量不足などが考えられます。 ディスクへ出力時にこのメッセージが出たときは、そのディスクが壊れた可能性があります。 すぐに、ユーティリティ・プログラム等で検査・修復してください。

ホストファイルの書き込みでエラーになりました.

ホストファイルの書き込みでエラーになりました。ほとんどの場合、ディスクがいっぱいになってそれ以上書き込めなくなったことを意味しています。

ホストファイルの読み込みでエラーになりました。

ホストファイルの読み込みでエラーになりました。通常は発生しないエラーです。

Windowsファイルに関するエラーメッセージ

Windowsファイルの指定に誤りがあります.

Windowsファイルの指定に構文的な誤りがあります。指定し直してください。

Windowsファイル名が必要です.

Windows側のファイル名が必要なところです。指定してください。

Windows ファイルがありません.

指定されたWindowsファイルはありません。

Windowsファイルを作成できません.

Windowsファイルを作成できません。つぎのような原因が考えられます。

ファイル名や拡張子に使えない文字を含んでいた Windowsファイルが書き込み禁止になっていた 目的のディレクトリがなかった

Windowsファイルをオープンできません.

指定されたWindowsファイルをオープンできません。そのWindowsファイルがない場合が大部分です。

Windowsファイルをクローズできません.

Windowsファイルをクローズできません。ディスクの容量不足などが考えられます。 ディスクへ出力時にこのメッセージが出たときは、そのディスクが壊れた可能性があります。 すぐに、ユーティリティ・プログラム等で検査・修復してください。

Windowsファイルの書き込みでエラーになりました.

Windowsファイルの書き込みでエラーになりました。ほとんどの場合、ディスクがいっぱいになってそれ以上書き込めなくなったことを意味しています。

Windowsファイルの読み込みでエラーになりました.

Windowsファイルの読み込みでエラーになりました。通常は発生しないエラーです。

GetData(gd) コマンドのエラーメッセージ

MAPバッファがいっぱいです.

変換する項目数が多すぎて、MAPバッファがいっぱいになりました。項目数を減らせないか どうか検討してください。

GetRand(gr)コマンドのエラーメッセージ

MAPバッファがいっぱいです.

変換する項目数が多すぎて、MAPバッファがいっぱいになりました。項目数を減らせないか どうか検討してください。

PutData(pd) コマンドのエラーメッセージ

/ M A P オプションの各項目をコンマ(,) で区切ってください.

/ Delimitedオプションを指定したのに、/MAPオプションでコンマ(,)を1 つも指定していませんでした。

MAPバッファがいっぱいです.

変換する項目数が多すぎて、MAPバッファがいっぱいになりました。項目数を減らせないか どうか検討してください。

PutRand(pr)コマンドのエラーメッセージ

<u>MAPバッファがいっぱいです</u>.

変換する項目数が多すぎて、MAPバッファがいっぱいになりました。項目数を減らせないか どうか検討してください。 VirDrive(vd)コマンドのエラーメッセージ

ドライブ名が正しくありません。

第1パラメータとして指定したドライブ名が正しくありません。使えるのは、A:~Z:、 @:、?:だけです。

第1パラメータはドライブ名だけです.

第1パラメータとして、仮想ドライブ名でないものを指定しようとしました。誤りです。

パス名が長すぎます.

第2パラメータとして指定した実ドライブ・ディレクトリを表すパス名が63文字を超えました。長すぎます。

Ank(an)コマンドのエラーメッセージ

指定に誤りがあります.

指定したキーワードが、

Jis Ascii Ebcdic EbcdicKana EbcdicSmall

の、どれでもありませんでした。正しく指定し直してください。

Kanji(kan)コマンドのエラーメッセージ

指定された漢字変換方式名はありません.

Kanji(kan)コマンドのパラメータとして指定した漢字変換方式が、コード変換表に 登録されていません。パラメータをつけずにKanji(kan)コマンドを呼び出して漢字変 換方式の一覧を表示し、そのなかに目的の漢字変換方式があるかどうか調べてください。単純な つづりミスでないかどうかも調べてください。 Comment(com)コマンドのエラーメッセージ

コメントが長すぎます.

コード変換表につけるコメント文字列が40文字(漢字20文字)を超えました。もう少し短 いコメントにしてください。

cLoad(cl)コマンドのエラーメッセージ

コード変換表ではありません.

cLoad(cl)コマンドで指定したコード変換表ファイルは、実際にはコード変換表ファ イルではありませんでした。正しいコード変換表ファイルを指定してください。

オープンできません.

cLoad(cl)コマンドで読み込もうとしたコード変換表ファイルが、オープンできませんでした。コード変換表のファイル名のつづりを間違えた場合が大部分です。ドライブ名、ファ イル名、拡張子をチェックしてください。

<u>読み込みでエラーになりました</u>.

何らかの入出力エラーが発生し、コード変換表ファイルを読み込めませんでした。このエラー は、めったに発生しません。

c S a v e (c s) コマンドのエラーメッセージ

<u>書き込みが失敗しました</u>.

コード変換表の書き込み(保存)に失敗しました。つぎのような原因が考えられます。

目的のディレクトリが見つからなかった ファイルが書き込み禁止だった ディスクの残り容量不足だった

ディスクを差し替えるなり、別のドライブや名前を指定するなりして、再実行してください。

F*TRAN+ V3.0 操作説明書・解説編

2000年 10月 第1版発行

編集・著作 株式会社 富士通ビー・エス・シー
 所 在 地 〒108-8531 東京都港区芝浦 4 - 15 - 33 芝浦清水ビル
 プ ロダ クツ&サービス事業部 TEL 03 - 5445 - 2101
 FAX 03 - 5445 - 2109

- ・Windows、MS-DOS、Visual Basic は米国 Microsoft Corporation の米国および その他の国における登録商標または商標です。
- ・会社名および製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
- ・本書およびシステムは、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- ・無断複製、および転載を禁じます。
- ・落丁、乱丁はお取り替えいたします。